

経済学科

開設科目	ミクロ経済学 Ia	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	前期
担当教官	寺地伸二				

授業の概要 ミクロ経済学の基本的な理論とその応用について講義をします。わたしたちの身の回りの経済現象を経済学の分析道具を使って解明していきます。はじめは難しそうな経済学独自の用語や概念がでてくるとは思いますが、しっかり出席して学習しましょう。

授業の一般目標 経済学の用語の意味を理解する。経済学的思考ができるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：経済学の用語の意味を理解する。 思考・判断の観点：経済学の用語を用いて、経済の仕組みを考える。 関心・意欲の観点：経済問題に関心をもつようになる。 態度の観点：周りの人に迷惑になるので私語をしない。

授業の計画（全体） テキストに従って授業をします。前半は需要と供給の理論を中心に学び、市場の働きを理解します。後半は、企業の行動と消費者の行動を学習します。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 経済学とは何だろうか
- 第 2 回 項目 市場競争
- 第 3 回 項目 競争市場と需給の法則 その一
- 第 4 回 項目 競争市場と需給の法則 その二
- 第 5 回 項目 需給変化と比較静学 その一
- 第 6 回 項目 需給変化と比較静学 その二
- 第 7 回 項目 消費者余剰と交換の利益 その一
- 第 8 回 項目 消費者余剰と交換の利益 その二
- 第 9 回 項目 生産者余剰と生産の効率性 その一
- 第 10 回 項目 生産者余剰と生産の効率性 その二
- 第 11 回 項目 競争市場均衡と効率性 その一
- 第 12 回 項目 競争市場均衡と効率性 その二
- 第 13 回 項目 市場介入の経済効果 その一
- 第 14 回 項目 市場介入の経済効果 その二
- 第 15 回 項目 価格支配力と不完全競争

成績評価方法（総合） 期末試験を実施して、授業の理解度をみる。

教科書・参考書 教科書：ミクロ経済学入門, 清野一治, 日本評論社, 2006 年

メッセージ 授業の内容で分からないことがあれば、必ず質問しましょう。

開設科目	ミクロ経済学 I b	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	前期
担当教官	仲間瑞樹				

授業の概要 ミクロ経済学の基本的な理論とその応用について講義します。わたしたちの身の回りの経済現象を経済学の分析道具を使って解明していきます。はじめは難しそうな経済学独自の用語や概念がでてくると思いますが、しっかり出席して学習しましょう。

授業の一般目標 経済学の用語の意味を理解する。経済学的思考ができるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：経済学の用語の意味を理解する。 思考・判断の観点：経済学の用語を用いて、経済の仕組みを考える。 関心・意欲の観点：経済問題に関心をもつようになる。 態度の観点：周りの人に迷惑になるので、私語をしない。

授業の計画（全体）テキストに従って授業します。前半は需要と供給の理論を中心に学び、市場の働きを理解します。後半は、企業の行動と消費者の行動を学習します。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 経済学とは何だろうか
- 第 2 回 項目 市場競争
- 第 3 回 項目 競争市場と需給の法則
- 第 4 回 項目 競争市場と需給の法則
- 第 5 回 項目 需給変化と比較静学
- 第 6 回 項目 需給変化と比較静学
- 第 7 回 項目 消費者余剰と交換の利益
- 第 8 回 項目 消費者余剰と交換の利益
- 第 9 回 項目 生産者余剰と生産の効率性
- 第 10 回 項目 生産者余剰と生産の効率性
- 第 11 回 項目 競争市場均衡と効率性
- 第 12 回 項目 競争市場均衡と効率性
- 第 13 回 項目 市場介入の経済効果
- 第 14 回 項目 市場介入の経済効果
- 第 15 回 項目 価格支配力と不完全競争

成績評価方法（総合） 期末試験を実施して、授業の理解度をみる。

教科書・参考書 教科書：ミクロ経済学入門, 清野一治, 日本評論社, 2006 年

メッセージ 授業の内容で分からないことがあれば、必ず質問しましょう。

開設科目	マクロ経済学 Ia	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	山田正雄				

授業の概要 マクロ経済学は、我々の経済活動を巨視的（マクロ的）視点で捉えながら国民経済を分析する学問です。我々の経済はどのように計測されているのか、また、国民経済の構成要素に影響を与えるものは何か、好況・不況はなぜ生じるのかなど、分析ツールを利用しながら理論的に理解することで経済学の基本的なフレームワークが身に付くようになっていきます。

授業の一般目標 1. マクロ経済学に関する統計データを正しく把握する力を身につける。 2. 短期的な経済変動のメカニズムを理解する。 3. マクロ経済の基本的なメカニズムを理解し、経済政策の効果を理論的に理解する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション
- 第 2 回 項目 GDP
- 第 3 回 項目 失業率と物価水準の測定
- 第 4 回 項目 消費関数
- 第 5 回 項目 45 度線分析
- 第 6 回 項目 乗数効果
- 第 7 回 項目 均衡予算乗数の定理
- 第 8 回 項目 投資関数
- 第 9 回 項目 貨幣供給と貨幣需要
- 第 10 回 項目 貨幣市場の均衡
- 第 11 回 項目 IS 曲線
- 第 12 回 項目 LM 曲線
- 第 13 回 項目 財政政策
- 第 14 回 項目 金融政策
- 第 15 回

成績評価方法（総合） 期末試験および出席で判定する。出席は加点要素とし最大 10 点加点する。

教科書・参考書 教科書：マクロ経済学 I, 馬田哲次, 自費出版, 2007 年

メッセージ ミクロ経済学と同様に経済学の基礎となる学問ですから、少しずつ理解を積み上げていくことが大切です。

開設科目	マクロ経済学 Ib	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	山田正雄				

授業の概要 マクロ経済学は、我々の経済活動を巨視的（マクロ的）視点で捉えながら国民経済を分析する学問です。我々の経済はどのように計測されているのか、また、国民経済の構成要素に影響を与えるものは何か、好況・不況はなぜ生じるのかなど、分析ツールを利用しながら理論的に理解することで経済学の基本的なフレームワークが身に付くようになっていきます。

授業の一般目標 1. マクロ経済学に関する統計データを正しく把握する力を身につける。 2. 短期的な経済変動のメカニズムを理解する。 3. マクロ経済の基本的なメカニズムを理解し、経済政策の効果を理論的に理解する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション
- 第 2 回 項目 GDP
- 第 3 回 項目 失業率と物価水準の測定
- 第 4 回 項目 消費関数
- 第 5 回 項目 45 度線分析
- 第 6 回 項目 乗数効果
- 第 7 回 項目 均衡予算乗数の定理
- 第 8 回 項目 投資関数
- 第 9 回 項目 貨幣供給と貨幣需要
- 第 10 回 項目 貨幣市場の均衡
- 第 11 回 項目 IS 曲線
- 第 12 回 項目 LM 曲線
- 第 13 回 項目 財政政策
- 第 14 回 項目 金融政策
- 第 15 回

成績評価方法（総合） 期末試験および出席で判定する。出席は加点要素とし最大 10 点加点する。

教科書・参考書 教科書：マクロ経済学 I, 馬田哲次, 自費出版, 2007 年

メッセージ ミクロ経済学と同様に経済学の基礎となる学問ですから、少しずつ理解を積み上げていくことが大切です。

開設科目	マクロ経済学 Ic	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	後期
担当教官	馬田哲次				

授業の概要 マクロ経済学は、我々の経済活動を巨視的（マクロ的）視点で捉えながら国民経済を分析する学問です。我々の経済はどのように計測されるのか、また、国民経済の構成要素に影響を与えるものは何か、好況・不況はなぜ生じるのかなど、分析ツールを利用しながら理論的に理解することで経済学の基本的なフレームワークが身に付くようになっていきます。/検索キーワード マクロ経済学 景気循環 経済政策

授業の一般目標 1. マクロ経済学に関する統計データを正しく把握する力を身に付ける。 2. 短期的な経済変動のメカニズムを理解する。 3. 経済の国際的な依存関係を正確に知るために、開放マクロ経済学の基本を身につける。 4. マクロ経済の基本的なメカニズムを理解し、経済政策の効果を理論的に理解する。

授業計画（授業単位）/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス
- 第 2 回 項目 国民経済計算
- 第 3 回 項目 消費関数・45 度線分析
- 第 4 回 項目 中間テスト 1
- 第 5 回 項目 投資関数
- 第 6 回 項目 貨幣市場
- 第 7 回 項目 IS-LM 分析 1
- 第 8 回 項目 IS-LM 分析 2
- 第 9 回 項目 中間テスト 2
- 第 10 回 項目 国際マクロ 1
- 第 11 回 項目 国際マクロ 2
- 第 12 回 項目 労働市場
- 第 13 回 項目 総需要・総供給分析
- 第 14 回 項目 総需要・総供給分析
- 第 15 回 項目 予備

成績評価方法（総合） 定期試験（中間・期末）および出席で判定する。中間試験 60%、期末試験 40%、出席で最高 10 点加算。

教科書・参考書 教科書：「マクロ経済学講義 2005 年度版」, 馬田, 自費出版, 2005 年

メッセージ ミクロ経済学と同様に経済学の基礎となる学問ですから、少しずつ理解を積み上げていくことが大切です。

連絡先・オフィスアワー umada@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	マクロ経済学 II	区分	講義	学年	2~4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	山田正雄				

授業の概要 この講義では、マクロ経済学の分析ツールを使って、インフレーションと失業に関する諸問題を理論的に分析していきます。

授業の一般目標 インフレーションと失業に関する諸問題を理論的に考えることができる。

授業の計画(全体) 教科書の第9章と第10章を学びます。以下のようなトピックを扱う予定です。
 ・総需要曲線・総供給曲線・ピグー効果(実質残高効果)・インフレ供給曲線・フィリップス曲線・オークンの法則・インフレ期待の形成・インフレ需要曲線

成績評価方法(総合) 期末試験と出席によって評価します。出席は加点要素とし、最大10点加点します。

教科書・参考書 教科書：入門マクロ経済学 第4版, 中谷巖, 日本評論社, 2000年

開設科目	政治経済学 I	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	植村高久				

授業の概要 政治経済学(マルクス経済学)の原理の骨格を理解すること、および経済体制としての資本主義の歴史的変遷と現代的な種々の問題について基礎的な点を理解することを課題にする。マルクスの経済学は現代の主流派経済学とは違ったやり方で経済活動を解明しようとするもので、資本主義の歴史的变化を捉えようとする視点とそれに適した分析用具をもつことが、特徴である。古くなったとはいえ、資本主義の発展段階や経済的变化、さらに不況などの経済変動を捉えることを得意とする。この授業では、こうしたマルクス経済学の特徴を理解するとともに、その特徴を生かして、資本主義とは何であるかを歴史に即しながら概観し、あわせて現代の経済問題への展望も試みる。

授業の一般目標 現代経済の動きや諸現象について、政治経済学の用語を用いて概略説明できること。政治経済学の用語について、そのあらましを説明できること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 政治経済学の基本的な用語を理解し、適切に使用できる。思考・判断の観点: 経済的諸現象について、経済学的思考法に基づいて、把握しようとする。関心・意欲の観点: 様々な経済現象に興味をもって継続的に観察できる。技能・表現の観点: 経済学的な用語を含む平易な文献を自力で読むことができる。

授業の計画(全体) 前半部分は理論の提示であり、後半は資本主義の歴史的発展と変貌の分析である。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 1. 政治経済学とは何か: 古典派とマルクス 2. 商品・貨幣・資本 内容 1. 政治経済学と新古典派の違い、政治経済学の主要内容の紹介。 2. 資本主義の主要要素である市場の仕組みの基本を示す。 3. 資本主義の主要要素である市場の仕組みの基本を示す。
- 第 2 回 項目 3 労働・価値・剰余価値 内容 賃金や利潤などの所得の内容を労働価値説に基づいて解明する。
- 第 3 回 項目 4. 資本と技術革新 内容 資本はなぜ技術革新に熱心なのか、またその効果は何かを示す。
授業外指示 第 1 回レポート出題
- 第 4 回 項目 5. 資本蓄積 (1) 内容 資本主義の拡大・成長の過程を労働力との関連で解明する。
- 第 5 回 項目 5. 資本蓄積 (2) 内容 前回の続き。 授業外指示 第 2 回レポート出題
- 第 6 回 項目 6. 近代化と消費者化 内容 資本主義の発生にまつわる歴史を考察。
- 第 7 回 項目 7. 産業革命と近代社会 (1) 内容 資本主義の自立化の起点である産業革命の影響について解説。 授業外指示 第 3 回レポート出題
- 第 8 回 項目 7. 産業革命と近代社会 (2) 内容 前回の続き。
- 第 9 回 項目 8. 大企業と組織された資本主義 (1) 内容 19 世紀後半からの寡占的資本主義の特徴を解明する。 授業外指示 第 4 回レポート出題
- 第 10 回 項目 8. 大企業と組織された資本主義 (2) 内容 前回の続き
- 第 11 回 項目 9. 大恐慌と世界経済の解体 (1) 内容 1920 年代～30 年代の危機的な資本主義の時代を示す。
- 第 12 回 項目 9. 大恐慌と世界経済の解体 (2) 内容 前回の続き 授業外指示 第 5 回レポート出題
- 第 13 回 項目 10. 組織された資本主義の黄金時代 内容 戦後の黄金時代 (1950～1970) を解明する。
- 第 14 回 項目 11. グローバル化する資本主義 内容 1970 年代から現代までの新自由主義的な資本主義の特徴を示す。 授業外指示 第 6 回レポート出題
- 第 15 回 項目 定期試験

成績評価方法(総合) 定期試験を中心にして評価するが(70%)、これに宿題(練習問題のレポート)を加える(30%)。質問票を提出してもらい、これで出席をチェックする。欠席は3回を超えると受講放棄と見なす。なお、読んだ質問票は1回につき5点を加算する。定期試験は、比較的短い分量の記述式を中心にする。

教科書・参考書 教科書：テキストの代わりに毎回プリントを配布する。プリントは後からは配布しないので、各自でファイル等を用意して確実に保管しておくこと。

メッセージ 確実に出席し、ちゃんと授業を聞いていて、練習問題レポートを提出していればなんとか合格はできます。ともかくは、遅刻しないで毎回出席することを心がけて下さい。

連絡先・オフィスアワー uemura@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	政治経済学 II	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	福留久大				

授業の概要 政治経済学（マルクス経済学）の原理の骨格を理解すること。その理解に基づいて、資本制経済の鈍化と変容の歴史的動向を把握すること。その把握に支えられて、現代的な種々の問題について検討する思考枠組を形成することを課題とする。／検索キーワード 商品・貨幣・資本、労働・生産、生活・消費、剰余価値、利潤・地代・利子、景気循環

授業の一般目標 政治経済学の概念・用語について、その概略を説明するとともに、現実の諸問題との対応関係を察知することができる。現代経済の主要特徴を把握して、政治経済学の概要・用語を用いてその動向のあらましを説明できる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：政治経済学の主要な概念・用語を理解し、適切に使用できる。

思考・判断の観点：政治経済学の主要な概念・用語を、現代の経済的諸現象に関連づけようと努める。

関心・意欲の観点：様々の経済現象に興味をもって観察し、先人の創出した概念・用語の適用を試みる。態度の観点：豊かな現代経済における Working Poors の存在を見詰めて、経済現象の陽と陰を考え続ける。技能・表現の観点：政治経済学の概念・用語を用いて、現代の経済現象に関する平易な文章を作成できる。その他の観点：ペティ、スミス、リカード、マルクスという古典学派の面々は、なかなかの人物です。一寸だけでも接してください。

授業の計画（全体）近代英国に産声をあげ、ペティ、スミス、リカード、マルクスの作品に結実し、第二次大戦後の日本に継承され彫琢を加えられた古典学派の政治経済学、その概略と精髓との検討を試みる。それを通じて、政治経済学 I の補強が可能となれば幸甚である。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 1. マルクス労働価値学説 内容 古典学派の経済学の概略を紹介する。授業外指示 テキスト 55-72 頁 < BR > 読書予習を求める
- 第 2 回 項目 2. リカード比較生産費説 内容 国際経済関係と労働価値学説の関連を考える。授業外指示 第 1 回目に、資料を配布し、予習を求める。
- 第 3 回 項目 3. 商品から貨幣への分化 内容 市場経済の基本要素としての商品形態、貨幣形態を視る。授業外指示 テキスト 91-111 頁の予習が望ましい。
- 第 4 回 項目 4. 貨幣から資本への転化 内容 営利企業の姿をとる資本形態という概念を理解する。授業外指示 テキスト 112-126 頁の予習が望ましい。
- 第 5 回 項目 5. 資本による生産の掌握 内容 資本を主体とする商品生産の機構を探る。授業外指示 テキスト 129-148 頁の予習が望まれる。
- 第 6 回 項目 6. 剰余価値の生産と増進 内容 剰余価値の生産の秘密と技術革新による増進を考える。授業外指示 テキスト 149-160 頁の予習が望まれる。
- 第 7 回 項目 7. 労働力における主体性 内容 人間の労働力の特質と資本制下における労働者の反発と親和を視る。授業外指示 6 回目に資料を配布し、予習を求める。
- 第 8 回 項目 8. 資本主義の物的再生産 内容 資本制経済の再生産条件を物的側面から視る。授業外指示 テキスト 199-210 頁の予習が望ましい。
- 第 9 回 項目 9. 資本主義の人的再生産 内容 資本制経済の再生産を人的側面から視る。授業外指示 テキスト 211-216 頁の予習が望ましい。
- 第 10 回 項目 10. 産業資本の利潤の構造 内容 モノ作り企業としての産業資本の特質とその相互競争の態容を探る。授業外指示 テキスト 219-224 頁の予習が望まれる。
- 第 11 回 項目 11. 地代と土地所有の構造 内容 制限された自然としての土地に対する資本の関係を探る。授業外指示 テキスト 225-230 頁の予習が望まれる。
- 第 12 回 項目 12. 銀行資本の利潤の構造 内容 銀行を頂点とする信用関係と、そこにおける経済学的知力の機能を探る。授業外指示 テキスト 231-236 頁の予習が望まれる。

第 13 回 項目 13. 商業資本と証券業資本 内容 商業活動と証券業活動の特質を探り，そこにおける経済学的知力のあり方を考える。授業外指示 テキスト 237-242 頁の予習が望まれる。1 2 回目に資料を配布する。

第 14 回 項目 14. 資本と労働と景気循環 内容 景気循環の必然性を理解し，経済学的知力の特徴の存在意義を探る。授業外指示 テキスト 243-252 頁の予習が望まれる。1 3 回目に資料を配布する。

第 15 回 項目 15. 定期試験

成績評価方法 (総合) ・定期試験を中心として評価する (70%)。これに小テスト・授業内レポート 2 ~ 3 回，宿題・授業外レポート 1 ~ 2 回を加える。(30点)。・予習を望ましいと考え，それに基づく質問の提出を歓迎する (総合判断)。質問票を提出して貰い，これを対話の手掛かりとする。・定期試験は，短文の記述と加減乗除の計算問題とで構成される。

教科書・参考書 教科書：『ポリチカルエコノミー』，福留久大，九州大学出版会，2004 年 / 参考書：『経済学』，日高 普，岩波書店刊；『経済原論講義』，山口重克，東京大学出版会刊；平易理解を好む人に『経済学』，論理整合性好みの人に『経済原論講義』

メッセージ 気楽に，真面目に。のんびりと，根気よく。

連絡先・オフィスアワー 受講生と相談のうえ，決めます。

開設科目	経済理論史	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	植村 高久				

授業の概要 経済学的发展史を理論とそれが捉えた世界像との関係で時系列的にたどる。内容は、スミス、リカード、マルクス、ワルラス、ケインズの理論を扱う。

授業の一般目標 経済学の諸理論について、その古典的な源泉との関連をたどることができ、様々な理論を相対化して捉えることができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： スミス、リカード、マルクス、ワルラス、ケインズの理論モデルを説明できる。 思考・判断の観点： 経済理論の歴史を背景にして、現代理論の思考法を相対化できる。

関心・意欲の観点： 経済学の古典に敬意と関心をもつことができる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 1 . イントロダクション 内容 経済理論史を概観する
- 第 2 回 項目 2 . スミス (1) 内容 スミスの道徳哲学と経済学
- 第 3 回 項目 2 . スミス (2) 内容 スミスのポリティカル・エコノミー
- 第 4 回 項目 2 . スミス (3) 内容 スミスの経済理論とその意義
- 第 5 回 項目 3 . リカード (1) 内容 労働価値説と古典派経済学 授業外指示 課題：第 1 回
- 第 6 回 項目 3 . リカード (2) 内容 比較生産費説と交換の一般的利益
- 第 7 回 項目 4 . マルクス (1) 内容 貨幣と資本
- 第 8 回 項目 4 . マルクス (2) 内容 剰余価値と蓄積論
- 第 9 回 項目 4 . マルクス (3) 内容 利潤論
- 第 10 回 項目 5 . ワルラス (1) 内容 純粋経済学と効用理論 授業外指示 課題：第 2 回
- 第 11 回 項目 5 . ワルラス (2) 内容 均衡論
- 第 12 回 項目 6 . ケインズ (1) 内容 無数の均衡：需要サイドの経済理論
- 第 13 回 項目 6 . ケインズ (2) 内容 経済の管理可能性
- 第 14 回 項目 6 . ケインズ (3) 内容 ケインズ以後：不幸な経済理論 授業外指示 課題：第 3 回
- 第 15 回 項目 定期試験

教科書・参考書 教科書：プリントを配布する。 / 参考書：別途指示する。

開設科目	統計学入門 a	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	野村淳一				

授業の概要 統計学とは具体的に何を明らかにするための学問であるかを解説する。講義では理論の解説は最小限にとどめ、具体的な応用例を多く解説・計算しながら、統計学的センスを養うよう努める。ジャンボ宝くじの期待賞金額の計算、池にいる魚の数の推定、学習塾の効果の検証など、電卓を用いて実際に計算・考察してみる。また、社会科学で用いられる社会調査(アンケート調査等)を利用する際の注意点も併せて解説する。

授業の一般目標 統計学の基礎的な理論を習得し、統計学の見方・考え方を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 基本的な統計学の理論を理解している。 思考・判断の観点: 統計学の手法を正しく適用し、結果を判断できる。 態度の観点: 分からないところを積極的に質問する。

授業の計画(全体) 1. 記述統計のはなし 2. 確率のはなし 3. 推測統計のはなし

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス 内容 講義概要、成績評価方法、データ、文字表記方法
- 第 2 回 項目 記述統計のはなし(1) 内容 平均、分散、標準偏差、総和記号の公式、最大値、最小値
- 第 3 回 項目 記述統計のはなし(2) 内容 メディアン、四分位数、平均・分散の性質、分散の簡便式
- 第 4 回 項目 記述統計のはなし(3) 内容 度数分布表、ヒストグラム、度数曲線、相対度数、連続型変数、離散型変数、分布の定義
- 第 5 回 項目 比較の方法 内容 クロスセクション・データと時系列データ、時系列グラフ、変動係数、標準化変量
- 第 6 回 項目 関係を見る 内容 散布図、相関係数、線形関係、最小 2 乗法、決定係数、単回帰
- 第 7 回 項目 確率のはなし 内容 事象の演算法則、確率の定義、条件付確率、統計的独立、確率変数、確率密度関数
- 第 8 回 項目 確率分布のはなし(1) 内容 正規分布、標準正規分布表の見方、一様分布、確率分布に基づく確率計算
- 第 9 回 項目 確率分布のはなし(2) 内容 順列、組合せ、階乗、2 項分布、正規近似、連続性補正
- 第 10 回 項目 母集団と標本のはなし 内容 社会調査の注意点、無作為抽出、無作為標本、期待値・分散の定義、期待値の計算
- 第 11 回 項目 期待値のはなし 内容 期待値オペレータの性質、確率分布の期待値、標本分布、標本平均の期待値と分散
- 第 12 回 項目 推定のはなし 内容 推定量と推定値、点推定、区間推定、不偏性、一致性、有効性、大数の法則、中心極限定理
- 第 13 回 項目 推定精度のはなし 内容 母比率と標本比率、母比率の区間推定、テレビ視聴率の信頼性、標本数の決め方
- 第 14 回 項目 検定のはなし 内容 仮説検定の考え方、有意水準
- 第 15 回 項目 予備 内容 予備

成績評価方法(総合) 期末試験によって判定する。ただし、講義毎の質問書、小テスト提出などによる加点を考慮する。評価割合は期末試験 80 %、質問書・小テスト 20 %。

教科書・参考書 教科書: 入門統計学, 木下宗七, 有斐閣ブックス, 1996 年; 経済統計学と同じ教科書です。 / 参考書: 「社会調査」のウソ リサーチ・リテラシーのすすめ, 谷岡一郎, 文春新書, 2000 年

メッセージ ルートの計算できる電卓を用意すること。

連絡先・オフィスアワー nomuraj1@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワーは週 3 回、1 時間程度設ける(講義中に指示)

開設科目	統計学入門 b	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	朝日幸代				

授業の概要 数値情報（データ）とそれが示す意味について統計学的考え方をいながら、統計学がどのような学問であるかを平易に解説する。特に、社会、経済の中で利用されている事例を数多く示し、統計的な考え方や統計学を用いた判断を行えるように授業を構成する予定である。統計学は一般的に統計的記述と統計的推測を主として取り上げているので、この授業では、これらの基礎をできるだけ具体的に解説する。

授業の一般目標 統計的な考え方を理解し、社会や経済において活用されている統計データの数値情報としての意味を把握できる。統計学を理解する上で必要な以下の7つについて、かならず身につける。(1) 文字式と総和記号の使い方に慣れる。(2) 基準を調整して比較を正しく行うことができる。(3) 相関関係と因果関係の違いを理解できる。(4) 正規分布表を正しく用いることができる。(5) 社会調査の結果を正しく解釈することができる。(6) 期待値の計算ができる。(7) 標本と母集団の関係を理解することができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：統計学の考え方や統計用語、使用する統計値の算出方法を正しく理解している。思考・判断の観点：統計手法を正しく適用し、それから得られた結果を正確に判断することができる。関心・意欲の観点：社会で利用されている様々な統計の利用に関心を持ち、授業で得た知識を生活の場面でも認識できる。また、経済学を学ぶ中でも、実際にどのように活用できるかといった点も考えることができる。態度の観点：授業内で出す課題に積極的に取り組む。

授業の計画（全体）この授業では記述統計と推測統計を扱う。はじめにデータの特徴を検討できる代表値、平均や分散、標準偏差がどのような意味をもっているか解説する。さらに社会や経済で用いられている統計データと統計手法がどのような観点で利用されているかを具体的に解説する。2つの変数の関係性、複数の変数についての比較について取り扱い方と考え方を紹介する。次に確率と確率分布、さらに調査として重要な母集団と標本について解説する。最後に推定や推定の精度、さらに授業の進み方次第であるが、検定の簡単な事例を紹介する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス 内容 成績評価方法、データ、文字表記法、統計学とはどのような学問か、どのような利用がされているかを解説する
- 第 2 回 項目 記述統計のはなし（1） 内容 平均、分散、標準偏差、総和記号の公式、最大値、最小値
- 第 3 回 項目 記述統計のはなし（2） 内容 メディアン、四分位数、平均と分散の性質、分散の簡便式、チェビシェフの定理
- 第 4 回 項目 記述統計のはなし（3） 内容 度数分布表、ヒストグラム、度数曲線、相対度数、連続型変数、離散型変数、分布の定義
- 第 5 回 項目 比較の方法 内容 変動係数、標準化変量、偏差値、クロスセクションデータと時系列データ
- 第 6 回 項目 変数の関係性 内容 散布図、相関係数、線形関係、最小二乗法、決定係数、単回帰分析の事例
- 第 7 回 項目 母集団と標本のはなし 内容 無作為抽出、無作為標本の性質、
- 第 8 回 項目 確率のはなし 内容 事象の演算法則、確率の定義、条件付確率、統計的独立、確率変数、確率密度関数
- 第 9 回 項目 確率分布のはなし（1） 内容 正規分布、標準正規分布、一様分布
- 第 10 回 項目 確率分布のはなし（2） 内容 順列、組合せ、階乗、2項分布
- 第 11 回 項目 期待値のはなし 内容 確率分布の期待値 標本分布、標本平均の期待値と分散
- 第 12 回 項目 推定のはなし 内容 推定量と推定値、点推定、区間推定
- 第 13 回 項目 推定精度のはなし 内容 母比率と標本比率、母比率の区間推定、標本数の決め方
- 第 14 回 項目 仮説検定の考え方

第 15 回 項目 仮説検定の実例

成績評価方法 (総合) 基本的に学期末試験により評価する。ただし、授業中に行う小テストについては、全体の評価に対する割合は低い評価に加える予定である。

教科書・参考書 参考書：イラスト・図解 確率・統計のしくみがわかる本, 長谷川勝也, 技術評論社, 2000年；第1回目の授業で、参考書リストを配布する。

メッセージ 統計学は毎回の授業の内容を理解し、積み上げていくことによって、次の授業の内容を理解できることが多く含まれています。ですから、出席すること、授業内容を理解するための参加が大変重要です。また、出席票等を利用して、個々の学生さんの疑問に答えられる様に務める予定です。

連絡先・オフィスアワー asahi@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	経済統計学	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	野村淳一				

授業の概要 本講義のねらいは統計学の基本的な分析道具について直感的な理解を与え、現実に統計学が応用されている文献を読みこなす基礎を与えることである。したがって、数学的に厳密な解説や証明は行わない。また直感的な理解を優先するので、説明において厳密には不正確な場合が存在する。後半では、2変数の関係を単回帰分析によって検証するための理論をできるだけ具体例を用いて解説する。統計学を習得するには、本来実際のデータを用いてコンピュータにより実習を重ねる必要があるが、本講義では時間的・空間的制約のためコンピュータ実習は行わない。ただし各自が自習できるように資料を用意する予定である。

授業の一般目標 統計学の基礎的な理論を修得し、統計学の見方・考え方を理解する。統計的手法を現実の経済データに応用し、得られた結果を正しく解釈・考察できるようにする。2変数の関係を扱うための理論を習得し、実際に応用された結果を正しく解釈・考察できるようにする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：基本的な統計学の理論を理解している。思考・判断の観点：統計学的手法を正しく適用し、結果を判断できる。態度の観点：分からないところを積極的に質問する。

授業の計画(全体) 1. 統計学の復習 2. 統計的推測 3. 単回帰分析

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 ガイダンス 内容 講義概要、成績評価方法
- 第2回 項目 1変数の統計的記述 内容 統計学入門の復習
- 第3回 項目 1変数の統計的推測(1) 内容 母集団・標本、確率変数、確率分布、期待値
- 第4回 項目 1変数の統計的推測(2) 内容 標本抽出、標本分布、中心極限定理、正規分布、t分布
- 第5回 項目 1変数の統計的推測(3) 内容 推定量の性質、点推定、区間推定
- 第6回 項目 1変数の統計的推測(4) 内容 母平均の検定、母比率の検定
- 第7回 項目 1変数の統計的推測(5) 内容 母分散の検定、母平均の差の検定、適合度の検定
- 第8回 項目 2変数の統計的記述(1) 内容 散布図、相関係数
- 第9回 項目 2変数の統計的記述(2) 内容 最小2乗法、決定係数
- 第10回 項目 2変数の確率分布 内容 条件付確率、統計的独立、ベイズ定理、積率、積率母関数
- 第11回 項目 最小2乗推定量の性質(1) 内容 期待値、分散
- 第12回 項目 最小2乗推定量の性質(2) 内容 最良線型不偏推定量、一致性
- 第13回 項目 最小2乗推定量の性質(3) 内容 t検定
- 第14回 項目 単回帰分析 内容 分析方法、評価方法、問題点
- 第15回 項目 予備 内容 予備

成績評価方法(総合) 期末試験によって判定する。ただし、講義毎の質問書、レポート提出などによる加点を考慮する。評価割合は期末試験80%、質問書・レポート20%。

教科書・参考書 教科書：入門統計学, 木下宗七, 有斐閣ブックス, 1996年 / 参考書：計量経済学, 山本拓, 新世社, 1995年; 計量経済学の教科書です。

メッセージ ルートの計算ができる電卓を用意すること。

連絡先・オフィスアワー nomuraj1@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワーは週3回、1時間程度設ける(講義中に指示)

開設科目	計量経済学	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	野村淳一				

授業の概要 計量経済学では2変数以上の関係を重回帰分析によって検証するための理論をできるだけ具体例を用いて解説する。本講義のねらいは計量経済学の基本的な分析道具について直感的な理解を与え、現実に計量経済学が応用されている文献を読みこなす基礎を与えることである。したがって、数学的に厳密な解説や証明は行わない。後半では、重回帰分析の応用である連立方程式モデルについて学習する。現実の経済を理解するためには、様々な要因で決定される複数の変数間の相互依存関係を分析する必要があり、その記述方法のひとつが連立方程式モデルである。実際にモデル分析をするためには、パソコンを用いる必要があるが、本講義では時間的・空間的な制約のため、パソコン演習は行わない。

授業の一般目標 多変数の関係を扱うための計量経済学の理論を習得し、実際に応用された結果を正しく解釈・考察できるようにする。経済理論を統計学的手法で検証する方法を習得する。様々な要因で決定される複数の変数間の相互依存関係を分析する方法を習得し、実際に応用された結果を正しく解釈・考察できるようにする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：基本的な計量経済学の理論を理解している。 思考・判断の観点：計量経済学的手法を正しく適用し、結果を判断できる。 態度の観点：分からないところを積極的に質問する。

授業の計画(全体) 1. 重回帰分析 2. 重回帰分析の応用 3. 同時方程式モデル

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 ガイダンス 内容 講義概要、成績評価、前回試験結果の分析
- 第2回 項目 単回帰分析 内容 経済統計学の復習
- 第3回 項目 重回帰分析(1) 内容 多重共線性、自由度修正済み決定係数
- 第4回 項目 重回帰分析(2) 内容 F検定
- 第5回 項目 クロスセクション・データ(1) 内容 ダミー変数
- 第6回 項目 クロスセクション・データ(2) 内容 不均一分散
- 第7回 項目 時系列データ(1) 内容 トレンド変数、見せかけの相関
- 第8回 項目 時系列データ(2) 内容 系列相関、分布ラグ・モデル
- 第9回 項目 時系列データ(3) 内容 構造変化、単位根・共和分分析
- 第10回 項目 同時方程式モデル(1) 内容 識別性、誘導型
- 第11回 項目 同時方程式モデル(2) 内容 間接最小2乗法、2段階最小2乗法
- 第12回 項目 同時方程式モデル(3) 内容 モデルの解法、政策シミュレーション
- 第13回 項目 マクロ計量モデル 内容 分析方法、評価方法、問題点
- 第14回 項目 予備 内容 予備
- 第15回 項目 予備 内容 予備

成績評価方法(総合) 期末試験によって判定する。ただし、講義毎の質問書、レポート提出などによる加点を考慮する。評価割合は期末試験80%、質問書・レポート20%。

教科書・参考書 教科書：計量経済学, 山本拓, 新世社, 1995年

メッセージ ルートの計算ができる電卓を用意すること。

連絡先・オフィスアワー nomuraj1@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワーは週3回、1時間程度設ける(講義中に指示)

開設科目	経済情報処理概論 a	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	藤井美知子				

授業の概要 情報処理の基礎的な概念を解説し、コンピュータを情報処理の道具として、活用できることを目的として表計算 (Excel) の授業を行なう。 / 検索キーワード 表計算、データ処理、グラフ、関数、データベース

授業の一般目標 各種データの表作成や集計、計算、グラフ作成およびデータベースの機能を備えた表計算ソフト (Excel) の使い方をマスターすることによって、データの処理、分析方法を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：表計算の関数を説明できる。 思考・判断の観点：与えられた問題に対して問題解決を行うための手法が説明できる。 関心・意欲の観点：問題に対して、適切な表を作成することが配慮できる。

授業の計画 (全体) Excel のグラフの作成、関数の使い方などを説明後、演習問題を解いて表計算の機能を理解する。演習問題のうち何問かをレポート提出する。メールでのレポート提出を行い、問題についてはその都度指示する。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 表計算ソフト (Excel) の基本操作、文字の入力練習、表作成から保存 内容 オリエンテーション等
- 第 2 回 項目 表の編集、グラフ作成、統計関数 (AVERAGE、MAX、MIN) 書式設定、以下、毎回演習問題を行う
- 第 3 回 項目 規則的データの入力、絶対セルの利用
- 第 4 回 項目 検索・行列関数
- 第 5 回 項目 検索・行列関数、順位付け、並べ替え
- 第 6 回 項目 オートフィルター、論理関数
- 第 7 回 項目 データベース関数
- 第 8 回 項目 ピボットテーブル
- 第 9 回 項目 複数シートの利用、各種関数の利用
- 第 10 回 項目 文字列、日付関数
- 第 11 回 項目 これまでの復習、練習問題
- 第 12 回 項目 偏差値と散布図の利用
- 第 13 回 項目 会社総合評価表、グラフ作成
- 第 14 回 項目 ABC 分析、近似曲線の利用、回帰分析の利用
- 第 15 回 項目 ゴールシーク等、まとめ

成績評価方法 (総合) Excel のグラフの作成、関数の使い方などを説明後、演習問題を解いて表計算の機能を理解する。演習問題のうち何問かをレポート提出する。メールでのレポート提出を行い、問題についてはその都度指示する。

教科書・参考書 教科書：60 時間でエキスパート Excel 演習, 実教出版, 2006 年; 教科書の購入については 1 回目の授業時間に指示します。また教科書以外の練習問題も行います。 / 参考書：Windows 関係の入門書、Excel の本等

メッセージ 1 クラス 50 名以内で行いますので、受講希望者は必ず 1 回目は出席してください。レポート提出は E-mail で行います。また、授業時間中にできなかった質問については E-mail で行なってください。実習が中心ですので、欠席した場合は必ず進んだ所まで友達に聞いて補っておいってください。遅刻をしないようにしてください。毎回出欠席のチェックを行いません。

連絡先・オフィスアワー E-mail : fujii@ube-c.ac.jp

開設科目	経済情報処理概論 b	区分	講義	学年	2～4 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	藤井美知子				

授業の概要 情報処理の基礎的な概念を解説し、コンピュータを情報処理の道具として、活用できることを目的として表計算 (Excel) の授業を行なう。 / 検索キーワード 表計算、データ処理、グラフ、関数、データベース

授業の一般目標 各種データの表作成や集計、計算、グラフ作成およびデータベースの機能を備えた表計算ソフト (Excel) の使い方をマスターすることによって、データの処理、分析方法を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：表計算の関数を説明できる。 思考・判断の観点：与えられた問題に対して問題解決を行うための手法が説明できる。 関心・意欲の観点：問題に対して、適切な表を作成することが配慮できる。

授業の計画 (全体) Excel のグラフの作成、関数の使い方などを説明後、演習問題を解いて表計算の機能を理解する。演習問題のうち何問かをレポート提出する。メールでのレポート提出を行い、問題についてはその都度指示する。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 表計算ソフト (Excel) の基本操作、文字の入力練習、表作成から保存 内容 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 表の編集、グラフ作成、統計関数 (AVERAGE、MAX、MIN) 書式設定、以下、毎回演習問題を行う
- 第 3 回 項目 規則的データの入力、絶対セルの利用
- 第 4 回 項目 検索行列関数
- 第 5 回 項目 検索行列関数、順位付け、並べ替え
- 第 6 回 項目 オートフィルター、論理関数
- 第 7 回 項目 データベース関数
- 第 8 回 項目 ピボットテーブル
- 第 9 回 項目 複数シートの利用、各種関数の利用
- 第 10 回 項目 文字列、日付関数
- 第 11 回 項目 これまでの復習、練習問題
- 第 12 回 項目 偏差値と散布図の利用
- 第 13 回 項目 会社総合評価表、グラフ作成
- 第 14 回 項目 ABC 分析、近似曲線の利用、回帰分析、ゴールシーク等の利用
- 第 15 回 項目 ゴールシーク等、まとめ

成績評価方法 (総合) 定期試験、レポート内容等で評価します。指示されたレポートは全部提出してください。また欠席が多い場合は単位が出ません。

教科書・参考書 教科書：60 時間でエキスパート Excel 演習, 実教出版, 2006 年; 教科書の購入については 1 回目の授業時間に指示します。また、教科書以外の練習問題もします。 / 参考書：Windows 関係の入門書、Excel の本等

メッセージ 1 クラス 50 名以内で行いますので、受講希望者は必ず 1 回目の授業に出席してください。レポート提出は E-mail で行います。また、授業時間中にできなかった質問については E-mail で行なってください。実習が中心ですので、欠席した場合は必ず進んだ所まで友達に聞いて補っておいください。遅刻をしないようにしてください。毎回出欠席のチェックを行いません。

連絡先・オフィスアワー E-mail : fujii@ube-c.ac.jp

開設科目	経済数学 I	区分	講義	学年	2～4 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	柏木芳美				

授業の概要 この講義の目的はミクロ経済学で使われている数学の概説である。具体的には、2変数関数の取り扱いに慣れ、効用最大化問題・支出最小化問題を解いて需要を数学的に定めることである。一部ではあるが、国家公務員 I 種、II 種、地方公務員上級試験の問題も簡単に解説する。内容は必ずしも易しくない。共通教育の数学概論程度の予備知識は必要である。この講義を取るにより自分の経済学の幅が広がる。

授業の一般目標 ミクロ経済学の理解に必要な数学を身につけること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 具体的な関数の偏導関数が計算できる。 2. ヘッセ行列式と縁付きヘッセ行列式の計算ができる。 3. 効用最大化問題・支出最小化問題を解くことができる。 **思考・判断の観点：** 1. 経済現象を数学を使って考えることができる。 **関心・意欲の観点：** 1. 日常生活の中の経済現象に関心を持つ。

授業の計画（全体） 最初に 1 変数関数の微分を復習し、次に多変数関数の微分の計算練習をする。また、必要最低限の行列式の計算方法を説明する。道具としてはこれでそろそろ。次に最大化問題・最小化問題を説明する。次に、陰関数定理の応用して無差別曲線と限界代替率を説明する。以上の準備の下で効用最大化問題・支出最小化問題の解法とこれらの解のミクロ経済学における意味を説明する。時間の許す範囲内で国家公務員、地方公務員上級試験の関連問題の解説をする。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 1 変数関数の微分 その 1 内容 基本的関数の導関数。小テスト
- 第 2 回 項目 1 変数関数の微分 その 2 内容 合成関数の微分の練習。小テスト
- 第 3 回 項目 偏微分 その 1 内容 多変数関数，偏微分。小テスト
- 第 4 回 項目 偏微分 その 2 内容 偏微分の計算練習。小テスト
- 第 5 回 項目 全微分，Chain rule 内容 小テスト
- 第 6 回 項目 オイラーの同次関数の公式とその応用 内容 小テスト
- 第 7 回 項目 最大・最小問題 その 1 内容 最大・最小の必要条件。小テスト
- 第 8 回 項目 中間試験
- 第 9 回 項目 最大・最小問題 その 2 内容 弾力性，特に需要の価格弾力性。小テスト
- 第 10 回 項目 最大・最小問題 その 3 内容 最大・最小の十分条件，ヘッセ行列。小テスト
- 第 11 回 項目 陰関数定理 内容 無差別曲線，限界代替率。小テスト
- 第 12 回 項目 効用最大化問題，支出最小化問題 内容 条件付き最大最小問題。小テスト
- 第 13 回 項目 効用最大化問題，支出最小化問題の必要条件 内容 ラグランジュの未定乗数法。小テスト
- 第 14 回 項目 効用最大化問題・支出最小化問題の十分条件 内容 2 階の条件。小テスト
- 第 15 回 項目 期末試験

成績評価方法（総合） 中間試験と期末試験の平均が 60 点以上が合格。演習問題を自分で解かねば合格点は取れない。解けない問題は授業又はオフィスアワーで質問すること。小テストは、授業内容の理解の確認で、成績とは無関係である。遅刻・欠席をしないように。テキストの誤植指摘に最大 20 点与える。

教科書・参考書 教科書：経済数学 I 第 3 版，柏木 芳美，2004 年；生協で販売する。

メッセージ 演習問題を着実に解くこと。分からないことは質問すること。遅刻・欠席をしないこと。

連絡先・オフィスアワー E-mail:kashi-y@yamaguchi-u.ac.jp，電話:933-5595，研究室:C213。オフィスアワーは授業開始時点に伝える。

開設科目	数理経済学	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	柏木芳美				

授業の概要 権利の価格であるオプション価格に理論価格を与えたブラック・ショールズ方程式を理解するための数学の概説とブラック・ショールズ方程式の簡単な応用を説明する。ブラック・ショールズ方程式は金融工学の重要なトピックである。簡単ではない。数学的予備知識(最低微分の知識)がない人には無理である。 / 検索キーワード オプション取引, 理論価格, ブラック・ショールズ方程式, 金融工学

授業の一般目標 微分, 積分, 確率, 偏微分方程式などの基本事項を身につけ, ブラック・ショールズ微分方程式の意味を理解し, 簡単な計算ができること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. 微分と積分の基礎 2. 簡単な常微分方程式 3. 簡単な偏微分方程式 4. 確率の基礎 5. オプション価格の意味 6. ブラック・ショールズ方程式の適用 関心・意欲の観点: 経済現象を数理的に捉えることに関心があること。

授業の計画(全体) 最初にオプション価格の意味を説明し, ブラック・ショールズ微分方程式の解を適用して具体的なオプション価格の計算方法を説明する。次に, 微分, 積分, 微分方程式, 確率の基本的なことを説明し, ブラック・ショールズ微分方程式のたて方と解き方を説明する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ブラック・ショールズ微分方程式・その 1 内容 オプション価格の意味とブラック・ショールズ微分方程式の解の説明
- 第 2 回 項目 ブラック・ショールズ微分方程式・その 2 内容 ブラック・ショールズ微分方程式の解を適用してオプション価格を決める。
- 第 3 回 項目 微分・その 1 内容 微分の計算
- 第 4 回 項目 微分・その 2 内容 偏微分の計算
- 第 5 回 項目 積分・その 1 内容 定積分の説明
- 第 6 回 項目 積分・その 2 内容 不定積分の計算
- 第 7 回 項目 積分・その 3 内容 定積分の計算
- 第 8 回 項目 中間試験
- 第 9 回 項目 簡単な微分方程式 内容 定数係数 2 階
- 第 10 回 項目 偏微分方程式・その 1 内容 熱伝導方程式
- 第 11 回 項目 偏微分方程式・その 2 内容 重ね合わせ
- 第 12 回 項目 確率の基礎
- 第 13 回 項目 伊藤のレンマ
- 第 14 回 項目 ブラック・ショールズ微分方程式
- 第 15 回 項目 期末試験

成績評価方法(総合) 中間試験と期末試験の平均が 60 点以上が合格。演習問題をコツコツと解くこと。小テストは, 周りの人と相談してもよく, 授業内容の理解の確認が目的である。遅刻・欠席をしないように心懸けること。

教科書・参考書 教科書: 金融・証券のためのブラック・ショールズ微分方程式, 石村貞夫・石村園子, 東京図書, 1999 年; 生協で販売する。

メッセージ 微分(共通教育の数学概論かまたは経済数学 I)を全く知らない人は受講しても無駄である。遅刻欠席をしないように。

連絡先・オフィスアワー E-mail:kashi-y@yamaguchi-u.ac.jp, 電話:933-5595, 研究室:C213。オフィスアワーは授業開始時点に伝える。

開設科目	経済成長論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	中村 保				

授業の概要 1. 経済成長及び経済発展に関する基本的な事実についての知識を身に付ける。2. 経済成長及び経済発展の基礎的理論としての新古典派成長モデルをきちんと理解する。3. 1980年代後半以降急速に発展した内生的成長理論の考え方・エッセンスを学ぶ。4. 最後に理論と現実との整合性及びギャップについて考える。/ 検索キーワード 経済成長、所得格差

授業の一般目標 1. 経済成長及び経済発展の尺度、経験的な事実及び各国間の違いについて理解する。2. 簡単な数学モデルを用いて経済成長及び発展の多くの側面を説明出来るようになる。3. 研究開発投資と経済成長の関係、経済政策と経済成長の関係について議論できるようになる。4. 理論の有用性とともにもその限界についても正しく認識できるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. 経済成長会計によって経済成長の源泉及び主要な要因についての理解。2. ソローモデルを中心とした基本的な成長モデルに関する知識及び理解。3. 日本をはじめとした諸経済の現実の経済成長に関する知識。思考・判断の観点: 簡単な成長モデルを現実の経済成長に適用してモデルの説明力と限界について考え判断すること。

授業の計画(全体) 1. 経済成長会計(現実の経済成長の理解とその要因分析) 2. ソローの成長モデル(基本的な成長モデルの理解とそれを適用しての現実の成長の分析) 3. 内生的成長モデル入門(内生的成長モデルの考え方、概要及びその重要性の理解) 4. 経済成長及び所得格差(理論を学習した後の現実の経済成長及び所得格差の再考)

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション
- 第 2 回 項目 第 1 章 序論:経済成長についての事実
- 第 3 回 項目 第 2 章 ソロー・モデル (1)
- 第 4 回 項目 第 2 章 ソロー・モデル (2)
- 第 5 回 項目 第 2 章 ソロー・モデル (3)
- 第 6 回 項目 第 2 章 補論 < BR > 資本蓄積の黄金律
- 第 7 回 項目 第 3 章 新古典派成長モデルの経験的応用 (1)
- 第 8 回 項目 第 3 章 新古典派成長モデルの経験的応用 (2)
- 第 9 回 項目 第 4 章 アイデアの経済学
- 第 10 回 項目 第 5 章 成長のエンジン
- 第 11 回 項目 第 6 章 成長と開発の単純なモデル
- 第 12 回 項目 第 7 章 インフラストラクチャーと経済の長期的パフォーマンス
- 第 13 回 項目 第 8 章 他の経済成長理論
- 第 14 回 項目 第 9 章 経済成長を理解する
- 第 15 回 項目 期末試験

成績評価方法(総合) 期末テストと2回の宿題で成績評価を行う。単位が必要な学生には2回の宿題を必ず提出するように強く勧める。1) 宿題 40%(各20%) 2) 期末試験 60%

教科書・参考書 教科書:「経済成長理論入門 新古典派から内生的成長理論へ」, チャールズ・ジョーンズ, 日本経済新聞社, 1999年 / 参考書: 経済成長論 OECD 諸国における要因分析, OECD 編集, 中央経済社, 2005年

メッセージ 現在、日本やアメリカを初めとした多くの先進諸国で経済成長とともに拡大する貧富の格差が問題になっています。経済成長と所得格差についての基礎的な知識は21世紀の経済社会を考える上で不可欠です。

連絡先・オフィスアワー 電子メール：nakamura@econ.kobe-u.ac.jp オフィスアワーについては最初の授業の際に伝えます。

開設科目	経済政策総論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	後期
担当教官	古河幹夫				

授業の概要 グローバリゼーションの進展、環境・資源問題の深刻化、高齢化にともなう社会保障制度の見直しなど先進工業国において経済政策の諸課題が国民生活に大きくかかわるかたちで私たちの目の前にあります。経済政策とは一定の意思・目的のもとで経済過程に働きかけることです。政策諸課題の基本的な概要を学ぶなかで政府の役割、市民にとっての選択基準などを考えます。

授業の一般目標 先進工業国における政府の役割を理解する マクロ経済学との関連で経済政策を理解する。 今日的な経済政策課題の基本的な理解を得る。 政策的な展望について積極的に考える。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 先進工業国における政府の役割を理解する。 2. 現代のさまざまな経済政策課題をめぐる論点を理解する。 思考・判断の観点： 1. 経済政策の基本的メカニズムをマクロ経済学との関連で考えられるようになる。 関心・意欲の観点： 1. 今日の日本経済における政策的議論の基本について関心をもって考えるようになる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 経済体制（1）
- 第 2 回 項目 経済体制（2）
- 第 3 回 項目 国民経済と政府の役割
- 第 4 回 項目 グローバリゼーションと国民国家
- 第 5 回 項目 対外政策、国際収支
- 第 6 回 項目 新自由主義と政策展開
- 第 7 回 項目 経済発展
- 第 8 回 項目 産業構造
- 第 9 回 項目 産業政策（1）
- 第 10 回 項目 産業政策（2）
- 第 11 回 項目 産業組織
- 第 12 回 項目 社会資本
- 第 13 回 項目 規制緩和（1）
- 第 14 回 項目 規制緩和（2）
- 第 15 回 項目 中小企業
- 第 16 回 項目 中小企業政策
- 第 17 回 項目 「公正」概念
- 第 18 回 項目 分配の公平
- 第 19 回 項目 社会保障
- 第 20 回 項目 福祉国家
- 第 21 回 項目 資源・エネルギー
- 第 22 回 項目 エネルギー政策
- 第 23 回 項目 環境政策（1）
- 第 24 回 項目 環境政策（2）
- 第 25 回 項目 雇用
- 第 26 回 項目 財政・金融政策
- 第 27 回 項目 政策決定のプロセス
- 第 28 回 項目 90年代日本経済と政策論争
- 第 29 回 項目 ヨーロッパ・モデル
- 第 30 回 項目 市場とコミュニティー、公共性

成績評価方法（総合） 出席、質問・意見ペーパー、レポート、期末試験

教科書・参考書 参考書：社会システムとしての市場経済, 塚田広人, 成文堂；現代の経済政策, 正村公宏,
東洋経済新報社

連絡先・オフィスアワー furukawa@nagasakiu.ac.jp

開設科目	金融経済論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	前期
担当教官	兵藤隆				

授業の概要 この講義では、初めて金融論を学ぶ学生諸君を対象にして、現実の金融現象を理解するために必要な基礎的な学力を育成することを目標としている。よって、できるかぎり「なぜこの理論を学ばなければならないのか」、あるいは、「理論がどのように現実を説明しているのか」がよくわかるような解説を心がけたいと考えている。 / 検索キーワード マネー、金融機関、金融政策、銀行、金融

授業の一般目標 金融論の基礎的知識の習得 国民経済というマクロ的視点を身につける 金融経済に関する統計データを正しく把握する力を身につける 貨幣の役割、利子率とはなにかなど、貨幣理論の基礎を理解する 我が国の金融市場や金融システムの概略を理解する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス
- 第 2 回 項目 日本の金融の大きなしくみと役割
- 第 3 回 項目 日本の金融の大きなしくみと役割
- 第 4 回 項目 日本の金融市場 1（伝統的な金融市場）
- 第 5 回 項目 日本の金融市場 2（新しいタイプの金融市場や監督・規制）
- 第 6 回 項目 日本の相対取引 1（バブルの発生と崩壊）
- 第 7 回 項目 日本の相対取引 2（バブル後の問題と対応策）
- 第 8 回 項目 中間テスト 1
- 第 9 回 項目 日本の相対取引 3（新しい可能性）
- 第 10 回 項目 貨幣と金融論の基礎
- 第 11 回 項目 貨幣と金融論の基礎
- 第 12 回 項目 量的緩和政策と金融政策論議
- 第 13 回 項目 量的緩和政策と金融政策論議
- 第 14 回 項目 21 世紀を生きる皆さんへ
- 第 15 回 項目 中間テスト 2

成績評価方法（総合） 中間テスト 30%（二回） 期末テスト 70%（テスト期間中に実施） 期末テストの受験資格は、出席率 75%以上とする

教科書・参考書 教科書：知っておきたい金融論，安孫子勇一，晃洋書房，2006 年；文栄堂大学前店にて購入可能

メッセージ 講義ノート配布および質問の受付には当講義のメーリングリスト（<http://groups.yahoo.co.jp/group/yu-me/>）を使用します。参加方法などは講義中に説明します。

連絡先・オフィスアワー thyodo@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	金融システム論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	貞木展生				

授業の概要 わが国では、「金融革新」が主張され、「金融制度」が大幅に変革してきている。たとえば、銀行業と証券業の間に存在していた「垣根」が徐々に除去されてきている。また、郵便局が郵政公社へと変革し、更には、保険業の他の分野との境界線が薄れて、金融関連業界は「相互乗り入れ」をして、「金融の自由化」が形式的に完成の域へ到達しようとしている。それではわが国の金融システムはどこへ行くのであろうか。「間接金融方式」の金融システムを特徴とするわが国の金融システムはどのようなのであろうか。「直接金融方式」への転換はどのようなになるのであろうか。「金融政策」による効果をどのようにして評価すればよいのであろうか。戦後のわが国の金融システムの推移を「資金循環勘定」を通じて実証的に検討するとともに、金融システムの変革が金融政策の効果へどのような影響をもたらすのであろうかという理論的な検討をする。

授業の一般目標 マクロ経済学の一般的な理解の下に、LM曲線の意義を再検討する。「直接金融方式」の下でのLM曲線と「間接金融方式」の下でのLM曲線は異なるのであろうか、それとも同種と考えてよいのであろうか。この検討をするために、「資金循環勘定」の説明を通じて、金融システムの実証的分析を展開する。それは戦後の日本経済の展開過程の説明になるであろう。すなわち、高度経済成長期、ニクソンショックとオイルショックによる低迷期、バブル経済の展開と崩壊、それに伴うデフレ経済の進行、これらの典型的な事態を金融の側面から検討する。特に80年代以降の「金融革新の進行」には特別な注目が必要であろう。「所得倍増計画」、「人為的低金利政策」、「総需要管理政策」、「所得政策」、「インフレターゲット論」等々、さまざまな経済政策が提示され、そして実施されてきた。すべてについて講義はできないが、必要に応じて理論的・実証的に説明したい。

授業の計画(全体) (1)マクロ経済学の復習:特にIS-LM分析について(2)「貨幣供給の外生性」と財政収支(3)「所得循環」と「資金循環」の意義(4)「資金循環勘定」の説明(5)資金循環の実証的分析:金融システムの実体(6)「金融政策」のあり方(7)日本経済の将来展望 これらの項目を講義する予定です。学生諸君の理解度に応じて講義の進捗速度は不定です。ノート講義をするので、しっかりメモをしてください。

成績評価方法(総合) 主として、期末テストにより評価する。

教科書・参考書 教科書:『所得循環と資金循環』, 貞木展生, 日本経済評論社, 1999年; 在庫が存在しない場合は、教科書を指定せず。

メッセージ マクロ経済学についての知識があることを前提に講義をします。「資金循環勘定」のデータは、日本銀行のHPから入手できます。インターネットで確認してください。

開設科目	地域経済論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	後期
担当教官	齋藤英智				

授業の概要 地域における経済現象とその主要な理論・モデルについて学ぶ。経済学を基礎とし、空間という要素を取り入れてヒト、モノ、カネ、情報の動きを見ていく。経済のグローバル化とともに、地方分権が叫ばれるなかで、平成の大合併などにより地域の役割はますます重要な局面を迎えている。地域内、地域間での財・サービスやヒトの往来、さらには大都市がある一方で農村もあり、単に地域といってもさまざまな形態がみられ、地理的特性や人口構成、産業構造などによっても異なる。これら地域経済に関わる諸活動や地域の構造を理論的な観点から学んでいくとともに、地域に関連するデータを用いてグラフの見方やその背景を検討しながら地域間の比較や分析を行う。/検索キーワード 地域経済、都市経済、地域活性化、まちづくり

授業の一般目標 地域の諸問題に関する理論・背景を理解するとともに、地域データに基づいて地域を分析し、地域の課題に対する考え方を修得する。また、関心の深い地域・テーマを自ら設定し、レポートの作成を通じて、問題の所在と解決へ向けた多面的なものの見方ができるようにする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：経済学の基礎理論・モデルに基づいた現実の地域経済の理解、応用力を身につける。思考・判断の観点：問題に対する多面的な見方を培い、それに対処するための道筋をつけることができる。関心・意欲の観点：日ごろから抱いている地域経済に関する疑問を学問的観点から捉える。態度の観点：疑問に思ったことは自ら積極的に調べる。技能・表現の観点：理論・モデルの基礎に基づいてデータを正しく処理・分析し、レポートが作成できる。その他の観点：パソコン・ソフト（ワード、エクセル）を利用して地域データを加工・分析し、レポートを作成することが可能となる。

授業の計画（全体） 1. 地域経済学の諸問題、2. 地域経済学の理論・モデル、3. 地域データによる現状分析、の3つの点を中心にシラバスに沿って授業を行う。授業内で資料を配布し、板書・パワーポイントを用いて授業を進める。授業では地域データに基づく図表を提示し、その見方・背景を考えるとともに、図表の作成方法や分析方法を適宜紹介することによって各自で図表が作成できるようにする。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス：地域経済学とは何か 内容・担当教員の紹介・授業の進め方・成績評価の方法・注意事項・地域経済学とは何か（経済学と地域経済学）（地域経済学の課題）
- 第 2 回 項目 地域経済学のアプローチ 内容・地域とは何か（地域の定義）（地域の概念）（地域の範囲）
- 第 3 回 項目 経済のグローバル化と地域経済 内容・ヒト・モノ・カネ・情報の世界的交流（世界の中での地域）（日本経済と地域経済）（産業空洞化）（地域間格差）
- 第 4 回 項目 東京一極集中と地方分権 内容・地域の人口規模（少子高齢化）・東京一極集中（都市と農村）・地方分権（市町村合併と道州制）（地方財政）
- 第 5 回 項目 都市集積の経済性 内容・都市集中のメカニズム・集積の経済（規模の経済性）（都市化の経済）（地域特化の経済）
- 第 6 回 項目 地域成長のモデル 内容・需要主導型成長（経済基盤説）・供給主導型成長（新古典派モデル）・都市の盛衰・住宅の立地
- 第 7 回 項目 経済立地の理論 内容・中心地理論・農業立地論・工業立地論
- 第 8 回 項目 地域の産業構造 内容・ペティ＝クラークの法則・三角形ダイアグラム・特化係数
- 第 9 回 項目 地域経済循環と産業連関分析 内容・産業連関表（生産波及効果）・域内・域外需要と地域間交易
- 第 10 回 項目 地域間相互作用のモデル 内容・重力モデル・小売重力モデル・商圈モデル
- 第 11 回 項目 全国総合開発計画と地域政策 内容・国土計画（戦後の地域政策）・社会資本整備と公共事業（地方公共財）

- 第12回 項目 地域づくり 内容 ・SWOT分析 ・地域づくりのキーポイント ・地域と交通 ・地域の福祉 ・地域の歴史・文化保護 ・地域と観光（持続可能な観光）
- 第13回 項目 コミュニティの再生 内容 ・まちづくりの源泉 ・地域ブランド
- 第14回 項目 地域の持続的発展と環境問題 内容 ・地域のアメニティ ・地域の環境問題 ・コモンズの理論 ・外部性 ・地域の持続的発展
- 第15回 項目 まとめ 内容 ・地域の自立的発展 ・成績評価について

成績評価方法(総合) 出席:25%、授業外課題レポート(3回程度):30%、最終レポート(定期試験に代える):45%を総合して評価する。ただし、出席回数、および、授業外課題レポートの提出が一定水準に満たないもの、最終レポートを提出しないものについては単位を認定しない。なお、最終レポートを提出するだけでは単位を認定しないので注意すること。

教科書・参考書 教科書：教科書は使用せず、教材として適宜資料を配布する。/ 参考書：『地域経済学』、宮本憲一・横田茂・中村剛治郎、有斐閣、1990年；『現代都市経済学』(第2版)、宮尾尊弘、日本経済評論社、1995年；『都市と地域の経済学』、中村良平・田淵隆俊、有斐閣、1996年；『地域分析入門』(改訂版)、大友篤、東洋経済新報社、1997年；『グリーン共創序説 循環型社会をめざして』、吉村弘・戸田常一・齋藤實男編著、同文館、2002年；その他、授業中に適宜紹介する。

メッセージ 地域経済論は、ミクロ経済学、マクロ経済学を基礎とする応用の分野となります。履修の条件ではありませんが、これらの理論を良く理解していることが望まれます。理論や方法論といった抽象的な部分もありますが、出来る限り地域独自の問題や実際のデータを取り上げ、今日の地域問題を考えられるようにします。また、理論と現実を融合させた考え方を身につけるために、データによる分析も行ってもらいますので、パソコン(ワード、エクセル)等が使えることもレポート作成の助けになります。一連の作業を通じて地域の問題に関心を持ち、自分の考えをまとめられるようになることを目標とします。

連絡先・オフィスアワー hidetomo@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：月曜日(10:20~11:50) 研究室：経済学部A棟4階(407研究室) オフィスアワーは上記としますが、いつでも研究室に来ていただいて結構です。

開設科目	地方財政論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	藤井大司郎				

授業の概要 わが国の地方財政について、法制度、歴史、現状と課題について講じる。内容としては、地方公共団体、予算制度、財政分析、国と地方の財政関係を取り上げる。

授業の一般目標 わが国における地方政府、地方財政の仕組み、歴史、実情を把握し、これからの在り方を考察する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 地方財政が果たしている役割、国家財政との違い 関心・意欲の観点： 地方分権時代に求められる地方財政像

授業の計画(全体) 第1章 地方公共団体 第2章 地方の予算と会計 第3章 地方の財政構造
第4章 国と地方の財政関係

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 地方財政の関連法 都道府県と市町村
- 第2回 項目 都道府県と市町村
- 第3回 項目 特殊な地方公共団体
- 第4回 項目 地方公共団体の連携
- 第5回 項目 予算制度
- 第6回 項目 予算制度
- 第7回 項目 予算制度
- 第8回 項目 会計の区分
- 第9回 項目 収入と支出
- 第10回 項目 収入と支出
- 第11回 項目 収入と支出
- 第12回 項目 収入と支出
- 第13回 項目 国と地方の財政関係
- 第14回 項目 国と地方の財政関係
- 第15回 項目 国と地方の財政関係

成績評価方法(総合) 期末試験の結果で成績評価を行なう。

教科書・参考書 教科書： 特に用いない。 / 参考書： 授業時間中に伝える。

開設科目	地域福祉社会学	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	鍋山祥子				

授業の概要 地域社会と福祉の関わりについて、高齢者福祉をテーマに考えていく。マスコミによって連日のように「高齢化の危機」が叫ばれている。では一体、高齢化とはわれわれの社会にどのような変化をもたらすのだろうか。本講義では、高齢者のおかれている現状とこれまでの日本の高齢者福祉政策の変遷とを明らかにし、今後「いかなる超高齢社会が目指されているのか」について考察を進める。その際、地域社会の役割変化に着目し、新たなコミュニティのあり方を考える。また、ジェンダー視点を有効な分析手段として使用するため、ジェンダー概念についても詳しく講義する。/ 検索キーワード 地域福祉・介護・高齢者福祉・ジェンダー

授業の一般目標 1. 日本の高齢化状況と高齢者の生活を知る 2. 社会政策としての高齢者福祉の成立を理解する 3. 国家・市場・家族・地域と高齢者介護との関連について理解を深める 4. 現行の高齢者福祉政策に関する知識を得る 5. 自分の生きていく社会状況として高齢化を理解する

授業の計画(全体) 高齢化の状況・高齢者の生活・社会福祉の概念・福祉国家の成立・近代社会と高齢者観(尊厳死にみる個人と共同体)・日本における高齢者福祉の変遷・地域福祉の展開と動向・高齢者福祉と家族機能・高齢者福祉におけるNPO・高齢者介護とジェンダー・ボランティアと地域福祉・福祉ミックス論・公的介護保険制度・比較福祉国家論などのテーマを毎回設定する。授業では、統計データの提示によって状況の理解を促したり、視覚メディアも利用しながら思考を深めてもらう。

成績評価方法(総合) 出席と課題提出、学期末試験(授業内容を網羅した内容・論述あり・持ち込み不可)による総合評価。テキストを使用しない講義のため、出席を欠格条件とする。配点は、授業内外レポート30%・定期試験70%とする。

教科書・参考書 教科書: 特定のテキストは使用せず、必要なデータ等についてはコピーを配布する。/ 参考書: 授業テーマに沿って、理解を深めるのに適した文献を随時提示する。

メッセージ 社会の高齢化を「自分の問題」として、当事者意識を持ちながら受講をしてもらうことを望みます。

連絡先・オフィスアワー E-mail:nabeyama@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー: 水曜日 10:00 - 11:00

開設科目	社会政策論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	後期
担当教官	濱島清史				

授業の概要 現在、少子高齢化や年金・介護・医療などの問題が焦眉の課題となっているが、社会政策論では次のような内容をやることにより、それらの問題を考えていく。社会政策論は労働政策と社会保障からなる。労働政策には労働基準政策、失業政策、雇用能力開発政策、労使関係政策などが含まれ、社会保障には社会保険、社会福祉、生活保護などがある。なお労働基準政策では男女雇用機会均等法、解雇権濫用法理、社会保険には年金、健康保険、介護保険などの問題を扱うことになる。 / 検索キーワード 社会政策、労働政策、社会保障、労働基準政策、失業政策、雇用能力開発政策、労使関係政策、社会保険、社会福祉、生活保護、男女雇用機会均等法、解雇権濫用法理、年金、健康保険、介護保険。

授業の一般目標 社会政策とは何かを理解し、少子高齢化や女性労働、年金・介護・医療などといった労働政策と社会保障について基礎的かつ社会に出てから有益な知識を身につけること。

授業の到達目標 / その他の観点 労働政策と社会政策に関して、自ら主体的に調べて、認識を深めて知識を定着させることを目標とする。したがって、課題は各自に考えさせて、模擬試験をやらせて、全員に添削して返却し、それに基づいて本試験を受けさせる方式を用いる。

授業の計画（全体） 各週の前半で社会保障、後半で労働政策と交互に行なう。社会政策には労働政策も含むということをよく認識していない者が多いので、注意してもらいたい。各内容については別記する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イン트로ダクション 内容 社会政策論とは何か？ - 労働政策と社会保障
- 第 2 回 項目 社会保障 (1) : 社会保険 (1) 内容 年金 (1)
- 第 3 回 項目 労働政策 (1) : 雇用失業政策 (1) 内容 雇用失業政策 (1)
- 第 4 回 項目 社会保障 (2) : 社会保険 (2) 内容 年金 (2)
- 第 5 回 項目 労働政策 (2) : 雇用失業政策 (2) 内容 雇用失業政策 (2)
- 第 6 回 項目 社会保障 (3) : 社会保険 (3) 内容 介護 (1)
- 第 7 回 項目 労働政策 (3) : 職業訓練政策 (1) 内容 職業訓練政策 (1)
- 第 8 回 項目 社会保障 (4) : 社会保険 (4) 内容 介護 (2)
- 第 9 回 項目 労働政策 (4) : 職業訓練政策 (2) 内容 職業訓練政策 (2)
- 第 10 回 項目 社会保障 (5) : 社会保険 (5) 内容 医療 (1)
- 第 11 回 項目 労働政策 (5) : 労働基準政策 (1) 内容 労働条件、労働時間 (1)
- 第 12 回 項目 社会保障 (6) : 社会保険 (6) 内容 医療 (2)
- 第 13 回 項目 労働政策 (6) : 労働基準政策 (2) 内容 労働条件、労働時間 (2)
- 第 14 回 項目 社会保障 (7) : 社会保険 (7) 内容 雇用保険・労災 (1)
- 第 15 回 項目 労働政策 (7) : 労働基準政策 (1) 内容 男女雇用機会均等法 (1)
- 第 16 回 項目 社会保障 (8) : 社会保険 (8) 内容 雇用保険・労災 (2)
- 第 17 回 項目 労働政策 (8) : 労働基準政策 (2) 内容 男女雇用機会均等法 (2)
- 第 18 回 項目 社会保障 (9) : 公的扶助 (1) 内容 公的扶助 (1)
- 第 19 回 項目 労働政策 (9) : 労使関係政策 (1) 内容 労使関係政策 (1)
- 第 20 回 項目 社会保障 (10) : 公的扶助 (2) 内容 公的扶助 (2)
- 第 21 回 項目 労働政策 (10) : 労使関係政策 (2) 内容 労使関係政策 (2)
- 第 22 回 項目 社会保障 (11) : 社会福祉 (1) 内容 社会福祉 (1)
- 第 23 回 項目 予備 内容 予備
- 第 24 回 項目 社会保障 (12) : 社会福祉 (2) 内容 社会福祉 (2)
- 第 25 回 項目 労働政策 内容 予備
- 第 26 回 項目 社会保障 (13) : 公衆衛生 (1) 内容 公衆衛生 (1)
- 第 27 回 項目 予備 内容 予備

第 28 回 項目 社会保障 (14) : 公衆衛生 (2) 内容 公衆衛生 (2)

第 29 回 項目 予備 内容 予備

第 30 回 項目 総括

成績評価方法 (総合) 出席 (質問・意見票の提出) で平常点をみながら、模擬試験で中間評定を行ない、最終の本試験を最も重視する。出題は基本的に模擬試験と本試験で同じ。模擬試験は添削して事前に返却する予定。労働政策と社会保障から一題ずつ各自自分で課題を考えて、深く追求していくことを期待する。【観点別】知識・理解の観点からは基本的な用語を課し、思考・判断能力の面では模擬答案 本試験と論理的思考能力と文章表現力を磨き、関心・意欲の点からは自分で主体的に調べることを評価

教科書・参考書 教科書：今回は配付プリントにする予定 / 参考書：適宜指摘する。

メッセージ 社会に出てから有益な知識を！生きた現場を重視せよ！

連絡先・オフィスアワー Eメール・アドレス：hamakiyo@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	労働経済論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	濱島清史				

授業の概要 ・(1) 企業においてどのように昇進・昇給していくのかを概括し、その過程で如何にキャリア形成(技能の向上の仕方)が行われているのかを学ぶ。 ・(2) いわゆる日本型雇用慣行(終身雇用制、年功序列型賃金、企業別組合など)に関して、一時期、もはや時代遅れであり、これからは成果主義、実力主義の時代であるといわれたが、最近ではむしろ成果主義より日本型の見直しがされてきている。この講義では、そのような社会通念に惑わされずに、統計や学説からもっと根拠のある議論を批判的に吟味する。 ・(3) その他、少子高齢化問題、非正規雇用の増大、フリーターやニートなど若年雇用問題、女性労働、日系企業の海外進出、技能形成と労働組合の歴史的発展段階論などを学ぶ。 / 検索キーワード キャリア形成(人材育成)、日本型雇用慣行、労働問題。

授業の一般目標 ・上記(1)を通じて、仕事の遣り甲斐や人生設計について参考となる情報を提供する。 ・上記(2)によって、社会通念とは異なった角度から把握できる視座を養う(勿論、主張の強制はしない)。 ・上記(3)を通じて、日本と世界の仕事社会のシステムを理解できるようにする。

授業の到達目標 / その他の観点： ・日本型雇用慣行における長期に亘る仕事能力の向上という側面を理解すること。仕事においてはとりわけ変化への対応や現場におけるOJTが重要であることを理解することが目標である。本試験の前に模擬試験をレポートとして提出してもらう予定である。それを添削して返却し、本試験では一切持込不可で望んでもらう。この方式により、上記の内容に関して専門的知識も含めて正確に理解できるようになる。

授業の計画(全体) 最初の授業でイントロダクションを行ない、主にキャリア形成論がどのようなものか概説し、さらに労働者の権利などについて習熟させる。それから本格的にキャリア形成論の内容を数回に渡って行ない、企業において生涯に涉ってどのように仕事能力を高めていくのか見取り図を描く。そして、日本の雇用慣行に関して、数回講義を行なうが、社会通念的な議論を批判し、キャリア形成論との関連を重要視する。その後、応用的な内容として、非正規雇用、女性労働、若年労働、高年労働について概観していく。最後に、マルクスの疎外論とキャリア形成論という一見異色な組み合わせから、労働における自己実現の重要性の話をして総括にかえる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 イントロダクション 内容 キャリア形成論
- 第2回 項目 雇用状況と労働者の権利 内容 雇用失業統計データ、労働時間、労働者の権利(有給、労災、解雇)
- 第3回 項目 キャリア形成論(1) 内容 現場中心主義－OJT
- 第4回 項目 キャリア形成論(2) 内容 変化への対応－知的熟練
- 第5回 項目 キャリア形成論(3) 内容 幅広い専門性－ジョブ・ローテーション
- 第6回 項目 キャリア形成論(4) 内容 タテのキャリアー同期同時昇進と第二次選抜
- 第7回 項目 日本の雇用慣行(1) 内容 終身雇用
- 第8回 項目 日本の雇用慣行(2) 内容 年功序列型賃金体系
- 第9回 項目 日本の雇用慣行(3) 内容 企業別労働組合
- 第10回 項目 女性労働と非正規雇用(1) 内容 女性労働の歴史と変遷、パート、派遣など。
- 第11回 項目 女性労働と非正規雇用(2) 内容 フリーターとニート
- 第12回 項目 高年労働 内容 団塊の世代－2007年問題
- 第13回 項目 予備
- 第14回 項目 予備
- 第15回 項目 まとめにかえて 内容 マルクスの疎外論とキャリア形成論－自己実現への前哨

成績評価方法(総合) 主にレポート(模擬試験)、本試験、それと出席。定期試験(中間・期末試験) テストについて ・試験は、用語と論述形式。 ・用語は、例えば、終身雇用制、年功序列型賃金体系、企業別

労働組合などを問い、その基本的な意味を1行ほどで説明させるもの。・論述は、多分、日本的雇用慣行とは何かというのが一つ。もう一つは、大卒ホワイトカラーの人材開発、女性労働、フリーター、パートタイム労働など非正規雇用、高齢者雇用、グローバル化下における日本的経営の国際通用性、などいくつか問題を挙げ、その中から選択して1題答える形式のもの。・成績は、日本的雇用慣行に関していえば・可...通念的な内容を書いている場合。・良...テキストの内容の理解が示されている場合・優...テキストの内容の問題点が指摘されており、批判も展開されている場合・(注)テキストは持込不可だが、それを上手くまとめれば良は取れる筈である。ただし、限られた時間内でまとめるためには、事前によく読んで自分で要約を作っておかないと十分なものには仕上がらないであろう。・(注)テキストの問題点と批判の展開は、講義中に説明するので、講義にさえ出て内容をある程度理解していれば、十分に取れるような基準に設定するつもりである。小テスト・授業内レポート・出席票が質問・意見票を兼ねるので、講義の終わりに講義内容の整理と捉えなおしができるように工夫する。宿題・授業外レポート レポートについて・レポート課題は、(1)テキストのテーマに沿った内容、あるいは(2)就職希望等の業界・企業について調べたものとする。(1)はそのまま試験勉強につながる。・論理的な思考能力と文章表現力を磨くことが、大学で学ぶことで将来最も貴重な財産となることを銘記すべし。授業態度・授業への参加度・出席はポリシーとしては重視しない。大学の講義は主体的に出るものであって強制されて出るものではない。・だが、毎回出席を取る。これは山大生の卒業率が全国平均に比べかなり低いので、講義に出席する習慣をつけさせ、できるだけ優をとって4年で卒業してほしいからである。ちなみに講義への出席とテストの成績はかなり相関関係がある。・出席票は質問・意見用紙を兼ねる。これによりその場で知識が定着して思考力が高まり、またより真剣に聴講することになる。

教科書・参考書 教科書：仕事の経済学, 小池和男, 東洋経済新報社, 2005年; ・テキストの著者は日本を代表する労働経済学者といわれている (Imidas2001)。テキストは教科書風の体裁であるが、国際的にみても第1級の研究書と賞賛されている (経済セミナー 2001年8月号)。共に米国で Ph. D を取り、米国の名門大学で教鞭を取っていた学者の発言である。

メッセージ 知的好奇心を育みつつ、労働者としての権利意識や誇りの形成にも一助となり、かつ就職や社会に出てからも役立つような講義にできるだけ近づけたいと願っている。

連絡先・オフィスアワー : 083 - 933 - 5521。Eメール・アドレス : hamakiyo @ yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	日本経済史総論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	木部和昭				

授業の概要 本講義では、明治維新以降の近代日本経済史を取り扱う。近代日本は、幕末の開国により世界資本主義体制の下に強制的に編入され、「後進資本主義国」として出発することになった。その日本が、産業革命を成功させ、経済的発展を成し遂げた事実は周知の通りである。本講義では、そうした近代日本の経済発展のプロセスを具体的に明らかにするとともに、資本主義社会の形成過程や特質、その将来像についても検討していく。 / 検索キーワード 経済史、資本主義社会、明治維新、産業革命

授業の一般目標 1. 現在我々が生きる資本主義社会の歴史的特徴を把握する。 2. 日本経済史に関する様々な視点・学説について理解する。 3. 日本の経済発展のプロセスや要因を具体的に把握する。 4. 日本経済の歴史を学ぶことを通じて、現代の経済社会を分析するのに必要な幅広い視野を養う。

授業の計画(全体) 1, 配布プリント・資料をもとにした講義形式で授業を進める。 2, 資本主義社会の成立と展開について、一般的な流れを概観する。 3, それをふまえた上で、日本ではどの様に資本主義社会が成立し展開していったのかを、時代を追って具体的に解明していく。 4, 日本の資本主義社会の特質について考察する。 5, 日本資本主義論争など、日本経済史に関する諸学説、あるいは近年の新視点を紹介する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 近代日本経済史の課題
- 第 2 回 項目 資本主義社会の歴史的特徴
- 第 3 回 項目 資本主義社会の形成と発展
- 第 4 回 項目 明治維新と資本主義社会の成立 内容 後進資本主義国型の日本
- 第 5 回 項目 殖産興業と産業革命
- 第 6 回 項目 独占資本主義の形成
- 第 7 回 項目 社会主義の影響と 20 世紀型資本主義
- 第 8 回 項目 日本における独占資本主義(帝国主義)の成立
- 第 9 回 項目 恐慌の時代と日本経済
- 第 10 回 項目 十五年戦争下の日本経済とその破綻
- 第 11 回 項目 日本資本主義論争
- 第 12 回 項目 戦後日本経済の概要
- 第 13 回 項目 社会主義の崩壊と 20 世紀型資本主義の変容
- 第 14 回 項目 日本経済の未来
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法(総合) 学期末試験は論述形式。講義中、数回程度の小レポートを課す。期末試験 65%、小レポート 20%、出席 15% により成績を評価する。ただし出席の悪い場合は、この基準に関係なく不合格とする場合がある。

教科書・参考書 教科書：テキストは特に指定しない。毎回単元毎に、アウトラインの資料プリントを配布する。 / 参考書：概説日本経済史 近現代[第2版]、三和良一、東京大学出版会、2002年；日本資本主義百年の歩み、大石嘉一郎、東京大学出版会、2005年；経済史入門(日経文庫)、川勝平太、日本経済新聞社、2003年；この他の参考文献は、授業中、適宜紹介する。

メッセージ 2005年以前入学の学生で、すでに「経済史総論」の単位を取った者は、この科目は受講できないので注意すること。

連絡先・オフィスアワー 経済学部 C207 研究室 内線 5566、E-mail ; kibe@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	西洋経済史総論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	古賀大介				

授業の概要 わたしたちは、今、資本主義経済と仕組みの中で生きています。皆さんは、いつ、どこで、どのようにして、この仕組みが生まれてきたか知っていますか？ 実は、この仕組みは、今から約200年前にヨーロッパ・イギリスで生まれたものです。では、なぜ世界中のどこでもなく約200年前のヨーロッパ・イギリスで生まれたのでしょうか？ そして、どのように世界中に広がっていったのでしょうか？ 人々の生活をどのように変えてきたのでしょうか。本講義では、こうした疑問に答えていくのと同時に、現在わたしたちが「常識」だと思っていることが、どのように作られてきたかを紹介し、発想の柔軟性を養っていききたいと思います。

授業の一般目標 1．現代の資本主義社会が、どのような歴史的変遷を経て成立してきたのかを、グローバルな視点から理解する。 2．歴史(経済史)をツールとして、柔軟な思考を養う。

授業の計画(全体) (1)オリエンテーション-何のために歴史を学ぶのか (2)アフリカのすべての国が「先進国」に? -近代化論の是非 (3)おしゃれから始まった工業化-世界で最初の工業国家イギリス (4)朝食革命-パンと紅茶の朝ごはん成立とその意味 (5)世界に広がる工業化 ライバル・ドイツの誕生 (6)中間テスト (7)作られたブランド フランスの工業化 (8)ドイツの反撃とイギリスの防衛 今後の日中関係を考えるヒント (9)アメリカンドリーム-西部劇とマクドナルド (10)100年前のグローバル経済 (11)イギリス経済の没落と復活-日本の未来のヒント? (12)われわれはどこに向かうのか? (13)予備

成績評価方法(総合) 定期テスト100% 本講義では出席を欠格要件にはしていません。ただし、出席者には、出席点を差上げます。具体的には、毎回、授業の終わりに出席票を配布し、皆さんには質問・コメント等を書いてもらいますが、これを加点の対象とします。まじめに出席し、いいコメント、質問を書けば、単位取得はさほど難しくありません。

教科書・参考書 参考書：あなたが歴史と出会うとき、堺憲一、名古屋大学出版会、1989年

メッセージ この講義では、就職活動期にまでに身につけてもらいたい、ものの考え方や発想、それから経済や歴史に関する幅広い教養をお教えします。

連絡先・オフィスアワー 経済学部 A208(古賀研究室)

経営学科

開設科目	経営学総論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	前期
担当教官	長谷川光圀・内田恭彦				

授業の概要 経営学総論は、経営学科の基盤科目である。そこで、経営学の最も基本的な理論、思考、専門用語について、分かりやすく、また事例を豊富に使って解説し、学生に会得してもらうように、ゆったりと事業を進める。 / 検索キーワード 自分が会社を作るとしたら？を考える。

授業の一般目標 学生が経営ビジネスについて、プレゼンテーションできるように、基礎学力の養成をはかる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：事例問題を提示し、学生に意見を求める。

そのことから、学生の知識・理解度について、評価資料にする。

思考・判断の観点：事例問題を示し、学生の判断を求める。

例えば、公害問題について、判断と思考力を評価する。 関心・意欲の観点：出席を重視し、また発言を重視する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 経営学とは何か（ 1 ）
- 第 2 回 項目 経営学とは何か（ 2 ）
- 第 3 回 項目 経営史
- 第 4 回 項目 経営組織（ 1 ）
- 第 5 回 項目 経営組織（ 2 ）
- 第 6 回 項目 戦略論（ 1 ）
- 第 7 回 項目 戦略論（ 2 ）
- 第 8 回 項目 戦略論（ 3 ）
- 第 9 回 項目 国際経営（ 1 ）
- 第 10 回 項目 国際経営（ 2 ）
- 第 11 回 項目 人事管理論（ 1 ）
- 第 12 回 項目 人事管理論（ 2 ）
- 第 13 回 項目 生産管理論（ 1 ）
- 第 14 回 項目 マーケティング（ 1 ）
- 第 15 回 項目 マーケティング（ 2 ）
- 第 16 回 項目 財務管理（ 1 ）
- 第 17 回 項目 財務管理（ 2 ）
- 第 18 回 項目 情報管理（ 1 ）
- 第 19 回 項目 情報管理（ 2 ）
- 第 20 回 項目 経営計画（ 1 ）
- 第 21 回 項目 経営計画（ 2 ）
- 第 22 回 項目 経営コントロール（ 1 ）
- 第 23 回 項目 経営コントロール（ 2 ）
- 第 24 回 項目 財務報告（ 1 ）
- 第 25 回 項目 財務報告（ 2 ）
- 第 26 回 項目 企業監査（ 1 ）
- 第 27 回 項目 企業監査（ 2 ）
- 第 28 回 項目 リスク管理（ 1 ）
- 第 29 回 項目 リスク管理（ 2 ）
- 第 30 回 項目 企業の社会的責任

成績評価方法（総合） 定期試験を重視し、くわえて、出席、発言、質問、あるいはレポートを評価対象にする。

教科書・参考書 教科書：経営学をやさしく学ぶ, 山口大学経営学科編, 中央経済社, 2005年

メッセージ 図書館で、ビジネス関係の資料をよく見る。

開設科目	経営管理論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	長谷川光圀				

授業の概要 経営管理論は、戦略、組織、管理に関わる基本的で重要な問題について、また事例を提示し、解説しながら学生に説明していく。 / 検索キーワード 日経新聞のビジネス記事をよくみる。

授業の一般目標 戦略と組織について、事例問題を提示し、それについて分析できる能力を要請する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 基本的経営問題の理解から、個別問題の理解への展開をしようとする。 個別問題の解決方法の考え方から、経営の思考力を診断する。 思考・判断の観点： 事例問題を示し、学生に意見を求め、判断力と指導力について、評価する。 関心・意欲の観点： 出席を求め、発言を評価する。

授業の計画（全体） 基本的な経営思考の到達度を、見ながら、個別問題の解決を始動刷る。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 科学的管理法
- 第 2 回 項目 人間関係論
- 第 3 回 項目 人間関係論
- 第 4 回 項目 組織管理
- 第 5 回 項目 組織管理
- 第 6 回 項目 リーダーシップ論
- 第 7 回 項目 リーダーシップ論
- 第 8 回 項目 分社制
- 第 9 回 項目 分社制
- 第 10 回 項目 研究開発管理
- 第 11 回 項目 研究開発管理
- 第 12 回 項目 知識管理
- 第 13 回 項目 知識管理
- 第 14 回 項目 個別事例
- 第 15 回 項目 個別事例

成績評価方法（総合） 定期試験を重視しながら、授業の出席と発言を評価する。

教科書・参考書 教科書： 長谷川光圀「企業組織論の展開」千倉出版、2000年

メッセージ 戦略の立案を試みる。

開設科目	労務管理論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	内田恭彦				

授業の概要 人々がいきいきと働くことが出来、なおかつ企業間競争においても人材の力を最大限に発揮でき、持続的な優位性を築くことができるような人材のマネジメントのあり方についての基本的考えと歴史的変遷、個別システムおよび今日的課題と方向性について理論と現実の双方から理解を深めていくものです。 / 検索キーワード 労務管理、戦略的人的資源管理、人材ポートフォリオ・マネジメント

授業の一般目標 1. 労務管理および背景理論の習得 2. 労務管理の個別制度の考え方の理解 3. 人材ポートフォリオ・マネジメントに関する理解

授業の計画(全体) 本授業は大きく3つの部分から構成される。第1は労務管理に関する基本的知識および背景理論を扱う。第2は労務管理の個別テーマ(雇用、人事考課、給与、昇進・昇格、能力開発など)について説明する。第3は人々の価値観の多様化、および企業側の競争環境を前提として新たな潮流と考えられている人材の類型管理(人材ポートフォリオ・マネジメント)を取り上げる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 授業全体の概要説明 労務管理とは何か
- 第2回 項目 科学的管理法と労務管理1
- 第3回 項目 人間関係論と労務管理
- 第4回 項目 モティベーション理論と労務管理
- 第5回 項目 人的資源論、取引費用論と労務管理
- 第6回 項目 資源ベースの戦略論と労務管理
- 第7回 項目 雇用管理
- 第8回 項目 人事考課
- 第9回 項目 賃金管理
- 第10回 項目 能力開発
- 第11回 項目 専門職制度・キャリア開発
- 第12回 項目 福利厚生・労使関係
- 第13回 項目 人材ポートフォリオ・マネジメント1
- 第14回 項目 人材ポートフォリオ・マネジメント2
- 第15回 項目 人材ポートフォリオ・マネジメント3

成績評価方法(総合) 中間試験25%、期末試験60%、小テスト(出席を兼ねる)15%

教科書・参考書 教科書: 入門人的資源管理, 奥林康司(編著), 中央経済社, 2003年 / 参考書: 正社員時代の終焉(仮) 大久保幸夫(編) 日経BP社(2006年3月出版予定)

メッセージ 未来に向けてよりよい人と企業の間を皆さんと一緒に考えていきたいと思っています

開設科目	財務管理論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	城下賢吾				

授業の概要 財務の基礎知識の習得

授業の一般目標 企業財務だけでなく個人の財務に関する基礎知識の習得をめざします。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：財務の基礎知識を習得できているか 思考・判断の観点：財務の知識を使って企業分析などができるか 技能・表現の観点：レポートを目的を明確にして書けるか

授業の計画（全体）財務管理とは何か、財務分析、時間の価値、株式・債券評価、投資決定、資本コスト
資金調達、運転資本管理

成績評価方法（総合）レポートと小テスト、前期試験で決定

教科書・参考書 教科書：未定 / 参考書：講義の中で紹介します

連絡先・オフィスアワー sirosita@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	生産管理論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	千秋隆雄				

授業の概要 製品開発には、多大な時間と設備投資が必要であり、市場の将来動向を見据えた開発計画が重要である。また、製品化においては、市場ニーズの把握と技術のロードマップを基にした製品化計画と量産化に向けた製造現場での生産管理や、物流、収益確保に亘るSCM (Supply Chain Management) の考え方と手法が重要である。本科目では、空調機などの製品開発・設計・製造の事例に基づいた考え方と手法を講義し、討論・演習問題によって受講者の理解を深める。 / 検索キーワード 経営ビジョン、製品力、QCD, 技術のロードマップ、タクトタイム、サイクルタイム、標準時間、発注方式、MRP, BOM, 2ピン方式、外注管理、在庫管理、品質管理、工程能力指数、設備管理、MTBF, MTR, SCM

授業の一般目標 製造業が継続的に発展するために、Q (品質)、C (コスト)、D (納期) の制約条件のもとで、市場ニーズに即応した製品を開発、量産化していく基幹のプロセスを理解する。具体的には、技術の動向、社会の潮流から製品戦略を立案し技術のロードマップを作成する方法、製造現場での生産管理 (生産計画、作業管理、資材調達、在庫管理、原価管理、品質管理) の仕組み、物流のあり方を理解し、各種管理の手法を身に付ける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 製造業における製品開発から物流に至る生産管理体系と機能を説明できる。・事業戦略、技術のロードマップの意義を説明できる。・製造現場での作業管理手法、プル型、プッシュ型生産方式を説明できる。・資材調達の仕組み、在庫管理、原価管理の手法を説明できる。・品質管理、設備管理の手法を説明できる。・物流のあり方を含むSCM (Supply Chain Management) の概要を説明できる。 思考・判断の観点：・事業戦略、技術開発の目標を立案できる。・生産効率向上策、ムダの排除について指摘できる。・作業の標準時間を測定し、作業工程表を計画できる。・資材の最適調達方法 (MRP法、カンバン方式) に基づく発注量を計算できる。・製品の原価構成と原価低減を理解し、損益分岐点を計算できる。・不良の発生原因探索、改善の方法を指摘できる。・設備故障率を定量的に評価できる。 関心・意欲の観点：・実務レベルの生産管理に関心を広げ、製造業における全体最適化に関する意識を高める。・実務遂行の中で、生産管理上の問題発生時に、総合的な判断のもとで課題を抽出できる。 態度の観点： 製造業における生産管理の役割を積極的に考察し、生産管理技術者あるいは経営者として、生産管理のあるべき姿を考えることができる。

授業の計画 (全体) 生産管理の製造業内での位置付けから始まり、生産管理の個別課題である製品開発のプロセス、製造現場での作業管理・工程管理・生産計画、資材調達方法、外注管理、在庫発生メカニズム、原価管理、品質管理、設備管理、技能者育成、物流について講義する。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 経営戦略と生産管理の位置付け 内容 製品の競争力 マーケティングと生産オペレーションの融合 製造中心の生産管理から開発・原価管理中心の生産管理へ
- 第 2 回 項目 製品開発と技術のロードマップ 内容 革新技術、社会の潮流、技術動向と事業戦略 ロードマップ作成
- 第 3 回 項目 製品開発手順 内容 製品開発の手順 開発のマイルストーン 製品開発体験談
- 第 4 回 項目 製造現場の生産管理 内容 生産管理機能 生産リードタイム 部品別能力票
- 第 5 回 項目 製造現場の生産管理 生産計画システム 内容 小テスト 標準作業の改善、能率 生産量予測と日程計画 授業外指示 レポート (移動平均)
- 第 6 回 項目 資材調達システム 内容 発注方式 生産計画に基づくプッシュ型発注 (MRP) 部品表 (BOM) 授業外指示 レポート (BOM作成とMRP計算)
- 第 7 回 項目 資材調達システム 内容 現場管理のプル型発注 (2ピン方式) カンバン 外注管理と下請法
- 第 8 回 項目 在庫管理 原価管理 内容 在庫発生メカニズム 最適在庫点 製造原価
- 第 9 回 項目 原価管理 内容 原価構成、原価の仕組み 損益計算 小テスト

- 第 10 回 項目 品質管理 内容 品質の基本的な考え方 Q C の評価ツールの作成法 (1)
- 第 11 回 項目 品質管理 内容 Q C の評価ツールの作成法 (2)
- 第 12 回 項目 品質管理 設備管理 内容 工程能力指数 公差設計 総合的設備管理
- 第 13 回 項目 安全管理 技能者育成 内容 小テスト (系の稼働率) 労働安全衛生法 職業能力開発促進法
- 第 14 回 項目 サプライチェーンマネジメント (S C M) の概要 内容 S C M の仕組み 需要変動対応の生産システムと物流在庫の事例 倉庫拠点位置の適正化 (演習を含む)
- 第 15 回 項目 予備

成績評価方法 (総合) 主に、小テスト、授業内演習、授業外レポートで評価する。また、知識伝授型の講義のため出席率を加味する。

教科書・参考書 教科書：教員の作成したプリントを使用する。

連絡先・オフィスアワー senshu@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	国際経営論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	有村貞則				

授業の概要 この授業では、近年大変注目されているダイバーシティ・マネジメントについて学習します。ダイバーシティ・マネジメントとは、人々間の違い、例えば、人種や民族の違い、性別や年齢の違い、ライフスタイルの多様性などを競争優位のために生かしていく戦略と組織変革のことです。例えば、日本企業がアメリカに進出した際、同国の人種や民族問題にどのように対処していけばいいのか？日本国内において、なぜ女性の地位は男性よりも低いのか？今後の高齢化社会において、高齢者をどのようにして活用していけばいいのか？このような問題について企業経営の観点から考えていくのがダイバーシティ・マネジメントです。

授業の一般目標 1.ダイバーシティ・マネジメントとは何かを理解する。2.日本企業が米国に進出した際の人事問題について考える。3.日本国内において女性や高齢者、若者、外国人などをどのようにして活用していけばいいのかを考える。

授業の計画（全体）。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション 内容 日本的経営 VS アメリカ的経営
- 第 2 回 項目 ダイバーシティ・マネジメント I
- 第 3 回 項目 ダイバーシティ・マネジメント II
- 第 4 回 項目 ダイバーシティ・マネジメント III
- 第 5 回 項目 在米日系企業とダイバーシティ・マネジメント I
- 第 6 回 項目 在米日系企業とダイバーシティ・マネジメント II
- 第 7 回 項目 在米日系企業とダイバーシティ・マネジメント III
- 第 8 回 項目 在日米国企業とダイバーシティ・マネジメント I
- 第 9 回 項目 在日米国企業とダイバーシティ・マネジメント II
- 第 10 回 項目 在日米国企業とダイバーシティ・マネジメント III
- 第 11 回 項目 日本 P & G の事例 I
- 第 12 回 項目 日本 P & G の事例 II
- 第 13 回 項目 日本企業とジェンダー I
- 第 14 回 項目 日本企業とジェンダー II
- 第 15 回 項目 イトーヨーカ堂の事例

成績評価方法（総合） 期末テスト

教科書・参考書 教科書：ダイバーシティ・マネジメントの研究, 有村 貞則, 文眞堂, 2007 年

開設科目	経営戦略論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	大久保隆弘				

授業の概要 企業経営を取り巻く環境は刻々と変化している。東アジア諸国の台頭、ボーダレス化と国際的な産業間競争の激化、IT技術などイノベーションの急速な進展、急激な国内人口の高齢化・少子化や顧客の多様化など、社会・経済や産業の構造的な転換が複雑に進む中で、企業経営の舵取りが一層難しい時代になっている。この時代にあつて企業経営を成功に導くためには、環境変化に適合し、事業の方向性を見極め、技術や人材、資金やインフラなどの経営資源を有効に活用し、競合企業も意識しながら、戦略的に経営課題に対処していかねばならない。本科目は、戦略的な経営を行うための基礎的な経営理論の習得とともに製造業、サービス業などの事例ケースを中心とした教材を用いて、経営課題を実践的に解決する能力を養うのを目的とする。

授業の一般目標 この科目を受講し、以下のような実力が身に付くと、この科目の目指す学習目標に到達したと考えられる。(1)企業経営における経営戦略の意義、重要性の理解(2)企業環境分析と重要課題の抽出の手法の習得(3)企業の成長戦略、競争戦略の理論的フレームワーク、応用手法の習得(4)戦略体系にそつた経営計画の立案に関する方法の理解(5)企業経営のトータルシステムをデザインし、経営資源を有効に活用する「仕組み」やビジネスモデルの構築方法についての理解(6)企業の事例研究による企業経営と経営戦略の実際についての理解

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：経営戦略の基本的理論に関する体系や応用についての知識が説明できる。具体的には、経営理念・ビジョンの役割、環境分析の手法とその意義、競争戦略、成長戦略に関する基本的な理論を説明できる。また、組織やマネジメント、情報システムなどのトータル的な経営の仕組みについて説明できる。思考・判断の観点：経営理論や企業事例研究の修得を通じて経営の総合的な見地から、経営者としての立場で戦略的な意思決定について評価と応用ができる。関心・意欲の観点：社会経済と経営環境、産業動向と企業経営に関する興味と関心を高めるとともに、経営には戦略的なアプローチが重要であり、その思考方法や理論体系、経営の実際についての問題意識を高める。態度の観点：企業経営をより身近なものと考えるとともに、経営の戦略的な側面を考察する姿勢や習慣を身につける。技能・表現の観点：事例ケースを読み、その中から対象企業の優れている点や課題を抽出する。自分で把握した問題点を整理し表現できる。

授業の計画(全体) 個別の機能戦略や事業戦略を束ねて、全体最適の思想から企業経営の方向を明確にして、適切な手段を講じるのが、経営戦略である。そのための理論的な考え方と実践における様々な事例を通じて、「経営戦略とは何か」を理解するのが本科目の目的である。具体的には、経営理念・ビジョンと経営戦略の関係、経営戦略の基本的な理論体系と内容、戦略の実行と組織マネジメント、経営システムとビジネスモデル等について、理論的背景と今日的な課題を講義する。また、製造業、サービス業、流通業などの実際の経営事例を5回程度扱い、企業経営において、どのような意思決定が行われているかを体験的に理解する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目・オリエンテーション・「経営戦略とは何か」内容 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバスの説明、成績評価の方法 経営理念、経営ビジョン、経営戦略の関係 授業外指示 シラバスを読んでおくこと
- 第2回 項目 企業環境変化と経営戦略 内容 & # 8226; 企業環境変化と経営戦略・ビジョンと経営戦略体系 & # 8226; 全体戦略と事業戦略、機能別戦略 授業外指示 事後に講義ノートを復習すること
- 第3回 項目 事業ドメイン 内容 & # 8226; 企業環境変化と経営戦略 & # 8226; SWOT分析 & # 8226; 戦略市場経営 & # 8226; プロダクトライフサイクル & # 8226; 事業ポートフォリオの概念(市場ライフサイクルと競争力) 授業外指示 事後に講義ノートを復習すること
- 第4回 項目 成長戦略1 内容 & # 8226; コア・コンピタンスと成長領域 & # 8226; アンゾフのマトリクス 授業外指示 事後に講義ノートを復習すること

- 第 5 回 項目 成長戦略 2 内容 & # 8226; 多角化と企業成長 & # 8226; 非関連多角化 & # 8226; 戦略アライアンス、M & A 授業外指示 事後に講義ノートを復習すること
- 第 6 回 項目 競争戦略 内容 & # 8226; M・Eポーターの競争戦略(コストリーダーシップ、差別化、集中の概念、5フォース分析、価値連鎖) & # 8226; フィリップコトラー：リーダー、チャレンジャー、フォロワー、ニッチャーの競争戦略 & # 8226; デファクトスタンダード、標準化の競争 授業外指示 事後に講義ノートを復習すること
- 第 7 回 項目 経営システムとビジネスモデル 内容 & # 8226; トータル経営システム(技術、人材、資金、組織、システム、)・事業システム & # 8226; ビジネスモデル(利益を生む事業の仕組み)・ITとビジネスモデル 授業外指示 事後に講義ノートを復習すること
- 第 8 回 項目 中間試験 内容 設問・論述回答方式の記述試験 授業外指示 経営理論を用いた企業経営における応用問題
- 第 9 回 項目 組織戦略 イノベーション戦略 内容・企業変革と組織論(企業組織の今日的状況) & # 8226; 組織の変遷(階層型組織から自律分散型組織へ) & # 8226; 機能別組織、事業部制、事業本部制、カンパニー制、グループ経営・イノベーションと経営・組織学習と技術進化・プロセスイノベーションとプロダクトイノベーション & # 8226; ものづくりと組織学習 & # 8226; 破壊的イノベーション & # 8226; 技術戦略と投資 授業外指示 事後に講義ノートを復習すること
- 第 10 回 項目 事例研究 内容 シャープ株式会社 授業外指示 事前に事例ケースを読んでおくこと
- 第 11 回 項目 事例研究 内容 キヤノン株式会社 授業外指示 事前に事例ケースを読んでおくこと
- 第 12 回 項目 事例研究 内容 ヤマト運輸株式会社 授業外指示 事前に事例ケースを読んでおくこと
- 第 13 回 項目 事例研究 内容 トリンプ・インターナショナル・ジャパン株式会社 授業外指示 事前に事例ケースを読んでおくこと
- 第 14 回 項目 事例研究 内容 三和酒類株式会社「いいちこ」 授業外指示 事前に事例ケースを読んでおくこと
- 第 15 回 項目 期末試験 内容 事例研究に関する論文記述 授業外指示 企業事例に対する論述問題

成績評価方法(総合) 1) 試験を中間、期末の2回実施する。2) 所定の出席に満たない場合は単位を与えないことがある

教科書・参考書 教科書：毎回講義プリントと補助教材を配布、事例研究においては、ケース教材を配布。
 / 参考書：最強の「ジャパンモデル」、柳原一夫、大久保隆弘、ダイヤモンド社、2002年；シャープの「ストック型」経営、柳原一夫、大久保隆弘、ダイヤモンド社、2004年；ヤマトは我なり！、大久保隆弘、ダイヤモンド社、2003年；早朝会議革命、大久保隆弘、日経BP社、2003年；競争の戦略、M・E・ポーター、ダイヤモンド社、1982年；M・E・ポーター「競争優位の戦略」、ダイヤモンド社、1985年 D・A・アーカー「戦略立案ハンドブック」東洋経済新報社、2002年なども参考図書。プリントを配布。

メッセージ 製造業の経営企画部門、MBA、経営コンサルタント等の実務経験から、理論だけではなく、事例を豊富に盛り込んだ内容にしたいと思っています。

連絡先・オフィスアワー e-mail：tokubo@yamaguchi-u.ac.jp 通常、常盤キャンパス大学院技術経営研究科に所在

開設科目	経営史	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	古川澄明				

授業の概要 授業の概要 歴史に学ばない者は、また現在を知らない。周知の名言です。いま私たちがどのようなビジネス社会に暮らしているかを認識することは、将来の就職先を選ぶ上でも、またビジネスの世界に身を置いて活躍する上でも、非常に重要なことでしょう。現代の企業社会の目まぐるしい変化が、身近には雇用構造の変化に伴う求人態様の変化となって現れています。そうした激変の波に飲み込まれて自分の進むべき進路を見失わないためにも、経営史、つまりビジネス・ヒストリー（Business History）に学ぶ意義は小さくないでしょう。アメリカのハーバード大学で20世紀中葉にビジネス・ヒストリーの教育研究体制が確立された背景には、そうした理由もあるように思います。半世紀を経て、国際ビジネスはますます全世界を巻き込み、各国間の時間・情報・移動の距離を縮め、生態系環境を激変させ、伝来の社会を席卷するなかにあつて、みなさんが自分の進路を見失わないためにも、それに学ぶ意義は、よりいっそう大きくなっています。現在の世界経済を動かし社会の変化に大きな影響力を及ぼしている国際ビジネスの世界では、何が起きているのでしょうか。現在の国際ビジネスの実状に目を向け、その特徴を概観するなかで、国際ビジネスの進化のプロセスを歴史的視点から見つめ直すのが、この講義のテーマです。日本をはじめとする世界の企業・経営システムには、何が起きているのか。何が変化しつつあるのか。そもそも国際ビジネスを展開する企業は、いかなる状況下で歴史的に変貌してきたのか。またどこへ向かって更なる変貌を遂げようとしているのか。現代企業は、大企業だけでなく、中小企業を含めて、どのような方向へ歩もうとしているのか。そうした疑問を解き明かすために、企業と経営の歴史を遡り、現代企業・経営システムを生み出してきた歴史的プロセスを検討することにします。そして、国際ビジネスの更なる進化への方向を展望してみたいと思います。具体的な事例も、とくに自動車産業を中心に取り上げます。 / 検索キーワード 国際ビジネスの進化、現代企業の系譜

授業の一般目標 (1) 現代国際ビジネスを展開する企業の事業展開や戦略について、何が問題になっているかを知る。(2) 現代企業が歴史的にどのようなプロセスをへて進化・発展してきたのかについて、理解する。(3) 現代企業の経営戦略と組織がどのようにして進化・発展してきたかについて、理解する。(4) 現代企業のサバイバル競争とマネジメントの基礎問題について、理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 企業経営史の基礎知識を身に付ける。とくに現代企業とそのマネジメントの出現及び進化について、理解を深めること。 思考・判断の観点： 現代のマネジメントとはどのようなものか。それは、どのような進化を辿って今日に至ったのかを理解し、企業経営の諸問題を把握する思考力を養うこと。 関心・意欲の観点： 企業とマネジメントの歴史的進化について、関心を持ち、積極的にビジネス社会について、そのシステムを知ろうとする意欲が必要である。 態度の観点： 授業では、完全出席し、積極的に学ぶ姿勢が重要である。積極的な質問や問題提起は大歓迎である。 技能・表現の観点： 積極的に質問し、あるいは問題提起を行い、自分の見解を理路整然と表明できることが望ましい。 その他の観点： 講義では、パワーポイントを使う。受講ノートを自分の理解力と要点要約力を身に付けてもらいたいとの観点から、敢えて印刷物は配布しない。受講者は、単に書き取り作業をするのではなく、意識的に講義内容の要点を理解し、それをノートに書き留める訓練をしていただきたい。

授業の計画(全体) 授業は、一応、以下のような内容を取り扱う予定ですが、状況に応じて、新しい話題やビデオ等を活用した情報等も提供しますので、必ずしも、下記のプログラム通りではありません。 1. 現代企業と国際ビジネス (1) 国際ビジネスの実状と歴史的進化のプロセス (2) 現代国際ビジネスと企業をどのように理解すべきか 2. 現代企業の誕生と進化の歴史的プロセス (3) 現代企業誕生への遡源 (4) 現代企業誕生と市場拡大 (5) 新産業の出現と新ビジネス (6) 巨大企業の出現と企業システムの変化 (7) 経営学と経営者 (8) 戦争、革命、恐慌、体制転換と企業 (9) イノベーションとビジネス (10) イノベーションとビッグ・ビジネス誕生 (11) 科学技術と企業 (12) 特許と大企業 (13) 企業の組織的研究開発 (14) 国際技術移転 3. 経営戦略の進化

と組織 4 . 市場とマーケティング 5 . 経営組織の形成と進化 6 . 労務管理の発達と進化 7 . 財務管理の発達と進化 8 . 経営理念と企業カルチャー

成績評価方法 (総合) 期末試験実施 (自筆ノートのみ持ち込み可)。成績には、出席度合いを反映させます。またその都度の小テストやレポートを課すことがある場合、それらも同様に成績評価に反映させます。質問・討論時間を設けますので、積極的に質問・討論をして、勉学意欲を示した方を高く評価し、成績に大きく反映します。

教科書・参考書 教科書：『経営学をやさしく学ぶ』山口大学経済学部経営学科編、中央経済社、2005年の中の「経営史」は必読です。/ 参考書：『現代経営史』藤井・井上編、古川他9名執筆、ミネルヴァ書房、1999年

メッセージ グローバル・ビジネスの現状と歴史に関心を持ち、自分がかかるビジネス社会にどのように関わっていくのかを考えてほしい。

連絡先・オフィスアワー 事前アポにて、常に、面会可

開設科目	欧米経営史	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	古川澄明				

授業の概要 受講生の皆さんは、欧米経営史に何を学ぶのでしょうか。ドイツの天才知識人で政治家でもあったゲーテは言いました。「三千年の歴史から学ぶことを知らぬものは、知ることもなく、闇の中にいよ。その日その日を生きるとも。」また次のようにも言いました。「世界歴史の中に生きるものは瞬間を標準とすべきであろうか。時代を洞察し、時代に働きかけるもののみが、語り、且つ詩を作るに値する。」ゲーテの言葉から、私たちは多くを学びます。経営史的には、皆さんは、経営史に学ぶことで、将来、企業社会に身を置いて現代のビジネスを洞察し、自分の行き方をもって時代に働きかけるでしょう。そしてビジネスの歴史、つまりビジネスヒストリー（経営史）では、世界の歴史の中で逸早く企業活動を始めた欧米の人々がどのようなビジネスの歴史を作ってきたのか、それは今日のグローバルなビジネス活動にどのような影響を与えているのか、といったことをこの講義で学べるでしょう。再びゲーテの言葉を借りると、「人間こそ、人間にとって最も興味あるものであり、おそらくはまた人間だけが人間に興味を感じさせるものであろう。」とっています。まさに欧米のビジネスヒストリーを作ってきたのは、欧米の人々、企業家や経営者たち、技術者たちです。また企業に生活の糧を求めてきた労働者たちも忘れてはならないでしょう。今日、西洋と東洋のビジネスはもはや分かたつことのできないものです。しかし違いもあるように思われます。本講義では、欧米経営史の世界に皆さんの思索を飛翔させて、産業出現にまで時代を遡り、やがて19世紀末から20世紀初頭に出現するビッグ・ビジネスの時代を旅して、今日のグローバル・ビジネスの時代へ戻ってきたいと思います。講義内容を大きく分けると、(1)会社の誕生、(2)ビッグ・ビジネスの成立、(3)グローバル競争時代、(4)経済倫理の時代、となる予定です。/検索キーワード 経営史、経営学、ビッグ・ビジネス、イノベーション

授業の一般目標 将来、ビジネスの世界に身を置いて、自分がどのような時代に生きていて、ビジネスマンとして時代にどのように働きかけているかを意識できるような経営史観を養うことが肝要です。

授業の到達目標 / **知識・理解の観点**：欧米企業の経営史の基本的知識を習得すること。 **思考・判断の観点**：なぜ欧米経営史を学ぶ必要があるかを認識すること。 **関心・意欲の観点**：将来の就職を考えて、ビジネスの歴史を学ぶこと。 **態度の観点**：受講の礼儀を重視します。授業中に飲食物の持ち込み、帽子・マフラーの使用、私語を行うことを禁止します。やむを得ない方は事前にお知らせ下さい。違反者は、即座に単位取得不可とします。 **技能・表現の観点**：積極的に質問すること。また質問を受けた場合には、積極的に答え、授業に参加すること。

授業の計画（全体） (1)会社の誕生、(2)ビッグ・ビジネスの成立、(3)グローバル競争時代、(4)経済倫理の時代

成績評価方法（総合） 試験を実施します。また授業出席を重視します。試験は自筆ノートのみを持ち込み可としますので、しっかりノートを作成してください。

教科書・参考書 教科書：指定なし / 参考書：経営史に関する図書であれば、何を参考にしてもよい。

メッセージ 昔、ある経済学者が「すべてを疑え」と言いました。ゲーテは言います、「もし疑うことがなかったら、確実なことを知る喜びがどこにある？」とね。講義での話しを疑ってみて下さい。そして、考えましょう!!

連絡先・オフィスアワー 事前アポにて、常に面会可能。

開設科目	企業論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	河村榮				

授業の概要 企業は経営計画で戦略を構築し、予算で経営資源の最適配分をはかりながら、成長と適正利益を確保し、雇用維持と企業価値の最大化につとめている。企業行動の考察と同時に Case Study で実際の企業戦略を学習することにより経営の基本的な知識を習得する。 / 検索キーワード 企業は常に成長している

授業の一般目標 企業が直面している諸問題（社会的責任、企業統治、組織形態など）や財務戦略などを通して、経営の基礎知識と実践力を養う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：企業生成の歴史及び企業が抱える諸問題を学習すると同時に、経営戦略・財務戦略・労務戦略などを理解する 思考・判断の観点：問題に直面した場合に、論理的に考えて自分で解決できる思考力を養う 関心・意欲の観点：新聞や経済雑誌に掲載される企業に関連する記事に関心を持つことが重要

授業の計画（全体） 企業における経営理念、財務、組織などの役割や仕組みを学習すると共に、企業価値最大化、企業に内在するリスク、経営のグローバル化などに企業はどのように対処しているかを事例で考察し、経営の基本的な知識を習得する。実際の事例やDVDを活用し、理解を深める。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 経営理念と経営方針 内容 経営理念と経営方針がなぜ必要かを事例を基に学習する
- 第 2 回 項目 CSRとコンプライアンス 内容 CSRとコンプライアンスの基本を考察し、企業がどのように取り組んでいるかを事例で学習する
- 第 3 回 項目 経営と組織 内容 組織の仕組みや役割について学習し、効率的な組織運営について考察する
- 第 4 回 項目 リスクマネジメント 内容 企業に内在するリスクについて学習し、企業の取り組みについて考察する
- 第 5 回 項目 経営と牽制機能 内容 不祥事の事例を基に牽制機能の役割を考察する
- 第 6 回 項目 企業価値 内容 企業価値とは何かについて学習し、価値向上の戦略を考察する
- 第 7 回 項目 事例研究（1） 内容 企業の事例を基に考察する
- 第 8 回 項目 経営計画 内容 経営計画の目的・プロセスを学習し、経営への活用について考察する
- 第 9 回 項目 事例研究（2） 内容 企業の事例を基に考察する
- 第 10 回 項目 企業財務 内容 企業における財務の目的・役割を学習し、その戦略を考察する
- 第 11 回 項目 事例研究（3） 内容 企業の事例を基に考察する
- 第 12 回 項目 経営と資本政策 内容 負債と資本の基礎を学習し、その戦略を考察する
- 第 13 回 項目 海外戦略とM&A 内容 経営のグローバル化について学習し、M&Aの基礎知識を習得する
- 第 14 回 項目 事例研究（4） 内容 企業の事例を基に考察する
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 中間・期末レポート 100%

教科書・参考書 教科書：適宜指定する / 参考書：適宜紹介する

メッセージ 実社会での経験を基に、実例を中心とした内容にします

連絡先・オフィスアワー 内線：5601,9066

開設科目	新事業創造論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	中村 伸一				

授業の概要 この授業では、ビジネスにおいて、なぜ新事業を創造する事やプロジェクトを興す事が重要なのかを実例や講義を通して学び、実際にビジネス・プランを作成していきます。具体的には、基本的な組織、経営理論を講義にて学習し、ビジネス・プラン作成においては、ビジネス情報の収集や社会情勢からビジネスアイデアを考え、アイデアをデザイン化し、ビジネス・プランとしてプレゼンテーションができるまでを行います。ビジネス・プラン作成においては、ワークショップを用いますので、実践形式の授業になります。 / 検索キーワード 創業、ベンチャー、新事業、事業計画、ビジネス・プラン、プロジェクト

授業の一般目標 1. ビジネス情報の収集方法を習得する。 2. ビジネス・デザインを理解する。 3. 自ら考えたアイデアやワークショップにて生まれたアイデアをもとにビジネス・プランを作成するとともに、その内容を第三者に発表して理解させることができること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 組織形態の概要を知ること。経営（収支や経費等）に関する概要を知ること。 思考・判断の観点： ビジネス・アイデアをデザインしていく思考力と、プランに落していく判断力をつける。 関心・意欲の観点： 常に情報収集や社会情勢を把握しようとする意欲 その中から、ビジネスチャンスを見つけ、ビジネス・アイデアとしてプラン化できること。 態度の観点： インディペンデント（自立）した観点で、判断していく事。 技能・表現の観点： さまざまなツールを利用して、自らの考えを他人に理解してもらえるようにすること。 その他の観点： ワークショップでは積極的にコミュニケーションをとり、人とのつながりを作る

授業の計画（全体） この授業は、講義と実習があります。講義では、講師が実際のビジネスから学んだ事を、実例を織り混ぜながら進めていきます。実習では、アイデア デザイン プラン プレゼンテーションという段階を進んで、事業もしくは、ビジネス・プロジェクトを生み出していきます。ビジネスにおいては、コミュニケーションを円滑に行うことや自分の考えを持つことが重要ですので、授業の中にこの2つの要素を盛り込んでいきます。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 ビジネス・アイデアの考え方 内容 情報収集の方法や関心ごとを洗い出す
- 第 3 回 項目 ビジネス・アイデア実習 授業外指示 事前にアイデアを考えておくこと
- 第 4 回 項目 ビジネス・アイデアの発表
- 第 5 回 項目 ビジネス・デザイン（組織面） 内容 ビジネスを行うにあたってのプロジェクト思考と組織体系について
- 第 6 回 項目 ビジネス戦略 内容 販売展開をワークショップにて考える
- 第 7 回 項目 ファイナンス 内容 事業計画を作るための収支について
- 第 8 回 項目 ビジネス・プラン作成方法
- 第 9 回 項目 ビジネスプラン作成 (1) 内容 ワークショップ
- 第 10 回 項目 ビジネスプラン作成 (2) 内容 ワークショップ
- 第 11 回 項目 ビジネス・プランのプレゼンテーション 内容 学生によるプレゼン。
- 第 12 回 項目 ビジネス・プランの修正 (1) 内容 ワークショップ
- 第 13 回 項目 ビジネス・プランの修正 (2) 内容 ワークショップ
- 第 14 回 項目 最終プレゼンテーション 内容 学生によるプレゼン。
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 1. 出席 2. 授業での発表・質問 3. ビジネス・アイデアの内容 4. ワークショップへの取り組み姿勢 5. ビジネス・プランの内容 6. プレゼンテーション

教科書・参考書 教科書：当面、用いる予定はないが、必要となったときはそのときに知らせる。

メッセージ この事業では、教科書に無い、実際に会社を運営する上で起こることも講義の中に織り交ぜながら進めていきます。アイデアは、自分で考えるだけでは生まれてきません。学生同士でディスカッション議論する場も作っていきますので、議論に参加しない学生には単位を出しません。モチベーションが高く、好奇心のある学生でないと授業についてこれません。この点を十分に踏まえた上で、履修するか否かを判断してください。

開設科目	多国籍企業論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	有村貞則				

授業の概要 多国籍企業とは海外に自らの子会社を設立して事業活動を展開している企業のことです。この講義では、なぜ企業は多国籍化するのか、多国籍化によって生じる問題点や課題などについて理論と事例を交えながら学習します。

授業の一般目標 1．多国籍化の理論の習得 2．日本企業の多国籍化の歴史と現状を振り返る。 3．小売業の多国籍化について考える。 4．多国籍企業の今後について展望する。

授業の計画(全体) 多国籍化とは何かを具体的に紹介した後に、多国籍化について説明した理論を学習する。次いで日本企業の多国籍化の歩みを時代別・産業別に振り返り、日本の多国籍企業の今後について展望する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション 内容 授業の全体計画と履修上の注意、および期末テストについての説明
- 第 2 回 項目 多国籍化とは 内容 具体例を踏まえながら、多国籍化と国際化はどのように違うのか、なぜ企業は多国籍化するのか、などについて考える。
- 第 3 回 項目 多国籍企業論 1 内容 ハイマー理論
- 第 4 回 項目 多国籍企業論 2 内容 ハイマー理論の続き
- 第 5 回 項目 多国籍企業論 3 内容 パーノン理論
- 第 6 回 項目 多国籍企業論 4 内容 パーノン理論の続き
- 第 7 回 項目 日本企業の多国籍化の歩み 1 内容 戦前
- 第 8 回 項目 日本企業の多国籍化の歩み 2 内容 戦後から 1984 年まで
- 第 9 回 項目 日本企業の多国籍化の歩み 3 内容 1985 年以降
- 第 10 回 項目 小売業の多国籍化 1 内容 製造業の多国籍化との違いについて説明
- 第 11 回 項目 小売業の多国籍化 2 内容 日本の小売業の多国籍化の動向
- 第 12 回 項目 小売業の多国籍化 3 内容 事例研究
- 第 13 回 項目 外資小売業の日本進出 1 内容 全体動向
- 第 14 回 項目 外資小売業の日本進出 2 内容 事例研究
- 第 15 回 項目 外資小売業の日本進出 3 内容 事例研究

成績評価方法(総合) 期末テスト

メッセージ テキストは別途指定します。

開設科目	経営工学	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	後期
担当教官	橋本寛				

授業の概要 PERT、最短経路問題、流量問題などのネットワークで表現される計画問題を取り上げ、それらの解法と応用について平易に解説する。

授業の一般目標 PERT、最短経路問題、流量問題などの基本的なネットワーク計画問題を理解するとともにそのアルゴリズムの考え方について学ぶ。

授業の計画(全体) PERT(最早開始時刻、最遅終了時刻、総余裕、クリティカルパスなど)、最短経路問題(様々な解法、行列演算、Warshallの方法など)、流量問題(最大流量、最小カット、解法など)

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 PERT とは
- 第 2 回 項目 PERT のネットワーク
- 第 3 回 項目 作業時間
- 第 4 回 項目 最早時刻
- 第 5 回 項目 最遅時刻
- 第 6 回 項目 ノードの余裕時間
- 第 7 回 項目 総余裕時間
- 第 8 回 項目 クリティカル・パス
- 第 9 回 項目 作業時間表
- 第 10 回 項目 PERT の例題と問題
- 第 11 回 項目 ネットワーク問題
- 第 12 回 項目 グラフの基礎
- 第 13 回 項目 最短経路問題
- 第 14 回 項目 問題の定式化
- 第 15 回 項目 問題の解法
- 第 16 回 項目 最短経路木
- 第 17 回 項目 行列演算
- 第 18 回 項目 Warshall-Floyd 法
- 第 19 回 項目 最大フロー問題
- 第 20 回 項目 基礎概念
- 第 21 回 項目 最小カット
- 第 22 回 項目 フローの改善
- 第 23 回 項目 例題と問題
- 第 24 回 項目 増加パス
- 第 25 回 項目 カットの容量
- 第 26 回 項目 最大フロー最小カット定理
- 第 27 回 項目 最小費用フロー問題
- 第 28 回 項目 例題
- 第 29 回 項目 図解法
- 第 30 回 項目 補足

成績評価方法(総合) 期末試験による。

教科書・参考書 教科書：使用しない。

メッセージ 出席して理解するのが能率的

連絡先・オフィスアワー 経済学部A227、オフィスアワーを設定する予定

開設科目	情報科学	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	成富敬				

授業の概要 情報技術の理解をとおして、情報の収集・分析・加工・発信・活用がどのようになされるのかについて述べる。また、電子商取引やネットワーク犯罪等、最近の話題についても学習する。

授業の一般目標 情報技術や情報の収集・分析・加工・発信・活用がどのようになされるのかについて理解する。

授業の計画(全体) 1. コンピュータ 2. ネットワーク 3. プログラミング 4. データ構造とアルゴリズム 5. データベース 6. 情報システム 7. 最近の話題その他

成績評価方法(総合) 試験(70%)と出席(30%)で評価する。

開設科目	情報処理論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	成富敬				

授業の概要 経営科学におけるいろいろな問題を取りあげ、数理的あるいはコンピュータを用いたアプローチ方法について学習する。

授業の一般目標 経営科学におけるいろいろな問題に対する数理的あるいはコンピュータを用いた解決方法を習得する。

授業の計画(全体) 1. データの処理と分析 2. コンピュータによる問題解決 3. 最適化 4. 需要予測 5. 意思決定

成績評価方法(総合) 試験(70%)と出席(30%)で評価する。

メッセージ 情報科学の単位を修得しているかまたはプログラミングの基礎を習得していること。

開設科目	経営数学	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	渋谷綾子				

授業の概要 経営に関わる問題のうち、数値計算を伴うものについて学ぶ。具体的には、「損益分岐点分析」や「金利の影響を考慮した資金計画」、「資源配分問題(資源制約下での最適化問題)」等を、すでに確立している分析手法を用いて問題解決する。また、数回はパーソナルコンピュータを使用できる教室へ移動し、それらの理論を簡単な数値例で実証する。/ 検索キーワード 損益分岐点分析、関数、グラフ、資源配分問題、線形計画法

授業の一般目標 数学を使った分析によって、経営に関わる様々な概念とそれらの相互作用に対する理解を深め、論理的思考力も養う。経営に関わる色々な量が、経営全体にどのようなインパクトを与えるかについても考察する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 利益、費用、収益(率)、資金の時間的価値、経営資源の制約下での最適化等の問題に関して正しい分析ができるようにする。問題を関数やグラフで表現して解を得る一般的な数学の知識と、問題全体から数量化できる側面を正しく抽出できる洞察力も身につける。思考・判断の観点: 経営に関わる問題の数量的な要因を正しく取り扱ったうえでの判断ができる。関心・意欲の観点: さまざまな"量"が、"経営"にどのような影響力をもつかについての関心があることが最低条件です。態度の観点: 計算問題を解く場面では、個々人の計算の速さが授業進行に大きく影響を与える。授業進行の流れに乗るには、適度な緊張感が必要である。

授業の計画(全体) 1次関数を使用した損益分岐点分析について、数と関数に関する一般的な理解を深める。資金の時間的価値を投資判断に適用する問題に合わせて、金利計算の仕組みを学ぶ。電卓では解けない問題を計算機(パーソナル・コンピュータ)で解くことも経験する。資源制約下での最適化にあわせて数理計画問題(線形計画問題)の基本を学ぶ。実習ではExcelのゴールシークやソルバーを使う。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 経営の意思決定と数学について 内容 損益分岐点分析、金利の計算、資源配分、在庫管理などの概要を知る
- 第2回 項目 損益分岐点分析その1 内容 直線のグラフと交点について。
- 第3回 項目 損益分岐点分析その2 内容 What If 分析について
- 第4回 項目 資金の時間的価値と時間換算その1 内容 現価、年価、終価の計算
- 第5回 項目 資金の時間的価値と時間換算その2 内容 現価係数、終価係数、年金現価係数、年金終価係数、資本回収係数、減債基金係数
- 第6回 項目 投資計画案の評価その1 内容 複数の投資案の比較 - 排他的選択と追加収益率 -
- 第7回 項目 投資計画案の評価その2 内容 投資の収益性を計算機を用いて計算する
- 第8回 項目 関数と数列について 内容 各関数の特性とグラフについて
- 第9回 項目 数列と級数 内容 数列の和と極限
- 第10回 項目 資源配分問題と線形計画問題 内容 線形計画問題の基礎
- 第11回 項目 線形計画問題の解法と感度分析 内容 図的解法、単体法、感度分析等
- 第12回 項目 ネットワークの数式化 内容 ネットワークを線形計画問題として定式化する
- 第13回 項目 ベクトルと行列 内容 多変数の問題とベクトル表現、行列の演算に関する一般的知識
- 第14回 項目 在庫問題 内容 在庫問題と微分法の関係
- 第15回 項目 まとめ 内容 理解が不十分な点を復習する

成績評価方法(総合) 定期試験70%、授業時の小テスト20%、態度10%

教科書・参考書 教科書: 基礎から学ぶ経営科学 - 文系の論理的な問題解決法 -, 高井徹雄編著, 税務経理協会, 2005年

連絡先・オフィスアワー E - m a i l : shibuya@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワーは授業時間中にお知らせします。

開設科目	経営統計	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	渋谷綾子				

授業の概要 「平均」「分散」「標準偏差」「共分散」「相関係数」といった統計学の諸概念が、不確実性下での意思決定でどのように扱われているかを、ファイナンス分野のモデルを通して学ぶ。

授業の一般目標 経営分野で統計学が重要な役割を演じている例として、株価データの分析による資産配分問題を実習する。数理モデル(線形計画法)を用いた分析も行う。まず、株式銘柄の収益率の特性に配慮した分散投資によって、投資リスクを小さくできることを学び、リスクと期待収益率の関係から効率的フロンティア(有効フロンティア)を理解する。その後、マーコヴィッツによって提案された平均分散モデルや、80年代に流行したCAPM等について学ぶ。このようなモデルと統計学の諸概念の関係を学ぶ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 統計に関わる様々な概念と、それがファイナンスモデルでどのように利用されているかについての知識と理解を身につける 思考・判断の観点: 各モデルの長所と欠点について、そのモデルが前提している条件との関わりを通して考察することで思考力を鍛える。

授業の計画(全体) 平均・分散・標準偏差・共分散・相関係数等の基本概念を確認したあと、投資資産の収益率が正規分布するとの仮定のもとでのファイナンスモデルを学ぶ。主に、過去の収益率の平均を期待収益率、分散をリスク、ととらえる平均分散モデルについて学び、その欠点を改良するために提案された他のモデルについても概観する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 イントロダクション
- 第2回 項目 基本概念 - 平均・分散・標準偏差 -
- 第3回 項目 ポートフォリオについて
- 第4回 項目 基本概念 - 相関係数と回帰分析 -
- 第5回 項目 基本概念 - 相関行列、共分散等 -
- 第6回 項目 株価データの扱いについて
- 第7回 項目 ポートフォリオの期待収益率とリスク
- 第8回 項目 平均・分散モデル - 定式化 -
- 第9回 項目 平均・分散モデル - リスクと共分散 -
- 第10回 項目 平均・分散モデル - ソルバーによる解法 -
- 第11回 項目 平均・分散モデル - 有効フロンティア -
- 第12回 項目 シングル・ファクターモデルとCAPM
- 第13回 項目 平均・絶対偏差モデル
- 第14回 項目 期待効用最大化と平均・分散・歪度モデル
- 第15回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) 定期試験60%、小テスト・授業内レポート40%の割合で評価する。小テストや授業内レポートは予告なしに実施するので、欠席すると減点になることがある。

教科書・参考書 教科書: 理財工学I - 平均・分散モデルとその拡張 -, 今野浩, 日科技連出版社, 1995年

連絡先・オフィスアワー shibuya@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワーは授業時間中にお知らせします。

開設科目	会計学	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	前期
担当教官	山下訓				

授業の概要 会計原則、会計の基礎概念の把握した上で、財務諸表が企業の実態をどのように示す構造となっているのか。また会計ビッグバンとよばれた会計制度の大幅な変更により、どのような変化が生じたのかについて考えていきたい。 / 検索キーワード 財務諸表、会計基準、国際化

授業の一般目標 会計の役割を理解し、利害関係者にとって有用な情報とはどのようなものを把握してもらう。

授業の計画(全体) テキストに沿って進める。

成績評価方法(総合) 課題提出、試験を総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：財務会計 第6版(もしくは最新版), 広瀬義州, 中央経済社, 2006年

メッセージ 積極的な参加を望みます。

連絡先・オフィスアワー yamasita@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	税務会計論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	米谷 健司				

授業の概要 経営者の目的が企業価値の最大化であるならば、キャッシュの増減をもたらす税金が企業の投資上の意思決定（あるいは事業上の意思決定）に与える影響はかなり大きい。本講義では、こうした税金の影響を分析・評価するうえで必要となる税務会計の基本的なフレームワークを解説する。

授業の一般目標 税務会計に関する基本的なフレームワークの理解を目的とする。税務会計の基本は課税所得の計算方法（あるいはその理論的背景）を理解することであるが、本講義では企業の投資意思決定と税金の関係や財務報告上の会計利益に与える税金の影響についても考察する。

授業の計画（全体） 講義の大部分は課税所得の計算方法の説明にあてる。それを踏まえたうえで、実際に企業の投資上の意思決定（あるいは事業上の意思決定）と税金がどのように関係しているのかを説明する。

成績評価方法（総合） 講義への貢献（10％）、数回の課題提出（20％）および期末試験（70％）によって総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：教科書はとくに指定しない。 / 参考書：講義中に適宜、紹介する。

開設科目	会計監査 1	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官					

授業の概要 現在の監査の中心である財務諸表監査が生成されることになった歴史的背景を学習するとともに、財務諸表監査の監査計画段階から監査報告書発行までの一連の監査手続について理解をする。

授業の一般目標 会計監査の用語の習熟、監査契約の締結、監査計画の策定から報告書作成・発行までの流れを理解するとともに外部監査人としての公認会計士の社会的役割についても理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：財務諸表監査で用いられている専門用語についての説明ができる。

授業の計画（全体）財務諸表監査の生成の歴史、監査人の適格性について学習した後、監査実施のプロセス（監査計画、監査手続、監査報告書）の順に授業を進めていきます。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 財務諸表監査の枠組み 内容 財務諸表監査の意義
- 第 2 回 項目 財務諸表監査の生成と発展 内容 財務諸表監査の生成と発展及び日本における財務諸表監査制度の発展
- 第 3 回 項目 監査の目的と監査人の適格性 内容 二重責任の原則及び公認会計士法及び規律規則に基づく監査人の独立性等
- 第 4 回 項目 監査計画 内容 監査契約の締結から、監査計画の策定
- 第 5 回 項目 リスク・アプローチ 内容 リスクアプローチの解説
- 第 6 回 項目 内部統制 内容 COSO の内部統制についての説明
- 第 7 回 項目 試査とサンプリング 内容 試査とは
- 第 8 回 項目 監査要点と監査手続 内容 6 つの監査要点及び合理的な基礎を得るための監査手続
- 第 9 回 項目 監査調書 内容 作成目的及び作成要件
- 第 10 回 項目 監査証拠 内容 監査証拠と合理的な監査証拠等
- 第 11 回 項目 合理的保証 内容 監査基準における保証の意味及び合理的な保証の意味すること等
- 第 12 回 項目 実質的判断 内容 平成 14 年の監査基準改訂で明示された実質的判断とは及び実質的判断と監査人の責任
- 第 13 回 項目 重要性の判断 内容 監査上の重要性とは。重要性の判断が適用される監査の局面とは
- 第 14 回 項目 監査報告書 1 内容 証券取引法監査及び商法特例法監査の下における監査報告書様式の理解
- 第 15 回 項目 監査報告書 2 内容 監査報告書の種類

成績評価方法（総合）成績評価は試験が 70%、出席が 30%。

教科書・参考書 教科書：新版監査論を学ぶ、八田進二編著、同文館出版 / 参考書：監査小六法、日本公認会計士協会編、中央経済社、2005 年；参考書等に関しては、必要に応じ授業においてお知らせします。

メッセージ 監査の対象は財務諸表であるため、貸借対照表、損益計算書及びキャッシュフロー計算書等の基本財務諸表の知識があることが前提となります。したがって、最低、簿記 1 又は会計学を履修していることが必要です。

連絡先・オフィスアワー 在室中はいつでも質問にお答えします。

開設科目	会計監査 2	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官					

授業の概要 監査に関して基礎的な知識があることを前提に授業は進められます。授業の中心は、会計監査論1で取り上げなかった、現代監査の課題、その他の監査関連問題（内部監査、監査役監査等）や監査の国際的な動向等になります。

授業の一般目標 国際的な動向を踏まえ、現代監査が抱えている問題について理解すること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：財務諸表監査の他、内部監査や監査役監査についても理解すること及び現代監査の問題点の把握を行うこと。

授業の計画（全体） 会計監査論1で監査手続の一連の流れを理解していることを前提に、会計監査論2においては、その周辺問題を取り上げることになります。授業内容は、主に1) 中間監査、2) 内部監査、3) 監査役監査、4) 監査の国際的な動向（国際監査基準、米国監査基準）、5) 現代監査の課題の順に進行していく予定です。

成績評価方法（総合） 成績の評価方法は、出席30%と成績（期末試験のみ）70%です。

教科書・参考書 教科書：新版監査論を学ぶ, 八田進二編著, 同文館出版, 2005年；必要に応じて授業中にお知らせします。

メッセージ 会計監査論1を履修後に履修してください。

連絡先・オフィスアワー 在籍中はいつでも質問にお答えします。

開設科目	簿記 1 a	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	野村 弘				

授業の概要 簿記は帳簿記入の略で、会社、個人商店など事業を行う全ての事業所が必ず行うものであり、ビジネス全般に必要とされる知識です。この授業では簿記の仕組み、簿記独特の専門用語、記帳の仕方、報告書の作成を身に付けるための講義と問題演習を行います。また日商簿記 3 級の検定試験の受験にもつながり、公認会計士、税理士の学習の基礎となります。

授業の一般目標 個人商店を前提とした複式簿記による仕訳、記帳方法、簿記一巡の流れを学習し、簿記検定 3 級に合格できる基礎知識の修得を目標とする。なお、個人商店を前提としているが、大学で簿記の基礎を学ぶ理由のひとつは、日本を代表する約 3 0 0 0 社に関する有価証券報告書を読む基礎をやることであり、単位を少なくとも百万円か億円と読み替えること。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 簿記の目的・貸借対照表とは、損益計算書とは
- 第 2 回 項目 損益計算書とは、取引・仕訳・勘定口座への記入方法
- 第 3 回 項目 試算表、商品売買の記帳、引取運賃および発送費
- 第 4 回 項目 引取運賃および発送方費、手付金
- 第 5 回 項目 現金および預金の記帳方法、手形の記帳方法
- 第 6 回 項目 手形の記帳方法、その他の勘定の記帳方法
- 第 7 回 項目 その他の勘定の記帳方法、主要簿および補助簿
- 第 8 回 項目 主要簿および補助簿、伝票会計
- 第 9 回 項目 決算の流れ、売上原価の計算
- 第 10 回 項目 英米式決算法、精算表
- 第 11 回 項目 貸倒引当金、減価償却
- 第 12 回 項目 固定資産の売却、費用および収益の繰延・見越
- 第 13 回 項目 費用および収益の繰延・見越、消耗品
- 第 14 回 項目 現金過不足、有価証券、引出金
- 第 15 回 項目 財務諸表の作成、精算表の作成

成績評価方法 (総合) 試験 8 0 %、出席 2 0 %

教科書・参考書 教科書： A L F A 3 級, 大原簿記学校 教材開発部, 大原簿記学校, 2007 年

連絡先・オフィスアワー 質問がある学生諸君は、A 棟 2 階プロジェクト推進室に来てください。曜日・時間は授業中にお知らせします。

開設科目	簿記 1 b	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	野村 弘				

授業の概要 簿記は帳簿記入の略で、会社、個人商店など事業を行う全ての事業所が必ず行うものであり、ビジネス全般に必要とされる知識です。この授業では簿記の仕組み、簿記独特の専門用語、記帳の仕方、報告書の作成を身に付けるための講義と問題演習を行います。また日商簿記 3 級の検定試験の受験にもつながり、公認会計士、税理士の学習の基礎となります。

授業の一般目標 個人商店を前提とした複式簿記による仕訳、記帳方法、簿記一巡の流れを学習し、簿記検定 3 級に合格できる基礎知識の修得を目標とする。なお、個人商店を前提としているが、大学で簿記の基礎を学ぶ理由のひとつは、日本を代表する約 3 0 0 0 社に関する有価証券報告書を読む基礎をやることであり、単位を少なくとも百万円か億円と読み替えること。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 簿記の目的・貸借対照表とは、損益計算書とは
- 第 2 回 項目 損益計算書とは、取引・仕訳・勘定口座への記入方法
- 第 3 回 項目 試算表、商品売買の記帳、引取運賃および発送費
- 第 4 回 項目 引取運賃および発送費
- 第 5 回 項目 現金および預金記帳方法、手形の記帳方法
- 第 6 回 項目 手形の記帳方法、その他の勘定の記帳方法
- 第 7 回 項目 その他の勘定の記帳方法、主要簿および補助簿
- 第 8 回 項目 主要簿および補助簿、伝票会計
- 第 9 回 項目 決算の流れ、売上原価の計算
- 第 10 回 項目 英米式決算法、精算表
- 第 11 回 項目 貸倒引当金、減価償却
- 第 12 回 項目 固定資産の売却、費用および収益の繰延・見越
- 第 13 回 項目 費用および収益の繰延・見越、消耗品
- 第 14 回 項目 現金過不足、有価証券、引出金
- 第 15 回 項目 財務諸表の作成、精算表の作成

成績評価方法 (総合) 試験 8 0 %、出席 2 0 %

教科書・参考書 教科書： A L F A 3 級, 大原簿記学校 教材開発部, 大原簿記学校, 2007 年

連絡先・オフィスアワー 質問がある学生諸君は、A 棟 2 階プロジェクト推進室に来てください。曜日・時間は授業中にお知らせします。

開設科目	簿記 1 c	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	野村 弘				

授業の概要 簿記は帳簿記入の略で、会社、個人商店など事業を行う全ての事業所が必ず行うものであり、ビジネス全般に必要とされる知識です。この授業では簿記の仕組み、簿記独特の専門用語、記帳の仕方、報告書の作成を身に付けるための講義と問題演習を行います。また日商簿記 3 級の検定試験の受験にもつながり、公認会計士、税理士の学習の基礎となります。

授業の一般目標 個人商店を前提とした複式簿記による仕訳、記帳方法、簿記一巡の流れを学習し、簿記検定 3 級に合格できる基礎知識の修得を目標とする。なお、個人商店を前提としているが、大学で簿記の基礎を学ぶ理由のひとつは、日本を代表する約 3 0 0 0 社に関する有価証券報告書を読む基礎をやることであり、単位を少なくとも百万円か億円と読み替えること。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 簿記の目的、貸借対照表とは、損益計算書とは
- 第 2 回 項目 損益計算書とは、取引・仕訳・勘定口座への記入方法
- 第 3 回 項目 試算表、商品売買の記帳、引取運賃および発送費
- 第 4 回 項目 引取運賃および発送費、手付金
- 第 5 回 項目 現金および預金の記帳方法、手形の記帳方法
- 第 6 回 項目 手形の記帳方法、その他の勘定の記帳方法
- 第 7 回 項目 その他の勘定の記帳方法、主要簿および補助簿
- 第 8 回 項目 主要簿および補助簿、伝票会計
- 第 9 回 項目 決算の流れ、売上原価の計算
- 第 10 回 項目 英米式決算法、精算表
- 第 11 回 項目 貸倒引当金、減価償却
- 第 12 回 項目 固定資産の売却、費用および収益の繰延・見越
- 第 13 回 項目 費用および収益の繰延・見越、消耗品
- 第 14 回 項目 現金化不足、有価証券、引出金
- 第 15 回 項目 財務諸表の作成、精算表の作成

成績評価方法 (総合) 試験 8 0 %、出席 2 0 %

教科書・参考書 教科書： A L F A 3 級, 大原簿記学校 教材開発部, 大原簿記学校, 2007 年

連絡先・オフィスアワー 質問がある学生諸君は、A 棟 2 階プロジェクト推進室に来てください。曜日・時間は授業中にお知らせします。

開設科目	簿記 1 d	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	米谷 健司				

授業の概要 簿記は帳簿記入の略で、会社、個人商店など事業を行う全ての事業所が必ず行うものであり、ビジネス全般に必要とされる知識です。この授業では簿記の仕組み、簿記独特の専門用語、記帳の仕方、報告書の作成を身に付けるための講義と問題演習を行います。また日商簿記 3 級の検定試験の受験にもつながり、公認会計士、税理士の学習の基礎となります。

授業の一般目標 個人商店を前提とした複式簿記による仕訳、記帳方法、簿記一巡の流れを学習し、簿記検定 3 級に合格できる基礎知識の修得を目標とする。なお、個人商店を前提としているが、大学で簿記の基礎を学ぶ理由のひとつは、日本を代表する約 3 0 0 0 社に関する有価証券報告書を読む基礎をすることであり、単位を少なくとも百万円か億円と読み替えること。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 簿記の目的、貸借対照表とは、損益計算書とは
- 第 2 回 項目 損益計算書とは、取引・仕訳・勘定口座への記入方法
- 第 3 回 項目 試算表、商品売買の記帳、引取運賃および発送費
- 第 4 回 項目 引取運賃および発送費、手付金
- 第 5 回 項目 現金および預金の記帳方法、手形の記帳方法
- 第 6 回 項目 手形の記帳方法、その他の勘定の記帳方法
- 第 7 回 項目 その他の勘定の記帳方法、主要簿および補助簿
- 第 8 回 項目 主要簿および補助簿、伝票会計
- 第 9 回 項目 決算の流れ、売上原価の計算
- 第 10 回 項目 英米式決算法、精算表
- 第 11 回 項目 貸倒引当金、減価償却
- 第 12 回 項目 固定資産の売却、費用および収益の繰延・見越
- 第 13 回 項目 費用および収益の繰延・見越、消耗品
- 第 14 回 項目 現金化不足、有価証券、引出金
- 第 15 回 項目 財務諸表の作成、精算表の作成

成績評価方法 (総合) 試験 8 0 %、出席 2 0 %

教科書・参考書 教科書： A L F A 3 級, 大原簿記学校 教材開発部, 大原簿記学校, 2005 年

開設科目	簿記 2	区分	講義	学年	2~4 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	篠原淳				

授業の概要 簿記 1 に続いて、いわゆる日商 2 級の商業簿記の水準を習得することが、この授業の概要である。

授業の一般目標 いわゆる日商 2 級の商業簿記の水準を習得する。ただし、本支店会計の部分は授業の進行を見て範囲に含めるかどうか決める。 1 簿記一巡手続 2 現金預金取引 3 有価証券取引 4 債権債務取引 5 手形取引 6 引当金取引 7 商品売買取引 8 特殊商品売買取引 9 固定資産取引 10 損益取引 11 株式会社取引 12 税金 13 決算

授業の計画(全体) 【全体】 株式会社における経済活動について 【週単位】 1 簿記一巡手続 2 現金預金取引 3 有価証券取引 4 債権債務取引 5 手形取引 6 引当金取引 7 商品売買取引 8 特殊商品売買取引 9 固定資産取引 10 損益取引 11 株式会社取引 12 税金 13 決算

成績評価方法(総合) 出席・課題提出等の平常点と試験を総合的に評価

教科書・参考書 教科書：開講時に指示する / 参考書：適宜指示する

メッセージ 原則として、簿記 1 を履修していることを前提としている。

連絡先・オフィスアワー a.shino@yamaguchi-u.ac.jp 5578 受講者と相談して決める。

開設科目	商業簿記特論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	後期
担当教官	河田一志				

授業の概要 公認会計士や税理士といった国家資格取得の土台となる日商簿記1級の内容のうち、商業簿記・会計学を中心に学習します。簿経理事務に必要な会計知識だけではなく、財務諸表を読む力、基礎的な経営管理や分析力を身につけることを目標とします。この商業簿記特論は財務会計特論と一体で運営されますので、履修には十分注意して下さい。また、商業簿記特論は職業会計人コースの必修科目です。

授業の一般目標 日商簿記1級の内容のうち商業簿記・会計学を中心に学習し、11月検定での合格を目指します。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 総論・企業会計原則・簿記一巡
- 第2回 項目 一般販売・特殊商品売買
- 第3回 項目 長期請負工事
- 第4回 項目 棚卸資産
- 第5回 項目 固定資産・減損会計・繰延資産
- 第6回 項目 引当金・退職給付会計・社債
- 第7回 項目 資本・合併会計・会社分割
- 第8回 項目 確認テスト1
- 第9回 項目 金融資産・金融負債
- 第10回 項目 為替換算会計
- 第11回 項目 税効果会計
- 第12回 項目 本支店会計
- 第13回 項目 連結会計
- 第14回 項目 キャッシュフロー会計
- 第15回 項目 確認テスト2

成績評価方法(総合) 試験60% 確認テスト20% 出席20%

教科書・参考書 教科書: ALFA 商業簿記・会計学, 大原簿記学校 教材開発部, 大原簿記学校, 2007年

メッセージ なお、1) 授業は9月始めから12月までです。2) 試験は通常の試験期間中に行う予定です。3) この商業簿記特論は財務会計特論と一体で運営されます。履修登録には十分注意して下さい。

連絡先・オフィスアワー 質問がある学生諸君は、A棟2階プロジェクト推進室に来てください。曜日・時間は授業中にお知らせします。

開設科目	財務会計特論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	後期
担当教官	河田一志				

授業の概要 日商簿記1級の内容のうち、商業簿記・会計学を中心に学習します。この財務会計特論は商業簿記特論と一体で運営されますので、履修には十分注意してください。詳細は、商業簿記特論を参照して下さい。なお、財務会計特論は職業会計人コースの必修科目です。

教科書・参考書 教科書：ALFA 商業簿記・会計学, 大原簿記学校 教材開発部, 大原簿記学校, 2007年
 メッセージ なお、1) 授業は9月始めから12月までです。2) 試験は通常の試験期間中に行う予定です。3) この財務会計特論は商業簿記特論と一体で運営されます。履修登録には十分注意して下さい。

連絡先・オフィスアワー 質問がある学生諸君は、A棟2階プロジェクト推進室に来てください。曜日・時間は授業中にお知らせします。

開設科目	工業簿記特論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	後期
担当教官	岩寄昇				

授業の概要 日商簿記1級の内容のうち、工業簿記・原価計算を学習します。この工業簿記特論は原価計算特論と一体で運営されますので、履修には十分注意して下さい。工業簿記特論と原価計算特論は職業会計人コースの必修科目です。

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 原価・営業量・利益関係の分析
- 第2回 項目 予算編成
- 第3回 項目 事業部制
- 第4回 項目 業務的意志決定
- 第5回 項目 構造的意志決定
- 第6回 項目 戦略的原価計算
- 第7回 項目 単純個別原価計算・原価の費目別計算
- 第8回 項目 確認テスト1
- 第9回 項目 部門別個別原価計算
- 第10回 項目 部門別計算
- 第11回 項目 実際総合原価計算
- 第12回 項目 全部原価計算・直接原価計算
- 第13回 項目 工程別総合原価計算・組別・等級別総合原価計算
- 第14回 項目 標準原価計算
- 第15回 項目 確認テスト2

教科書・参考書 教科書：ALFA 工業簿記・原価計算, 大原簿記学校 教材開発部, 大原簿記学校, 2007年

メッセージ なお、1) 授業は9月始めから12月までです。2) 試験は通常の試験期間中に行う予定です。3) この工業簿記特論は原価計算特論と一体で運営されます。履修登録には十分注意して下さい。

連絡先・オフィスアワー 質問がある学生諸君は、A棟2階プロジェクト推進室に来てください。曜日・時間は授業中にお知らせします。

開設科目	原価計算特論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	後期
担当教官	岩寄昇				

授業の概要 日商簿記1級の内容のうち、工業簿記・原価計算を学習します。この原価計算特論は工業簿記特論と一体で運営されますので、履修には十分注意して下さい。詳細は、工業簿記特論を参照して下さい。なお、工業簿記特論と原価計算特論は職業会計人コースの必修科目です。

教科書・参考書 教科書：ALFA 工業簿記・原価計算, 大原簿記学校 教材開発部, 大原簿記学校, 2007年
 メッセージ なお、1) 授業は9月始めから12月までです。2) 試験は通常の試験期間中に行う予定です。3) この原価計算特論は工業簿記特論と一体で運営されます。履修登録には十分注意して下さい。

連絡先・オフィスアワー 質問がある学生諸君は、A棟2階プロジェクト推進室に来てください。曜日・時間は授業中にお知らせします。

開設科目	法人税法 I	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	後期
担当教官	香田一憲				

授業の概要 法人税は、法人が一事業年度に得た所得(もうけ)に対して課される国税です。ここでいう所得(もうけ)とは、損益計算書上の当期利益とはその範囲が若干異なるので、これを調整した上で、法人税額を計算することになります。このような調整項目を中心に学習します。この法人税法 I は法人税法 II と一体で運営されますので、履修には十分注意して下さい。この法人税法 III は公認会計士試験を踏まえた内容になっています。職業会計人コース会計専攻 2 年生は履修すること。

授業の一般目標 納付税額の計算・条文理解を中心に、公認会計士試験の租税法を踏まえた、法人税法の基礎的な内容をマスターすることを目標とします。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 会社計算と税務計算・別表四の作成(記入例)
- 第 2 回 項目 減価償却(通常・期中事業供用)・交際費等の損金不算入
- 第 3 回 項目 減価償却(通算・簿価・認容)
- 第 4 回 項目 受取配当等の益金不算入
- 第 5 回 項目 寄附金の損金不算入
- 第 6 回 項目 租税公課・納税充当金
- 第 7 回 項目 確認テスト 1・別表四の作成(留保・社外流出)・税額計算の概要
- 第 8 回 項目 試験研究費の特別控除
- 第 9 回 項目 受取配当等の益金不算入(証券投資信託)・同族会社・留保金課税の判定
- 第 10 回 項目 留保金課税
- 第 11 回 項目 減価償却(無形減価償却資産・償却可能限度額・少額減価償却資産・一括償却資産)
- 第 12 回 項目 貸倒引当金(一括評価)
- 第 13 回 項目 所得税額控除
- 第 14 回 項目 使途秘匿金
- 第 15 回 項目 確認テスト 2

成績評価方法(総合) 試験 60% 出席 20% 確認テスト 20%

教科書・参考書 教科書: 法人税法一般テキスト・チェック, 大原簿記学校 教材開発部, 大原簿記学校, 2007 年

メッセージ なお、1) 授業は 9 月始めから 12 月までです。2) 試験は通常の試験期間中に行う予定です。3) この法人税法 I は法人税法 II と一体で運営されます。履修登録には十分注意して下さい。

連絡先・オフィスアワー 質問がある学生諸君は、A 棟 2 階プロジェクト推進室に来てください。曜日・時間は授業中にお知らせします。

開設科目	法人税法 II	区分	講義	学年	2~4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	後期
担当教官	香田一憲				

授業の概要 法人税法の基礎的な内容を学習します。この法人税法 II は法人税法 I と一体で運営されますので、履修には十分注意してください。詳細は、法人税法 I を参照して下さい。

メッセージ なお、1) 授業は9月始めから12月までです。2) 試験は通常の試験期間中に行う予定です。3) この法人税法 II は法人税法 I と一体で運営されます。履修登録には十分注意して下さい。

連絡先・オフィスアワー 質問がある学生諸君は、A棟2階プロジェクト推進室に来てください。曜日・時間は授業中にお知らせします。

開設科目	法人税法 III	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	後期
担当教官	香田一憲				

授業の概要 法人税は、法人が一事業年度に得た所得（もうけ）に対して課される国税です。ここでいう所得（もうけ）とは、損益計算書上の当期利益とはその範囲が若干異なるので、これを調整した上で、法人税額を計算することになります。このような調整項目を中心に学習します。この法人税法 III は法人税法 と一体で運営されます。履修にあたっては十分注意して下さい。なお、法人税 III は税理士試験を踏まえた内容になっているため、職業会計人コース税務専攻3年生は履修することが望ましい。

授業の一般目標 納付税額の計算・条文理解を中心に、税理士試験の法人税法の基礎的な内容をマスターすることを目標とします。

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 会社計算と税務計算・別表四の作成（記入例）
- 第 2 回 項目 減価償却（通常・期中事業供用）・交際費等の損金不算入
- 第 3 回 項目 減価償却（通算・簿価・認容）
- 第 4 回 項目 受取配当等の益金不算入
- 第 5 回 項目 寄附金の損金不算入
- 第 6 回 項目 租税公課・納税充当金
- 第 7 回 項目 確認テスト 1・別表四の作成（留保・社外流出）・税額計算の概要
- 第 8 回 項目 試験研究費の特別控除
- 第 9 回 項目 受取配当等の益金不算入（証券投資信託）・同族会社・留保金課税の判定
- 第 10 回 項目 留保金課税
- 第 11 回 項目 減価償却（無形減価償却資産・償却可能限度額・少額減価償却資産・一括償却資産）
- 第 12 回 項目 貸倒引当金（一括評価）
- 第 13 回 項目 所得税額控除
- 第 14 回 項目 使途秘匿金
- 第 15 回 項目 確認テスト 2

教科書・参考書 教科書：法人税法一般テキスト・チェック, 大原簿記学校 教材開発部, 大原簿記学校, 2007年

メッセージ なお、1) 授業は9月始めから12月までです。2) 試験は通常の試験期間中に行う予定です。3) この法人税法 III は法人税法 と一体で運営されます。履修登録には十分注意して下さい。

連絡先・オフィスアワー 質問がある学生諸君は、A棟2階プロジェクト推進室に来てください。曜日・時間は授業中にお知らせします。

開設科目	法人税法 IV	区分	講義	学年	2~4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	後期
担当教官	香田一恵				

授業の概要 この法人税法 III は法人税法 と一体で運営されますので、履修には十分注意して下さい。詳細は法人税 III を参照して下さい。

メッセージ なお、1) 授業は9月始めから12月までです。2) 試験は通常の試験期間中に行う予定です。3) この財務会計特論は商業簿記特論と一体で運営されます。履修登録には十分注意して下さい。

連絡先・オフィスアワー 質問がある学生諸君は、A棟2階プロジェクト推進室に来て下さい。曜日・時間は授業中にお知らせします。

開設科目	相続税法 I	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	後期
担当教官	小林多恵子				

授業の概要 死亡した人が残した財産を引き継いだ場合に課される国税（相続税）と、他人から財産の贈与を受けた場合に課される国税（贈与税）について定めているのが相続税法です。人が死亡した時に、「誰がどの位の割合で財産を相続するのか？」などの学習をします。この相続税法 I は相続税法 II と一体で運営されますので、履修には十分注意してください。

授業の一般目標 税額の計算・手続等一連の流れ・財産評価を中心に相続税法の基礎的な内容をマスターすることを目標とします。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 . 正しく相続人・法定相続人の判定が出来る。 2 . 正確に相続税の計算が出来る。 3 . 正確に贈与税の計算が出来る。

授業の計画（全体） ・相続税・贈与税の計算の基礎 ・遺産の分割協議がまとまらない時の計算方法 ・財産評価 1 ・財産評価 2

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 贈与税の計算 内容 計算方法 < BR > 非課税
- 第 2 回 項目 相続税の計算 内容 税額控除の計算の基礎 2
- 第 3 回 項目 未分割の計算 内容 特別受益者の相続分
- 第 4 回 項目 みなし相続財産 内容 生命保険金等と生命保険規約に関する権利
- 第 5 回 項目 債務控除 内容 納税義務者の種類に伴う債務控除の範囲
- 第 6 回 項目 法定相続人の数 内容 法定相続人の養子の参入制限
- 第 7 回 項目 相続税の計算 内容 未成年者控除・障害者控除
- 第 8 回 項目 相続税の計算 内容 外国税額控除・贈与税額控除
- 第 9 回 項目 定例試験 内容 定例試験
- 第 10 回 項目 財産評価 内容 株式の評価
- 第 11 回 項目 みなし相続財産 内容 契約に基づかない定期金に関する権利
- 第 12 回 項目 措置法の減額 内容 特定事業用資産の減額計算
- 第 13 回 項目 みなし相続財産 内容 弔慰金の計算
- 第 14 回 項目 財産評価 内容 取引相場のない株式の評価
- 第 15 回 項目 定例試験 内容 定例試験

成績評価方法（総合） 試験 60 % 出席 20 % 確認テスト 20 %

教科書・参考書 教科書： 相続税法一般テキスト・チェック, 大原簿記学校 教育開発部, 大原簿記学校, 2007 年 / 参考書： 相続税法令通達集, 税務経理協会, 税務経理協会, 2007 年

メッセージ なお、 1) 授業は 9 月始めから 1 2 月までです。 2) 試験は通常の試験期間中に行う予定です。 3) この相続税法 I は相続税法 II と一体で運営されます。履修登録には十分注意して下さい。

連絡先・オフィスアワー 質問がある学生諸君は、A 棟 2 階プロジェクト推進室に来てください。曜日・時間は授業中にお知らせします。

開設科目	相続税法 II	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	後期
担当教官	小林多恵子				

授業の概要 相続税法の基礎的な内容を学習します。この相続税法 II は相続税法 I と一体で運営されますので、履修には十分注意してください。詳細は相続税法 I を参照して下さい。

メッセージ なお、1) 授業は9月始めから12月までです。2) 試験は通常の試験期間中に行う予定です。3) この相続税法 II は相続税法 I と一体で運営されます。履修登録には十分注意して下さい。

連絡先・オフィスアワー 質問がある学生諸君は、A棟2階プロジェクト推進室に来てください。曜日・時間は授業中にお知らせします。

開設科目	消費税法	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	後期
担当教官	小林多恵子				

授業の概要 消費税は、商品の販売や建物賃貸など、お店が取引を行った場合に課される国税です。消費税にはこれらの取引の代金に5%が上乗せされますが、中には消費税が上乗せされないような取引もあります。その見分ける基準を中心に学習します。

授業の一般目標 税額の計算・手続等一連の流れを理解することを中心に、消費税法の基礎的な内容をマスターすることを目標とします。

授業の計画(全体) ・控除税額の計算の基礎 ・課税売上割合が95%未満の計算 ・納税義務の判定 ・課税の対象・非課税・免税

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 控除税額 内容 課税仕入の範囲
- 第2回 項目 控除税額 内容 売上返還・貸倒れ
- 第3回 項目 定例試験 内容 定例試験
- 第4回 項目 課税標準 内容 みなし譲渡・低額譲渡
- 第5回 項目 課税標準 内容 交換・代物弁済・負担付贈与
- 第6回 項目 控除税額 内容 課税売上割合の計算
- 第7回 項目 控除税額 内容 個別対応方式・一括比例配分方式
- 第8回 項目 控除税額 内容 仕入返還・引取り還付
- 第9回 項目 定例試験 内容 定例試験
- 第10回 項目 納税義務の判定 内容 基準期間と課税売上高
- 第11回 項目 課税の対象 内容 課税の対象・応用
- 第12回 項目 非課税取引 内容 非課税・応用1
- 第13回 項目 非課税取引 内容 非課税・応用2
- 第14回 項目 免税取引 内容 輸出免税・応用
- 第15回 項目 控除税額 内容 課税売上割合・応用

成績評価方法(総合) 試験60% 出席20% 確認テスト20%

教科書・参考書 教科書：消費税法一般テキスト・チェック, 大原簿記学校 教材開発部, 大原簿記学校, 2007年 / 参考書：消費税法規通達集, 日本税理士会連合会 編, 中央経済社, 2007年

メッセージ なお、1)授業は9月始めから12月までです。2)試験は通常の試験期間中に行う予定です。

連絡先・オフィスアワー 質問がある学生諸君は、A棟2階プロジェクト推進室に来てください。曜日・時間は授業中にお知らせします。

開設科目	工業簿記	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	藤田 智丈				

授業の概要 企業にはヒト・モノ・カネといった様々な資源がありますが、会計の世界ではそれら全てを金額（貨幣価値）で表現する必要があります。企業では投入された労働力や材料などが、次々と形を変えて完成品・サービスへと作られていきますが、このプロセスがどのように進み、どこにどれくらいお金が使われたのかということをはっきりとさせる手段が工業簿記と呼ばれるものです。

授業の一般目標 製品やサービスを作るプロセスを貨幣価値で表現する手法や考え方を身につける。実践としては、日商簿記検定2級レベルを身につけることを目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 簿記の「勘定」はばらばらに存在しているのではなく、実際の物作りの流れを反映している。そのような流れに対応させて勘定の繋がりを理解できるようになる。 思考・判断の観点： 実際の物作りを、簿記がどのように表現しているのかをイメージできるようになる。 技能・表現の観点： 勘定の流れを理解し、正確な計算をできるようになる。

授業の計画（全体） まず工業簿記の基本的な考え方や計算手法を知ってもらい、それから詳細な各論を解説していきます。

成績評価方法（総合） 基本的に期末試験で評価しますが、出席も若干加味します。

教科書・参考書 教科書：『新検定簿記講義2級工業簿記』の最新版を使う予定ですが、12月時点で未出版のため、初回の授業の際に正式に伝えます。

開設科目	原価計算論 1	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	中田範夫				

授業の概要 原価計算の基礎についてテキストに基づきながら講義する。

授業の一般目標 原価計算の基礎的知識を習得することを目標とする。

授業の計画(全体) テキストに従いながら原価計算の基本的知識を講義する。工業簿記の知識を必要とするので、受講しておくこと。

成績評価方法(総合) 試験と出席で評価する。

教科書・参考書 教科書：最新例解原価計算(増補改訂版), 溝口一雄著, 中央経済社, 1988年; 原価計算論 2 でも上記のテキストを使用する。

開設科目	原価計算論 2	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	中田範夫				

授業の概要 原価計算の目的には財務会計目的と管理会計目的とがある。原価計算論 1 では主に財務会計目的のための原価計算を講義する。これに対して、原価計算論 2 では管理会計目的のための原価計算を講義する。具体的には、意思決定と業績評価のための原価情報作成について講義する。標準原価計算、直接原価計算、品質原価計算、活動基準原価計算、ライフサイクルコストリング、などについて講義する。

授業の一般目標 原価計算についての応用的な知識を習得することを目標とする。

授業の計画(全体) 標準原価計算と直接原価計算についてはテキストに従いながら講義する。品質原価計算、活動基準原価計算、ライフサイクルコストリングについては資料を配布しながら講義する。

成績評価方法(総合) 試験・出席およびレポートで評価する。

教科書・参考書 教科書：最新例解原価計算(増補改訂版), 溝口一雄著, 中央経済社, 1988年; 原価計算論 1 でも同じテキストを使用している。

開設科目	管理会計論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	藤田 智丈				

授業の概要 管理会計にはマネジメントと意思決定分析のトピックがあります。前者には、利益獲得という組織目標を実現するためにどのような仕組みを作るか、どのように従業員のやる気を引き出すか、といった内容が含まれます。後者には、経営者や管理者の意志決定、従業員の業務遂行などにおいて、どのような会計情報が役立つか、どのように分析すればよいのか、といった内容が含まれます。この授業ではこのような内容について学習していきます。

授業の一般目標 上記の内容について、基本的な考え方を理解し、簡単な分析をできるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 管理会計の基礎となる考え方、分析手法を身につける。 思考・判断の観点： 私たちが普段は客として利用している店や企業は、何を考え、どのようにして儲けようとしているのか、といった身の回りにあるビジネスを分析できるようになる。また、会計情報を用いて事例分析をできるようになる。 関心・意欲の観点： 授業で習う知識や事例をきっかけとして、ビジネス関連のニュースや雑誌に興味を持ち、そのような情報を理解できるようになる。

授業の計画（全体） まず、管理会計の前提となる基本的な経営学を復習します。それから予算管理という管理会計の主要テーマについて詳しくみていきます。さらに、現代のビジネスでは必須となった戦略という観点から管理会計を展開します。具体的には、BSCや原価企画、ABC / ABMといったマネジメント手法をとりあげます。また、意志決定のための分析として、資源配分や投資決定等の分析をします。

成績評価方法（総合） 期末試験とレポートにより評価します。

教科書・参考書 教科書： 管理会計・入門 新版（有斐閣アルマ）、浅田孝幸 他、有斐閣、2005年

開設科目	流通論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	前期
担当教官	藤田健				

授業の概要 生産と消費の懸隔を架橋する流通は、近年、大きな変革期を迎えている。コンビニエンス・ストアの停滞、大手スーパー・百貨店の不振や倒産、中小卸売業の淘汰、零細小売業の減少、メーカーの流通系列化の揺らぎ、流通の情報化など、流通は日々変化し続け複雑さを増している。そこで本講義では、近年激しく変化する流通現象への関心を高めるとともに、現実を理解するための理論的な考え方を学ぶ。 / 検索キーワード 流通, 商業, マーケティング

授業の一般目標 1. 流通論を体系的に修得する。 2. 流通現象を理論的に理解できるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：流通論の体系と個別理論を理解する。 関心・意欲の観点：流通現象への関心を高め、理論的な視点から理解する。

授業の計画(全体) 1. 流通の実態 2. 流通の役割 3. 分析アプローチを学ぶ 4. 流通フローの分析

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション：流通の分析視角 内容 流通論の講義概要，分析視角を学ぶ
- 第 2 回 項目 流通の実態 内容 ケース(1)，ケース(2)
- 第 3 回 項目 流通の実態 内容 ケース(3)，ビデオ学習
- 第 4 回 項目 生産と消費の懸隔 内容 流通の社会的役割は何か
- 第 5 回 項目 商人の存立根拠 内容 なぜ商人が存在するのか
- 第 6 回 項目 流通へのアプローチ(1) 内容 機能別アプローチと商品別アプローチ
- 第 7 回 項目 流通へのアプローチ(2) 内容 行動システム・アプローチと流通成果
- 第 8 回 項目 前半の復習 内容 ケース(4)，ビデオ学習
- 第 9 回 項目 商流の分析(1) 内容 取引コストの経済学，継続的取引
- 第 10 回 項目 商流の分析(2) 内容 戦略的提携，協力・信頼関係の形成
- 第 11 回 項目 商流の分析(3) 内容 垂直的流通システム，マーケティング
- 第 12 回 項目 商流の分析(4) 内容 マーケティング・チャネルの構築と維持
- 第 13 回 項目 物流と情報流の分析 内容 ロジスティクスと情報技術
- 第 14 回 項目 後半の復習 内容 ビデオ学習
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 全体の復習

成績評価方法(総合) 期末試験(80%)，レポート(20%)

教科書・参考書 教科書：現代流通，矢作敏行，有斐閣アルマ，1996年 / 参考書：ビジネスエッセンシャルズ(5)流通，大阪市立大学商学部編，有斐閣，2003年

メッセージ 流通システム講座の基礎科目に位置づけられます。マーケティング論，商品学等を体系的に勉強したい人は，ぜひ受講してください。なお，授業中の私語は厳禁です。

連絡先・オフィスアワー A棟3階306研究室

開設科目	マーケティング論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	武居奈緒子				

授業の概要 本講義では、マーケティングについての基本的概念、分析枠組みについて、理解を深めてもらうことを目的とする。マーケティングは、市場問題の解決策として、20世紀初頭アメリカで誕生し、日本に導入されたのは1950年代で、比較的新しい学問である。しかしながら、現在では、マーケティングは、商品経済社会における企業の基本的な行動指針であり、企業の経営行動の理解にとって、必要不可欠な知識となってきたといえる。本講義では、マーケティングの2つの側面を取り扱いたい。第1は、マーケティング現象を企業の中の管理でみる側面である。ここでは、マーケティングの観点のもとに、企業全体をどのようにコントロールするかということが、問題となってくる。第2は、マーケティング現象を社会全体でみる側面である。ここでは、他のマーケティング主体との競争関係の中で、企業のマーケティングに関わる行動を考察することになる。本講義を通じて、このような2つの視角から、企業行動について合理的な判断や考え方ができる能力を養ってもらえればと思う。

授業の一般目標 マーケティング現象を理解するための基本枠組みと基本概念、分析方法を修得する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 イントロダクション
- 第2回 項目 製品政策
- 第3回 項目 流通チャネル政策
- 第4回 項目 販売促進政策
- 第5回 項目 価格政策
- 第6回 項目 市場細分化戦略
- 第7回 項目 製品ライフサイクル戦略
- 第8回 項目 消費行動と顧客満足(1)
- 第9回 項目 消費行動と顧客満足(2)
- 第10回 項目 マーケティング・リサーチ(1)
- 第11回 項目 マーケティング・リサーチ(2)
- 第12回 項目 マーケティング戦略(1)
- 第13回 項目 マーケティング戦略(2)
- 第14回 項目 マーケティング革新と企業成長(1)
- 第15回 項目 マーケティング革新と企業成長(2)

教科書・参考書 教科書：消費行動, 武居 奈緒子, 晃洋書房, 2000年

開設科目	マーケティング戦略論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	武居奈緒子				

授業の概要 この講義の目的は、マーケティング戦略について理解を深め、マーケティング戦略を策定できるスキルを身につけることである。マーケティングにおける戦略論は、もともと経営学における戦略論のフレームワークを土台にして、構築された。マーケティング戦略論が、企業の生き残りをかけた市場競争下で、極めて有効な企業戦略であることは、言うまでもないことである。企業を取り巻く将来の不確定要因が増す現代においては、企業の戦略的思考、市場におけるマーケティング戦略を構築することの重要性が、増す一方である。この講義では、マーケティング戦略を理解するために、次のような問題に焦点を当てて考えていきたい。(1)企業は、どのように市場を選択するのか?(2)選択した市場をどのように分析するのか?(3)分析した市場にどのように接近するのか?(4)企業は、マーケティング展開に対して、消費者の反応をどのようにフィード・バックするのか? 以上のような諸課題を、理論と事例から追求していきたい。

授業の一般目標 1. マーケティング戦略について理解を深める。 2. マーケティング戦略を策定できるスキルを身につける。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 マーケティング戦略への招待
- 第2回 項目 事業機会の選択
- 第3回 項目 事業領域の選択
- 第4回 項目 標的市場の選択
- 第5回 項目 市場データ分析(1)
- 第6回 項目 市場データ分析(2)
- 第7回 項目 消費者行動分析(1)
- 第8回 項目 消費者行動分析(2)
- 第9回 項目 競争分析
- 第10回 項目 流通分析
- 第11回 項目 製品対応
- 第12回 項目 価格対応
- 第13回 項目 コミュニケーション対応
- 第14回 項目 競争対応
- 第15回 項目 市場との対応

教科書・参考書 教科書：和田充夫、恩蔵直人、三浦俊彦, マーケティング戦略, 有斐閣アルマ, 2000年

開設科目	商品学	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	柳田卓爾				

授業の概要 商品をめぐる諸問題を理解するための枠組みを、解説する。

授業の一般目標 商品をめぐる諸問題を知り、理論的枠組みを使って理解する。

授業の計画(全体) 幾つかの商品をめぐる問題の実際を説明し、その問題を理論的に捉えるための枠組みを解説する。いわゆる「講義」と呼ばれる形式で進める。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス
- 第 2 回 項目 【基礎編】商品
- 第 3 回 項目 【基礎編】ブランド
- 第 4 回 項目 マーケティング戦略 (1)
- 第 5 回 項目 マーケティング戦略 (2)
- 第 6 回 項目 消費社会 (1)
- 第 7 回 項目 消費社会 (2)
- 第 8 回 項目 産業組織 (1)
- 第 9 回 項目 産業組織 (2)
- 第 10 回 項目 イノベーション
- 第 11 回 項目 情報と不確実性 (1)
- 第 12 回 項目 情報と不確実性 (2)
- 第 13 回 項目 倫理 (1)
- 第 14 回 項目 倫理 (2)
- 第 15 回 項目 おわりに

成績評価方法(総合) 原則として、定期試験 100%。レポート等を課す場合がある。

教科書・参考書 教科書：教科書は、ない。/ 参考書：講義中に、適宜、紹介する。

メッセージ 初回の講義の際に、詳しいレジユメを配布して、講義内容、進め方についての説明を行う。履修希望者は、必ず出席すること。

連絡先・オフィスアワー 研究室 C220

開設科目	商品開発論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	柳田卓爾				

授業の概要 商品開発に関連する基礎理論を学ぶ。特に、企業成長における商品開発の役割に焦点を当てて、講義を行う予定である。

授業の一般目標 商品開発に関連する基礎理論を理解する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス
- 第 2 回 項目 戦略とは何か
- 第 3 回 項目 成長ベクトル
- 第 4 回 項目 企業の水平的境界
- 第 5 回 項目 企業の垂直的境界
- 第 6 回 項目 事例研究
- 第 7 回 項目 ブランド構築と製品開発 (1)
- 第 8 回 項目 ブランド構築と製品開発 (2)
- 第 9 回 項目 ブランド構築と製品開発 (3)
- 第 10 回 項目 イノベーション (1)
- 第 11 回 項目 イノベーション (2)
- 第 12 回 項目 事例研究
- 第 13 回 項目 事例研究
- 第 14 回 項目 予備日
- 第 15 回 項目 おわりに

連絡先・オフィスアワー C220(研究室)

開設科目	保険論 I	区分	講義	学年	2～4 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	石田成則				

授業の概要 保険の基礎理論として、保険構造論と保険市場論を講義する。保険構造論では、まず、基本的な原理・原則と特殊技術、さらに保険の対象となりうる付保危険の条件を理解する。つぎに、保険価格＝保険料率の決定過程を付保危険の分類と関連づけ、それにより、保険の本質的機能である、危険評価機能と危険分散機能を理解する。保険市場論では、保険市場の需要・供給分析のために、保険商品の財・サービスとしての特徴と保険のマーケティングを学習する。このように保険制度を理解した上で、個人や企業がどのように保険とリスクマネジメントを活用しているかを、具体例を用いて修得していく。

授業の一般目標 保険やリスクマネジメントの一般原則を理解する。また、周辺領域であるファイナンスや財務理論も一部取り入れながら、保険と金融の融合化や保険事業のイノベーションについてもその動向を理解する。このような基礎理論の理解に上に、保険経営の実態や運用、リスクマネジメントの事例を学習することにより応用力を身に付ける。それにより、企業・行政府のリスクマネジャーや金融機関のリスクアナリストを目指す学生を養成する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 保険とリスクマネジメントの基本原則を理解する。 思考・判断の観点： 個人や企業における意思決定のプロセスとその方法について修得する。

授業の計画（全体） 1. 食品事故や交通事故など日常生活を取り巻く危険・リスクについて分かり易く説明します。 2. テロや財務破綻など企業経営を取り巻く危険・リスクについて分かり易く説明します。 3. 危険に対処するためのリスクマネジメント手法について、リスクコントロールとリスクファイナンスに分けてお話しします。 4. リスクコントロールとリスクファイナンスの具体的内容について、回避・予防・転嫁について具体事例を解説します。 5. 転嫁の重要な事例として、保険制度を取り上げて、その仕組みを分かり易くお話しします。 6. 保険制度が成り立つために必要とされる要件を説明します。 7. 保険制度の対象となる保険事故とは何か、具体事例を取り上げて説明します。 8. 保険の価格である、保険料（率）について説明します。とくに、特性料率制と経験料率制について、理解を深めます。 9. 保険制度の社会的役割を、危険評価機能と危険分散機能という文言を使って説明します。 10. 賭け事・賭博や頼母子講などの保険類似制度について、その概略を説明し、保険制度への理解を深めます。 11. 保険制度を、生命保険、損害保険そして社会保険に分けて説明します。 12. 生命保険を取り上げて、その種類と役割を分かり易く解説します。 13. 損害保険を取り上げて、その種類と役割を分かり易く解説します。 14. 社会保険を取り上げて、その種類と役割を分かり易く解説します。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 生活を取り巻くリスク 内容 交通事故、食品事故など身近なリスクを考える
- 第 2 回 項目 生活設計（1） 内容 生活上や就労上のリスクと保障策を考える
- 第 3 回 項目 生活設計（2） 内容 退職後生活とリスクを取り上げる
- 第 4 回 項目 リスク管理法（1） 内容 生活上のリスクの対処法を考える
- 第 5 回 項目 リスク管理法（2） 内容 老後資金準備を考える
- 第 6 回 項目 リスク管理法（3） 内容 企業のリスク対策を考える
- 第 7 回 項目 保険の基礎理論（1） 内容 リスク対処策としての保険を取り上げる
- 第 8 回 項目 保険の基礎理論（2） 内容 保険の仕組みについて考える
- 第 9 回 項目 保険の基礎理論（3） 内容 保険料の決め方考える
- 第 10 回 項目 保険の社会的役割について（1） 内容 生命保険の社会的役割を考える
- 第 11 回 項目 保険の社会的役割について（2） 内容 損害保険の社会的役割を考える
- 第 12 回 項目 社会保険と保険の比較 内容 社会保険と保険を比較してその特徴を考える
- 第 13 回 項目 社会保険（1） 内容 年金制度について考える
- 第 14 回 項目 社会保険（2） 内容 医療保険と介護保険について考える
- 第 15 回 項目 社会保険（3） 内容 雇用保険の役割を考える

成績評価方法 (総合) 期末試験

教科書・参考書 教科書： 所得保障の経済分析, 石田成則, 東洋経済新報社, 2006 年

メッセージ 講義は保険やリスクマネジメントの導入なので、新聞・経済雑誌に目を通して、大きな事故や企業の不祥事などにも関心をもってほしい。

国際経済学科

開設科目	国際経済学	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	田淵太一				

授業の概要 この講義は、国際経済学のうち、とりわけ国際貿易理論を概説します。たんに通常のテキストブックに記述された内容を修得するだけでなく、通説を理論史や現実の世界経済に照らし合わせて、批判的に捉える考え方も紹介します。/ 検索キーワード 比較優位, リカード, ヘクシャー=オリーン, ケインズ

授業の一般目標 国際経済学のうち国際貿易理論の基本概念を把握したうえで、理論史や現実の世界経済の動きから既存の理論に欠けている点を批判的に捉えることを目標とする。

授業の計画(全体) 前半で比較優位の原理にもとづく貿易モデルを解説したうえで、後半ではそれらを理論史ならびに現実の世界経済に照らして批判的に捉えなおす。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イン트로ダクション
- 第 2 回 項目 比較優位 1-1 内容 リカード・モデル 1
- 第 3 回 項目 比較優位 1-2 内容 リカード・モデル 2
- 第 4 回 項目 比較優位 1-3 内容 リカード・モデル 3
- 第 5 回 項目 比較優位 1-4 内容 リカード・モデル 4
- 第 6 回 項目 比較優位 2-1 内容 他のモデル 1
- 第 7 回 項目 比較優位 2-2 内容 他のモデル 2
- 第 8 回 項目 貿易理論史 1
- 第 9 回 項目 貿易理論史 2
- 第 10 回 項目 貿易理論史 3
- 第 11 回 項目 現実の世界経済との対比 1
- 第 12 回 項目 現実の世界経済との対比 2
- 第 13 回 項目 規模の経済と貿易理論 1
- 第 14 回 項目 規模の経済と貿易理論 2
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) 学期末試験 60%, 通常点 40%

教科書・参考書 教科書: 貿易・貨幣・権力, 田淵太一, 法政大学出版局, 2006年 / 参考書: 世界経済論, 本山美彦, ミネルヴァ書房, 2006年

メッセージ 基礎理論のたんなるトレーニングでなく、批判的に理論を捉える思考のプロセスを身につける授業です。

連絡先・オフィスアワー 連絡方法, オフィスアワーは初回の授業で公表します。

開設科目	国際マクロ経済学	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	田淵太一				

授業の概要 この講義は、国際経済学のうち、とりわけ国際金融論の基本概念を概説します。たんに通常のテキストブックに記述された内容を修得するだけでなく、通説を理論史や現実の世界経済に照らし合わせて、批判的に捉える考え方も紹介します。／検索キーワード 国際収支、為替レート、開放マクロ経済学

授業の一般目標 国際経済学のうち国際金融論の基本概念を把握したうえで、理論史や現実の世界経済の動きから既存の理論に欠けている点を批判的に捉えることを目標とする。

授業の計画（全体） 前半で国際収支・為替レート・開放マクロ経済学の基礎理論を解説したうえで、後半ではそれらを理論史ならびに現実の世界経済に照らして批判的に捉えなおす。

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 インTRODクシヨN
- 第 2 回 項目 国際収支 1
- 第 3 回 項目 国際収支 2
- 第 4 回 項目 為替レート 1
- 第 5 回 項目 為替レート 2
- 第 6 回 項目 為替レート 3
- 第 7 回 項目 開放マクロ経済学 1
- 第 8 回 項目 開放マクロ経済学 2
- 第 9 回 項目 理論史 1
- 第 10 回 項目 理論史 2
- 第 11 回 項目 現実の世界経済との対比 1
- 第 12 回 項目 現実の世界経済との対比 2
- 第 13 回 項目 貨幣史と権力 1
- 第 14 回 項目 貨幣史と権力 2
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 学期末試験 60％，通常点 40％

教科書・参考書 教科書：貿易・貨幣・権力，田淵太一，法政大学出版局，2006年／参考書：世界経済論，本山美彦，ミネルヴァ書房，2006年

メッセージ 基礎理論のたんなるトレーニングでなく，批判的に理論を捉える思考のプロセスを身につける授業です。

連絡先・オフィスアワー 連絡方法，オフィスアワーは初回の授業で公表します。

開設科目	貿易論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	田淵太一				

授業の概要 この講義は国際貿易理論を概説し、発展途上国を中心とする世界経済の現状に照らし合わせて、批判的に捉える考え方を紹介します。 / 検索キーワード 比較優位, リカード, 開発経済学

授業の一般目標 比較優位の原理を中心に国際貿易理論の基本概念を把握したうえで、開発や現実の世界経済の動向から既存の理論に欠けている点を批判的に捉えることを目標とする。

授業の計画(全体) 第1部 リカード・モデルとリカード原典の対比, 第2部 リカードから現代までの貿易理論史

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 イントロダクション
- 第2回 項目 リカード・モデルとリカード原典との対比1
- 第3回 項目 リカード・モデルとリカード原典との対比2
- 第4回 項目 リカード・モデルとリカード原典との対比3
- 第5回 項目 リカード・モデルとリカード原典との対比4
- 第6回 項目 貿易理論史1
- 第7回 項目 貿易理論史2
- 第8回 項目 貿易理論史3
- 第9回 項目 貿易理論史4
- 第10回 項目 貿易理論史5
- 第11回 項目 貿易理論史6
- 第12回 項目 貿易理論史7
- 第13回 項目 貿易理論史8
- 第14回 項目 貿易理論史9
- 第15回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) 学期末試験 80%, 通常点 20%

教科書・参考書 教科書: 貿易・貨幣・権力, 田淵太一, 法政大学出版局, 2006年 / 参考書: 世界経済論, 本山美彦, ミネルヴァ書房, 2006年

メッセージ 基礎理論のたんなるトレーニングでなく、批判的に理論を捉える思考のプロセスを身につける授業です。

連絡先・オフィスアワー 連絡方法, オフィスアワーは初回の授業で公表します。

開設科目	国際金融論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	高英求				

授業の概要 為替相場・国際収支・国際通貨システム等に関する基礎的な概念・理論を学び、国際通貨・金融の面から世界経済の現状・課題について考察する。 / 検索キーワード 円高・円安、為替相場、国際収支、国際通貨システム

授業の一般目標 (1) 基礎的な用語・概念を学び、国際通貨・金融に関する新聞・雑誌記事(日本語・英語)を読めるようになる。(2) 代表的な理論を学び、国際通貨・金融に関する学術論文を読むための基礎的な力を身につける。(3) 国際通貨・金融の現状・課題について、専門的な概念・理論を用いて考え、対話することができるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 基礎的な用語・概念と代表的な理論の習得 世界経済の現状と課題に関する知識の獲得 思考・判断の観点: 専門的な概念・理論の習得による抽象的な思考 対立する学説の理解を通じた複眼的思考

授業の計画(全体) この講義は、大きく3つの分野(為替相場・国際収支・国際通貨システム)から成る。それぞれについて、基礎的な概念・理論を平易に説明する。あわせて、最新の動向を英語記事などで紹介する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション
最近のトピックス
- 第2回 項目 為替相場1 内容 円高・円安を理解する
- 第3回 項目 為替相場2 内容 為替変動の影響・要因
リスク・ヘッジ
- 第4回 項目 為替相場3 内容 国際金融市場
- 第5回 項目 小テストと解説
- 第6回 項目 為替相場決定理論1 内容 購買力平価説
- 第7回 項目 為替相場決定理論2 内容 金利平価説
- 第8回 項目 国際収支1 内容 基礎概念
- 第9回 項目 国際収支2 内容 世界的なマネー循環
- 第10回 項目 小テストと解説
- 第11回 項目 国際通貨体制1 内容 現在の国際通貨・金融
- 第12回 項目 国際通貨体制2 内容 国際金本位制と両大戦間期
- 第13回 項目 国際通貨体制3 内容 ブレトンウッズ体制
- 第14回 項目 国際通貨体制4 内容 欧州通貨統合
- 第15回 項目 小テストと解説

成績評価方法(総合) 基本的には講義中の復習テストと発言で評価する。

教科書・参考書 教科書: 特定の教科書は使わず、配付資料を中心に講義を進める。

メッセージ 国際金融について一から学ぶ講義です。

備考 集中授業

開設科目	国際金融論(旧)	区分	講義	学年	その他
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	尹春志				

授業の概要 経済学部の旧課程学生(国際経済学科 2005年度入学生以上)向けの授業です。この授業を受講できるのは、集中講義で開講される国際金融論(新)を受講した学生のみです。集中講義と合わせて4単位の認定となりますので注意してください。内容については、国際金融論(新)で学習した国際通貨・金融の内容を前提に、日本と東アジアを中心として通貨・金融問題を取り扱います。理論的な内容も盛り込みますが、主に現実経済の分析と理解に重点をおきます。

授業の一般目標 (1) 日本と東アジアの通貨と金融が抱える問題について理解する。(2) 上記以外の地域(米国や欧州)の通貨・金融問題も、(1)とのかかわりや比較のなかで取り上げる理解する。(3) 国際金融(新)で学んだ理論的かつ歴史的な知識を現状に応用して考える力を養います。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 日本と東アジアの通貨・金融問題を中心に、国際通貨・金融の現実世界の力学と論理を学ぶ。 **思考・判断の観点:** 通貨・金融という実体経済に大きな影響を当る経済のメカニズムを理解し、現実世界に対する判断力を養う

授業の計画(全体) 日本と東アジアの通貨・金融問題から議論を始めます。具体的には、この地域の今日の状況を大きく規定した1997年から98年のアジア危機の原因分析から実際の状況、そしてそのなかで模索されている通貨・金融協力へと内容を展開する予定です。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 イントロダクション
- 第2回 項目 アジア危機と日本(1)
- 第3回 項目 アジア危機と日本(2)
- 第4回 項目 アジア危機と日本(3)
- 第5回 項目 日本と東アジアの通貨・金融関係(1)
- 第6回 項目 日本と東アジアの通貨・金融関係(2)
- 第7回 項目 日本と東アジアの通貨・金融関係(3)
- 第8回 項目 通貨・金融協力(1)
- 第9回 項目 通貨・金融協力(2)
- 第10回 項目 通貨・金融協力(3)
- 第11回 項目 通貨・金融協力(4)
- 第12回 項目 国際通貨体制と日本・東アジア(1)
- 第13回 項目 国際通貨体制と日本・東アジア(2)
- 第14回 項目 国際通貨体制と日本・東アジア(3)
- 第15回 項目 試験

成績評価方法(総合) 定期試験で判断します。

教科書・参考書 教科書: 特にテキストは指定しません。必要な統計や図表を付したプリント類を配布します。 / 参考書: 適宜、参考文献については指示します。

メッセージ 上に書いた注意事項をよく理解したうえで受講してください。

開設科目	国際投資論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	藤原貞雄				

授業の概要 国際投資とは、その名の通り、企業もしくは個人あるいは政府が国際間で行う投資のことである。国際投資は、利息や配当、あるいは値上がり益を得るために行われる証券投資（間接）と現地で会社を設立あるいは経営することを目的とした直接投資とに分類することができる。授業においては直接投資に関する事柄を取り上げる。

授業の一般目標 授業の目標は、日本及びアジアの直接投資についての現実を知ること重点を置き、それらを整理し理解するための理論について講義は最小限に止め、多くを国際経済学などの基礎的な講義に期待する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：直接投資行動に関する基本的な知識を獲得する それらがもたらすさまざまな正負の効果に関する基本的知識を獲得する 試験でチェックする 思考・判断の観点：企業・産業の行動、政府の政策についての自身の評価、判断、予測できるようになる。レポートでチェックする 関心・意欲の観点：毎回提出する講義への質問・感想票で確認する。レポートで確認する。 態度の観点：出席頻度、講義中の態度、質問へ回答できるかどうかで確認する。

授業の計画（全体）全体 1 産業経済省の「海外事業活動報告書」（配布）で現状を認識する。 2 日本自動車産業を軸にグローバルな経営活動の現状を認識する（資料配付、パワーポイント）。 3 直接投資がもたらす日本への影響について現状を認識する（資料配付、パワーポイント）

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス 内容 国際投資とはなにか、何を対象とするのか、参考文献紹介
- 第 2 回 項目 日本の海外直接投資の現状（1） 内容 経済産業省「海外事業活動報告書」2005年版
- 第 3 回 項目 日本の海外直接投資の現状（2） 内容 経済産業省「海外事業活動報告書」2005年版
- 第 4 回 項目 日本の海外直接投資の現状（3） 内容 経済産業省「海外事業活動報告書」2005年版
- 第 5 回 項目 日本の海外直接投資の現状（4） 内容 経済産業省「海外事業活動報告書」2005年版
- 第 6 回 項目 日本の海外直接投資の現状 < 5 > 内容 経済産業省「海外事業活動報告書」2005年版
- 第 7 回 項目 海外直接投資と日本経済（1） 内容 日本の自動車産業のケース
- 第 8 回 項目 海外直接投資と日本経済（2） 内容 日本の自動車産業のケース
- 第 9 回 項目 海外直接投資と日本経済（3） 内容 日本の自動車産業のケース
- 第 10 回 項目 海外直接投資と日本経済（4） 内容 自動車産業のケース
- 第 11 回 項目 海外直接投資と日本経済（5） 内容 自動車産業のケース
- 第 12 回 項目 海外直接投資と日本経済（5） 内容 自動車産業のケース
- 第 13 回 項目 海外直接投資と日本経済（6） 内容 自動車産業のケース
- 第 14 回 項目 海外直接投資と日本経済（7） 内容 まとめ 21世紀の日本経済と海外直接投資
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法（総合）開講回数3分の2以上出席者のみを評価対象とする。レポート（2回）50% 最終試験50% 講義への積極的な態度（質問感想票などへ積極的に記入しているかどうか）で加点する。

教科書・参考書 教科書：とくに教科書を指定しない。参考文献一覧は初回講義で配布する。配付資料を保存すること / 参考書：とくに教科書を指定しない。参考文献一覧は初回講義で配布する。配付資料を保存すること

連絡先・オフィスアワー 連絡方法は初回講義で知らせる。

開設科目	国際運輸論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	澤喜司郎				

授業の概要 交通は、私たちにとって最も身近な経済的現象・事象であり、同時に私たちはその主体となることもあります。また、運輸インフラは経済活動にとって欠くことのできないものであり、その整備は経済発展のための条件ともなります。本講義では、旅客輸送や物流など交通に関する多くの最新の情報を提供しながら、交通経済について講義します。

授業の一般目標 交通経済の基礎知識を習得しつつ、国際政治・経済やわが国の政治・経済を見る目を養う。

授業の計画（全体） 講義の概要は以下の通りですが、一部変更することもあることをお断りしておきます。 1．ガイダンス 2．運輸技術とビジネス（人工衛星とロケット・ビジネスとリニア新幹線） 3．運輸インフラと巨大構造物（運河と長大橋と人工島と政策評価） 4．人とクルマと通信（GPSとITSとバス・ロケーションシステム） 5．航空輸送と空港とアメニティ（巨大空港と航空機事故） 6．都市と地方と鉄道（路面電車とローカル線と第三セクター鉄道） 7．運輸と環境と交通公害（モーダルシフトと静脈物流と低周波音公害） 8．国際分業と物流と技術移転（100円マックの謎とコンビニ成功の秘訣と産業スパイ） 9．海上輸送と港湾（コンテナ輸送とコンテナ港と離島航路） 10．余暇と旅行と観光（テーマパークとグリーン・ツーリズムとホテル・旅館）

成績評価方法（総合） 成績評価は、出席（30点）、期末試験（70点）によって行います。

教科書・参考書 教科書：交通論おもしろゼミナール，澤喜司郎他編著，成山堂書店，2007年

開設科目	物流論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	澤喜司郎				

授業の概要 本年度は、物流において重要な役割を担うノードとしての港湾を取り上げます。重化学工業政策を基盤として顕著な発展をみせた高度経済成長期が終焉し、国際化や情報化とともに成立した成熟化社会の下では、港湾は港湾本来の生産的視点とは別の角度から位置づけられることになり、そこには(1)港湾域及び港湾に隣接する臨海部を都市の活性化のために活用する、(2)港湾域を一般の市民に開かれた豊かで潤いのあるウォーターフロントとして創造する、(3)地球環境を守る視点で港湾環境を保全し創造するとともに環境共存型港湾を建設するという課題があり、それが港湾行政の今日的な課題になっています。本講義では、日本経済を基底に港湾社会の政策と理論について講義する予定です。

授業の一般目標 港湾と港湾物流に関する基礎知識を習得するとともに、近年の日本経済について復習しつつ、今日の港湾をめぐる諸問題について理解を深める。

授業の計画(全体) 講義の概要は以下の通りであるが、一部変更することもあることをお断りしておく。

1. 海と港
2. 港湾整備事業と評価制度
3. 港湾整備事業の変遷と財政政策
4. 港湾の管理運営制度に関する検討の方向
5. 港湾の整備計画と今後の役割
6. 戦後の日本の港と港湾労働
7. 港湾運送における産業連関と需要構造
8. 国際分業における港湾の物流拠点化
9. 輸入促進地域の現状と課題
10. 地域物流の現状と問題点
11. 都市観光の対象としてのウォーターフロントなど。

成績評価方法(総合) 成績評価は、出席(30点)、期末試験(70点)によって行います。

教科書・参考書 教科書：現代日本経済と港湾, 小林照夫他編, 成山堂書店, 2001年

開設科目	貿易実務(旧)	区分	講義	学年	2~4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	前期
担当教官	上羽博人				

授業の概要 日本経済は深く貿易に依存していますが、そこには煩雑な貿易実務があります。現在、貿易実務は貿易システムの変化、交通手段の発達、経済のグローバル化にともない、簡素化、世界共通化の方向にあります。この講義では、物品を国際間で円滑に取引(商流)、移動(物流)させるために必要な基本的な貿易実務の知識、実務を習得します。/検索キーワード INCOTERMS 信用状 通関 船荷証券 海上保険

授業の一般目標 (1) 貿易実務に関する国際条約、国際ルールの理解 (2) 貿易手続き(輸出・輸入)(売買契約、代金決済、リスク・マネジメント、貿易管理、物流)の理解 (3) 貿易書類(船積関係書類、通関関係書類など)の作成

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 貿易手続き(売買契約、代金決済、リスク・マネジメント、貿易管理、物流)の実態を理解し、貿易実務の全体構造を習得。 思考・判断の観点: 売買契約、取引商品、取引相手国ごとに異なる貿易実務を適切に行なう知識を習得。 関心・意欲の観点: 貿易に興味を持つとともに、貿易実務に関する資格試験(通関士試験、貿易実務検定、国際物流管理士など)に挑戦。

授業の計画(全体) 日本の貿易の実態、貿易実務の全体構造、それぞれの実務の内容を順番に説明し、最終的に各自が基本的な実務(船積関係書類、通関関係書類の作成)ができるように実習を行ないます。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 貿易と貿易実務の概要 内容 貿易、多国籍企業、貿易管理、貿易実務の概要 授業外指示 最近の貿易関係の事故、事件の資料を読んでおいてください。 授業記録 1つの項目は2週連続(午前2時間、午後2時間)です(合計30回)。
- 第 2 回 項目 国際条約、国際ルール 内容 売買契約、代金決済、リスクマネジメント、貿易管理、物流に関する法令とルールの概要
- 第 3 回 項目 INCOTERMS 内容 貿易条件(INCOTERMS)13項目 授業外指示 以下の項目は授業前に教科書を読んでおいてください。
- 第 4 回 項目 売買契約 内容 契約前手続き、契約手続き(信用状あり、信用状なし)など
- 第 5 回 項目 代金決済 内容 荷為替手形決済(信用状、D/P、D/A) 送金決済など
- 第 6 回 項目 リスクマネジメント 内容 貨物損害保険、貿易保険、運送責任、為替予約、クレーム処理、ロジスティクスなど
- 第 7 回 項目 貿易管理 内容 関税関係法令、他法令など
- 第 8 回 項目 国際物流 内容 物流手段、運送契約、船荷証券、運送状など
- 第 9 回 項目 輸出貿易手続き(手続きの構造) 内容 輸出手続き(売買契約、代金決済、リスクマネジメント、貿易管理、物流)の全体構造と関係など 授業外指示 以下の項目は配布する貿易書類を見ておいてください。
- 第 10 回 項目 輸出貿易手続き(輸出関係書類) 内容 輸出関係書類(売買契約書、荷為替手形、保険証券、輸出申告書、船荷証券など)の内容と関係など
- 第 11 回 項目 輸入貿易手続き(手続きの構造) 内容 輸入手続き(売買契約、代金決済、リスクマネジメント、貿易管理、物流)の全体構造と関係など
- 第 12 回 項目 輸入貿易手続き(輸入関係書類) 内容 輸入関係書類(売買契約書、荷為替手形、保険証券、輸入申告書、船荷証券)の内容と関係など
- 第 13 回 項目 船積関係書類の作成 内容 売買契約書、信用状など
- 第 14 回 項目 船積関係書類の作成 内容 INVOICE、PACKING LIST、輸出申告書、船荷証券など
- 第 15 回 項目 試験
- 第 16 回
- 第 17 回

- 第 18 回
- 第 19 回
- 第 20 回
- 第 21 回
- 第 22 回
- 第 23 回
- 第 24 回
- 第 25 回
- 第 26 回
- 第 27 回
- 第 28 回
- 第 29 回
- 第 30 回

成績評価方法 (総合) ・貿易実務の内容は幅広く複雑なので、欠席すると分からなくなります。このため、授業態度・授業への参加度や出席を重視します。(出席確認を毎日の午前の授業と午後の授業の 2 回行います。どこで行うかは授業の進み方により異なります。) ・成績は試験、授業態度・授業への参加度、出席など総合的に評価します。 試験(講義の最後の日に行います) = 約 60% 授業態度や授業への参加度 = 約 10% 出席 = 約 30%

教科書・参考書 教科書： 図解 貿易実務ハンドブック (ベーシック版 第 2 版), 日本貿易実務検定協会(編), 中央書院, 2005 年

メッセージ 将来、製造業、貿易商社、国際運送業界(船会社、航空会社など)など、貿易取引、国際物流分野へ就職希望のある方、通関士試験、貿易実務検定を受験される予定の方には、役立つ講義になります。

連絡先・オフィスアワー weber@yokohama-pc.ac.jp

備考 集中授業

開設科目	国際関係論	区分	講義	学年	その他
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	大林洋五				

授業の概要 ・東西冷戦体制の解体と局地紛争・先鋭化(核拡散問題など)・南北問題(旧植民地对支配国の個別関係から,発展途上国对先進国の一般関係へ)貿易・投資・移民・資源・環境等の諸問題をめぐる南北対立

授業の一般目標 世界各地でおきている,各種の国際紛争,それらの中には一見,日本の我々とは無関係なうようであるが,我々の生活にも大きな影響を与えるものも少なくない。それらの国際紛争の由来,当事者の言い分,解決への努力,などについて,いくつかの筋を立てて考えてみる。

授業の計画(全体) 国際関係についての,一般的な問題を講義する。

成績評価方法(総合) 期末試験 80% 出席点 20%

教科書・参考書 教科書: 使用しない。/ 参考書: 世界地図(アトラス), ; 世界史年表(簡単なものでよい), ,

連絡先・オフィスアワー FAX(083-924-9638)による質問歓迎 また,出席票への質問・意見記載をなるべく

開設科目	国際関係論(旧)	区分	講義	学年	その他
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	大林洋五				

授業の概要 <前期> ・東西冷戦体制の解体と局地紛争の先鋭化(核拡散問題など) ・南北(旧植民地 対 支配国の個別関係から, 発展途上国 対 先進国の一般関係へ) 貿易・投資・移民・資源・環境等の諸問題をめぐる南北対立 <後期> 民族(言語・宗教・人種など, いわゆるエスニックすべて) 紛争 ・近代民族国家形成に取り残された人々。 ・征服者と原住民 - 従来の民族問題 ・新移民労働者 ・世界的規模での民族対立 - <文明の衝突> 論

授業の一般目標 世界各地でおきている, 各種の国際紛争, それらの中には一見, 日本の我々とは無関係なようであるが, 我々の生活にも大きな影響を与えるものも少なくない。それらの国際紛争の由来, 当事者たちの言い分, 解決への努力, などについて, いくつかの筋を立てて考えてみる。

授業の計画(全体) 前期は, 新(2006年度以降入学者)授業体系の学生とともに, 一般的な国際関係の問題を講義する。後期は, 民族紛争について一般的な話のほか, 個別の問題について分析する。

成績評価方法(総合) 定期試験(前期末と後期末とに)各40%, 計80% 出席点 20%

教科書・参考書 教科書: 使用しない。 / 参考書: 世界地図(アトラス), ; 世界史年表(簡単なものでよい), ;

連絡先・オフィスアワー (FAX)083-924-9638 による質問歓迎。また, 出席票への質問・意見記載をなるべく。

開設科目	現代世界経済論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	河野真治				

授業の概要 現在の世界経済について、様々なトピックを取り上げながら概観していく。取り上げるテーマは、WTO や地域主義などの貿易体制、多国籍企業と直接投資、国際通貨問題、貧困と援助、地球環境問題などである。 さらに、トータルな世界経済の動向について、三極間の競争(米、欧、アジア)や情報化の影響、グローバリゼーション、国際的寡占化などについても検討する。

授業の一般目標 目標は、世界経済に関する日々の新聞報道が、文句なしに読めるようになることである。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：世界経済に関する一般的知識を得ること。 関心・意欲の観点：世界経済に興味を持ち、毎日新聞を読むようになること。

授業の計画(全体) 1 この授業で何を学ぶか 2 世界の貿易問題 3 直接投資と多国籍企業
4 国際通貨体制 5 世界経済の諸問題(環境、貧困、人口) 6 世界経済の見方(アメリカ体制、三極構造、グローバル化)

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業計画
- 第 2 回 項目 GATT/WTO について
- 第 3 回 項目 地域主義について
- 第 4 回 項目 EU について
- 第 5 回 項目 多国籍企業(1)
- 第 6 回 項目 多国籍企業(2)
- 第 7 回 項目 多国籍企業(3)
- 第 8 回 項目 国際通貨体制とドル
- 第 9 回 項目 世界の貧困と援助
- 第 10 回 項目 世界の人口問題
- 第 11 回 項目 地球環境問題
- 第 12 回 項目 世界経済の基本構造
- 第 13 回 項目 グローバリゼーション
- 第 14 回 項目 情報化と世界経済
- 第 15 回

成績評価方法(総合) 7 回目の授業時間に中間テストを行います(40 点)。さらに期末テストを行い(60 点) 全体(100 点)で評価します。

教科書・参考書 教科書：教科書は使わない。 / 参考書：1 回目の講義で紹介する。

開設科目	アメリカ経済論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	河野真治				

授業の概要 90年代アメリカの「ニューエコノミー」について検討する。90年代はアメリカの「一人勝ち」といわれ、好況期が戦後2番目といわれるほど長期に継続し、「ニューエコノミー」が叫ばれたが、この主張を批判し、アメリカ経済の長期衰退傾向は継続していることを論証する。同時に、アメリカ経済の制度的特徴についても、説明する。

授業の一般目標 アメリカ経済の一般的特徴を理解し、今の状況を把握する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：アメリカ経済について一般的知識を獲得するとともに、90年代の「ニューエコノミー」論について理解する。

授業の計画(全体) 1 この授業で何を学ぶか 2 戦後アメリカ経済の衰退 3 90年代の「繁栄」と「ニューエコノミー」論 4 「ニューエコノミー」論批判 5 経常赤字論争 6 再びアメリカ経済の衰退

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 授業計画
- 第2回 項目 戦後アメリカ経済と衰退
- 第3回 項目 90年代の繁栄とニュー・エコノミー論
- 第4回 項目 IT革命とグローバル化
- 第5回 項目 経常収支赤字とドル
- 第6回 項目 自動車産業
- 第7回 項目 鉄鋼産業
- 第8回 項目 コンピュータ産業
- 第9回 項目 通信産業
- 第10回 項目 航空機産業
- 第11回 項目 軍需産業
- 第12回 項目 航空産業
- 第13回 項目 プッシュ政権の7年間
- 第14回 項目 アメリカ経済の衰退
- 第15回

成績評価方法(総合) 7回目に中間試験を行います(40点)。さらに期末試験を行い(60点)、全体(100点)で評価します。

教科書・参考書 教科書：教科書は使わない。 / 参考書：1回目の講義で指示する。

開設科目	ヨーロッパ経済論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	豊嘉哲				

授業の概要 ヨーロッパ統合の歴史を理解する。

授業の一般目標 ヨーロッパ統合の歴史を理解し、それに対する意見を述べることができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：ヨーロッパ統合の歴史に関する知識を身につける。 思考・判断の観点：ヨーロッパ統合の歴史に関して自分の見解を述べる。

授業の計画（全体） ヨーロッパ統合が進められる過程で、どのような政策が実施されてきたかを解説する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 ヨーロッパ統合の出発
- 第 3 回 項目 関税同盟と共通農業政策
- 第 4 回 項目 EU の組織
- 第 5 回 項目 市場統合の進展 1
- 第 6 回 項目 市場統合の進展 2
- 第 7 回 項目 通貨統合 1
- 第 8 回 項目 通貨統合 2
- 第 9 回 項目 通貨統合 3
- 第 10 回 項目 構造政策
- 第 11 回 項目 EU 拡大 1
- 第 12 回 項目 EU 拡大 2
- 第 13 回 項目 EU の対外関係
- 第 14 回
- 第 15 回

成績評価方法（総合） 定期試験とレポート。

教科書・参考書 教科書：なし / 参考書：外務省 HP <http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/eu/index.html>

連絡先・オフィスアワー yyutaka@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	現代日本社会事情	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	河野 笙子				

授業の概要 現代日本に特徴的な社会経済的問題を新聞や雑誌等の記事を通して様々な角度から取り上げます。テーマ別に編集された切り抜き記事コピー集の読解を中心に授業を進め、他国、他地域との比較文化論的な観点からの掘り下げも行います。 / 検索キーワード 時事日本語、現代日本社会、現代日本経済

授業の一般目標 (1) 経済学部で学ぶ外国人留学生に必要な基礎的知識・社会常識を身につける。(2) 時事日本語に対する読解力を身につける。(3) 時事問題に対する分析力を養う。(4) 現代日本社会に対する理解と認識を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 . 時事問題の読解ができる。 2 . 取り上げられたテーマについての説明ができる。 思考・判断の観点： 1 . 時事問題の背景や問題点などについて自分の意見が言える。 関心・意欲の観点： 1 . 現代社会で起きている様々な問題に関心を持つ。 態度の観点： 1 . 時事問題について問題意識を持って考えることができる。 技能・表現の観点： 1 . 時事問題についての論述が日本語でできる。

授業の計画(全体) 選ばれた15のテーマを主要記事の読解を中心に進める。一緒に収められている関連記事も取り上げながら全体的な解説を行い、内容確認の後、話し合いや意見交換を行う。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 グローバル文化社会と日本 内容 異文化理解と外国人問題
- 第 2 回 項目 若者の自立と雇用問題 内容 フリーターと失業問題
- 第 3 回 項目 ワークシェアリング 内容 労働の分かち合い
- 第 4 回 項目 サービス残業 内容 過労社会の実態
- 第 5 回 項目 日本型雇用慣行と成果主義 内容 過渡期の日本型雇用慣行
- 第 6 回 項目 郵政民営化 内容 民営化の諸問題
- 第 7 回 項目 経済学と環境問題 内容 経済発展と環境問題
- 第 8 回 項目 セーフガード 内容 緊急輸入制限措置と自由貿易
- 第 9 回 項目 コンビニ社会 内容 変貌する消費社会
- 第 10 回 項目 IT 社会 内容 IT の功罪
- 第 11 回 項目 肖像権と著作権 内容 権利の侵害と保護
- 第 12 回 項目 個人情報保護問題 内容 情報保護とメディア規制
- 第 13 回 項目 裁判員制度 内容 司法制度改革
- 第 14 回 項目 男女共同参画社会 内容 女性の社会進出度の実態
- 第 15 回 項目 現代日本の諸相 内容 討論

成績評価方法(総合) 毎回、主要記事の内容に関する質疑応答を行う。その後の話し合いや意見交換への参加度も重視される。出席率は勿論重要であり、特別な理由がない限り、7割以下の学生には単位を与えない。最後に、自分が最も関心の高かったテーマについて、1200字~1600字程度のレポートを作成し指定期日までに提出する。レポートを提出しない場合も単位は与えられない。

メッセージ 留学生の皆さんが楽しく有意義で実り多い学生生活を送れるよう、多方面から協力していきたいと思っています。質問や相談があれば気軽に C 103 室(留学生指導室)をお訪ねください。

連絡先・オフィスアワー k-shoko@yamaguchi-u.ac.jp 電話 (933)5562 研究室:経済学部 C103 室 オフィスアワー:木曜日 14時30分~16時

開設科目	国際協力論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	今津武				

授業の概要 グローバル化が進む中で、世界の国々の相互依存関係はますます強まっている。そうした状況の中ではすべての国が相互に協力しながら、貧困、食料、エネルギー、環境、感染症、地域紛争の拡大といった地球規模の課題（Global Issues）に対して取り組まなければならない。そうした世界情勢の中での日本を正確に把握することは、きわめて重要かつ有用となってきたが、どうしても情報量の多い欧米先進国を世界の標準モデルとして理解し議論するする傾向が見られる。しかし、世界人口 65 億人の 80 % は開発途上国にすむと推定されており、その意味では開発途上国への理解、そうした国々と先進諸国の関係のあり方を理解する必要が高まったと考えられる。本授業ではこうした世界情勢を展望し、今後日本が国際社会においてどのような貢献をしてゆくべきなのかを、政府開発援助（ODA）を中心に概観してゆく。 / 検索キーワード 国際協力、政府開発援助（ODA）、国際協力機構（JICA）

授業の一般目標 世界人口の約 80 % がすむ開発途上国の現状を理解し、そうした国々の貧困を初めとする深刻な課題に対し、先進諸国がどのように協力してゆくべきか、「何故、開発途上国への支援が必要なのか？」を考え、「開発途上国支援」が日本を含む先進諸国を含めた地球社会のあるべき姿や進むべき道を模索する上で、大きな示唆を与えるものであることを理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：貧困を中心とする世界の開発途上国の課題とそうした課題への日本を含む先進諸国の支援の必要性につき説明できる。 思考・判断の観点：開発途上国の課題やそのことが日本を含む先進国のあり方にどのように影響を与えるかといった点を踏まえ、21 世紀の世界の方向性を自らの考えとして説明する。 関心・意欲の観点：日常生活における国際社会との関わりに関心を持つ。 態度の観点：自らも参加できる国際協力活動に関心を持つ。

授業の計画（全体） (1) 開発途上国の貧困や食糧不足といった問題を考えるために必要な基礎知識を、歴史的背景、近年の国際関係を含み講義する。(2) 開発途上国の課題に対する先進諸国の取り組みを、包括的に講義する。(3) 可能な限り現場での経験や事例を含んだ講義とする。そのため JICA 中国国際センターの協力授業とし、援助事業に携わる JICA 職員、専門家、青年海外協力隊員として派遣経験のある方々を講師とする授業を 5 回計画する。(3) 開発途上国の問題と日本の国際社会における役割との関係をより多くの人々に理解していただくため、学外への「開放授業」とする。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス 内容 本講座の目標と実施方法・スケジュール説明、講義内容への希望聴取。途上国との関わりの中で考えたこと（35 年間の途上国支援業務を省みて）
- 第 2 回 項目 途上国援助の歴史と最近の潮流 内容 東西冷戦や南北問題を踏まえ、今途上国援助がどのような状況にあるかを説明。
- 第 3 回 項目 グローバル・イシューと MDGs 内容 21 世紀に入りグローバル化が加速してきたが、そうした中で国際社会は地球社会に向けてどのような取り組みをしているかを説明。
- 第 4 回 項目 日本の政府開発援助（ODA）の歴史と政策 内容 第 2 次世界大戦後の日本の復興は欧米諸国の支援で実現した。そうした経験を持つ日本の ODA の歴史と政策を、他の援助国を比較しつつ説明。
- 第 5 回 項目 ODA の実施体制と予算 内容 日本の ODA の仕組みとその予算などについて、世界と比較して説明。
- 第 6 回 項目 資金協力の実施と課題/テスト 1 内容 ODA の中から無償資金協力、有償資金協力（借款）について説明。第 5 週までの講義内容についてその理解度を測るための小テストを実施。
- 第 7 回 項目 国際協力機構（JICA）の歴史と役割 内容 日本の技術協力と無償資金協力を担う JICA についての説明。（JICA 職員を予定）
- 第 8 回 項目 技術協力の内容と課題 内容 技術協力の仕組みと現在までの成果、今後の課題を説明。（JICA 職員を予定）

- 第 9 回 項目 JICA 国内事業とパートナー・シップ 内容 JICA が地方自治体、NGO、大学などどのように連携して事業を進めているかの説明。(JICA 職員を予定)
- 第 10 回 項目 国際協力の現場からの報告 内容 技術協力専門家経験者等からの現地活動報告。
- 第 11 回 項目 青年海外協力隊の活動 内容 青年海外協力隊経験者からの活動報告。
- 第 12 回 項目 途上国援助の将来的意義 内容 途上国支援が日本をはじめとする先進諸国を含めた地球社会にとってどのような意味を持つのかを説明。
- 第 13 回 項目 授業全体を等しての質疑/小テスト 2 内容 授業全体を通しての受講者の疑問に答える。JICA 関係者からの講義のについてその理解度を測るための小テストを実施。
- 第 14 回 項目 学生からの発表 (1) 内容 12 週までに提出を求めたレポートに基づき、学生からこの授業で学んだ点の発表。
- 第 15 回 項目 学生からの発表 (2) 内容 12 週までに提出を求めたレポートに基づき、学生からこの授業で学んだ点の発表。

成績評価方法 (総合) (1) 授業の中で小テストを 2 回実施する。(2) 日本の国際貢献に関する 2000 字程度のレポートを作成し、第 12 回授業時に提出する。(3) 出席が所定の回数に満たない場合は、単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：教官の作成するレジメを使用する。 / 参考書：グローバル 8 つの物語 国際協力の足跡を追って、青木公他、国際開発ジャーナル社、1999 年； 転機の海外援助、緒方貞子編、NHK 出版、2005 年； 途上国ニッポンの歩み 江戸から平成までの経済発展、大野健一、有斐閣、2005 年； 国際協力用語集 (第 3 版)、国際開発ジャーナル社、2004 年； 地球市民をめざして、栗木千恵子、中央公論新社、2001 年； 世界の貧困 1 日 1 ドルで暮らす人々、ジェレミー・シーブルック、青土社、2006 年； 貧困の終焉 2025 年までに世界を変える、ジェフリー・サックス、早川書房、2006 年； 授業の進捗にあわせて、参考となる図書について逐次紹介する。

メッセージ 開発途上国のことや日本の政府開発援助 (ODA) については、よく理解できないとの声が聞かれます。本講義では国際協力やボランティア事業に携わった方々の現場からの報告を取り入れました。担当教員も 40 年近く途上国と関係する仕事をしてきましたので、分かり易く途上国の問題を考えるヒントを提供します。受講者がそれぞれの立場で途上国の課題や日本の役割についての意見交換を活発に行える授業にしたいと考えています。

連絡先・オフィスアワー E-mail: imazu@yamaguchi-u.ac.jp 研究室: 経済学部 C 棟 2 階 (C-218) オフィスアワー: 木曜日 午後 1 時 30 分 ~ 4 時 30 分

開設科目	経済発展論	区分	講義	学年	2~4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	松井範惇				

開設科目	経済発展論(旧)	区分	講義	学年	2~4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	前期
担当教官	松井範惇				

授業の概要 経済発展に関する主要なトピックについて学びます。途上国の経済成長、開発、貧困、工業化、農業発展、国際的側面、援助などについて研究する。特に、貧困、飢餓、飢饉について、それらの関係・原因・対策などについて総合的に考え、理論的な考察を行う。また、この授業では、単なる講義形式はとらず、出席者(つまり受講者)全員が、読み、書き、考え、討論に参加し、小試験を受けることによって、自ら考え、学ぶ態度を身につける、ことを目指す。自分の考えを発表し、読んだことをまとめて書く作業・能力は、一生 極めて大事です。/ 検索キーワード 開発、農業、工業化、貧困、飢餓、飢饉、アジア・アフリカ

授業の一般目標 開発途上国の諸問題について、自分で考えられるよう、より一層興味を持てるようにします。

授業の計画(全体) 1. 序、貧困、開発、飢餓 2. 人口 3. 緑の革命 4. 工業発展 1 5. 工業発展 2 6. 貿易とFDI 7. 飢饉の本質 8. 飢饉の理論: 気候と人口、エンタイトルメント・アプローチ 9. 天然資源、開発、政府 10. 戦争、国際関係 11. 中国 12. ODA 13. アジア経済危機 14. アジア経済の新動態 15. まとめ

成績評価方法(総合) 出席: 10%、小試験(2): 25%、25%、期末試験(または、プロジェクト) 40%

教科書・参考書 教科書: 開発経済学入門, 渡辺利夫, 東洋経済新報社, 2001年; 飢饉の理論, デブロー, 東洋経済新報社, 1999年

メッセージ 発展途上国のことについて好奇心の旺盛な人、学ぶことを学びたい人、大歓迎ですから、しっかりついてきて下さい。

連絡先・オフィスアワー 933 - 5530 npmatsui@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	国際環境保全論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	陳禮俊				

授業の概要 18世紀の産業革命以来、ヨーロッパを中心とした工業先進国は技術革新によって、工業生産性の向上を可能にし、驚異的な経済発展をもたらした。この産業革命は伝統的な自給自足の農業社会を、財貨に対する需要拡大を引き起こした工業化社会へと変換させ、人々に多大な富と豊かな生活様式を可能にした。それゆえ、発展途上国にとって、工業化は経済発展を加速させ、生活水準を向上させるために、最も有効な手段の一つだと考えられている。しがしながら、多くの発展途上国では、工業化過程の離陸（take off）段階では、環境保全のための政策的努力はしばしば無視され、キャッチアップを優先する産業政策は、汚染集約型重化学工業を優先して推進されるために、社会資本では産業基盤を優先して、生活基盤を軽視する傾向にある。環境への配慮を欠いたまま進められた急速な工業化や面的開発は、様々な公害・環境問題を引き起こした。一方、地球規模の環境問題の拡大に伴って、国際協力による緩和への道を探ることは人類共通の課題になりつつある。特に、地球温暖化問題に関する国際的取組みは、科学的知見の集積をふまえて、1980年代に国際政治問題化して以来、集中的に行われてきたが、発展途上国の義務に関してはなかなか合意が得られない。しかしながら、今後、発展途上国、特に、アジア地域が急速な経済発展に伴う二酸化炭素の排出量を急増させると予想されることから考えても、先進国のみならず途上国も、「持続的な開発（sustainable development）を損なわない範囲で、地球温暖化の抑制に向けて努力しなければならない。

授業の一般目標 本授業は「気候変動」憧悒鋤甯餹攬超 歔瓦寮 鮎羶瓦墨世困襪海箬砲靴燭あ 修里佑猶い蓮ぜ 華圓砲 韻襦峭餹歛 院廚琉媪韻叛嫩海鮪 韻氣擦襪閥 法ず餹攬超 歔瓦僚斗亓 鬢圈璽襪垢襪

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：国際環境保全問題の現状、影響及びその原因を理解する。 思考・判断の観点：国際環境保全問題を解決するための方策を考える。 関心・意欲の観点：国際環境保全問題への関心、理解及び発言内容を考察する。 態度の観点：積極的に出席し討議する。 技能・表現の観点：経済学の基礎知識を習得する。 その他の観点：他分野の知識との関連を探る。

授業の計画（全体） 経済学は環境問題の解決に役に立つのか。国際環境保全問題とは何か。国際環境保全問題はなぜ発生するか。値段のない環境には価値がないのか。環境の価値をどのようにとらえるべきか。環境の変化に対し、消費者はどのように行動するか。環境を保全するためにはどうしたらよいのか。これまでどのような環境政策が実施され、現在どのような政策が検討されているのか。政策手段を評価する基準は何か。また、地球規模の環境問題とは何か。その特徴は。地球環境保全の取り組みは、どこまで進んでいるか。いかなる仕組みをつくるべきか。これらの問題について、以下の視点から考察する。

成績評価方法（総合） 成績評価は基本的に、出席（40%）、課題レポート（30%）と期末試験（30%）で行う。

教科書・参考書 教科書：『アジア環境白書 1997/98』、日本環境会議「アジア環境白書編集委員会」編著、東洋経済新報社、1997年 / 参考書：『地球環境と経済-地球環境保全型経済システムをめざして-』、講座「地球環境3」、大來佐武郎監修、中央法規社、1990年；『地球環境キーワード』、植田和弘監修、有斐閣、1994年

連絡先・オフィスアワー 研究室:経済学部 A302室 電話:083-933-5526 E-mail:lichun@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	開発とジェンダー	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	横田伸子				

授業の概要 経済のグローバル化とともに、先進国、開発途上国を問わず女性の労働力化が急速に進展している。しかし、女性労働は、男性労働に対して「補助的」であったり、インフォーマルな労働として労働市場に編入された結果、差別的な低賃金や劣悪な待遇下におかれている。本講義では、「ジェンダーの視角」から、女性が「開発」や「経済発展」にどのように動員されてきたかを見ることで、「開発と貧困」の問題を新たに捉え直すことを目的とする。 / 検索キーワード ジェンダー、経済のグローバル化、性別役割分業、開発、経済発展、女性の労働力化

授業の一般目標 「ジェンダーの視角」から、女性が「開発」や「経済発展」にどのように動員されてきたかを見ることで、「開発と貧困」の問題を新たに捉え直すことを目的とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 「ジェンダー」という概念を正しく理解する。 2 「開発」や「経済発展」における女性の動員のされ方や役割について正しく理解する。 思考・判断の観点： 1 「ジェンダー」の概念を用いて、「開発」や「経済発展」における女性の動員のされ方や役割について論理的に説明できる。 関心・意欲の観点： 日常生活や一般社会に潜む「ジェンダー構造」について意識的に知ろうとする。 態度の観点： 講義に対する質問や自分の意見を提示するなど、講義に積極的に参加する。 技能・表現の観点： 「開発」や「経済発展」における女性の動員のされ方や役割について論理的に説明し、叙述できる。

授業の計画（全体） 1 「ジェンダー」という概念の説明 2 「近代家族の形成」とグローバリゼーション 3 . 日本における女性の就業と社会政策 4 . 国際連合の女性政策の展開過程 5 . 開発体制と女性動員 - 韓国の農村開発を中心に -

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 「ジェンダー」という概念 (1) 内容 「ジェンダー」という概念の新しさと意義について説明する
- 第 2 回 項目 「ジェンダー」という概念 (2) 内容 「ジェンダー」という概念の新しさと意義について説明する
- 第 3 回 項目 「近代家族」の形成とグローバリゼーション (1) 内容 産業革命以降の「近代家族」の形成と意味について論じる
- 第 4 回 項目 「近代家族」の形成とグローバリゼーション (2) 内容 戦後フォードイズム体制の下での「近代家族」体制の強化と福祉国家について論じる
- 第 5 回 項目 「近代家族」の崩壊とグローバリゼーション 内容 グローバリゼーションの進展の中で「近代家族」がどのように崩壊していったのか、それとともに福祉国家体制がいかに後退しているのかについて論じる
- 第 6 回 項目 日本における女性の就業と社会政策 (1) 内容 日本における女性の就業の特徴について論じる
- 第 7 回 項目 日本における女性の就業と社会政策 (2) 内容 日本における女性の就業の特徴について論じる
- 第 8 回 項目 日本における女性の就業と社会政策 (3) 内容 日本における女性の働き方を特徴づける社会政策について試みる
- 第 9 回 項目 国際連合の女性政策の展開過程 (1) 内容 国際連合の女性政策がこれまでどのように展開されてきて、それに沿う形で発展途上国の女性が「開発」にいかにか巻き込まれてきたのか歴史的に見る
- 第 10 回 項目 国際連合の女性政策の展開過程 (2) 内容 国際連合の女性政策がこれまでどのように展開されてきて、それに沿う形で発展途上国の女性が「開発」にいかにか巻き込まれてきたのか歴史的に見る

- 第 11 回 項目 国際連合の女性政策の展開過程 (3) 内容 国際連合の女性政策がこれまでどのように展開されてきて、それに沿う形で発展途上国の女性が「開発」にいかにか巻き込まれてきたのか歴史的に見る
- 第 12 回 項目 国際連合の女性政策の展開過程 (4) 内容 国際連合の女性政策がこれまでどのように展開されてきて、それに沿う形で発展途上国の女性が「開発」にいかにか巻き込まれてきたのか歴史的に見る
- 第 13 回 項目 開発体制と女性の動員 - 韓国の農村開発を中心に - (1) 内容 開発国家において女性が開発にいかにか動員され、どのような役割を果たしてきたのかについて、韓国の農村開発を例に取ってみてみる。
- 第 14 回 項目 開発体制と女性の動員 - 韓国の農村開発を中心に - (2) 内容 開発国家において女性が開発にいかにか動員され、どのような役割を果たしてきたのかについて、韓国の農村開発を例に取ってみてみる。
- 第 15 回 項目 開発体制と女性の動員 - 韓国の農村開発を中心に - (3) 内容 開発国家において女性が開発にいかにか動員され、どのような役割を果たしてきたのかについて、韓国の農村開発を例に取ってみてみる。

成績評価方法 (総合) 1 . 試験とレポート、講義に対する質問や意見などを総合的に判断する。 2 . 出席を重視する。 3 . 試験 60 %、授業への参加度 10 %、レポート 10 %、出席 20 %

教科書・参考書 参考書：男女共同参画社会を作る, 大沢真理, NHK ブックス, 2002 年；開発とジェンダー, 大沢真理他編, , 2002 年；福祉国家とジェンダー, 大沢真理編, 明石書店, 2003 年；後発工業国における女性労働と社会政策, 村上薫編著, アジア経済研究所, 2002 年

メッセージ 近年さかんに行われている「ジェンダー研究」は、性別を超えて人間としての生き方を根本から問い直す学問です。「自分らしく生きる」とはどういうことなのか、この授業で一緒に考えてみませんか。

連絡先・オフィスアワー E-mail:ynobuko@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp 研究室：経済学部 A 棟 425 オフィスアワーはとくに設けませんが、質問等があるときは在否を確認の上、訪ねてきてください。

開設科目	東アジア経済論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	尹春志				

授業の概要 東アジアは、歴史上まれに見る急成長をとげ、世界の工場といわれるまでになっている。この経済成長の過程には、日本経済と日本企業が重要な役割を果たしてきた。この講義では、東アジア地域の経済構造を、主に生産、貿易、投資、企業活動の観点から、可能な限り統計的な数値を用いて分析し、日本と東アジア経済の関係についての理解を深めることを目的としている。

授業の一般目標 東アジア経済は、どのように発展してきたのか、またそれは日本経済や日本企業とどのような関係にあるのかを理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：東アジア経済についての基本的な特徴を知り、日本と東アジアの経済的な結びつきを理解する。 思考・判断の観点：地域経済の分析に必要な統計数値とその読み方について学ぶ。

授業の計画（全体） 講義は、口述筆記形式で板書を多様する。また理解を深めるために、統計データや図表を付したプリントを配布する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イン트로 内容 講義全体の説明
- 第 2 回 項目 東アジアの経済成長の特徴 内容 輸出志向工業化
- 第 3 回 項目 東アジアの経済発展パターン (1) 内容 雁行形態論
- 第 4 回 項目 東アジアの経済発展パターン (2) 内容 雁行形態論
- 第 5 回 項目 東アジアの経済発展パターン (3) 内容 雁行形態論
- 第 6 回 項目 東アジア価値連鎖論 (1) 内容 新国際分業とグローバル価値連鎖
- 第 7 回 項目 東アジア価値連鎖論 (2) 内容 繊維産業
- 第 8 回 項目 東アジア価値連鎖論 (3) 内容 IT 関連財産業
- 第 9 回 項目 東アジア価値連鎖論 (4) 内容 自動車産業
- 第 10 回 項目 東アジアにおける日系多国籍企業
- 第 11 回 項目 東アジアにおける日系多国籍企業
- 第 12 回 項目 東アジアにおける国家の役割
- 第 13 回 項目 中国経済と日本 (1)
- 第 14 回 項目 中国経済と日本 (2)
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法（総合） 授業内容を理解しているかどうか、それを論理的な文章で表現できているかどうかで評価を行う。例年の試験で多く見受けられるのは、板書したことを羅列する答案である。しかし、板書するものは、要約的なものにすぎないので、それを丸暗記して書き移すだけでは十分ではない。板書した内容を自ら文章で論じる力が試験合格の最低基準である。

教科書・参考書 教科書：特に指定しない。 / 参考書：授業中に必要に応じて指示する。

開設科目	東アジア社会経済	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	李海峰				

授業の概要 東アジア社会経済は世界的に注目されています、経済の発展と共に社会はどのように変化しているのか、マクロ的には国際社会経済との関連を考察しながら、市場経済化に伴う経済社会の変化を統計データ、実態調査から検討する、/検索キーワード 東アジア経済、社会の変化、

授業の一般目標 中国の社会経済と国際化の実態分析を通して、中国と日本および他の東アジア諸国との経済、ビジネスにおける競争・協力関係を検討し、国際的に活躍できる人材の育成をめざす。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 計画経済から市場経済への転換
- 第 2 回 項目 中国経済の発展と東アジアの社会経済
- 第 3 回 項目 中国と ASEAN
- 第 4 回 項目 中国と香港・台湾
- 第 5 回 項目 中国の情報技術産業の育成
- 第 6 回 項目 中国の自動車産業
- 第 7 回 項目 社会主義市場経済と国有企業の改革
- 第 8 回 項目 中国の金融システムの変革と現状
- 第 9 回 項目 中国の株式市場
- 第 10 回 項目 世界市場環境と中国
- 第 11 回 項目 欧米、日本企業の中国への進出、競争
- 第 12 回 項目 消費生活から見た中国の社会経済変化
- 第 13 回 項目 地域的、階層的格差の拡大
- 第 14 回 項目 開発と環境汚染
- 第 15 回 項目 東アジア社会経済の今後の課題

教科書・参考書 教科書：講義の際に指示する / 参考書：講義の際に指示する

メッセージ 東アジア社会経済の変化を考察し、日本経済の今後を考えよう、

連絡先・オフィスアワー 研究室

開設科目	韓国経済論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	横田伸子				

授業の概要 1. 第二次世界大戦後の世界資本主義体制の構造変化の中で、東アジア地域では、韓国、台湾が「東アジアの奇跡」と呼ばれる高度成長を遂げた。本講義では、1960年代後半以降の韓国経済の発展のメカニズムを、国内的条件、国際的条件の両側面から歴史的に見ていく。とくに、開発政策を通じて強力な国家が果たした役割と、その結果、韓国経済・社会の構造外貨に変わったかについて注目したい。2. 1997年の東アジア経済危機後の東アジアの就業体制及び社会福祉体制の変化を韓国と日本の比較を通してみる。この際、ジェンダーの視角を交えて考察する。/ 検索キーワード 韓国経済、組立型工業化、就業体制、社会福祉体制、ジェンダーの視角、経済危機

授業の一般目標 1. 韓国の経済発展メカニズムについて考える。2. 日韓の就業体制と社会福祉体制の変化を歴史的、構造的に捉える。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：1. 韓国経済の発展のメカニズムについて論理的に理解する。2. 日韓の就業体制の特徴と共通点を歴史的・構造的に理解する。3. 日韓の社会福祉体制の特徴と共通点を歴史的・構造的に理解する。思考・判断の観点：1. 韓国経済の発展のメカニズムについて論理的に説明できる。2. 日韓の就業体制の特徴と共通点を体系立てて説明できる。3. 日韓の社会福祉体制の特徴と共通点を体系立てて説明できる。関心・意欲の観点：1. 経済だけでなく、日常的に韓国の政治、文化、歴史や社会について関心を持つ。2. 歴史的に、同じ東アジア文化圏にある日本と韓国を比較・対照する視点を持つ。態度の観点：1. 本講義に対して質問や自分の意見を提示するなど、講義に積極的に参加する。技能・表現の観点：1. 韓国経済の発展のメカニズムについて論理的に叙述できる。2. 日韓の就業体制の特徴と共通点を体系立てて叙述できる。3. 日韓の社会福祉体制の特徴と共通点を体系立てて叙述できる。

授業の計画(全体) 1. 韓国経済を見る視角 2. 韓国経済の発展メカニズムに対する分析 3. 「IMF 経済危機」と韓国の就業体制と「失われた10年」以降の日本の就業体制の比較 4. 「IMF 経済危機」以降の韓国の社会福祉体制と「失われた10年」以降の日本の社会福祉体制比較

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 韓国経済を見る視角 内容 韓国の経済発展を様々な立場の論者がどのように見てきたのかを紹介する。その中で本講義の視角を定めていく。
- 第2回 項目 韓国の農地改革と農村開発 内容 韓国の経済発展の始発点で、韓国の農地改革が農村開発及び経済発展にどのような役割を果たしたのかを見る。
- 第3回 項目 1950年代の韓国の工業化 内容 高度経済成長の前段階の1950年代の工業化を通して、発展の前提条件がどのように形成されたかを見る。
- 第4回 項目 開発体制の成立と「組立型工業化」(1) 内容 韓国における政府主導型の開発体制と発展戦略である「組立型工業化」の仕組みを詳しく見ていく。
- 第5回 項目 開発体制の成立と「組立型工業化」(2) 内容 韓国における政府主導型の開発体制と発展戦略である「組立型工業化」の仕組みを詳しく見ていく。
- 第6回 項目 農村開発とセマウル運動(1) 内容 1950年代から60年代にかけて形成された農村開発の発展条件は、70年代のセマウル運動という農村振興運動によって一気に開花させられた。その展開過程を跡づける。
- 第7回 項目 農村開発とセマウル運動(2) 内容 1950年代から60年代にかけて形成された農村開発の発展条件は、70年代のセマウル運動という農村振興運動によって一気に開花させられた。その展開過程を跡づける。
- 第8回 項目 「韓国型」重化学工業化(1) 内容 韓国の高度経済成長は、重化学工業化によって主導された。このような急速な重化学工業化がなぜ可能であったのか? 「韓国型」重化学工業化戦略を考察する。

- 第 9 回 項目「韓国型」重化学工業化(2) 内容 韓国の高度経済成長は、重化学工業化によって主導された。このような急速な重化学工業化がなぜ可能であったのか? 「韓国型」重化学工業化戦略を考察する。
- 第 10 回 項目 1970 年代の韓国の都市化と労働市場 内容 1970 年代の韓国の高度経済成長を支えたのは、農村から都市へ大量に流入した「低賃金」労働力であった。韓国の「低賃金体制」の実態を「都市下層」という概念を用いて論じる。
- 第 11 回 項目 労働者大闘争と韓国の労働市場の構造変化 内容 韓国労働運動史上の画期をなした 1987 年の「労働者大闘争」以前と以降の労働市場構造の変化を考察する。
- 第 12 回 項目「IMF 経済危機」と経済構造改革(1) 内容 1997 年の「IMF 経済危機」を契機に展開された経済構造改革について、主に金融改革と財閥改革を中心に見ていく。
- 第 13 回 項目「IMF 経済危機」と経済構造改革(2) 内容 1997 年の「IMF 経済危機」を契機に展開された経済構造改革について、主に金融改革と財閥改革を中心に見ていく。
- 第 14 回 項目 1990 年代以降の日韓「就業体制」の比較分析 内容 1990 年代以降、経済のグローバル化が進展し、日韓ともに労働市場が急速に柔軟化した。この過程で、人々の「働き方」を規定する「就業体制」は、日韓両国でどのように変化したのか、とくにジェンダーの視角から考察したい。
- 第 15 回 項目 1990 年代以降の日韓の「社会福祉体制」の比較分析 内容 1990 年代以降、日韓両国で労働市場が急速に柔軟化し、労働力の非正規化が進んだ。これと同時に新貧困の登場と「社会的排除」が社会問題化する。これに対し、日韓両国では、いかなる「社会福祉体制」を構築したのか、ジェンダーの視角から考察する。

成績評価方法(総合) 1. 試験とレポート、講義に対する質問や意見などを総合的に判断する。 2. 出席を重視する。 3. 試験 60%、レポート 10%、授業への参加度 10%、出席 20%。

教科書・参考書 参考書：韓国の経済, 隅谷三喜男, 岩波書店, 1976 年; 韓国の工業化 - 発展の構図 -, 服部民夫, アジア経済研究所, 1987 年; NIES - 世界システムと開発 -, 平川均, 同文館, 1992 年; 韓国・先進国経済論, 深川由紀子, 日本経済新聞社, 1997 年; 東アジアの福祉戦略, 大沢真理編, ミネルヴァ書房, 2004 年

メッセージ 韓国社会経済の発展のダイナミクスの源を、政治経済的な側面だけでなく、歴史や文化、あるいは人々の生活の実態の中から探ってみたいと思います。

連絡先・オフィスアワー e-mail:ynobuko@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワーはとくに設けません。質問等があるときは、在否を確認の上、研究室を訪ねてきてください

開設科目	中国経済論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	陳建平				

授業の概要 1970年代末から20数年間にわたり、中国は改革開放路線を押し進める一方、経済成長を維持してきた。かつて同じ計画経済システムを採用した旧ソ連諸国や東欧諸国に比べて、中国の経済状況が比較的良好的なパフォーマンスを示し得たのは、ひとえに漸進的な改革路線と対外開放路線のおかげだと言っても過言ではない。しかし、改革開放までの約30年間わたる計画経済時代の投資蓄積がなければ、中国の経済成長がこれほどまでに長期に継続できたとも思えない。本講義では、新中国建国後の社会主義計画経済時代の経済発展を振り返り、ここ20年の中国の改革開放路線の展開を軸に、社会主義市場経済体制の確立に向けての歩みと、経済成長のダイナミズムを検証し、21世紀の中国の課題と展望について考える。

授業の一般目標 中国経済の歴史や現状についての知識を習得し、改革前の計画経済期と改革後の改革開放期との関係を理解し、国際経済における中国経済の位置付けや中国経済の今後の見通しについて、自分の意見が言える。

授業の計画(全体) 一、歴史と現在 1、工業化の進展 2、社会主義化と計画経済 3、改革開放と市場化 二、発展と課題 1、農村経済の発展と三農問題 2、国有企業改革 3、地域政策と地域格差 4、財政体制と中央地方の関係 5、失業、貧困および所得格差 6、人口と社会保障 三、世界の中の中国 1、貿易大国の実像 2、中国の対外投資 3、兩岸三地 香港、台湾と中国大陸 4、北東アジアと中国 四、中国経済の行方

成績評価方法(総合) 出席、課題レポート、期末試験を総合して評価する。

教科書・参考書 教科書：中国経済論, 加藤弘之, 上原一慶, ミネルヴァ書房, 2004年

開設科目	中国経済論(旧)	区分	講義	学年	2~4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	前期
担当教官	陳建平				

授業の概要 1970年代末から20数年間にわたり、中国は改革開放路線を押し進める一方、経済成長を維持してきた。かつて同じ計画経済システムを採用した旧ソ連諸国や東欧諸国に比べて、中国の経済状況が比較的良好的なパフォーマンスを示し得たのは、ひとえに漸進的な改革路線と対外開放路線のおかげだと言っても過言ではない。しかし、改革開放までの約30年間わたる計画経済時代の投資蓄積がなければ、中国の経済成長がこれほどまでに長期に継続できたとも思えない。本講義では、新中国建国後の社会主義計画経済時代の経済発展を振り返り、ここ20年の中国の改革開放路線の展開を軸に、社会主義市場経済体制の確立に向けての歩みと、経済成長のダイナミズムを検証し、21世紀の中国の課題と展望について考える。 / 検索キーワード 中国経済、東アジア社会

授業の一般目標 中国経済の歴史や現状についての知識を習得し、改革前の計画経済期と改革後の改革開放期との関係を理解し、国際経済における中国経済の位置付けや中国経済の今後の見通しについて、自分の意見が言える。

授業の計画(全体) 一、歴史と現在 1、工業化の進展 2、社会主義化と計画経済 3、改革開放と市場化 二、発展と課題 1、農村経済の発展と三農問題 2、国有企業改革 3、地域政策と地域格差 4、財政体制と中央地方の関係 5、失業、貧困および所得格差 6、人口と社会保障 三、世界の中の中国 1、貿易大国の実像 2、中国の対外投資 3、兩岸三地 香港、台湾と中国大陸 4、北東アジアと中国 四、中国経済の行方

成績評価方法(総合) 出席、課題レポート、期末試験を総合して評価する。

教科書・参考書 教科書：中国経済論, 加藤弘之・上原一慶, ミネルヴァ書房, 2004年

メッセージ よくノートをとって、必ず整理しておくように。また、メディア等における中国関係の情報にも関心を持つように。

開設科目	中国経済史	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	李海峰				

授業の概要 現代の中国社会経済史を中心に講義する。社会主義「計画経済」(1949 - 1978年)と社会主義「市場経済」(1978年-今日)について、検討する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 社会経済の概況について、
- 第2回 項目 改革開放以前の社会経済状況
- 第3回 項目 経済復興期
- 第4回 項目 第一次5ヵ年経済計画
- 第5回 項目 大躍進(1958 - 1960)
- 第6回 項目 内陸部の工業発展
- 第7回 項目 国際関係の変化(1972 - 1979)
- 第8回 項目 米中関係、日中国交回復
- 第9回 項目 「改革開放」
- 第10回 項目 市場経済の理論
- 第11回 項目 経済高度成長と社会の変化
- 第12回 項目 技術革新と社会経済
- 第13回 項目 産業構造の変化
- 第14回 項目 生活水準の変化と格差
- 第15回 項目 歴史的に分析した結果から今後への展望

教科書・参考書 教科書：一回目の講義の際に指示する。 / 参考書：一回目の講義の際に指示する。

開設科目	中国経済事情	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	陳建平				

授業の概要 中国経済は1980年から先進国の市場経済の導入、いわゆる「改革・開放」政策が実施されて以来、25年間のGDPの平均成長率は9.5%で、世界およびアジア経済において無視できない存在となっている。「世界の工場」とされていた中国はもはや「世界の市場」となりつつある。この講義では中国経済の最新事情を紹介する。

授業の一般目標 中国のホットな話題ををピックアップし、最近の中国経済事情と共に、人々の関心や社会的な出来事の分析を通じて、中国の実情への理解を深める。

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 中国の国土と人口構造
- 第2回 項目 「改革・開放」政策の実施と経済高度成長
- 第3回 項目 国内の経済格差
- 第4回 項目 市場開放と規制緩和
- 第5回 項目 行政組織と外資の参入
- 第6回 項目 技術導入と外資企業の直接投資
- 第7回 項目 産業構造の変化
- 第8回 項目 国有企業の改革と社会問題
- 第9回 項目 農村の近代化と農村市場
- 第10回 項目 金融システムの改革
- 第11回 項目 華人経済ネットワークと中国経済
- 第12回 項目 日中経済関係と日本企業の経営環境
- 第13回 項目 西部開発と経済高度成長の持続
- 第14回 項目 中国市場の変化とアジア経済、世界経済
- 第15回 項目 中国消費市場の展望と日本企業の今後の課題

成績評価方法（総合） 出席とレポートを総合して評価する。

教科書・参考書 参考書：参考書、資料などは講義の際に随時配布、指示する

經濟法学科

開設科目	法学 Ia	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	上杉信敬				

授業の概要 私達は国家や社会の一員として生活している。一人一人の人間は自由でなければならないが、社会生活への責任も果たさなければならない。法はこのような人間社会の調整役を行ない、一定のルールを定めて円滑な社会生活を可能にしている。

授業の一般目標 本講義は、「法とは何か」といったことから始めて、社会政策や個人の生活がどのような法的枠組みの下に営まれているのかについて概観し、現代社会における法のあり方を大まかにつかんでもらうための講義である。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス
- 第 2 回 項目 法の仕組み 1 内容 法とは何か
- 第 3 回 項目 法の仕組み 2 内容 法の発展
- 第 4 回 項目 法の仕組み 3 内容 法と裁判
- 第 5 回 項目 法の仕組み 4 内容 裁判の基準
- 第 6 回 項目 法の仕組み 5 内容 法の解釈
- 第 7 回 項目 市民と法 1 内容 犯罪と刑罰
- 第 8 回 項目 市民と法 2 内容 家族と法
- 第 9 回 項目 市民と法 3 内容 契約の自由
- 第 10 回 項目 市民と法 4 内容 財産
- 第 11 回 項目 市民と法 5 内容 損害賠償
- 第 12 回 項目 市民と法 6 内容 生存と環境保護
- 第 13 回 項目 市民と法 7 内容 労働者の権利
- 第 14 回 項目 市民と法 8 内容 生活の保障
- 第 15 回 項目 市民と法 9 内容 経済生活と法

成績評価方法（総合） 筆記試験による

教科書・参考書 教科書：法学入門〔第 5 版補訂 2 版〕, 末川 博, 有斐閣, 2005 年

開設科目	法学 Ib	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	土生 英里				

授業の概要 この講義は、法律の各専門科目を学ぶために必要不可欠な法律に関する基本的な用語・概念を理解すると共に、社会においてどのような法律が存在し機能しているかを説明することにより、教養としての法律学（経済社会における法的問題に対する処理能力）の基礎を学習する。

授業の一般目標 法学の基本的な考え方、概念、実定法の体系等について理解することを目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：法律学の基礎的知識の習得。 思考・判断の観点：法的な問題処理能力の涵養。 関心・意欲の観点：社会に生起する法的問題を的確に把握する。 態度の観点：日常生活の中での法律行為が認識できる。 技能・表現の観点：法学の世界に特有の専門用語のうち、基本的なものを理解する。

授業の計画（全体） 1．はじめに 2．法とは何か 3．法の発展 4．法の分類 5．国家と法 6．日常生活と法 7．犯罪と法 8．財産関係と法-1 9．財産関係と法-2 10．家族と法 11．経済活動と法-1 12．経済活動と法-2 13．裁判制度と法 14．国際問題と法 15．試験

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに 法学を学ぶ目的 法学の全体像
- 第 2 回 項目 法とは何か
- 第 3 回 項目 法の発展
- 第 4 回 項目 法の分類
- 第 5 回 項目 国家と法 (1) 憲法 (2) 行政法
- 第 6 回 項目 日常生活と法
- 第 7 回 項目 犯罪と法 (1) 刑法 (2) 構成要件 (3) 刑事手続き
- 第 8 回 項目 財産関係と法-1 (1) 取引の主体 (2) 取引の客体
- 第 9 回 項目 財産関係と法-2 (1) 契約 (2) 不法行為
- 第 10 回 項目 家族と法 民法（親族・相続）
- 第 11 回 項目 経済活動と法-1 (1) 商法 (2) 経済法
- 第 12 回 項目 経済活動と法-2 (1) 社会法 (2) 労働法の体系
- 第 13 回 項目 裁判制度と法
- 第 14 回 項目 国際問題と法 (1) 国際法の必要性 (2) 国際法上の権利義務 (3) 国際法と国内法 (4) 国際法の発達
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法（総合） 期末試験（短答式）による。各回の講義内容から必ず一問出題する。8 回以上欠席した者については期末試験の受験資格を認めない（受験しても不合格となる）。

教科書・参考書 教科書：現代法学入門（第 4 版）、伊藤正巳他編、有斐閣、2005 年；適宜プリントを配布する / 参考書：「図解による法律用語辞典」自由国民社 2006 年

メッセージ 法律は人が生まれてから死ぬまで、生活に密着して存在しています。日常生活の中で意識されない法の存在を、講義を通して再認識するよう、頑張ってください。

連絡先・オフィスアワー e.habu@yamaguchi-u.ac.jp 経済学部 A 棟 410 号室

開設科目	法学 Ic	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	土生 英里				

授業の概要 この講義は、法律の各専門科目を学ぶために必要不可欠な法律に関する基本的な用語・概念を理解すると共に、社会においてどのような法律が存在し機能しているかを説明することにより、教養としての法律学（経済社会における法的問題に対する処理能力）の基礎を学習する。

授業の一般目標 法学の基本的な考え方、概念、実定法の体系等について理解することを目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：法律学の基礎的知識の習得。 思考・判断の観点：法的な問題処理能力の涵養。 関心・意欲の観点：社会に生起する法的問題を的確に把握する。 態度の観点：日常生活の中での法律行為が認識できる。 技能・表現の観点：法学の世界に特有の専門用語のうち、基本的なものを理解する。

授業の計画（全体） 1．はじめに 2．法とは何か 3．法の発展 4．法の分類 5．国家と法 6．日常生活と法 7．犯罪と法 8．財産関係と法-1 9．財産関係と法-2 10．家族と法 11．経済活動と法-1 12．経済活動と法-2 13．裁判制度と法 14．国際問題と法 15．試験

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに 法学を学ぶ目的 法学の全体像
- 第 2 回 項目 法とは何か
- 第 3 回 項目 法の発展
- 第 4 回 項目 法の分類
- 第 5 回 項目 国家と法 (1) 憲法 (2) 行政法
- 第 6 回 項目 日常生活と法
- 第 7 回 項目 犯罪と法 (1) 刑法 (2) 構成要件 (3) 刑事手続き
- 第 8 回 項目 財産関係と法-1 (1) 取引の主体 (2) 取引の客体
- 第 9 回 項目 財産関係と法-2 (1) 契約 (2) 不法行為
- 第 10 回 項目 家族と法 民法（親族・相続）
- 第 11 回 項目 経済活動と法-1 (1) 商法 (2) 経済法
- 第 12 回 項目 経済活動と法-2 (1) 社会法 (2) 労働法の体系
- 第 13 回 項目 裁判制度と法
- 第 14 回 項目 国際問題と法 (1) 国際法の必要性 (2) 国際法上の権利義務 (3) 国際法と国内法 (4) 国際法の発達
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法（総合） 期末試験（短答式）による。各回の講義内容から必ず一問出題する。8 回以上欠席した者については期末試験の受験資格を認めない（受験しても不合格となる）。

教科書・参考書 教科書：現代法学入門（第 4 版）、伊藤正巳他編、有斐閣、2005 年；適宜プリントを配布する / 参考書：「図解による法律用語辞典」自由国民社 2006 年

メッセージ 法律は人が生まれてから死ぬまで、生活に密着して存在しています。日常生活の中で意識されない法の存在を、講義を通して再認識するよう、頑張ってください。

連絡先・オフィスアワー e.habu@yamaguchi-u.ac.jp 経済学部 A 棟 410 号室

開設科目	法学 IIa	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	油納健一				

授業の概要 この授業は経済学部の基盤科目の一つであり、この授業を履修することで、専門科目としての法律学のうち私法に属する科目の学習に必要な基礎知識を得ることができる。内容としては、民法総則が中心となるが、あわせて損害賠償法についてのごく初歩的なことがらも扱う。

授業の一般目標 民法総則の基礎知識を習得し、あわせて損害賠償法についてのごく初歩的なことについて理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 民法の位置づけを理解する。法律用語を正確に理解する。民法総則に関する諸概念・諸制度を理解する。債務不履行や不法行為法についてのごく初歩的な知識を身につける。 **思考・判断の観点：** 事実に法を当てはめて答えを導き出す能力を身につける。 **関心・意欲の観点：** きちんと予習・復習をする習慣を身につける。 **態度の観点：** 私語などにより授業を妨害しない。

授業の計画（全体） 学習する項目は以下の通り。公法と私法、一般法と特別法、実体法と手続法、法源（制定法、慣習、条理、判例）、民法の基本原則（個人の平等と権利主体性、所有権絶対の原則、契約自由の原則、過失責任の原則）とその修正、私権行使についての原則（公共の福祉の原則、信義則、権利濫用の禁止）、権利能力（自然人、法人）、意思能力、行為能力、意思表示と法律行為、任意規定と強行規定、無効と取消の区別、無効原因と取消原因についての概観、代理、無権代理と表見代理、条件と期限、時効、債権とは何か、債務不履行、不法行為。教科書に従って講義を行ない、レジュメは配らない。

成績評価方法（総合） 出席と期末試験による。試験は基本的な内容を中心とするため、試験の持込は認めない。また、試験の範囲は、講義の中で話したことすべて（雑談を除く）とする。また、3分の2以上出席しなければ、定期試験の受験を認めない。遅刻・早退は欠席とみなす。また風邪や家庭の事情等で遅刻・早退・欠席した者に対して、救済することはない。なお、欠席とみなされたにもかかわらず出席を認めるようにしつつこく主張したり、雑談・筆談して講義を妨害するなど、教員の指示に従わない者は不合格とする。

教科書・参考書 教科書：未定。最初の講義で紹介する。 / 参考書：適宜指示する。

連絡先・オフィスアワー yuno@yamaguchi-u.ac.jp 毎日研究室にいる。在室中は急用がある場合を除きいつでも相談に応じる。

開設科目	法学 IIb	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	中村 美紀子				

授業の概要 この授業は経済学部の基盤科目の一つであり、この授業を履修することで、専門科目としての法律学のうち私法に属する科目の学習に必要な基礎知識を得ることができる。内容としては、民法総則が中心となるが、あわせて損害賠償法についてのごく初歩的なことがらも扱う。 / 検索キーワード 法学, 民法, 民法総則

授業の一般目標 民法総則の基礎知識を習得し、あわせて損害賠償法についてのごく初歩的なことについて理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 民法の位置づけを理解する。法律用語を正確に理解する。民法総則に関する諸概念・諸制度を理解する。債務不履行や不法行為法についてのごく初歩的な知識を身につける。 **思考・判断の観点：** 事実に法を当てはめて答えを導き出す能力を身につける。 **関心・意欲の観点：** きちんと予習・復習をする習慣を身につける。 **態度の観点：** 私語などにより授業を妨害しない。

授業の計画 (全体) 学習する項目は以下の通り。公法と私法、一般法と特別法、実体法と手続法、法源 (制定法、慣習、条理、判例)、民法の基本原則 (個人の平等と権利主体性、所有権絶対の原則、契約自由の原則、過失責任の原則) とその修正、私権行使についての原則 (公共の福祉の原則、信義則、権利濫用の禁止)、権利能力 (自然人、法人)、意思能力、行為能力、意思表示と法律行為、任意規定と強行規定、無効と取消の区別、無効原因と取消原因についての概観、代理、無権代理と表見代理、条件と期限、時効、債権とは何か、債務不履行、不法行為

成績評価方法 (総合) 期末試験による。

教科書・参考書 教科書：未定。 / 参考書：民法1総則・物権総論 (第3版), 内田貴, 東京大学出版会, 2005年; スタートライン債権法 (第4版), 池田真朗, 日本評論社, 2005年

メッセージ 教材については後期開始前に提示します。講義回数の70%以上の出席者に期末試験受験を認めます。ただし出席回数については自己管理を行ってください。

連絡先・オフィスアワー 研究室C棟209, オフィスアワー火曜日 10:20 - 11:50。

開設科目	法学 IIc	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	吉川信将				

授業の概要 この授業は経済学部の基盤科目の一つであり、この授業を履修することで、専門科目としての法律学のうち私法に属する科目の学習に必要な基礎知識を得ることができる。内容としては、民法総則を中心となるが、あわせて損害賠償法についてのごく初歩的なことがらも取り扱う。

授業の一般目標 民法総則の基礎知識を習得し、あわせて損害賠償法のごく初歩的なことがらについて理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 民法の位置づけを理解する。基本的な法律用語を正確に理解する。民法総則に関する諸概念・諸制度を理解する。債務不履行や不法行為法についてごく初歩的な知識を身につける。 **思考・判断の観点：** 事実に法を当てはめて答えを導き出す能力を身につける。 **関心・意欲の観点：** きちんと予習・復習する習慣を身につける。 **態度の観点：** 受講に専念できるようになる（私語厳禁。携帯電話・メールの利用禁止）。

授業の計画（全体） 学習する項目は以下の通り。公法と私法、一般法と特別法、実体法と手続法、法源（制定法、慣習、条理、判例）、民法の基本原則（個人の平等と権利主体性、所有権絶対の原則、契約自由の原則、過失責任の原則）とその修正、私権行使についての原則（公共の福祉の原則、信義則、権利濫用の禁止）、権利能力（自然人、法人）、意思能力、行為能力、意思表示と法律行為、任意規定と強行規定、無効と取消の区別、無効原因と取消原因についての概観、代理、無権代理と表見代理、条件と期限、時効、債権とは何か、債務不履行、不法行為

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス、公法と私法、一般法と特別法
- 第 2 回 項目 法源（制定法、慣習、条理、判例）、民法の基本原則（個人の平等と権利主体性、所有権絶対の原則、契約自由の原則、過失責任の原則）とその修正
- 第 3 回 項目 私権行使についての原則（公共の福祉の原則、信義則、権利濫用の禁止）
- 第 4 回 項目 権利能力（自然人、法人）
- 第 5 回 項目 意思能力、行為能力
- 第 6 回 項目 意思表示と法律行為
- 第 7 回 項目 任意規定と強行規定
- 第 8 回 項目 無効原因と取消原因についての概観
- 第 9 回 項目 代理、無権代理と表見代理
- 第 10 回 項目 条件と期限、時効
- 第 11 回 項目 債権とは何か
- 第 12 回 項目 債務不履行
- 第 13 回 項目 不法行為（その 1）
- 第 14 回 項目 不法行為（その 2）
- 第 15 回 項目 期末試験

成績評価方法（総合） 試験を主とし、出席及び受講態度を加味して評価する。

教科書・参考書 教科書：開講時に連絡、あるいは開講時までに掲示する / 参考書：六法必携。他の参考文献は適宜講義時に紹介する。

メッセージ 数ある法律の中で最重要なものの一つである民法総則が中心となりますが、講義時間が限られています。受講者の積極的な予・復習が望まれます。

連絡先・オフィスアワー C 棟 2 2 4 研究室（オフィスアワーは授業時間の後に設ける予定です。開講時に連絡します。）

開設科目	憲法 I	区分	講義	学年	2～4 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	立山紘毅				

授業の概要 憲法学全般のうち、総論および統治機構について講義を行う。ここでは、単に基本原理を学ぶだけでなく、その実態にも十分目を向けていく。したがって、単なる暗記科目ではないことに留意されたい。同時に、近年よく議論される憲法訴訟論もこの講義で扱う。

授業の一般目標 外国における制度・理論・実態の比較を通じて、通説・最高裁判例も学問的な見地から厳しく吟味していくこととする。したがって、「法科大学院向け教科書」と称するものが往々にして行っているような「最高裁判決の『解釈』」では終わらないことに留意されたい。これを通じて、真に応用的能力というべきものを養うことを目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：憲法の基本的原理・思考法の習得と、その応用的な発展。 思考・判断の観点：基本原理から実際に生じうる問題への応用的な展開。 関心・意欲の観点：現実に生起する問題を「憲法の眼」から批判的に考察するに足り関心。 態度の観点：出席が真摯であるか、自主的に質問等を発するかどうか。 技能・表現の観点：正確で論理的な日本語読み書き能力。これは法律学のみならず大学教育全般の問題である。 その他の観点：法律学以外の多方面・他分野への旺盛な関心が必要である。

授業の計画（全体） 基本的に講義を中心として行うが、かなり頻繁に指名して発言を求めることがある。その問答を通じて問題の所在を明らかにし、応用的な能力を養って行くので、日頃から予習・復習をしっかりやっておくとともに、折々の話題や問題について新聞等で関心を広げておくこと。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 憲法の基本原理（1） 授業外指示 予習・復習・新聞等の閲読
- 第 2 回 項目 憲法の基本原理（2） 授業外指示 予習・復習・新聞等の閲読
- 第 3 回 項目 憲法の基本原理（3） 授業外指示 予習・復習・新聞等の閲読
- 第 4 回 項目 国民主権と国法体系の変動（1） 授業外指示 予習・復習・新聞等の閲読
- 第 5 回 項目 国民主権と国法体系の変動（2） 授業外指示 予習・復習・新聞等の閲読
- 第 6 回 項目 国民主権と国法体系の変動（3） 授業外指示 予習・復習・新聞等の閲読
- 第 7 回 項目 国民主権の理想と実態（1） 授業外指示 予習・復習・新聞等の閲読
- 第 8 回 項目 国民主権の理想と実態（2） 授業外指示 予習・復習・新聞等の閲読
- 第 9 回 項目 国民主権の理想と実態（3） 授業外指示 予習・復習・新聞等の閲読
- 第 10 回 項目 国民主権の理想と実態（4） 授業外指示 予習・復習・新聞等の閲読
- 第 11 回 項目 国民主権の理想と実態（5） 授業外指示 予習・復習・新聞等の閲読
- 第 12 回 項目 国民主権の理想と実態（6） 授業外指示 予習・復習・新聞等の閲読
- 第 13 回 項目 平和主義の理想と現実（1） 授業外指示 予習・復習・新聞等の閲読
- 第 14 回 項目 平和主義の理想と現実（2） 授業外指示 予習・復習・新聞等の閲読
- 第 15 回 項目 平和主義の理想と現実（3） 授業外指示 予習・復習・新聞等の閲読

成績評価方法（総合） 原則として、期末試験だけで評価する。実社会では「結果がすべて」というのが一般的である。

教科書・参考書 教科書：芦部信喜『憲法』（岩波書店） / 参考書：小六法または模範六法の持参は必須。また、毎日、新聞を読むこと。

メッセージ 先輩からのうわさどおり、評価は相当厳しいので心してかかること。

連絡先・オフィスアワー tateyama@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	憲法 II	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	立山紘毅				

授業の概要 憲法 I を受講・単位取得を前提として、人権論について講義を行う。ここでは、単に基本原理を学ぶだけでなく、その実態にも十分目を向けていく。したがって、単なる暗記科目ではないことに留意されたい。

授業の一般目標 外国における制度・理論・実態の比較を通じて、通説・最高裁判例も学問的な見地から厳しく吟味していくこととする。したがって、「法科大学院向け教科書」と称するものが往々にして行っているような「最高裁判決の『解釈』」では終わらないことに留意されたい。これを通じて、真に応用的能力というべきものを養うことを目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：憲法の基本原理・思考法の習得と、その応用的な発展。思考・判断の観点：基本原理から実際に生じうる問題への応用的な展開。関心・意欲の観点：現実に生起する問題を「憲法の眼」から批判的に考察するに足り関心。態度の観点：出席が真摯であるか、自主的に質問等を発するかどうか。技能・表現の観点：正確で論理的な日本語読み書き能力。これは法律学のみならず大学教育全般の問題である。その他の観点：法律学以外の多方面・他分野への旺盛な関心が必要である。

授業の計画（全体） 基本的に講義を中心として行うが、かなり頻繁に指名して発言を求められることがある。その問答を通じて問題の所在を明らかにし、応用的な能力を養って行くので、日頃から予習・復習をしっかりやっておくとともに、折々の話題や問題について新聞等で関心を広げておくこと。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 人権論・総論（1） 授業外指示 予習・復習・新聞等の閲読
- 第 2 回 項目 人権論・総論（2） 授業外指示 予習・復習・新聞等の閲読
- 第 3 回 項目 人権論・総論（3） 授業外指示 予習・復習・新聞等の閲読
- 第 4 回 項目 人権論・総論（4） 授業外指示 予習・復習・新聞等の閲読
- 第 5 回 項目 平等原則（1） 授業外指示 予習・復習・新聞等の閲読
- 第 6 回 項目 平等原則（2） 授業外指示 予習・復習・新聞等の閲読
- 第 7 回 項目 平等原則（3） 授業外指示 予習・復習・新聞等の閲読
- 第 8 回 項目 自由権（1） 授業外指示 予習・復習・新聞等の閲読
- 第 9 回 項目 自由権（2） 授業外指示 予習・復習・新聞等の閲読
- 第 10 回 項目 自由権（3） 授業外指示 予習・復習・新聞等の閲読
- 第 11 回 項目 自由権（4） 授業外指示 予習・復習・新聞等の閲読
- 第 12 回 項目 自由権（5） 授業外指示 予習・復習・新聞等の閲読
- 第 13 回 項目 自由権（6） 授業外指示 予習・復習・新聞等の閲読
- 第 14 回 項目 社会権（1） 授業外指示 予習・復習・新聞等の閲読
- 第 15 回 項目 社会権（2） 授業外指示 予習・復習・新聞等の閲読

成績評価方法（総合） 原則として、期末試験だけで評価する。実社会では「結果がすべて」というのが一般的である。

教科書・参考書 教科書：芦部信喜『憲法』（岩波書店） / 参考書：小六法または模範六法の持参は必須。また、毎日、新聞を読むこと。

メッセージ 先輩からのうわさどおり、評価は相当厳しいので心してかかること。

連絡先・オフィスアワー tateyama@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	民法 I	区分	講義	学年	2～4 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	三間地 光宏				

授業の概要 契約法の基礎を講義する。債権各論中の契約総論・各論の学習が中心となるが、法律行為（民法総則）や債務不履行（債権総論）にもふれる。

授業の一般目標 契約法の基礎の修得

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 契約法に関する基礎的な知識を修得する。

成績評価方法（総合） 期末試験による。なお私語などにより他の受講生の学習を妨げる者については期末試験の受験を認めない。

教科書・参考書 教科書： 未定。

開設科目	民法 Ib	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	平中貫一				

授業の概要 契約法の応用・発展部分を講義する。

授業の一般目標 契約法の古典的・現代的内容を体系的に学ぶ。

授業の計画(全体) 1 現代契約法の体系 2 約款と消費者契約法 3 訪問販売 4 割賦販売
5 契約締結上の過失

開設科目	民法 II	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	油納健一				

授業の概要 物権法の基本を講義する。

授業の一般目標 学生諸君が物権法の規定と各問題についての判例・通説を理解すること、知識だけでなく法的に考える能力を身につけることの2点である。

授業の計画(全体) 1.はじめに 2.物権とは? 3.物権的請求権 4.不動産登記制度 5.物権変動
(1)物権変動の時期など (2)法律行為による物権変動 (3)取消による物権変動 (4)無効による物権変動・解除による物権変動 (5)相続・遺産分割による物権変動 (6)取得時効による物権変動 (7)公売などによる物権変動 (8)第三者の範囲 (9)即時取得

成績評価方法(総合) 出席と期末試験による。3分の2以上出席しなければ、定期試験の受験を認めない。遅刻・早退は欠席とみなす。また病気や家庭の事情等で遅刻・早退・欠席した者に対して、救済することはない。なお、欠席とみなされたにもかかわらず出席を認めるようにしつこく主張したり、雑談・筆談して講義を妨害するなど、教員の指示に従わない者は不合格とする。学期末試験は、事例論述式の問題を中心にし、講義に出席しない者には合格できない内容(友達から借りたノートを見て勉強しても合格できない内容)にする。試験の持込については、指定した教科書のみとする。また、試験の範囲は、講義の中で話したことすべて(雑談を除く)とする。就職活動等で講義に出席できない者のみ、レポート提出によって平常点を与えようと考えている。ただし、レポートの量は2万字以上で質は上級レベルのものでないと受けつけない。

教科書・参考書 教科書：最初の講義で紹介する。/ 参考書：適宜指示する。

連絡先・オフィスアワー yuno@yamaguchi-u.ac.jp 毎日研究室にいる。在室中は急用がある場合を除きいつでも相談に応じる。

開設科目	民法 IV	区分	講義	学年	2～4 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	三間地光宏				

授業の概要 不法行為法を学習する。

授業の一般目標 不法行為法を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：不法行為法について基礎的なことを理解する。 態度の観点：私語などによって他の受講者の学習を妨げないこと。

授業の計画（全体） 不法行為法を中心に学習するが、時間があれば事務管理・不当利得についても説明する。

成績評価方法（総合） 期末試験による。なお、私語などによって他の受講者の学習を妨げる者は期末試験の受験を認めない。

教科書・参考書 教科書：未定。開講時に指示する。

開設科目	民法 V	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	藪本知二				

授業の概要 家族法では、市民社会の基礎法である民法の第4編親族・第5編相続および家事事件の紛争解決手続に関する基礎的な知識を習得することを目的とする。講義では、法解釈が中心となるが、できる限り法社会学的観点や比較法的観点もとり入れる。また、法の抽象的・理論的な知識が具体的な問題解決にどのようにつながるのかを理解するために、また法的思考様式になれ親しむために、随時、問題を提起し、それに対する解答を求める。

授業の一般目標 親族法および相続法ならびに家事事件の紛争解決手続に関する基礎的な知識を習得すると共に、家事事件の解決の法的過程を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 家族法とは何かを説明することができる。 2. 親族法および相続法ならびに家事事件の紛争解決手続に関する概要および基礎概念を説明することができる。 思考・判断の観点： 1. 具体的な事例に対して法解釈により結論を導き出すことができる。また、法律的に説明することができる。 関心・意欲の観点： 1. 現代社会における家族法の課題を見出し、考えることができる。 態度の観点： 1. 学説および判例を読み込み自分のあたまで考えることができる。

授業の計画（全体） 家族法の基礎原理および構造を説明した上で、親族法、相続法の順で概説する。また、家事事件の紛争解決手続については、親族法および相続法の概説の中で必要に応じて概説する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 家族法序説 内容 家族法（親族法）の基本原則および基本構造。 授業外指示 参考書等を用いて該当箇所を予習すること。
- 第2回 項目 親族法序説 内容 親族の意義。親族関係の変動と身分行為。 授業外指示 参考書等を用いて該当箇所を予習すること。
- 第3回 項目 夫婦法（1） 内容 婚姻関係の成立。 授業外指示 参考書等を用いて該当箇所を予習すること。
- 第4回 項目 夫婦法（2） 内容 婚姻の効力。 授業外指示 参考書等を用いて該当箇所を予習すること。
- 第5回 項目 夫婦法（3） 内容 配偶者間の財産関係。 授業外指示 参考書等を用いて該当箇所を予習すること。
- 第6回 項目 夫婦法（4） 内容 婚姻関係の取消と解消。 授業外指示 参考書等を用いて該当箇所を予習すること。
- 第7回 項目 夫婦法（5） 内容 離婚の効果。 授業外指示 参考書等を用いて該当箇所を予習すること。
- 第8回 項目 親子法（1） 内容 実親子関係。 授業外指示 参考書等を用いて該当箇所を予習すること。
- 第9回 項目 親子法（2） 内容 養親子関係。 授業外指示 参考書等を用いて該当箇所を予習すること。
- 第10回 項目 親子法（3） 内容 親権と子どもの権利 授業外指示 参考書等を用いて該当箇所を予習すること。
- 第11回 項目 狭義の親族法 内容 後見法と扶養法。 授業外指示 参考書等を用いて該当箇所を予習すること。
- 第12回 項目 相続法序説 内容 相続法の基本原則と構造。相続の本質。 授業外指示 参考書等を用いて該当箇所を予習すること。
- 第13回 項目 法定相続法（1） 内容 推定相続人と相続人の確定。相続分。 授業外指示 参考書等を用いて該当箇所を予習すること。
- 第14回 項目 法定相続法（2） 内容 限定承認。遺産分割。相続人の不存在。 授業外指示 参考書等を用いて該当箇所を予習すること。
- 第15回 項目 遺言相続法 内容 遺言。遺留分。 授業外指示 参考書等を用いて該当箇所を予習すること。

成績評価方法（総合） 期末試験を重視するが、授業中での小テストや質問に対する応答をも評価の対象とする。

教科書・参考書 教科書：教科書は用いず、プリントを配布する。 / 参考書：民法 補訂版, 内田 貴, 東京大学出版会, 2004年； 家族法第2版, 二宮周平, 新世社, 2005年

開設科目	刑法総論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	安里全勝				

授業の概要 刑法総論はどのような内容を持つかを理解して貰う。刑法の意義、性質、機能、犯罪の成立要件、構成要件論、違法論、責任論、共犯論、刑罰論の順に考察していく。

授業の一般目標 刑法総論の内容を考察することにより、刑法総論の学問的体系を理解して貰う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：刑法総論の内容について理解して貰う。刑法総論がどのような学問的体系を持つかを理解して貰う。 思考・判断の観点：法的思考という観点から、刑法総論の具体的な事案を考察し、刑法理論が具体的な事案の解決にどのように適用されているかを見ていく。

授業の計画（全体）刑法の意義、性質、機能、犯罪の成立要件、構成要件論、違法論、責任論、共犯論、刑罰論の順に考察していく。具体的な内容については最初の授業時間に講義要項を配布する。

成績評価方法（総合）学期末試験とミニテスト、出席状況を総合して行う。

教科書・参考書 教科書：刑法総論講義案, 安里全勝, 成文堂, 2005年；演習ノート刑法総論, 斉藤誠二編, 法学書院, 2005年

開設科目	刑事訴訟法	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	安里全勝				

授業の概要 刑事訴訟法の内容を理解して貰う。捜査手続、被疑者・被告人の人権保障と憲法・刑事訴訟法とその他関連法規との関連を理解して貰う。

授業の一般目標 刑事手続の流れを理解して貰う。そして、刑事訴訟法の基本理念・概念・原則を理解できるようにして貰う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：刑事訴訟法の内容について理解して貰う。刑事訴訟法の基本理念・概念・原則を理解しているかどうかを見ていく。思考・判断の観点：刑事訴訟の流れを見ることによって、刑事訴訟の理念と現実が一致しているかどうかを見ていく。

授業の計画（全体） 刑事訴訟法がどういう内容を持つ法律であるかを知って貰う。そして、刑事訴訟の流れを理解して貰う。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 内容 刑事訴訟の理論的基礎
- 第 2 回 内容 訴訟の主体・裁判所
- 第 3 回 内容 訴訟の主体・検察官及び司法警察職員
- 第 4 回 内容 被告人及び弁護人
- 第 5 回 内容 捜査 - 捜査の開始
- 第 6 回 内容 捜査の実行 - (1) 逮捕 (2) 拘留
- 第 7 回 内容 証拠の収集保全 - (1) 被疑者の取調 (2) 捕収
- 第 8 回 内容 捜査の終結
- 第 9 回 内容 公訴 - 公訴の提起
- 第 10 回 内容 公訴提起の効果
- 第 11 回 内容 公判手続 - 公判廷及び公判期日
- 第 12 回 内容 法廷の公開
- 第 13 回 内容 公判準備 - 証拠の収集保全
- 第 14 回 内容 公判期日の手続
- 第 15 回 内容 証拠調

成績評価方法（総合） 学期末試験とミニテスト、出席状況を総合して行う。

教科書・参考書 教科書：教科書・参考書は最初の講義で指定する。

開設科目	商法 I	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	吉川信將				

授業の概要 民法に対する特別法としての商法は現代の取引社会では重要性を増している。この授業では、商法の基礎的部分を構成する商法総則・商行為法について基礎知識を解説する。なお、新会社法成立の際に、従来の商法総則に関する規定で新会社法の総則に取り込まれたものについても触れていく。

授業の一般目標 企業関連諸法規における商法総則・商行為法の位置づけを理解し、会社法や商取引法を学ぶ上での基礎知識を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：商法総則・商行為法の位置づけを理解するとともに、そこで使用されている用語を正しく理解する。 態度の観点：事前に当日の講義範囲につき、教科書に目を通してから講義に臨む姿勢を身につける。

授業の計画（全体） 前半で商法総則を、後半では商行為法を中心に講義する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス
- 第 2 回 項目 商法の意義、商法総則・商行為法の位置づけ
- 第 3 回 項目 商業登記
- 第 4 回 項目 商号
- 第 5 回 項目 営業譲渡・事業譲渡
- 第 6 回 項目 商業帳簿
- 第 7 回 項目 商業使用人・代理商
- 第 8 回 項目 商行為概論
- 第 9 回 項目 商事売買
- 第 10 回 項目 有価証券
- 第 11 回 項目 仲立と取次
- 第 12 回 項目 運送営業・倉庫営業
- 第 13 回 項目 場屋営業
- 第 14 回 項目 匿名組合・相互計算
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法（総合） 試験により評価する。

教科書・参考書 教科書：教科書については開講時に連絡または開講時までには掲示します。六法（新会社法が掲載されているもの）必携 新会社法制定時に、商法総則等も改正を受けています。 / 参考書：参考書等は随時紹介するとともに、必要な資料は随時配布します。

メッセージ 今までの履修科目と今後予定している履修科目（特に、民法・商法の各科目）との関連とバランスを考えて講義を選択することが望ましい。

連絡先・オフィスアワー C棟224研究室（新年度のオフィスアワーについては開講時に案内します）

開設科目	商法 II	区分	講義	学年	2～4 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	中村 美紀子				

授業の概要 本講義では、わたくしたちの社会生活と密着した存在である会社企業について、その組織と活動を規制する会社法の内容を、新・会社法に即して概説します。新・会社法は 2006 年 5 月に施行されました。それは、形式面では「会社法」を現代化するという側面と、実質面では会社法を「現代化」という側面をもっています。本講義では、そのような具体的改正点を交え、会社とは何かから始まり、会社の中心をなす株式会社について、その設立、運営、財務、解散などを平易に解説するように努めたいと考えています。/ 検索キーワード 会社法・商法・企業法・企業組織法

授業の一般目標 受講生が会社法制度の仕組みについて理解し、判例を通じて法解釈学のエッセンスにも接することを目標とします。入門編から入り、受講生の理解度に合わせた進度を設定し、中・上級編にまで考察を深めていきたいと思ひます。双方向の授業を目指すつもりです。

授業の計画(全体) まず、新会社法改正点の概説から入り、会社法の序論的説明の後、株式会社について個別の論点を概説します。会社法の序論的説明の後、株式会社について個別の論点を概説します。教科書を中心にレジュメ、参考資料等を使用し講義を進めます。場合によっては視聴覚教材等も利用します。コメントシートを活用し、当日の内容のまとめ、質問、感想、要望等を受け付け、併せて出欠の管理をします。受講生が 100 名以上の場合は Moodle System を利用することもあり得ます。なお、以下の授業計画は講義の全体の流れを示しており、受講生の学習の進度に合わせて講義実施週の変更もあり得ます。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション～会社の概念
- 第 2 回 項目 会社の形態
- 第 3 回 項目 株式会社の設立
- 第 4 回 項目 株式と株主 (1) 株式の概念
- 第 5 回 項目 株式と株主 (2) 株式譲渡
- 第 6 回 項目 株式取引の実際
- 第 7 回 項目 株式会社の機関 (1) 分化と相互関係
- 第 8 回 項目 株式会社の機関 (2) 株主総会
- 第 9 回 項目 株式会社の機関 (3) 取締役会、代表取締役および監査役等
- 第 10 回 項目 株式会社の機関 (4) 委員会設置会社
- 第 11 回 項目 株式会社の機関 (5) 役員等の義務と責任 (1)
- 第 12 回 項目 株式会社の機関 (6) 役員等の義務と責任 (2)
- 第 13 回 項目 会社の計算
- 第 14 回 項目 募集株式・新株予約権・社債
- 第 15 回 項目 解散および清算

成績評価方法(総合) 定期試験の評価割合は 70% (講義回数の 70% 以上の出席者に期末試験受験を認める)、コメントシート (= 出席) の評価割合は 30%。

教科書・参考書 教科書: テキストブック会社法, 末永敏和 [編著], 中央経済社, 2006 年 / 参考書: 会社法判例百選, 江頭・岩原・神作・藤田 [編], 有斐閣, 2006 年

メッセージ 法学 II・商法 I を履修済みの学生の履修が望ましい。2007 年六法必携, 出席回数は自己管理を行うこと。

連絡先・オフィスアワー 研究室 C 棟 209, オフィスアワー 火曜日 10:20 11:50。

開設科目	商法 III	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	平野充好				

授業の概要 本講義では、有価証券の一種である手形および小切手を規制する手形法および小切手法を取り扱います。有価証券の代表である手形および小切手の法規制の基本的な考え方について学び、今日の企業取引や私たちの生活のまわりに登場する様々な有価証券の規制のあり方を学びます。手形法・小切手法は高度に技術的な性格を帯びた完成度の高い法律だけに、法律学の面白さを学ぶことができます。 / 検索キーワード 人的抗弁の制限、有価証券法理

授業の一般目標 今日の私たちの生活の中に現れるさまざまな紙片とか証券(レシート、乗車券、商品券等)の法的意味から考え、次いで企業社会で使われている「価値ある証券」(株券、船荷証券、手形、小切手等)の法的仕組みを学び、その上で、それらの証券と権利の関係について学びます。とりわけ、手形法および小切手法に現れる具体的問題の検討を通じて法理解の面白さに出会って欲しいと思います。

授業の計画(全体) まず、証券の意味から考え、証拠証券、免責証券、有価証券、金券等のさまざまな証券の違いを理解します。次いで、手形および小切手の有価証券のなかでの位置づけを確認します。手形法・小切手法の序論的説明の後、有価証券法理の中でももっとも重要である「人的抗弁切断法理」について時間を割くつもりです。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション。社会に存する証券の意味について考える。
- 第 2 回 項目 有価証券の法律関係の概要
- 第 3 回 項目 銀行取引と手形。当座勘定規定について学ぶ。
- 第 4 回 項目 商品を買って約束手形を発行する。代金を払えという権利と別に「証券上権利」が作り出される不思議を学ぶ。
- 第 5 回 項目 手形用紙に何を書くか。
- 第 6 回 項目 白地手形(1)
- 第 7 回 項目 白地手形(2)
- 第 8 回 項目 約束手形の裏書の意義および方式
- 第 9 回 項目 手形の善意取得
- 第 10 回 項目 物的抗弁と人的抗弁の切断(1)
- 第 11 回 項目 物的抗弁と人的抗弁の切断(2)
- 第 12 回 項目 物的抗弁と人的抗弁の切断(3)
- 第 13 回 項目 不渡手形と取引停止処分
- 第 14 回 項目 為替手形・小切手
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) 定期試験の評価割合は50%、ミニテストの評価割合は50%。

教科書・参考書 教科書：手形法・小切手法、蓮井 良憲・/森 淳二郎 編、法律文化社、1993年

メッセージ 六法必携。

開設科目	商法 IV	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	一ノ澤 直人				

授業の概要 本講では、企業取引法（商行為法）について法体系・法制度の役割、各取引形態における特性などが体系的に理解ができるように、基礎的な事項に重点をおいて、説明をしていきたい。また時間的余裕があれば、各項目の重点事項、現代取引における課題について、近時の判例等を踏まえて展開していきたい。

授業の一般目標 企業取引法（商行為法）の対象となる法的問題について、自ら法的思考ができるための端緒として、基礎的体系的理解ができるようにする。

授業の計画（全体） 授業計画 基本的な事項の説明の上で、各項目の重要な課題について特に焦点をあてる形ですすめていきたい。なお、受講生の状況により講義の進度等は調整したい。主な項目 (1) 受講にあたって (2) 商取引法の意義 (3) 普通取引約款 (4) 商事売買 (4) 交互計算 (5) 仲立営業 (6) 問屋営業 (7) 運送取引 (8) 貨物引換証 (9) 倉庫取引 (10) 場屋取引 (11) 現代企業取引法の展開

成績評価方法（総合） 授業の目標である基礎的体系的理解ができたか否かを試験によって評価する。詳細は講義の冒頭のガイダンス時説明する。

教科書・参考書 教科書：開講時に連絡する。六法必携 / 参考書：講義時に適宜連絡する。

開設科目	経済法	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	平野充好				

授業の概要 この経済法の講義では経済憲法といわれている独占禁止法について概説する。独占禁止法は市場における独占的行為等を規制する法である。言い換えれば、市場における競争を制限する行為を規制するのである。この競争制限行為に、カルテル、談合、私的独占行為、不公正取引行為、あるいは合併等の行為がある。これらの競争秩序に反する行為を規制するのが独禁法であるが、これらの行為の違法性の度合いに応じ、規制の仕方が、刑事罰、行政的な排除措置、課徴金、損害賠償または差し止め等多様であるのが独禁法の特徴である。本講義では、市場規制法である独禁法の個々の規制のあり方について講義する。／検索キーワード 不当な取引制限、不公正な取引方法

授業の一般目標 経済憲法といわれている独占禁止法の法構造、経済社会における機能等を考える。とりわけ多様で幅広い競争制限行為が独禁法上どのように規制されているかを学びつつ、一方では経済に関する私法でもある民法、商法、会社法との関連、他方では経済規制の側面をもつ独禁法が行政法や消費者法とどのように関連するかを意識しつつ、法が経済社会とどのように関わり合っているかを理解することを目標にする。

授業の計画（全体） まず、経済法の基本的な考え方、独占禁止法の考え方を学び、その後で、個別競争制限行為とその法的効果を検討する。その都度、他の諸法規との関連を考える。

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 契約は自由ではないのか、何故カルテルはいけないのか。
- 第 2 回 項目 独禁法は競争法か消費者保護法か。
- 第 3 回 項目 私的独占行為をしてはいけないという。私的独占行為とはどういうことを学ぶ。
- 第 4 回 項目 カルテル禁止を独禁法は不当な取引制限禁止という。不当な取引制限とはどういうことが学ぶ。
- 第 5 回 項目 何故入札談合はなくなるのか。
- 第 6 回 項目 私的独占・不当な取引制限をするとどういった制裁を受けるか（1）。
- 第 7 回 項目 私的独占・不当な取引制限をするとどういった制裁を受けるか（2）。
- 第 8 回 項目 何故不当廉売はいけないのか。不公正な取引方法とはどういうことか。
- 第 9 回 項目 再販売価格を指定することは何故いけないのか。
- 第 10 回 項目 商品販売にあたり不当表示がなされる場合の規制、何故そんな規制を独禁法でするのか。
- 第 11 回 項目 独禁法は優越的地位を濫用して取引をすることを禁じている。
- 第 12 回 項目 合併規制について考える。
- 第 13 回 項目 持株会社規制緩和と株式保有制限
- 第 14 回 項目 企業努力により、競争相手が敗退した結果、独占状態になった。それもいけないのか。
- 第 15 回 項目 独禁法を学ぶことが楽しくなりましたか。

成績評価方法（総合） 定期試験 50%、小テスト 50%。

教科書・参考書 教科書：独占禁止法，金井貴嗣，青林書院，2006年 / 参考書：独禁法審決・判例百選，厚谷襄児・綿貫俊文，有斐閣，2002年

メッセージ 六法必携

開設科目	社会法 I	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	柳澤旭				

授業の概要 日本型雇用慣行が変容しつつあるといわれるわが国においては、年功的処遇が崩れ、成績・成果主義の処遇が拡大しつつある。終身雇用慣行や、人事、福利厚生のある方も大きく変容しつつある。

本講義は、そうしたわが国における雇用関係の変化を視野に入れながら、雇用関係を規律する法的ルールについて、受講者が一定の見識を持つことができるようにすることを目標とする。 / 検索キーワード
労働契約、労働基準法、非典型雇用、雇用保障、労働争訟

授業の一般目標 本講義は、わが国における雇用関係に変化を視野に入れながら、雇用関係を規律する法的ルールについて、受講者が一定の見識を持つことができるようにすることを目標とする。

授業の計画（全体） 労働法とは、労働契約、労働契約の締結と終了、就業規則、賃金・一時金・退職金、労働時間・休暇、人事異動、経営再編と労働契約の変動、就業規律と懲戒、雇用保障政策、安全衛生・災害補償、均等待遇・雇用における平等、非典型雇用、年少労働者・女性労働者、職業生活と家庭生活の両立、労働争訟・紛争処理

成績評価方法（総合） 定期試験と授業時間内に行う小テストの成績による。小テストは2回行うが、いつ行うか分からないので、予習と復習をきちんとしておくこと。

教科書・参考書 教科書：労働法エッセンシャル第4版、清正寛・菊池高志編、有斐閣、2005年 / 参考書：授業中に適宜指示する。

メッセージ 教科書および六法を必ず持参すること。六法は、できるだけ労働法令の多く収録されたものにする。

連絡先・オフィスアワー 講義内容に関する質問は、適宜受ける。ただし、事前に連絡してくる。 noboru@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	社会法 II	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	柳澤旭				

授業の概要 使用者（会社）を労働組合との集团的労使関係の法的問題を具体的事例をあげながら説明し、日本の労使関係の法的ルールを理解する。

授業の計画（全体）日本の労働法の概要、労使関係とは何か、憲法と労働組合法、労働組合法と法、団体交渉、労働協約、争議行為、不当労働行為、裁判所と労働委員会、個別労働関係紛争と集团的労働関係、労働者像の変化と労働組合、日本の労使紛争解決方法と裁判

教科書・参考書 教科書：労働法エッセンシャル第4版、清正寛・菊池高志編、有斐閣、2005年

開設科目	民事訴訟法	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	上田和義				

授業の概要 民法・商法その他私法は、社会生活や事業を営む上での事実上の行為規範となっていますが、最終的には、裁判規範として民事裁判でその内容が実現されます。つまり、実体法が理解できていたとしても、裁判の手続きや仕組みが分かっていなければ、実体法も本当に理解できたことになりません。そこで、本講義では、民事訴訟法の全体的な構造と、社会的に多く利用される実体法の適用を中心に、実際の訴訟などで直面するであろう問題を取り上げていきます。

授業の一般目標 一般社会生活や事業を営む上で必要な民事訴訟制度の全体構造と、訴訟提起時に直面するであろう問題点を理解することを目標とします。

授業の計画(全体) 本講義は週1回、後期に行います。1 講義項目 民事訴訟の意義/裁判所・当事者/訴えの提起/訴訟要件/訴訟の審理/証拠調べ・証明/訴訟の終了/複数請求訴訟/多数当事者/上訴・再審 2 講義方法 テキスト・参考文献を参照しながら、口述により行います。また、実務的な資料をできるだけ配布します。3 履修上の注意 六法を必ず持参して下さい。

成績評価方法(総合) 試験100%

教科書・参考書 教科書：民事訴訟法入門【第2版補訂版】，林屋礼二 他，有斐閣双書，2006年 / 参考書：ケーススタディ新民事訴訟法，小林秀之，日本評論社，1998年；《履修上の注意》六法を必ず持参して下さい。

開設科目	行政法 I	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	上杉信敬				

授業の概要 現代社会において重要な役割を果たしている、行政とその法に関して考察する。複雑かつダイナミックな現代の社会においての行政、行政法、行政法の基本原則、法治主義、行政組織法、行政作用法について考えていくものである。

授業の一般目標 行政とその法をめぐる制度や理論の基礎的なことを理解し身につけるとともに、さらに具体的な問題などに対しても応用できるようにしていく。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス
- 第 2 回 項目 行政法の基本原則 1 内容 行政と行政法
- 第 3 回 項目 行政法の基本原則 2 内容 法律による行政
- 第 4 回 項目 行政組織法 1 内容 行政主体：国の行政機関
- 第 5 回 項目 行政組織法 2 内容 地方公共団体
- 第 6 回 項目 行政組織法 3 内容 公務員
- 第 7 回 項目 行政作用法 1 内容 行政立法
- 第 8 回 項目 行政作用法 2 内容 行政行為
- 第 9 回 項目 行政作用法 3 内容 行政行為の効力
- 第 10 回 項目 行政作用法 4 内容 行政手続、行政公開
- 第 11 回 項目 行政作用法 5 内容 行政契約、行政指導
- 第 12 回 項目 行政作用法 6 内容 行政計画
- 第 13 回 項目 行政作用法 7 内容 行政の義務履行確保
- 第 14 回 項目 行政作用法 8 内容 行政罰
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法（総合） 筆記試験等による。

教科書・参考書 教科書：開講時に指示する。 / 参考書：開講時に指示する。

メッセージ 一緒に頑張りましょう。

連絡先・オフィスアワー 質問のある人は講義の後やその他研究室に来てください。（C 2 0 3 室）

開設科目	行政法 II	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	石 龍潭				

授業の概要 現代福祉国家は、我々の日常生活の隅々にまで行政が関係してくるが、そうした行政の働きの過程で我々の権利や利益が違法に侵害されたとしたら、どうすべきであろうか。それが行政救済法の問題である。その意味で行政救済法は、行政の総仕上げという意味をもつ。この講義では、まず、行政、行政法といった基礎概念を再確認したうえで、具体例を素材にしながら行政救済の問題を考えていきたい。

授業の一般目標 具体的な事例を行政法の立場から分析し、行政争訟及び国家補償の問題となった場合にどういう解決が可能かを、説明できるようになることを目標とする。

授業の計画（全体） 行政、行政法といった基礎概念を再確認したうえで、具体例を素材にしながら行政救済の問題を考えていきたい。

成績評価方法（総合） 出席状況と期末テストの成績による。

教科書・参考書 教科書：開講時に指示する。 / 参考書：開講時に指示

メッセージ 一緒に頑張りましょう。

連絡先・オフィスアワー 質問等のある学生は、気軽に私の研究室にきてください。（研究室：経済学部 A 棟 408 号室）

開設科目	税法 I	区分	講義	学年	2～4 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	澤田 正				

授業の概要 税法総論の入門講座です。税の意義役割や使い道から始め、消費税、所得税法等を題材に、租税法（実体法、手続法等）の基本の体系的な理解をめざします。民法、簿記を学習済みか、平行した学習が不可欠です

授業の一般目標 社会人として将来にも役立つ税法の基本の理解

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：税金と税法の基本を理解する。

授業の計画（全体）税金と税法とはなにか、消費税法、租税法の体系、国税通則法、所得税法等の順序で、基本的な事項の学習を進めます。

成績評価方法（総合）出席・授業内レポート 60 %、期末レポート 40 %で評価する。

教科書・参考書 教科書：税務大学の教本（税務大学 HP よりダウンロード可能）に基づくレジюме等を使用します。

メッセージ ほとんどの人が一生を通じて税金と関係があり、税金と税法の基本を理解していることはこれからの社会人にとって一つの武器になります。

連絡先・オフィスアワー（TEL）083-933-5580（メール）sawadat@yamaguchi-u.ac.jp（オフィスアワー）月曜日 10 時 30 分～12 時、水曜日 10 時 30 分～12 時、

開設科目	税法Ⅱ	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	澤田 正				

授業の概要 テキストを使って、法人税法の基本的な枠組みと内容の理解を、双方向の授業によって丁寧に進めていきます。

授業の一般目標 「法人税法が分かった」と思えること

授業の計画(全体) 税務大学校講本の「法人税法」(税務大学校 HP からダウンロード可能)に沿って、身近な具体例を交えながら、丁寧に学習を進める

成績評価方法(総合) 出席・授業内レポート 60%、期末レポート 40%で評価する。

教科書・参考書 教科書：税務大学校の教本(税務大学校 HP よりダウンロード可能)に基づくレジюме等を使用します。

メッセージ 法人税法の修得と、法人税法を通じた「学習の方法」の修得を旨としましょう

連絡先・オフィスアワー (TEL)083-933-5580 (メール)sawadat@yamaguchi-u.ac.jp (オフィスアワー) 月曜日 10時30分～12時、水曜日 10時30分～12時、

開設科目	政治学 I	区分	講義	学年	2～4 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	渡邊幹雄				

授業の概要 本講義では、政治学の基本的な問題について、さまざまな観点から考察する。物事の善悪を問う規範的な視点、事象に即してその分析を試みる実証的な視点を織り交ぜながら、政治学（国際関係を含む）のメイン・トピックスについて、複合的なアプローチを試みる。政治学は本来総合的な学問であるから、取り上げる問題に応じて、広く他の学問領域にも言及する。／検索キーワード 政治、権力、自由、平等、平和、参加、自治など。

授業の一般目標 第一に、さまざまな出来事の中で、それをとくに「政治的」にしている要因は何なのか、すなわち、政治学とは何を扱う学問であるのかを明らかにし、そこに現れるいろいろな概念（キーワード）の意味を理解した上で、それを現実の政治現象に適用できる能力を養う。最終的には、さまざまな政治概念の由来、変容、意義をふまえて、みずからの政治的アイデンティティを問えるようにする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：政治学の基本問題や概念を幅広く理解できる。 思考・判断の観点：さまざまな概念の論理的な関係を述べるができる。 関心・意欲の観点：政治現象についての関心を広げ、問題意識を高めることができる。 態度の観点：規範的な視点から現実の政治現象について判断を下せる。

授業の計画（全体） まず、政治学は何を対象とする学問なのかを明らかにした上で、古代から現代にいたるまで、その変遷をたどってゆく。中盤からは主として20世紀以降の政治理論に焦点を合わせ、受講者が現代の政治現象に広く応答できるように心がける。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目【項目】オリエンテーション 内容【内容】担当教員の紹介、政治とは何か、さまざまなアプローチについて 授業外指示 シラバスを読んでおくこと
- 第 2 回 項目【項目】政治とは何か（1） 内容【内容】古代アテナイ、ローマにおける政治 政治的自由と共和主義
- 第 3 回 項目【項目】政治とは何か（2） 内容【内容】中世キリスト教世界における政治 「神の国」とキリスト教国家
- 第 4 回 項目【項目】政治とは何か（3） 内容【内容】近代政治学の誕生 ルネサンスと社会契約説
- 第 5 回 項目【項目】政治とは何か（4） 内容【内容】現代政治理論 リベラリズムと共和主義
- 第 6 回 項目【項目】20世紀の政治学（1） 内容【内容】政治科学の勃興 その時代・哲学的背景を含む
- 第 7 回 項目【項目】20世紀の政治学（2） 内容【内容】政治科学の発展 さまざまな理論展開の紹介
- 第 8 回 項目【項目】20世紀の政治学（3） 内容【内容】規範理論の再生 J・ロールズの正義論を中心に
- 第 9 回 項目【項目】20世紀の政治学（4） 内容【内容】今日の規範的政治学 ロールズ以降の展開を追う
- 第 10 回 項目【項目】ポスト・リベラリズムの政治理論（1） 内容【内容】さまざまなリベラリズム批判
- 第 11 回 項目【項目】ポスト・リベラリズムの政治理論（2） 内容【内容】ポストモダンへの転回
- 第 12 回 項目【項目】国際関係論（1） 内容【内容】国際政治の萌芽 政治史的な考察
- 第 13 回 項目【項目】国際関係論（2） 内容【内容】さまざまな思想と理論 その政策への影響

第 14 回 項目【項目】政治学 全般についての 総括 内容【内容】これま での講義内容の レビューとま
とめ

第 15 回 項目【項目】前期末 試験 内容【内容】論述筆 記試験

成績評価方法 (総合) 期末に行われる試験によって、さまざまな観点から総合的に判定する。

教科書・参考書 教科書： とくに指定しない。 / 参考書： 講義中に適宜指示する。

メッセージ 自分自身の頭で考えることを心がけてください。

連絡先・オフィスアワー 研究室：経済学部 3 階、オフィスアワー：授業終了後

開設科目	政治学 II	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	渡邊幹雄				

授業の概要 本講義では、現代の規範的政治理論について、その最前線の論争を解説する。 / 検索キーワード 正義、権力、自由、平等、平和、参加、自治など。

授業の一般目標 現代の規範的政治理論において何が問題とされているのかについて、明確な理解を得る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 現代政治理論の基本問題や概念を幅広く理解できる。 思考・判断の観点： さまざまな概念の論理的な関係を述べるができる。 関心・意欲の観点： 政治現象についての関心を広げ、問題意識を高めることができる。 態度の観点： 規範的な視点から現実の政治現象について判断を下せる。

授業の計画（全体） ジョン・ロールズの『正義の理論』（1971年）が引き起こした一連の論争について、様々な視点から分析する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目【項目】オリエンテーション 内容【内容】担当教員の紹介、現代の政治理論の論争状況について 授業外指示 シラバスを読んでおくこと
- 第 2 回 項目【項目】ジョン・ロールズ（1） 内容【内容】ロールズ正義論の内容を知る
- 第 3 回 項目【項目】ジョン・ロールズ（2） 内容【内容】同上
- 第 4 回 項目【項目】ジョン・ロールズ（3） 内容【内容】同上
- 第 5 回 項目【項目】ジョン・ロールズ（4） 内容【内容】同上
- 第 6 回 項目【項目】コミュニタリアニズム（1） 内容【内容】コミュニタリアンの批判を知る
- 第 7 回 項目【項目】コミュニタリアニズム（2） 内容【内容】同上
- 第 8 回 項目【項目】コミュニタリアニズム（3） 内容【内容】同上
- 第 9 回 項目【項目】ポストモダニズム（1） 内容【内容】ポストモダンの政治理論を知る
- 第 10 回 項目【項目】ポストモダニズム（2） 内容【内容】同上
- 第 11 回 項目【項目】ポストモダニズム（3） 内容【内容】同上
- 第 12 回 項目【項目】国際社会での正義（1） 内容【内容】リベラリズムと国際社会を知る
- 第 13 回 項目【項目】国際社会での正義（2） 内容【内容】同上
- 第 14 回 項目【項目】現代の規範的政治理論全般についての総括 内容【内容】これまでの講義内容のレビューとまとめ
- 第 15 回 項目【項目】後期末試験 内容【内容】論述筆記試験

成績評価方法（総合） 期末に行われる試験によって、さまざまな観点から総合的に判定する。

教科書・参考書 教科書： とくに指定しない。 / 参考書： 講義中に適宜指示する。

メッセージ 自分自身の頭で考えることを心がけてください。

連絡先・オフィスアワー 研究室：経済学部3階、オフィスアワー：授業終了後

観光政策学科

開設科目	観光概論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	早崎 正城				

授業の概要 観光は今日、誰でも容易にできる楽しい旅行形態のひとつである。「観光は平和へのパスポートである。」とのスローガンを掲げたWTO（WORLD TOURISM ORGANIZATION）であるが、近年の世界事情はテロや紛争などが頻発し、安心して国外観光に出かけられる背景は少ない。国際平和のイメージは遠のいている感がある。本講義はまず、このような現代の社会世相と観光現象との関係を説きながら、観光とは何か、から始まり、観光史として観光がどのような変遷を経て今日に至ったかを、旅の風俗史として捉えてみる。また、地場産業や地域イベントを含めた地域観光のあり方、観光資源と開発問題、交通機関、ホテルやサービス施設の機能評価、観光サービスと観光をする者の満足度など、観光一般にわたって多くの事例を取り込んで講義する。

授業の一般目標 本講義は、観光をする者（観光の需要者）と、観光の場や施設、サービスなどを提供する者（観光の供給者）の両者の立場から観光を概観していく。観光をする者が「当観光に何を求め、どのような満足を得たか。」という問題と、観光を提供する者が「どのように運営（事業経営・収益性）をしたら成り立つか。」という課題は、実は一体的に結びつくべきテーマである。また一方で、(1)観光行政のあり方、(2)観光を取り巻く間接的なマーケティング、(3)観光資源の開発と保護、(4)観光地周辺住民の観光者受容意識、など、観光の行動科学、観光社会学、政策的研究などを視野に入れた学際的観光に必要な観光の基礎的な概念、専門用語、分析手法を理解させたい。また、特にわが国観光の動向や課題について、今後の観光・サービス構想という視点からも語れるようにする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：観光の基本概念を説明でき、観光分野の基本的な専門・関連分野を識別、応用できる力をつける。また、わが国の観光の歴史と現状に関心を寄せ、観光の是非問題がわかるようになる。思考・判断の観点：現実の大衆観光を、観光する者の立場と観光事業者の立場、そして、間接的、第三者の立場からその特性を分析し、それらの関係を総合的に捉えることができるようになる。関心・意欲の観点：観光をリードする観光・サービス産業やそれを受容する観光者の観光活動・経済活動に対する関心を高める。

授業の計画（全体） 基本的には講義を主として授業を行うが、講義そのものをプリントしたり、ネットで流すサービスなどは考えていない。学習の手助けに、内容によっては簡単な資料を準備したい。ノートにメモを取ることで、講義への集中力、理解力の向上を狙いとする。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 観光とは何か（1） 内容 観光の基礎概念、観光の主役と目的
- 第 2 回 項目 観光とは何か（2） 内容 観光の価値的条件、観光の評価
- 第 3 回 項目 観光の歴史（初期） 内容 古代の旅史、生活から得る移動の喜びと苦難
- 第 4 回 項目 観光の歴史（中期） 内容 日本の旅史と世界旅史の特性（関所と奴隷）
- 第 5 回 項目 観光の歴史（後期） 内容 旅から観光と旅行へ、価値観の多様化
- 第 6 回 項目 観光の行動科学 内容 観光への誘発動因、観光の功罪
- 第 7 回 項目 国内観光の特性 内容 国民観光志向、観光文化と地理、祭イベント
- 第 8 回 項目 観光資源と開発 内容 環境保護と健全開発、公害・破壊・俗化問題
- 第 9 回 項目 地域観光 内容 地場産業と地域振興、地域交通機関の課題
- 第 10 回 項目 観光・サービス産業 内容 サービスの概念、遊興娯楽・宿泊・交通・他
- 第 11 回 項目 観光とレクリエーション 内容 観光行政の限界と課題健康づくりの観光
- 第 12 回 項目 国際観光の条件 内容 平和・低廉・利便性、観光の原点と起業開発
- 第 13 回 項目 観光倫理と法規関係 内容 観光のマナー&モラル、観光犯罪の特殊性
- 第 14 回 項目 観光の将来と課題 内容 芸術、産業、福祉、スポーツ、宇宙の各観光
- 第 15 回 項目 予備

成績評価方法(総合) 期末定期試験を100%とする。また、出席回数(授業態度などを含む)のうち、欠席3分の1以上は欠格条件とし、受験できない。 注1.出席の取り扱いについては、出席カードで出席を確認する。欠席率が3分の1以上の学生については期末試験の受験資格がない。出席カードは授業途中に配布、回収する。配布後に遅刻してきた学生には出席カードを与えない。 注2.試験についての方法や要領は、講義の中で告知する。 注3.以上の点について変更があれば、授業時間中に公表するので注意のこと。

教科書・参考書 参考書:「新ツーリズム学原論」,ツーリズム学会,東信堂,2006年;「観光学」,長谷政弘,同文館,1997年

開設科目	観光経済学	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	河村誠治				

授業の概要 観光経済学は、経済学の諸理論をベースにしながらも、経済学の周辺領域の学問も織りまぜながら、観光活動に見られる経済的に特有な諸々の現象や矛盾を分析し研究し、観光経済の発展を「観光公害」などの理由から否定するのではなく、その発展のための条件やその法則性を探ろうとする応用経済学である。本講義では、観光経済の細胞とも言える観光商品を分析した後で、観光商品の需給関係、観光商品の価格、観光商品の消費、観光投資、観光収入とその分配と、ミクロからマクロまでの観光経済の領域全般についての原理を説明する。

授業の一般目標 観光経済の研究、具体的には (1) 観光経済の性質や特徴に関するマクロ経済的研究、(2) 観光の需給および観光マーケティングに関するミクロ経済的研究、(3) 観光産業の投資や収益性に関する事業化研究(フィージビリティ・スタディー: feasibility study)、(4) 観光行政や観光資源開発に関する政策的研究などを行なう上での基本的な知識・理解を教授し、思考・判断、関心・意欲を育む。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 観光経済の基本概念を説明でき、その基本的な専門用語を識別できる。 思考・判断の観点: 観光経済を、主にミクロ経済学、マクロ経済学、および政治経済学などに基いて分析し、観光経済を多面的にかつ重層的に捉えることができるようになる。 関心・意欲の観点: 大衆観光をリードする観光産業や観光を指導する政府の経済活動、観光による地域経済の振興、ひいては国民経済の発展に対する関心を高める。

授業の計画(全体) 講義ノートをもとに授業をする。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 観光商品 (1) 内容 観光商品の概念と本質
- 第 2 回 項目 観光商品 (2) 内容 観光商品の特徴
- 第 3 回 項目 観光商品の需要 (1) 内容 観光需要の意義と影響要因
- 第 4 回 項目 観光商品の需要 (2) 内容 観光需要の法則と弾力性
- 第 5 回 項目 観光商品の供給 内容 観光供給の概念と価格弾力性
- 第 6 回 項目 観光商品の需給関係 内容 需給均衡の理論と現実
- 第 7 回 項目 観光価格 (1) 内容 観光価格の概要、決定メカニズム、設定目標
- 第 8 回 項目 観光価格 (2) 内容 観光価格の具体的設定法と観光商品の差別価格戦略
- 第 9 回 項目 観光消費 (1) 内容 観光消費の概念と観光消費の構造
- 第 10 回 項目 観光消費 (2) 内容 観光消費者の行動理論
- 第 11 回 項目 観光消費 (3) 内容 観光消費額の推計方法
- 第 12 回 項目 観光収入とその分配 (1) 内容 観光収入の概念と観光の経済波及効果 - 観光乗数理論
- 第 13 回 項目 観光収入とその分配 (2) 内容 観光収入の域外流出 - 漏出と課題
- 第 14 回 項目 予備 内容 予備
- 第 15 回 項目 予備 内容 予備

成績評価方法(総合) 期末試験=100%、欠席率3分の1以上 = 欠格条件。注1 . 出席の取り扱いについて。出席カードで出席を確認する。欠席率が3分の1以上の学生については期末試験の受験資格がない。出席カードは授業途中に配布し、回収する。配布後に遅刻してきた学生には出席カードを与えない。

教科書・参考書 参考書: 観光経済学の原理と応用, 河村誠治, 九州大学出版会, 2004年; その都度適宜示す。

開設科目	観光経済政策総論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	河村誠治・池田清・藤原弘登・松山生馬				

授業の概要 経済学は大きく言って理論、政策、歴史からなるとされるが、観光経済政策は、観光概論で出てくる歴史的視点、観光経済学で重点の置かれる原理的視点をもとに、観光経済の持続可能な発展について政策面から述べられるものである。それは、物的・価値的な再生産の角度だけでなく、環境が開発かという二項対立でもない「持続可能な観光開発」の角度からも検討されるべきものである。本講義では、観光経済政策とは何か、なぜそれが必要とされるのか、その背景には何があるのか、それをいかに運用していけばよいのかなどを述べる。

授業の一般目標 (1) 観光経済政策を経済政策の一環としてとらえる。(2) 世界遺産条約などから観光資源の開発と保護に関心を抱くようにする。(3) 観光政策と現実の観光振興を結び付けて考えるようにする

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：観光政策の多様性を知る。 思考・判断の観点：観光政策が経済的側面と公益的側面からなっていることを理解する。 関心・意欲の観点：観光政策とくに観光経済政策の側面に関心を抱くようにする。

授業の計画(全体) 講義ノートをもとに授業を進めていくが、11回～13回までの3回は具体的現実を把握するために、国土交通省中国運輸局から3人のゲストスピーカーによる講義となる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 予備的考察 内容 観光の意義と役割
- 第2回 項目 観光と政策
- 第3回 項目 観光と経済政策
- 第4回 項目 観光経済政策の背景 内容 産業空洞化と観光振興、全国総合開発計画と観光振興
- 第5回 項目 観光開発の意義 内容 観光資源開発と観光開発
- 第6回 項目 持続可能な観光開発(1) 内容 観光開発の原則
- 第7回 項目 持続可能な観光開発(2) 内容 観光資源の破壊と保護開発
- 第8回 項目 世界遺産条約と現状(1) 内容 世界遺産条約の意義
- 第9回 項目 世界遺産条約と現状(2) 内容 世界遺産の現状と世界レベルの観光資源開発と指定運動
- 第10回 項目 観光政策の手法 内容 観光法規と観光行政
- 第11回 項目 わが国の観光政策の基本的な枠組み 内容 組織再編に見る観光政策課題、観光基本法制定の動きなど
- 第12回 項目 地域づくりと観光振興の実践 内容 観光ルネッサンス事業、創意工夫のあるまちづくりなど
- 第13回 項目 外客誘致政策の実践 内容 ビジットジャパンキャンペーンの意義と効果、具体的事例
- 第14回 項目 観光経済政策のあるべき姿 内容 総括
- 第15回

教科書・参考書 参考書：観光経済学の原理と応用, 河村誠治, 九州大学出版会, 2004年

開設科目	観光のための経済統計学	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	朝日幸代				

授業の概要 観光のための経済政策立案には、観光産業活動の実態やそれを取り巻く経済の状況、新たな観光産業への取り組みを定量的に評価することが重要である。ここでは、観光関連データや地域経済データの特性と統計学的分析手法を学ぶことによって、観光のための経済政策に提供できる数値情報の作成する能力を育成することを目的としている。国、都道府県、市町村で公表されている数値情報を扱うだけでなく、アンケート調査の実施方法も取り上げる。この講義は実習形式で行う。

授業の一般目標 代表的な経済、観光のデータの特徴、統計的処理について理解している。実際にそれらのデータを入手し、分析に活用できる。アンケート調査を行う方法、取りまとめ方、さらにアンケート調査結果に対し、正しく理解している。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 公表されている経済データ、観光データにどのようなものがあるかを知っている。経済データ、観光データの特徴、データの取り方を理解している。 **思考・判断の観点：** 実際の経済や観光に関するテーマにそった統計データを選択することができる。 **関心・意欲の観点：** 自らが関心のあるテーマについて、本講義の内容から得られた統計的な知識を活用できる。 **態度の観点：** 実習授業に積極的に、粘り強く参加する。 **技能・表現の観点：** コンピュータ操作、特にマイクロソフト Excel を利用して、講義で出された課題を即座に作業を進めることができる。

授業の計画（全体） 観光関連データやマクロおよび地域経済データの種類や特性等を紹介する。統計学的分析手法を用いているもので、広く利用されているをとりあげ、解説する。都道府県、市町村で公表されているデータ、分析に広く活用できるデータについても取り扱う。最後にアンケート調査の実施方法とその取りまとめ方も講義で取り上げる。受講生にはアンケート調査を各自が行い、最終的に取りまとめ方を真なんでもらう予定である。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 インTRODクシヨN 観光と経済の統計 内容 SNA 統計、サテライトアカウント
- 第 2 回 項目 SNA 統計の概要
- 第 3 回 項目 観光データ 1 内容 国内観光旅行の現状を示すデータ
- 第 4 回 項目 観光データ 2 内容 国内観光旅行の現状を示すデータ
- 第 5 回 項目 地域観光データ 1 内容 山口県内の観光客数
- 第 6 回 項目 地域観光データ 2
- 第 7 回 項目 海外の観光データ 1 内容 米国の観光サテライトアカウント
- 第 8 回 項目 海外の観光データ 2
- 第 9 回 項目 観光と経済のデータを用いた分析事例
- 第 10 回 項目 アンケート調査の概要
- 第 11 回 項目 アンケート調査の集計
- 第 12 回 項目 アンケート調査の解析
- 第 13 回 項目 アンケート調査の解析 まとめ方
- 第 14 回 項目 予備
- 第 15 回 項目 予備

成績評価方法（総合） 講義中に何回か出す課題のレポート（評価比率 40％）と定期的に講義時間以外を用いて作成していただくレポート（評価比率 60％）によって評価する

教科書・参考書 教科書：必要なテキストは適宜、受講生に指示をする。 / 参考書：参考にしたい書物は、適宜指示をする。

メッセージ マイクロソフト EXCEL を頻繁に利用している経験をもっていることが望ましい。この講義は実習講義ですので、積極的に課題に取り組んでいただきたいと思います。また欠席をすると、次回の講義に参加しても、作業内容が理解できないまたは、当日の作業にすぐ参加できなことも極めて多いことから、出席を必ずお願いします。

連絡先・オフィスアワー asahi@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	観光サテライト・アカウンティング	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	朝日幸代				

授業の概要 観光産業の経済波及効果は広範囲な部門に影響を与えるため、観光資源の有効利用が国・地域経済を活性化させるものとして位置付けることができる。これらの効果を多産業部門間の相互依存関係を通して経済の循環構造を定量的に分析できるツールの1つに産業連関分析がある。またその他の計量経済学的手法で時系列の経済影響を分析することも可能である。ここでは産業連関分析を含めた計量経済学的手法を学び、実証分析を行いながら、地域経済における観光産業活動とその役割、観光政策の有効性についての評価を考察できる分析能力を養う。この講義はコンピュータールームにおいて実習形式で行うものである。

授業の一般目標 SNAにおけるサテライトアカウントの位置付けを理解し、観光データの現状と問題点を具体的に解説することができる。観光データとその他の経済データを用いて観光サテライトアカウントを計測する方法を解説ができ、課題問題として提示されたデータにおいて計測することができる。また、産業連関分析を理解し、産業連関表を用いた観光消費と観光関連施設の建設等の波及効果の分析を行うことができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：観光データの問題点を理解している。サテライトアカウントと観光サテライトアカウントを説明できる。産業連関分析の理論を習得し、実際の分析の仕方を理解している。思考・判断の観点：観光データや経済データを扱う際に、それぞれのデータの特徴を検討し、用いることができる。講義で取り上げる内容について、どのような意味があるのかを思考しながら、実習講義に取り組むことができる。態度の観点：課題に積極的に、ねばりよく取り組むことができる。技能・表現の観点：マイクロソフトエクセルの機能を理解し、必要な作業を短時間で行うことができる。

授業の計画(全体) SNAにおけるサテライトアカウントの位置付けを解説し、観光データの現状と問題点を取り上げる。観光データとその他の経済データを用いて観光サテライトアカウントを計測する方法を解説し、課題問題を利用して計測する。次に、産業連関分析の理論を詳細に解説する。この分析手法を用いることによって具体的にどのようなことができるかということも提示する。実際に、産業連関表を用いた観光消費と観光関連施設の建設等の波及効果の分析を行う。さらに、環境への負荷の試算方法についても取り上げる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション 内容 データの統計的利用 観光データの概要
- 第 2 回 項目 93SNA とサテライトアカウント 内容 環境サテライトアカウント、観光サテライトアカウント
- 第 3 回 項目 観光サテライトアカウントデータ作成方法 1
- 第 4 回 項目 観光サテライトアカウントデータ作成方法 2
- 第 5 回 項目 観光サテライトアカウントの計測事例
- 第 6 回 項目 産業連関表の概要 1 内容 歴史、表の構成、データの入手方法
- 第 7 回 項目 産業連関表の概要 2 内容 地域産業連関表について、データの入手方法
- 第 8 回 項目 産業連関表から得られた分析のためのデータ 内容 投入係数、均衡産出モデル、レオンチェフ逆行列
- 第 9 回 項目 波及効果試算(1) 内容 消費の影響 公共投資による影響
- 第 10 回 項目 波及効果試算(2) 内容 復習
- 第 11 回 項目 観光における経済効果 内容 観光施設建設の効果
- 第 12 回 項目 観光における経済効果の実践(1) 内容 雇用の影響
- 第 13 回 項目 観光における経済効果の実践(2) 内容 環境負荷への影響
- 第 14 回 項目 予備

第 15 回 項目 予備

成績評価方法 (総合) 講義中に何回か出す課題のレポート (評価比率 60%) と定期的に講義時間以外を用いて作成していただくレポート (評価比率 40%) によって評価する。

教科書・参考書 教科書: 必要なテキストは適宜、受講生に指示をする。/ 参考書: 観光経済学入門, ジェームズ・マック, 日本評論社, 2005 年; Tourism Satellite Account: Recommended Methodological Framework, UNWTO, UNWTO, 2001 年; 参考にしていただきたい書物は、適宜指示をする。

メッセージ マイクロソフト EXCEL を頻繁に利用している経験をもっていることが望ましい。この講義は実習講義ですので、積極的に課題に取り組んでいただきたいと思います。また欠席をすると、次回の講義に参加しても、作業内容が理解できないことも極めて多いことから、出席を必ずお願いします。講義中に前回欠席者の個別指導は他の学生さんの迷惑になるので行いません。忌引きや病気で欠席した受講生は講義の前日までに研究室へ相談に来てください。

連絡先・オフィスアワー asahi@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	観光サテライト・アカウントイン グ実務	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官					
備考 集中授業					

開設科目	観光産業総論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	河村誠治・岡田一敏				

授業の概要 観光産業総論では、「観光概論」に立ち戻り、観光における観光産業の意義・役割を示すとともに、その全般的な特徴を説明したあとで観光産業を構成する旅行業、ホテル・旅館業、旅客輸送業、テーマパークなど、それぞれの事業内容などを取り上げる。そして最後に観光産業界の現状と課題について、現実に観光産業界で久しく活躍されてこられた方に、ゲストスピーカーとして業界研究という講義を5回行う。/検索キーワード 観光産業

授業の一般目標 観光客の視点からだけの観光の理解ではなく、大衆観光をリードしてきた観光産業の視点から観光の理解を促す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：観光産業および観光産業主要6業種の概要。 思考・判断の観点：効率と効果の違いを個別産業に当ては理解できる。 関心・意欲の観点：観光商品だけでなく、大衆観光をリードする観光産業の経営・労働面に興味を抱く。

授業の計画(全体) 講義ノートをもとに講義内容を作成し、パワーポイントにて講義を進める。授業計画としてはまず最初の2-3回分を観光産業およびサービス業の概要をまとめ、続く6-7回分を観光産業の6業種の内容、そして残り5回分を観光産業界の業界研究の講義とする。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 観光における観光産業の位置づけ 内容 観光と観光産業
- 第2回 項目 観光産業の概要 内容 観光産業の特徴と役割
- 第3回 項目 宿泊業の歴史 内容 宿泊業の歴史
- 第4回 項目 ホテル業
- 第5回 項目 観光レストラン業
- 第6回 項目 旅客運輸業-道路、鉄道 内容 陸上輸送の現状と課題
- 第7回 項目 航空産業・旅客水運業
- 第8回 項目 娯楽レジャー産業 内容 テーマパーク
- 第9回 項目 旅行業(1) 内容 旅行業界の現状
- 第10回 項目 旅行業(2) 内容 旅行会社の組織と仕事
- 第11回 項目 旅行業(3) 内容 旅行商品(国内・海外)
- 第12回 項目 旅行業(4) 内容 旅行関連産業
- 第13回 項目 旅行業(5) 内容 旅行業のこれから
- 第14回 項目 総括
- 第15回 項目 期末試験

成績評価方法(総合) 期末試験:100%、欠格条件:3分の1以上の欠席。

教科書・参考書 参考書：観光概論<第4版>、交通公社教育開発、交通公社教育開発、1999年；観光経済学の原理と応用、河村誠治、九州大学出版会、2004年

開設科目	観光管理会計	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	篠原淳				

授業の概要 観光施設に関する財務面を企業会計の立場から検討する / 検索キーワード 観光施設 第三セクター 企業会計

授業の一般目標 財務諸表を読み取り、経営分析に役立てる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 企業会計と観光施設会計の接点（共通点）を理解する。 思考・判断の観点： 企業会計の分析視点を観光施設に応用する。 関心・意欲の観点： 観光施設にどのような形態のものがあるか積極的に調査する。 態度の観点： 課題等に真剣に取り組み、受動的にならない。

授業の計画（全体） 観光施設に関する財務面を企業会計の立場から検討する

教科書・参考書 教科書： 開講時に指示する。 / 参考書： 必要であれば適宜指示する。

メッセージ 積極的に授業に参加すること。

連絡先・オフィスアワー 行き違いのないよう訪問前にメールでコンタクトをお願いします。
a.shino@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	広告宣伝論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	マルク・レール				

授業の概要 この授業では、マスメディアの広告が持つさまざまな側面を包括的に分析する。

授業の一般目標 マスメディアの広告の特徴と機能を受信者として、そして送信者として理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 広告市場と広告の機能を理解する。 思考・判断の観点： 広告の有効性について判断する。 関心・意欲の観点： 積極的に広告を分析できる。

授業の計画（全体） 広告市場と広告媒体を歴史的、組織的、機能的に分析して、最後に受講生が自分で観光関連の広告を作成する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 コミュニケーションと広告宣伝入門
- 第 2 回 項目 マスメディアと広告宣伝入門
- 第 3 回 項目 広告発達史 I
- 第 4 回 項目 広告発達史 II
- 第 5 回 項目 広告効果論
- 第 6 回 項目 広告市場の特徴 I
- 第 7 回 項目 広告市場の特徴 II
- 第 8 回 項目 広告市場の特徴 III
- 第 9 回 項目 広告制作現場 I
- 第 10 回 項目 広告制作現場 II
- 第 11 回 項目 事例分析 I
- 第 12 回 項目 事例分析 II
- 第 13 回 項目 プレゼンテーション I
- 第 14 回 項目 プレゼンテーション II
- 第 15 回 項目 総括

成績評価方法（総合） 出席（欠格条件）、広告企画の作成（50%）とグループ・プレゼンテーション（50%）

連絡先・オフィスアワー maru @ yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	実践情報技術	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	武本ティモシー				

授業の概要 観光情報を発信・収集するためのウェブサイトを作成します。ウェブサイトの一部は英語で書いてもらいます。

授業の一般目標 HTMLの基礎を学習してから、HTMLなどのコードを知らずに、GUIでマウスを使ってHP（ホームページ・ウェブサイト）が作成管理できるブログ・CMS（コンテンツ管理システム）の使い方を紹介の使い方を習得し、訪問者とのコミュニケーションを可能にするフォーラム・チャット・メーリングリストの管理仕方を身に付けてネット参加することです。 山口の名所・名産物などを紹介し

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：HTML

開設科目	旅行契約と約款	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	油納健一				

授業の概要 旅行契約と約款について、基本的な内容を中心に講義する。

授業の一般目標 法学の基礎知識と、法的に考える能力を身につける。

授業の計画(全体) 1. 契約自由の原則と契約の成立 2. 契約の効果 3. 損害賠償(債務不履行・不法行為) 4. 契約の無効・取消 5. 旅行業法 6. 約款 7. 消費者契約法

成績評価方法(総合) 出席と期末試験による。 3分の2以上出席しなければ、定期試験の受験を認めない。遅刻・早退は欠席とみなす。また病気や家庭の事情等で遅刻・早退・欠席した者に対して、救済することはない。 なお、欠席とみなされたにもかかわらず出席を認めるようにしつこく主張したり、雑談・筆談して講義を妨害するなど、教員の指示に従わない者は不合格とする。 学期末試験は、事例論述式の問題を中心にし、講義に出席しない者には合格できない内容(友達から借りたノートを見て勉強しても合格できない内容)にする。 試験の持込については、指定した教科書のみとする。また、試験の範囲は、講義の中で話したことすべて(雑談を除く)とする。 就職活動等で講義に出席できない者のみ、レポート提出によって平常点を与えようと考えている。ただし、レポートの量は2万字以上で質は上級レベルのものでないと受けつけない。 雑談・筆談する者、教員の指示に従わない者など講義を妨害するものは不合格とする。

教科書・参考書 教科書：最初の講義で紹介する。 / 参考書：適宜指示する。

連絡先・オフィスアワー yuno@yamaguchi-u.ac.jp 毎日研究室にいる。在室中は急用がある場合を除きいつでも相談に応じる。

開設科目	観光と環境	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	朝日幸代				

授業の概要 観光資源は、自然環境を基盤とした自然資本、長い歴史を含む文化によって人間が作りだした文化資本、近年の社会的ニーズによって作りだされた民間資本などがあり、様々な形成過程や特徴がある。これら資本に対する経済学理論による捉え方を講義する。さらに自然環境および環境問題の保全政策や環境評価、観光資源となる文化資本の価値を理解する内容を提示した上で、日本国内および海外の観光資源として環境政策や環境への取り組みを利用した事例を紹介する。また、観光と環境に関する世界遺産等の映像によって、様々な観光資源を見る機会を増やす予定である。講義は講義ノートのプリントと資料によってすすめる。

授業の一般目標 観光資源の属する様々な資本を理解し、経済学の外部性の観点で環境を捉えること、さらに環境政策の観光への適用を学ぶことにより、観光資源を多様な側面から理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：外部性を理解し、環境問題を説明できる。また、文化資源や自然環境資源を理解する。環境政策の観光への適用事例を説明できる。思考・判断の観点：環境問題の解決策や観光政策で必要とされる要素について自分の意見を述べるができる。関心・意欲の観点：日常生活の環境問題や環境政策、さらに現在の観光の状況、環境政策に関心をもつ。

授業の計画（全体） 経済活動と資源および資本の定義と役割を解説した上で、外部性の考え方を示す。次に文化資本と環境について個々に解説した上で、環境資源としての考え方やコンセプトを示し、近年のエコツーリズムなどの事例を紹介する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 経済活動と資源 内容 経済と環境の関係
- 第 2 回 項目 資本の定義と役割 内容 観光資源と環境資源
- 第 3 回 項目 外部性の考え方（1）
- 第 4 回 項目 外部性の考え方（2）
- 第 5 回 項目 環境と経済の持続可能性
- 第 6 回 項目 環境政策の考え方（1） 内容 直接規制
- 第 7 回 項目 環境政策の考え方（2） 内容 四日市公害の事例紹介
- 第 8 回 項目 環境再生における新たな発展 内容 水俣公害の負の遺産をプラスにする戦略
- 第 9 回 項目 エコツーリズム 内容 ドイツのフライブルクの事例、オーストラリア環境研修
- 第 10 回 項目 観光デザインの要素 新しい観光のコンセプト 内容 環境保全型の観光
- 第 11 回 項目 環境評価方法
- 第 12 回 項目 観光の便益と費用
- 第 13 回 項目 文化資本と持続可能性 文化遺産の経済的側面
- 第 14 回 項目 文化的な財・サービスの経済的評価 内容 美術館の事例
- 第 15 回 項目 観光資源の考え方

成績評価方法（総合） 期末試験または期末試験にかわるレポート試験 = 60 % 小テスト / 授業内レポート = 20 % 出席 = 20 % この3つについて総合的に評価をする。

教科書・参考書 参考書：観光マーケティング - 理論と実際 - , 長谷政弘, 同文館, 1998年; 都市再生を考える, 植田和弘他, 岩波書店, 2004年; 公共経済学入門, 西垣泰幸 編著, 八千代出版, 2003年; 文化経済学入門, デイビット・スロスピー, 日本経済新聞社, 2003年

メッセージ 積極的な講義の参加を期待しています。尚、講義に出席せずに、試験およびレポートの提出は、講義で理解したことを評価することができません。この点を理解した上で、受講して下さい。

連絡先・オフィスアワー asahi@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	エコ・ツーリズム論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	陳禮俊				

授業の概要 エコツーリズムとは、自然環境や歴史文化を対象とし、それらを体験し学ぶとともに、対象となる地域の自然環境や歴史文化の保全に責任を持つ観光のありかたである。自然の成り立ちや歴史・文化が持つ深い意味をわかりやすく解説し、来訪者に大きな感動をもたらす。それが経済行為として成り立つ。そのことが、地域の自然環境や歴史文化を尊重し、守っていく行動にもつながり、成功すれば、環境と経済の好循環の一例となる。もともと途上国の自然保護のための資金調達手法として取り入れられたエコツーリズムの考え方は、持続可能な観光の一つの領域として先進国でも展開されており、2002年を国連がエコツーリズム年とするなど、国際的にも定着した用語（ecotourism）となっている。エコツーリズムの実現のためには、旅行者や観光事業者だけでなく、地元住民や地域の様々な産業を含む、地域における包括的、横断的な取り組みが必要である。エコツーリズムの推進は「環境」「観光」「地域」が深い関わりをもちながら取り組む社会のしくみづくりである。

授業の一般目標 エコツーリズムにおける実務と最新情報の把握を意図する。多岐にわたるテーマに関して事例を通じた理解を試みる。基本的問題から現代的な課題にも考察をしていきたい。

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 エコツーリズム論概論
- 第 2 回 項目 エコツーリズムアセスメント
- 第 3 回 項目 資源保護とアセスメントのための実務管理ツールと手法
- 第 4 回 項目 エコリズム目的地のための指標とリスク管理
- 第 5 回 項目 エコツーリズム政策
- 第 6 回 項目 島国におけるエコツーリズム管理
- 第 7 回 項目 事例研究（1）：日本
- 第 8 回 項目 事例研究（2）：韓国
- 第 9 回 項目 事例研究（3）：アメリカ
- 第 10 回 項目 事例研究（4）：カナダ
- 第 11 回 項目 事例研究（5）：南アフリカ
- 第 12 回 項目 事例研究（6）：オーストラリア
- 第 13 回 項目 エコツーリズムのマーケティング
- 第 14 回 項目 エコツーリズム資源の保護と持続的利用
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合）成績評価は基本的に、出席（40%）、課題レポート（30%）と期末試験（30%）で行う。

教科書・参考書 参考書：”Ecotourism: Management and Assessment”, Dimitrios Diamantis, Thomson Learning, 2004年；『エコツーリズム推進マニュアル』, エコツーリズム推進会議, 環境省, 2004年

連絡先・オフィスアワー 研究室:経済学部 A302室 電話:083-933-5526 E-mail:lichun@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	観光コミュニケーション	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	宮崎充保				

授業の概要 この科目の基本は「コミュニケーション」です。それに「観光」が冠されています。この授業では、コミュニケーションの基本と実践を学習して、それが、観光に関するコミュニケーションであることを学びます。「観光」は物見遊山で見聞を広めたり日常から脱却して非日常を経験するなかで自己回復を図ることを考えがちですが、これは「観光する＝訪れる」側の論理です。楽しく思い出深く、土地の人情まで触れることができれば満点でしょう。しかし、「観光させる＝受け容れる」側の論理を考えなければなりません。そこには学科の理念にあるとおり、“自国文化(＝地元文化)と異文化理解、まちづくり、景観や環境、観光産業(ホスピタリティ)”など、考えたら際限なく、言語コミュニケーションを支えとして人と文化が会うことが基本になります。/検索キーワード 観光、コミュニケーション、プレゼンテーション

授業の一般目標 ・キャッチボールにたとえられる“コミュニケーション”することは何か、その基本と基礎を学び、それを実践へ向ける。 ・この“コミュニケーション”に観光を加えたとき、コミュニケーションの形態はどうなるか、それを学び実践へ向ける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：言語に関する諸相を理解し、実践態勢へ向ける 地域文化に関する知識の収集をして理解する 思考・判断の観点：異文化(外国文化とは限らない)の人間と、ある設定された状況のもとで、どのようなコミュニケーション運営をしたらよいかの判断力をつける 関心・意欲の観点：自分にはないもの、自分が知らないものへの高い関心を持つ 自分にあるもの、自分が知っているものへの愛着と尊敬を持つ 態度の観点：関心、愛着、尊敬の次元をさらに高める そのために、調査や探求を日常から心がける 技能・表現の観点：要領を得た、まとまりのある言語表現ができるようになる その他の観点：人間、土地にまつわる諸相を好きになる

授業の計画(全体) 授業ではまず、コミュニケーションについて学びます。コミュニケーションは伝えようとする相手を相手に伝えることです。相手には理解あるいは何らかの反応が生まれるようになることです。これに観光をかぶせて、観光地の発掘、発掘した観光地の歴史文化、観光企画、現地における観光産業(ホテル、土産店など) 観光ガイドに必要なコミュニケーションをプレゼンテーションによって進めます。この科目の授業は初めて行われます。受講者のやりたいこと、やらなければならないことをリサーチしながら、上記の項目を取り入れながら、人に伝えるだけの話の種を持つような授業を考えています。したがって、週配当は未定とします。さまざまな形のコミュニケーションそのものの実践をします。その際、受講者にはパワーポイントを用いてもらいます。また、4 - 5月には、マスコミュニケーションの外国人教授(韓国外国語大学校)との英語でのジョイント授業を行いながら、観光にはマスコミュニケーションへのアプローチも重要であることを学んでもらいます。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション 1 内容 コミュニケーションについて
- 第 2 回 項目 イントロダクション 2 内容 コミュニケーションについて
- 第 3 回 項目 イントロダクション 3 内容 コミュニケーションについて 今後の授業について
- 第 4 回 項目 プレゼンテーションに向けて 1 内容 プレゼンテーションの仕方 ハンドアウトの書き方
- 第 5 回 項目 プレゼンテーションに向けて 2 内容 同上
- 第 6 回 項目 プレゼンテーション 1 内容 テーマ別
- 第 7 回 項目 プレゼンテーション 2 内容 テーマ別
- 第 8 回 項目 プレゼンテーション 3 内容 テーマ別
- 第 9 回 項目 プレゼンテーション 4 内容 テーマ別
- 第 10 回 項目 プレゼンテーション 5 内容 テーマ別
- 第 11 回 項目 プレゼンテーション 6 内容 テーマ別
- 第 12 回 項目 プレゼンテーション 7 内容 テーマ別

第 13 回 項目 プレゼンテーション 8 内容 テーマ別

第 14 回 項目 まとめ

第 15 回 項目 予備

成績評価方法 (総合) ・出席を重視する。欠席を 3 回以上すると不合格になる。以下の 4 点を最も重視して評価する。 ・プレゼンテーションのためのフィールドワークの報告書 (レポート) ・プレゼンテーションのための必要な形式のハンドアウト ・プレゼンテーション (パワーポイント使用) ・プレゼンテーションに対するアセスメント

教科書・参考書 教科書: 当面、用いる予定はないが、必要となったときはそのとき知らせる。 / 参考書: コミュニケーション力, 斎藤孝, 岩波新書, 2004 年

メッセージ 想像力をぎりぎりまで働かせてください。そして、それをどのように形にして表現するかを考えてください。また、言葉に大きな興味を持ってください。これらが億劫な人は初めからこの授業は履修しないでください。

連絡先・オフィスアワー mmiy@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	異文化コミュニケーション論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	鴨川 啓信・武本 ティモシー				

授業の概要 この授業は、二名の教員により、主としてコミュニケーション理論と異文化表象について講義・演習を行う。武本担当の授業の狙いは、他文化との言語的や非言語的コミュニケーション方式の違いや、その結果生じてくるコミュニケーションの問題について考えることである。30分以内の講義の後、他の学生と組んで日本語や英語で話しあうことによって、示されている文化差の実感を図る。ロールプレイングのような実験によって、異文化体験をさせる。インターネットを通して、オンライン実験や異文化人と交流する。鴨川担当分は、旅行記やエッセイ等、異文化との接触を描いた文章や映像を受容し、そこから異文化理解に関する問題を考察する。

授業の一般目標 武本担当授業の目標： 1) 対人コミュニケーションにおける文化の差をより意識する。 2) 日本文化や他文化の世界観の違いを意識する。 3) 日本人のアイデンティティーやコミュニケーションの特徴を意識する。 鴨川担当授業の目標： 異文化理解やその障害の例を知ること。また、妨げの要因を自分なりに特定し、障害を抑える術を考案することを通して、この主題についての理解を深めること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 異文化コミュニケーションの諸理論についての知識 (武本担当分)
技能・表現の観点： 文化の違いや異文化コミュニケーション問題について英語で話せる能力 (武本担当分)

授業の計画 (全体) 武本担当分 1. 文化とコミュニケーションの定義 2. 非言語的コミュニケーション (表情) 3. 文化と空間とコミュニケーション 4. 異文化コミュニケーション壁：差別 5. 道徳の違いとコミュニケーション 6. 文化と時間とコミュニケーション 鴨川担当分 7週で、異文化理解/誤解の事例を幾つか見ていき、それぞれについて受講者自身の意見形成の演習を行う。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回
- 第 2 回
- 第 3 回
- 第 4 回
- 第 5 回
- 第 6 回
- 第 7 回
- 第 8 回
- 第 9 回

- 第 10 回 項目 文化の定義 内容 文化がどのように定義されているか、または文化の影響がいかに深いかについて考察する。 授業外指示 100字ほどの章レポートか復習テスト
- 第 11 回 項目 コミュニケーションの定義と非言語コミュニケーション 内容 コミュニケーションについての定義 (4つほど) とコミュニケーションの定義から見た日言語コミュニケーション (特にジェスチャー) 授業外指示 "
- 第 12 回 項目 自己表現の媒体 内容 どのような媒体で自分の意志を伝えようとするのかは文化によって違います。 授業外指示 "
- 第 13 回 項目 時間観 内容 時間の概念や時間に価値観 授業外指示 "
- 第 14 回 項目 空間観 内容 空間とは何か。それが重要なのか 授業外指示 "
- 第 15 回 項目 差別とコミュニケーション 内容 異文化コミュニケーションの最大の妨げとなる潜在的差別・偏見の存在を自覚する 授業外指示 試験の準備

成績評価方法 (総合) 武本担当授業では、学期末試験 50%、カード得点評価法による平常点 50% 鴨川担当授業では、発表等での授業参加状況・課題の提出状況 (1/2)、レポート (1/2) で評価する。授業全体では、上記の評価を総合して成績を出す。

メッセージ 「異文化コミュニケーション論」は実習的な科目でもあるので、出席は重要。(武本)

連絡先・オフィスアワー 武本：コースHPは yufoe.com から。いつでもチャットルーム chattoru-mu.com や timothy@nihonbunka.com まで 鴨川：研究室: 経済 A207 / e-mail: kamogawa@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	情報メディア論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	マルク・レール				

授業の概要 この授業の目的は、国際的にメディアの市場とメディア自体の特徴を分析することである。 / 検索キーワード メディア、マスメディア、新聞、テレビ、ラジオ

授業の一般目標 受講者のメディア・リテラシー・レベルを高める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：マス・メディアの仕組みを理解する。 思考・判断の観点：それぞれのマスメディアの特徴と可能性について判断が出来る。 関心・意欲の観点：もっと積極的にマス・メディアの「素顔」を調べる。 態度の観点：日ごろ、マス・メディアの情報行動を疑問視する。

授業の計画(全体) 理論的分析と実例に基づいて、新聞、放送、インターネットの歴史的発展や現在の特徴と可能性を明らかにする。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 コミュニケーション学入門 内容 コミュニケーションの仕組みと「メディア」の関係。
- 第 2 回 項目 メディア研究入門 内容 メディア研究の分野とその特徴、研究テーマ、方法論。
- 第 3 回 項目 新聞の歴史的発展 - ドイツ 内容 ドイツの新聞の歴史的発展とその中に見るジャーナリズムの基本的発想の解説。
- 第 4 回 項目 新聞の歴史的発展 - 日本 内容 日本の新聞の歴史的発展とその中に見るジャーナリズムの基本的発想の解説。
- 第 5 回 項目 新聞市場の特徴 I 内容 部数データを中心に現在の日本の新聞市場の特徴の解説。
- 第 6 回 項目 新聞市場の特徴 II 内容 欧米と日本の新聞市場の比較。
- 第 7 回 項目 送メディアの歴史的発展 - 米国 内容 米国の放送の歴史的発展とその中に見るメディア・ソフトの解説。
- 第 8 回 項目 放送メディアの歴史的発展 - 日本 内容 日本の放送の歴史的発展とその中に見るメディア・ソフトの解説。
- 第 9 回 項目 放送市場の特徴 I 内容 放送ビジネスの現状の解説と国際比較。
- 第 10 回 項目 放送市場の特徴 II 内容 多チャンネル化とソフトの関係の解説。
- 第 11 回 項目 テレビ番組に見る社会変化 内容 社会変化 主にアメリカの代表的なテレビ番組の分析。
- 第 12 回 項目 マスメディアとしてのマルチメディア I 内容 マルチメディア I マルチメディアの発展と現状に関する解説。
- 第 13 回 項目 マスメディアとしてのマルチメディア II 内容 マスメディアとしてのインターネットの分析。
- 第 14 回 項目 マスメディアの将来像 内容 メディアは同変わっていくか、そしてどのメディアが生き残るかを検討。
- 第 15 回 項目 総括・試験 内容 授業で学んだことをどう生かせるかを考える。期末試験を実施。

成績評価方法(総合) 小テストを講義期間中に 5 回実施(計 50%)。期末試験を最後の授業内に実施(50%)。

連絡先・オフィスアワー maru @ yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	文化心理学	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	武本ティモシー				

授業の概要 文化が心理に対して及ぼす影響の大きさは、次第に理解されつつある。あなたは、自分が「上手」だといわれると頑張るか、それとも「下手」だといわれるともっと頑張るか。ホラー映画に出てくる《怖い人》は女性か男性か？これらの問いはどれも文化差があることが最近の研究によって証明されている。 / 検索キーワード 文化・心理学・社会心理学・人の心・びっくり・実験・調査

授業の一般目標 この授業の目的は、文化と心理の関わりを学習することである。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：文化心理学の研究 思考・判断の観点：文化心理学の方法論 関心・意欲の観点：文化心理学が示す文化差に興味を示すか、その差を否定することに興味を示すか 態度の観点：結局的に聞き、オンライン討論に参加し、

授業の計画（全体） 文化心理の定義から始まり方法論を取り入れ文化心理の重要性をアピールしてから、体系的な研究・実験を紹介し、これらがどのように今までの社会心理学や教育・経営・経済の理論にまで影響を与えるかについて考察を加え、観光業務における異文化の理解のための道具として文化心理学を位置付ける。

成績評価方法（総合） 授業の参加・小レポートと試験を評価の対象にします。

教科書・参考書 参考書：自己と感情, 北山忍, 共立出版, 1997年；木を見る西洋人 森を見る東洋人, R・E・ニスベット, ダイヤモンド社, 2004年；文化心理学, 柏木恵子他編, 東京大学, 1997年；心でっかちな日本人 集団主義文化という幻想, 山岸俊男, 日本経済新聞社, 2002年；社会心理学：アジア的視点から, 山口勸, 放送大学教育振興会, 1998年；読まなくても合格できますが、読めば理解が深くなり試験が簡単になります。

メッセージ いつでも質問してください。

連絡先・オフィスアワー コースホームページは YUFOE.com から入れます。メール tim@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	日本文化・宗教論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	武本 Timothy				

授業の概要 日本の宗教が身近なところで日本文化を影響していること、日本文化についての理論も日本人の日常的な行動の特長を説明できること、観光者が日本を訪れるときに魅力的に思う日本と困惑する日本について話します。 / 検索キーワード 日本・宗教・文化・日常文化

授業の一般目標 日本仏教と神道を紹介し、日本の現代日常文化の中にその影響を考える。日本を訪れてくる観光客が体験する日本文化の長所と問題点 日本文化論を紹介しながら、出来るだけ観光の対象となるビジュアル文化に注目する

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本文化・宗教についてのいつかの理論を知る 思考・判断の観点：日本文化・宗教についての理論を応用できる 関心・意欲の観点：できるだけ皆さんの関心を引き出してみることが教員の目標ですが、評価の対象にはならない。 態度の観点：最初から寝たり・遅れてきたり・教員を無視したりしないという態度をとる第一歩の目標

授業の計画(全体) 下の話題の全ては取り扱えないかもしれませんが、頑張ります。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 紹介 内容 (1) コース内容の紹介 (2) 宿題の紹介 (3) 文化と宗教の関係 (4) 取り扱わない「宗教」(道教・儒教・武士道)
- 第 2 回 項目 仏教 内容 (1) インドの仏教思想 (2) 日本先祖崇拜と葬式仏教 (3) 相対主義 (4) 個人主義と集団主義と仏教 (5) 平和主義・パチンコ・いろは・浮世絵
- 第 3 回 項目 架空の日本 内容 (1) 日本独自性の幻想 (2) 「農耕民族」(3) 白人の日本人観 (4) 日本人の白人観 授業記録 Mark J. Hudson 『Ethnogenesis in the Japanese Islands』 Tessa Morris-Suzuki 『Re-inventing Japan』 飯田利秋著 『不思議の国ニッポン』 石澤靖治編 『日本はどう報じられるか』 Ian Buruma 著 『Inventing Japan』 Ian Littlewood 『The Idea of Japan』
- 第 4 回 項目 歴史観と相対性 内容 (1) 「南京虐殺」「従軍慰安婦」「拉致事件」(2) 「奴隷制度」「アヘン戦争」「ホロコースト」「9/11」
- 第 5 回 項目 神道 内容 (1) 多神教 (2) 霊の循環 (3) アニミズム (4) 地理的トテミズム (5) 空間 (6) 視覚 (7) 神話 (8) ケガレとしての罪と Sin(9) 日本神話の中の性と出産
- 第 6 回 項目 日本の服と包装 内容 (1) イデオロギーを着ること (2) 日本のファッション (3) 原宿 授業記録 Brian J. McVeigh 著 『Wearing Ideology』 Joy Hendry 著 『Wrapping Culture』 Dominic Buisson 著 『Japan Unveiled: Understanding Japanese Body Culture』
- 第 7 回 項目 ポップ・カルチャー 内容 (大衆文化)(1) まだこれらの本を読んでいません。(2) テレビ・タレント・(3) 暴走族 授業記録 GM Thomas 著 『Extremes: Contradictions in Contemporary Japan』 Karl Taro Greenfeld 著 『Speed Tribes』 Donald Richie 著 『The Image Factory』 John Whittier Treat 著 『Contemporary Japan and Popular Culture』 Schilling 著 『The Encyclopedia of Japanese Pop Culture』 Timothy J. Craig 編 『Japan Pop! Inside the World of Japanese Popular Culture』 D.P.Martinez 編 『The Worlds of Japanese Popular Culture』
- 第 8 回 項目 アニメ・マンガ 内容 海外でブームが絶えない日本のアニメとマンガ (1) まだこれらの本を読んでいませんが一杯持っている
- 第 9 回 項目 日本の教育 内容 日本に来る外来観光客の多くは留学生 (1) 学級 (2) 子供を信頼する初等教育 (3) 第 3 教育の神話 授業記録 「学級のお薦め」 『The myth of Japanese higher Education』
- 第 10 回 項目 日本語 内容 日本の多くの留学生は日本語も勉強している (1) 日本語の魅力 (2) 国際語としての日本語 授業記録 鈴木孝夫著 『日本語は国際語になりうるか』
- 第 11 回 項目 日本のテクノロジー 内容 電気・電子製品・カメラ・産業観光・珍道具 文献が現時点乏しいので探す 授業記録 Kenji Kawakami 著 『Bumper Book of un-useless japanese Inventions』

第 12 回 項目 日本の観光資源 内容 外国からの観光客は何を期待して来日しているか (1) 自然 (2) 温泉 (3) 景観・建物 (4) 神社仏閣 (5) 祭り 文献：乏しいので調べる

第 13 回 項目 日本文化の視覚性(武本理論2) 内容 (1) 国の品格・美しい国日本・見た目は9割・甘えの構造 授業記録 選書メチエ編集部編『ニッポンは面白いか』の中の武本ティモシー「鏡の前の日本人」・中島義道『うるさい日本人の私』・リチャード・E・ニスベット著『木を見る西洋人森を見る東洋人思考の違いはいかにして生まれるか』 Timon Screech 著『The Lens Within the Heart』

第 14 回 項目 日本の性の文化(武本理論1) 内容 授業の出席は任意とする。外来観光客にとっては、日本の不思議・魅了やグロテスクな個所になるであろう。(1) ジェンダー (2) フェミニズム (3) 性に対する考え 授業記録 Nicholas Bornoff 著『The Pink Samurai』

第 15 回

成績評価方法(総合) 1回目ですのでどうすればよいか分かりません。

教科書・参考書 教科書：パワーポイント・スライドをネットで配信 / 参考書：上述計画内の文献参照

連絡先・オフィスアワー いつでもさっきにお電話ください。083 933 555 または 090 9588 3270

開設科目	中国社会文化論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	齊藤匡史				

授業の一般目標 中国近現代文明の特質について考察をすすめることが、本講義の主題である。ここでは「文明」を「社会発展の有り様」と定義する。直接の論考対象は「中国 上海」で、この街を様々な角度から観察、分析し、中国社会の変遷とその精神文化について論じてゆく。

授業の計画(全体) 授業計画(講義項目,講義方法,スケジュール等) 系統だった講義形式は取らず、いくつかのテーマを中心に考察を展開する。2回ぐらいは中国についての基本的な常識を確認する作業から始める。テーマ(予定): 上海の今/上海のイメージ/黎明期の上海/租界と都市の発展 1920、30年代 - 黄金期/上海の住宅/都市生活と上海人/社会主義上海 改革開放と上海 など

成績評価方法(総合) レポートの内容を中心に評価する。

メッセージ 基礎的な中国語を理解できる受講者が望ましい。

開設科目	英米文化論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	鴨川 啓信				

授業の概要 英米の文化で、「旅」がどのようにとらえられているかを見ていく。 イギリスとアメリカ、またはこれらに影響を与えた他の文化における「旅」の概念を、旅行記・小説・映像での描かれ方を実際に検証し学習する。

授業の一般目標 英米における「旅」の概念について、またその背景となる英米(あるいは西洋)文化全般について理解を深める。

授業の計画(全体) 各週、検証する題材を用いて講義形式で学習する。受講生には、学期中・学期末にレポートの提出を求める予定。詳細については、初回の授業で説明する。

成績評価方法(総合) 出席+レポート+ 詳細については、初回の授業で説明する。

教科書・参考書 教科書：教材はプリントにて配布 / 参考書：必要に応じて授業内で提示する。

連絡先・オフィスアワー e-mail: kamogawa@yamaguchi-u.ac.jp 研究室: 経済 A207

開設科目	山口の歴史と文化	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	木部和昭				

授業の概要 観光行政や観光産業に携わる者は、貴重な観光資源でもある地域の歴史や文化について深い造詣と正確な知識を備えている事が望ましい。しかしながら、往々にして一般的な観光案内などでは、通俗的で誤った内容の歴史が旧態依然としてまかり通っているケースが少なくない。本講義では、まずは我々の暮らす山口県の歴史や文化について、最新の研究成果に基づいた正しい知識の習得を目指す。また、こうした歴史や文化を、観光にどの様に活かせるのか、その可能性についても取り上げてみたい。/
検索キーワード 日本史、山口県

授業の一般目標 (1) 山口県の歴史や文化に対する造詣を深め、その正確な知識を習得する。(2) 山口という地域に対する興味・関心を深める。(3) 歴史や文化の有効活用などについて、問題意識を深める。

授業の計画(全体) 1, 配布プリント・資料をもとにした講義形式で授業を進める。2, 山口県の歴史を全て取り上げることは不可能なので、時代順にトピックを設けて講義を進めていく。その際、下記のテキストも使用する。3, 講義内容の予定は以下の通り。原始(土井ヶ浜遺跡)、古代(周防・長門国府の成立、長登銅山と鑄銭司)、中世(源平合戦と下関、大内氏の繁栄と滅亡)、近世(萩藩の成立と毛利氏、萩焼、長州捕鯨、天保改革、松下村塾と志士、明治維新と長州)、近代(山口県の成立、近代工業の勃興と近代化遺産)。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 導入
- 第 2 回 項目 土井ヶ浜遺跡と弥生文化
- 第 3 回 項目 周防・長門国府の成立
- 第 4 回 項目 長登銅山と鑄銭司
- 第 5 回 項目 源平合戦と下関
- 第 6 回 項目 大内氏の繁栄と滅亡
- 第 7 回 項目 萩藩の成立と毛利氏
- 第 8 回 項目 萩焼の誕生
- 第 9 回 項目 長州北浦捕鯨の世界
- 第 10 回 項目 萩藩天保改革と村田清風
- 第 11 回 項目 松下村塾と志士たち
- 第 12 回 項目 明治維新の動乱と長州
- 第 13 回 項目 山口県の成立
- 第 14 回 項目 近代工業の勃興と近代化遺産
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法(総合) 学期末試験は論述形式。講義中、数回程度の小レポートを課す。期末試験 65%、小レポート 20%、出席 15% により成績を評価する。ただし出席の悪い場合は、この基準に関係なく不合格とする場合がある。

教科書・参考書 教科書：山口県の歴史, 小川国治編, 山川出版社, 1998年 / 参考書：図説 山口県の歴史, 八木 充編, 河出書房新社, 1998年; その他の参考文献は、授業中適宜紹介する。

メッセージ 今年度初めて開設された科目であるため、実際の授業内容は変更になる場合がある。

連絡先・オフィスアワー 経済学部 C207 研究室 内線 5566、E-mail ; kibe@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	観光プロトコール	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	古賀武陽				

授業の概要 観光産業はホスピタリティー産業であり、その根本にあるのは "おもてなし" のところ。そしてそれを "かたち" にするのが、プロトコール(国際儀礼の基本)です。この授業では、プロトコールの理論と実際を学び、観光産業でそれがどのように活かされているのかを学びます。同時にそれは将来、国際社会に出て活躍する学生のマナーやエチケットにもつながります。 / 検索キーワード プロトコール、ホスピタリティー、国際儀礼

授業の一般目標 観光産業におけるプロトコールの必要性を理解し、国旗の取り扱い、席次、右方上位、序列(Rank conscious)などの基本原則を様々な状況において実践できるようになることを目標とします。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 観光産業の基本である「接客」の基本にはホスピタリティーの基本原則があることを理解する。 態度の観点: ルールを理解し、洗練されたマナーを身につける。

授業の計画(全体) 私がプロデューサーとして制作したビデオ教材を適時使用しながらわかりやすい授業を心がけます。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 全体の概要説明
- 第 2 回 項目 プロトコールとホスピタリティー産業 内容 観光事業におけるプロトコールの位置づけ
- 第 3 回 項目 各論(1) 国旗に関するルール 内容 国旗掲揚に関わる基本
- 第 4 回 項目 各論(2) 席次、序列とレディーファーストに関するルール 内容 各種の状況に応じたレディーファーストとテーブルプラン
- 第 5 回 項目 各論(3) レセプションのルール 内容 その特徴と意義
- 第 6 回 項目 各論(4) パーティーの主催者 内容 主催者と出席者双方の立場から
- 第 7 回 項目 各論(5) 着席のディナー 内容 テーブルマナーの実際
- 第 8 回 項目 各論(6) 乾杯とスピーチ 内容 乾杯のスピーチをやってみよう!
- 第 9 回 項目 各論(7) 服装 内容 Dress code とは
- 第 10 回 項目 各論(8) 自己紹介と名刺交換 内容 状況に応じた名刺の扱いと紹介のルール
- 第 11 回 項目 各論(9) 上位席について 内容 状況に応じた上位席の見極め
- 第 12 回 項目 各論(10) 異文化間の諸問題 内容 タブーとボディランゲージ
- 第 13 回 項目 ホスピタリティー産業とプロトコール 内容 おもてなしを形にするには。ホテルとレストランの実際
- 第 14 回 項目 敬語その他のビジネスマナー 内容 一般社会人としてのマナーについて
- 第 15 回 項目 総括 内容 これまでのまとめと質問

成績評価方法(総合) 知識としての評価(期末テスト)はもちろんのこと、身につけているかどうかの実践面(授業の中)でも評価する。

教科書・参考書 教科書: 必要に応じてプリントを配布します。 / 参考書: 国際儀礼に関する12章, 外務省情報文化局, 世界の動き社, 1984年; 国際ビジネスのためのプロトコール, 寺西千代子, 有斐閣, 1985年; ビジネス・エチケット入門, 日本能率協会編, 日本能率協会, 1993年; 必要に応じてプリントを配布します。

メッセージ 今やすべての局面で "国際化" は不可欠な要素となっています。個人の場合でもプロトコールの原則を活用しよう!

連絡先・オフィスアワー kogatake@jupiter.ocn.ne.jp

開設科目	リーディング（英語基礎強化）	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	鴨川 啓信				

授業の概要 英国の作家 Roald Dahl の ”Charlie and the Chocolate Factory” を読む。最近映画化されたこの小説は、子供が読むことを想定しているため、平易でありながらも多彩な文章表現が用いられており、英語学習に最適である。授業では、（ Puffin Books 版 155 ページの ）物語全体を半期で読んでいき、英語読解力の向上を目指す。

授業の一般目標 理解しやすい物語を読んでいくことで、使われている様々な英語表現を習得する。また文章の性質に応じて、速読 / 精読の英語読解力を向上させる。

授業の計画（全体） 教科書として使用予定の Puffin Books 版全 155 ページを 13 週で読んでいく。毎回担当者を決めて、速読による内容把握だけで済ませる箇所についてはそのあらすじの紹介を、精読する箇所については語句の説明と日本語訳を、担当者に発表してもらおう。全体の進度や毎回の授業のすすめ方については、初回の授業時に説明する。

成績評価方法（総合） 授業参加点（出席・発表点） + 小テスト + 定期試験の合計で評価する。

教科書・参考書 教科書： Charlie and the Chocolate Factory, Roald Dahl, Puffin Books, 1998 年

連絡先・オフィスアワー e-mail: kamogawa@yamaguchi-u.ac.jp 研究室: 経済 A207

開設科目	ライティング(英語基礎強化)	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	正宗 聡				

授業の概要 この授業では、一段落程度の英文を書けるように練習する。 / 検索キーワード logic

授業の一般目標 1段落程度の長さの英文が書けるようになれば、その先、いわゆる文章の長さのもった英文も、ある意味では比較的楽に書けるようになるのではないかと思われる。そうした文章を書くことへの橋渡しの作業練習を行うことが目標である。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：段落の基本的な構造や、文から文への流れを示す語句などの習得。

思考・判断の観点：文の流れ、すなわち論理を考える。 関心・意欲の観点：いかに自分の言いたいことを伝えるか、伝達を表面的に済ますのではなく、苦心して性格に自分の言いたいことを伝える努力をすること。 態度の観点：積極的に授業に参加すること。特に不定期な参加や、遅刻等はできるだけ避けること。 技能・表現の観点：基礎的な文法項目を復習しながら、それらをしっかりと身につける。

授業の計画(全体) 毎回、書くための技術や知識を少し紹介したあと、紹介したその観点からいって誤りと言える英文例を材料に添削作業をし、最後に各自、英文を書いていただきます。各回に行うテーマとしては、1)あなたのあこがれるヒーロー 2)養子問題 3)20世紀の発明品等を予定しています。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 Introduction 1
- 第2回 項目 Introduction 2
- 第3回 項目 Introduction 3
- 第4回 項目 Praxis
- 第5回 項目 Praxis
- 第6回 項目 Praxis
- 第7回 項目 Praxis
- 第8回 項目 Praxis
- 第9回 項目 Praxis
- 第10回 項目 Praxis
- 第11回 項目 Praxis
- 第12回 項目 Praxis
- 第13回 項目 Praxis
- 第14回 項目 Praxis
- 第15回 項目 Praxis

成績評価方法(総合) 授業参加度 + 課題提出状況 + 学期末課題、で評価する。

教科書・参考書 教科書：Reason to Write という本などから、毎回、必要な部分をコピーを配布します。できるだけ少ない枚数で済ませたいと思います。

メッセージ 提出物を学期中に三回、課しますが、丁寧な作成をこころがけてください。なお、綴りのミスを始め、いくつかこちらで示した基準を満たしていないレポートは受け付けません。

開設科目	リスニング（英語基礎強化）	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	鴨川 啓信				

授業の概要 映画を教材としてリスニングの訓練をする。映画 ”Music of the Heart” のビデオを用いて、実際の会話（に極めて近いもの）の聞き取り訓練を行う。また、その脚本を利用して語彙の増強も図る。授業内でのリスニング訓練の実践だけでなく、映画のような身近な素材を用いた訓練法を学び、この授業を終えた後もリスニング訓練を継続的に続ける習慣を身に付けることも目標とする。

授業の一般目標 英語リスニング能力の向上。リスニング訓練法の習得。リスニング習慣の形成。語彙の増強。

授業の計画（全体）教科書の章に合わせて（1本の映画を最後まで観ながら）授業を進める。各回の授業では、受講者に幾らかの作業をしてもらうことで、リスニング訓練及び英語の慣用表現の習得を行う。また、習熟度を確認するために、ほぼ毎回小テストを実施する。

成績評価方法（総合）授業への参加度＋小テスト＋定期試験の合計で評価する。

教科書・参考書 教科書：ミュージック・オブ・ハート - 映画・音楽・リスニング - , 沖野泰子 他, 英宝社, 2003 年

連絡先・オフィスアワー e-mail: kamogawa@yamaguchi-u.ac.jp 研究室: 経済 A207

開設科目	文法（英語基礎強化）	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	宮崎充保				

授業の概要 英語を学習する際に、学習の進度のひとつの目安となるのが、文法の諸項目である。一般的な文法項目にしたがって、その知識を復習、使えるように学習し、さらにもう一つ上のレベルへと発展させてみたい。 / 検索キーワード コミュニケーション、関連付けられた文法

授業の一般目標 英文法だけでなく、そもそも言語の働きというものについても考えたい。ただ単に、文法的な正しさ (technical correctness) だけではコミュニケーションに生かされない場合がある。使う正しさ (practical correctness) を学ぶ。(ここで言うコミュニケーションとは、単に、話す・聞くではない。)

授業の計画(全体) こちらで用意した材料をもとに、文法の practical correctness に基づいた基本を他の文法の諸項目と関連付けて、体系化する。決してむずかしい体系化ではない。これまでばらばらだった文法項目の理解を関連付けるということである。

成績評価方法(総合) 定期テストまたは授業内外の日ごろの achievements による

教科書・参考書 教科書：教材は授業時にプリントで配布する。

メッセージ 「なぜ？」を絶えず考えよう。コミュニケーションには文法は不可欠である。

連絡先・オフィスアワー mmiy@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	会話(英語基礎強化)	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	Alan Christ				

授業の概要 TOEFL practice and how to improve students' TOEFL scores will be the center of this class. This class will be for students of all abilities of English from beginners to those wishing to study at colleges and universities overseas. / **検索キーワード** TOEFL, ETS, overseas study, university admissions requirement

授業の一般目標 Students will be able to build their vocabulary and listening comprehension skills, especially those that are relevant to the TOEFL test.

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: Students must be able to explain terms in easy to understand English **関心・意欲の観点:** Students must want to communicate with others in English. **態度の観点:** Students must be able to work in groups of students and not be shy about expressing themselves.

授業の計画(全体) Every week different topics of conversation will be covered.

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 Words in Context and Roots 授業外指示 Chapters 1 and 6
- 第 2 回 項目 cont. 授業外指示 Chapters 1 and 6
- 第 3 回 項目 cont. 授業外指示 Chapters 1 and 6
- 第 4 回 項目 Living Things (vocab) 授業外指示 Chapter 2
- 第 5 回 項目 Time and Space 授業外指示 Chapter 3
- 第 6 回 項目 Everyday and Specific Vocab 授業外指示 Chapter 4
- 第 7 回 項目 Thoughts and Communication 授業外指示 Chapter 5
- 第 8 回 項目 Feelings and Sensations 授業外指示 Chapter 7
- 第 9 回 項目 Idioms and Confusing Words and Prefixes 授業外指示 Chapters 8 and 9
- 第 10 回 項目 Confusing words and Prefixes 授業外指示 Chapters 8 and 9
- 第 11 回 項目 Places and Movement 授業外指示 Chapter 10
- 第 12 回 項目 Size 授業外指示 Chapter 11
- 第 13 回 項目 Suffixes 授業外指示 Chapter 12
- 第 14 回 項目 Phrasal Verbs 授業外指示 Chapter 13
- 第 15 回 項目 Comprehensive Review

成績評価方法(総合) Class participation 40 % Homework 20 % Periodic Quizzes 20 % Final test 20 % Students who are absent for 5 class periods will automatically fail.

教科書・参考書 教科書: The TOEFL Test Assistant, M. Broukal, Heinle and Heinle

開設科目	会話（英語基礎強化）	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	武本ティモシー				

授業の概要 留学を目指している学生や観光学科の学生にお薦めするこの授業は、共通教育のイングリッシュスピーキングに似ていてより進んだレベルの英語コミュニケーション・コースです。授業内ではひたすら英語で話し聞き、授業の外では教科書を読んでおいてもらったり、単語を覚えてもらったり、自分自身についての短いレポートを書いてもらいます。テーマは山口大学での生活です。履修の条件には、同じ教科書を使っていないことです。/ 検索キーワード 英語コミュニケーション・発信・技能・英語脳・習得・流暢性

授業の一般目標 この授業の目標は、発信型の英語コミュニケーション能力を身に付けることです。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：自分自身の性格・嗜好や山口での生活を説明できるための簡単な文法表現を理解すること 自分自身の性格・嗜好や山口での生活を説明できるための簡単な英単語を覚えること 態度の観点：自分がわからないことをはっきり「分からない」という表現する潔い態度 間違った英語でも自己表現すること 技能・表現の観点：簡単な構造や単語でも、即座に英文を作り発話すること 自分自身や自分の生活について文章を書くこと

授業の計画（全体） 教科書は山口大学での学生生活について書かれています。できるだけ学生が関心をもっている話題を選びました。最初のは4つのテキストを読み、ペアになって相手のテキストについての質問とさらに突っ込んで質問します。次に相手自身についての二つのアンケートを使って質問します。自分自身について話している場合は、本当のことを言う必要はまったくありません。重要なのは正しい表現をするのではなく、はったりをきかし、ウソを言い、間違えろ！英語をたくさん話すことです。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 English is Baseball & Real Classroom English 内容 授業の規則と授業の英語：突っ込みの質問の訊き方・理想的な授業 授業外指示 教科書を読んでおくこと・単語を覚えてくること 授業記録 担当教員の体力限り授業内容についてのレポート（100～200語）
- 第 2 回 項目 How to use a PC and yueigocom 内容 パソコンと講座HPの使い方：インターネットの使い方・英語の勉強方法 授業外指示 " 授業記録 "
- 第 3 回 項目 Student Recipes 内容 学生のレシピ：料理・食べ物 授業外指示 " 授業記録 "
- 第 4 回 項目 Part-time Jobs 内容 山口でのアルバイト：学生のアルバイト・職業当て子ゲーム 授業外指示 " 授業記録 "
- 第 5 回 項目 Student Health 内容 学生の健康：自分の健康・お医者さんごっこ 授業外指示 " 授業記録 "
- 第 6 回 項目 Yamaguchi Festivals 内容 山口のお祭り：自分の祭り・先週末の行動 授業外指示 " 授業記録 "
- 第 7 回 項目 Student Apartments 内容 山口での学生アパート：自分の部屋・自分の部屋の配置 授業外指示 " 授業記録 "
- 第 8 回 項目 Your Yamaguchi 内容 山口のお奨め：自分の山口のお奨め・自分の故郷 授業外指示 " 授業記録 "
- 第 9 回 項目 Japanese Culture 内容 日本の文化：日本の慣習 授業外指示 " 授業記録 "
- 第 10 回 項目 Courses and Credits 内容 授業と単位：自分にとっての単位・週間スケジュール 授業外指示 " 授業記録 "
- 第 11 回 項目 Yamaguchi Nature 内容 山口の自然：自分と山口の自然・環境保全 授業外指示 " 授業記録 "
- 第 12 回 項目 Cell Phones and Cars 内容 携帯電話と車：いと悪い携帯電話・車とドライブについて 授業外指示 " 授業記録 "

第 13 回 項目 Music and Movies 内容 音楽と映画：音楽について・映画について 授業外指示 " 授業記録 "

第 14 回 項目 Getting a Job 内容 就職活動：理想的な仕事・自分の未来 授業外指示 " 授業記録 "

第 15 回 項目 Your Taste in Guys and Girls 内容 異性の趣味:学生の異性の趣味(空想な話でも結構です・男女の違い 授業外指示 " 授業記録 "

成績評価方法(総合) 授業中に発言する学生に得点カードを渡し話し聞き能力を授業参加を、オンラインテストで教科書の復習を、短い文章を書いてもらい文章能力を測って4つの技能を評価の対象とします。

教科書・参考書 教科書: English Speaking (第1版・紺色・カラー写真), Timothy Takemoto, Timothy Takemoto; この教科書を使った授業はアランキリストの英会話クラスを履修してください。これは浅い紫色の「English for Students」という教科書ではありません。

メッセージ 英語はスポーツのようなものだと思います。ファイト!

連絡先・オフィスアワー 授業時間以外にいつでもよいです。不在ならば timothy@nihonbunka.com (携帯にも転送されます) で呼び出してください。また、オンラインチャットルームである chattorru-mu.com を尋ねてください。ホームページは Yufoe.com から入ります。

開設科目	ビジネス英語	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	古賀武陽				

授業の概要 国際ビジネスの現場で使用される英語を、特に「読む」「書く」に重点を置いて学習する。 /
 検索キーワード ビジネス英語、国際ビジネス、e-mail

授業の一般目標 国際ビジネスの現場で使用される英語を、特に「読む」「書く」に重点を置いて学習する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： ビジネス文書を正しく理解し、書けるようになること。 思考・
 判断の観点： ビジネス文書の背後（ビジネス環境、社内事情など）を正しく理解する。 関心・意欲の
 観点： 国際ビジネスへの関心を高める。 態度の観点： 国際理解力を高める。 技能・表現の観点： 英
 語発想に基づく英語の文書作成能力をつける。

授業の計画（全体） 教科書のビジネスシーンの進行に沿って、特に「読む」「書く」スキルを重点的に学
 ぶ。また、適宜タイムリーな記事をプリントで読み最新のビジネス情報を学ぶ。

成績評価方法（総合） 発想力および表現力の両面でスキルが着床しているかどうかの評価のポイントとなる。

教科書・参考書 教科書：“ Business as Usual ”(成美堂) / 参考書： Japan Times などの英字紙企業
 の英語版 Home page

メッセージ グローバル・マインドをもって世界を見よう！

連絡先・オフィスアワー kogatake@jupiter.ocn.ne.jp

開設科目	ビジネス英語会話	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	古賀武陽				

授業の概要 グローバル化時代に活躍するビジネス・パーソンが、将来のビジネス・シーンにおいて求められるコミュニケーション能力を養成するために会話に主力を置いたトレーニングをおこなう。 / 検索キーワード コミュニケーション能力、国際ビジネス、プレゼンテーション

授業の一般目標 日本企業の国際関連部門で働く、外資系企業を目指す、海外駐在ををしたい、などといった将来の夢を実現するためには異文化理解力、コミュニケーション能力、国際マナー、グローバルな発想などが求められる。授業では、グループ毎に設立した仮想企業をベースにそれぞれの役職を決め、事業内容に応じたテレフォン・カンパセ - ション、プレゼンテーションなどをおこない、リアルな会話能力を取得することを目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： ビジネス社会で使用される語彙、会社の組織や基本的な行動に対して理解する。 思考・判断の観点： 英語的な発話を日本語発想との違いについて理解できる。自己紹介ができる。 関心・意欲の観点： 実際に使われる英語会話を学習することにより英語に対する関心を高め、興味を刺激する。 態度の観点： 大きな声で明瞭に話すというトレーニングを通じて、コミュニケーション能力の高度化を目指す。日本人同士で英語を話すことに慣れるようになる。 技能・表現の観点： 必要なことを臆せず英語にして話せる習慣を形成する。 その他の観点： 日常的に英語に触れる習慣を身につける。

授業の計画（全体） 授業では、毎回 chain practice により相互の会話をおこなうことからスタートする。次に5名のグループにより仮想企業を設立し、self-introduction, corporate presentation, product representation, telephone conversation, business negotiation などを行なう。

教科書・参考書 教科書： 適宜 print を配布する。 / 参考書： Japan Times, , Japan Times ; Wall Street Journal, , Dow Jones ; Japan Times, Wall Street Journal などのビジネス関連記事をできるだけ読むように。

メッセージ 毎回の授業が成績評価の土俵であることを認識していただきたい。

連絡先・オフィスアワー kogatake@jupiter.ocn.ne.jp

開設科目	ビジネス・ライティング	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	Alan Christ				

授業の概要 Writing in English and other forms of English within a business context will be emphasized.

授業の一般目標 By placing themselves in hypothetical business situations, students will be able to write using E-mail in English appropriate to various office situations.

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: The forms and conventions of business correspondence, primarily by Email will be studied. **態度の観点:** The more that students are willing to stretch their knowledge of English and unburden themselves of the fear of making mistakes, the better their English will progress.

技能・表現の観点: Personal expression in differing business situations will be maximized.

授業の計画 (全体) Each week different types of business correspondence will be covered and students will submit weekly their weekly homework via E-mail.

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 Introducing business E-Mail 内容 Class introduction 授業外指示 About Yourself
- 第 2 回 項目 Letter of Application 内容 Email at Work: chapters 1 and 2 授業外指示 Cover Letter 授業記録 (describing jobs)
- 第 3 回 項目 Requesting Information 内容 Email at Work: chapter 3 授業外指示 Letter of Inquiry 授業記録 (conference talk)
- 第 4 回 項目 Requesting Information cont. 内容 Email at Work: chapter 3 授業外指示 Second Letter of Inquiry 授業記録 (facts and figures)
- 第 5 回 項目 In house correspondances 内容 Email at Work: chapter 4 授業外指示 Short Memo 授業記録 (personal profiles)
- 第 6 回 項目 In house correspondances cont. 内容 Email at Work: chapter 4 授業外指示 Long memo 授業記録 (company overview)
- 第 7 回 項目 Negotiating 内容 Email at Work: chapter 5 授業外指示 Counter Offer 授業記録 (telephoning)
- 第 8 回 項目 Giving information 内容 Email at Work: chapter 6 授業外指示 Sales Letter 授業記録 (product detail)
- 第 9 回 項目 Giving Information cont. 内容 Email at Work: chapter 6 授業外指示 Second Sales Letter 授業記録 (organizing an event)
- 第 10 回 項目 Expressing dissatisfaction 内容 Email at Work: chapter 7 授業外指示 Complaint Letter 授業記録 (checking progress)
- 第 11 回 項目 Dissatisfied Customers 内容 Email at Work: chapter 8 授業外指示 Apology Letter 授業記録 (dealing with complaints)
- 第 12 回 項目 Delinquent Accounts 内容 Email at Work: chapter 9 授業外指示 Collection Letter 授業記録 (solving a problem)
- 第 13 回 項目 Sales letters and responses 内容 Email at Work: chapter 10 授業外指示 Answering a Letter of Inquiry 授業記録 (making predictions)
- 第 14 回 項目 Written letter forum 内容 handout 授業記録 (arrangements)
- 第 15 回 項目 Comprehensive Review

成績評価方法 (総合) Grades will be based on the following: Weekly Homework 40 % Final Test 40 % Class Participation 20 %

教科書・参考書 教科書: Email at Work, Schmeer, MacMillan ; Quick Work, ,

開設科目	現代経済英語	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	正宗聡				

授業の概要 担当講師は経済学の専門ではないもの、いくらかでも経済に関係した本を読み進めることを通じて、授業のタイトルにふさわしい授業を展開したい。したがって、経済そのものについて書かれた英文を材料にするのではなく、経済を取り巻く文化的な、思想的な状況について書かれた英文を読み、その方面の知識を深めることを目標にし、また同時に英語で書かれた文章の読解力も少しでもアップさせることがねらいである。 / 検索キーワード なし

授業の一般目標 現在の時代状況について、ポストモダニズムというキーワードから学んでいく。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 今後、経済学を専門的に勉強する際にも（わずかにせよ）役立つ知識の習得。 思考・判断の観点： 英語で書かれたやや難しめの文を読解できるようになること。特に、文と文の間に省かれた内容を捉えることができるようになること。 態度の観点： 積極的に授業、課題に取り組むこと。

授業の計画（全体） 毎回、共通して、1 ページ分を取り扱う。必ず予習をしてきてください。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イン트로ダクション
- 第 2 回 項目 演習 1（以下、最後の回まで同様に演習を続ける。）
- 第 3 回
- 第 4 回
- 第 5 回
- 第 6 回
- 第 7 回
- 第 8 回
- 第 9 回
- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

成績評価方法（総合） 授業態度 + 定期試験

教科書・参考書 教科書： なし（毎回、プリントを配布します） / 参考書： なし

メッセージ やや難解な文章を扱いますが、ゆっくり読み進めていきましょう。辞書は必ずもってきてください。必須の作業道具です。

連絡先・オフィスアワー 未定

開設科目	時事英語	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	古賀武陽				

授業の概要 2005年度は、時事英語に対する知識と能力を高め、あわせて国際的視野を広げる。 / 検索キーワード 時事英語、時事問題、国際問題、メディア

授業の一般目標 英字新聞、英文雑誌などからタイムリーな記事を選び、政治・経済・社会など種々のニュース記事の構造、特性、語彙などを学習することにより、時事問題への関心と理解を高める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：見出しの文法、用語などを学び、英字紙誌を正確に読めるようになる。 思考・判断の観点：英語発想の特徴をつかむ。 関心・意欲の観点：時事問題、国際問題などに対する関心を高める。 態度の観点：英字紙に教材として親しむことにより日本語新聞を読む習慣を身につけたい。 技能・表現の観点：独特な記事表現を理解できるようにする。

授業の計画（全体） 政治、社会、ビジネスなどの各種記事を読む。英語としての解釈にとどまらず、それぞれの時事問題の内容について理解するために、記事を要約できるようにトレーニングする。また、授業ではグループ毎に分かれてテーマに関して意見交換を行なう。

成績評価方法（総合） 英文記事を正しく理解し、内容を確実に自分のものにできているかどうかの評価のポイントになる。

教科書・参考書 教科書：適宜プリントを配布する。 / 参考書：日本語新聞をよく読み、時事問題の基本を理解しておくこと。

メッセージ 新聞を日常的に読む習慣をつけること。

連絡先・オフィスアワー kogatake@jupiter.ocn.ne.jp

開設科目	原書講読	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	宮崎充保				

授業の概要 「何を、どう考え、どう表現するか」の観点から、講義形式、グループ討論形式、プレゼンテーション形式をとりながら、原書で読むことの楽しさを体験する。

授業の一般目標 英語の読解力を向上させる。内容理解の能力を高める。批評的思考を鍛える。読む楽しさの求め方をつかむ。

授業の計画(全体) 概要に記載したことを行う。

成績評価方法(総合) できるだけ、日ごろの授業内外の activities によって評価する。必要であれば、期末試験を行う。

教科書・参考書 教科書：未定、

メッセージ せめて大学時代に何か1冊原書を読み通した経験を持とう。世界が変わる。

連絡先・オフィスアワー e-mail: mmiy@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	観光英語	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	宮崎充保・鴨川啓信・武本ティモシー				

授業の概要 この授業では、観光に関連する様々な英語の運用法を学習する。特に観光旅行のための情報収集、観光スポットの宣伝、観光客の受け入れの3つの状況を設定し、それぞれ局面で必要とされる英語表現や用法を学ぶ。具体的には、1) 英語で提示されている既存の観光地の情報に実際に触れ、その表現上の特徴を検証する。2) 特定の土地(今年度は「山口」)の歴史や自然から、より身近な事物まで観光地としての魅力を(再)発見し、それを宣伝する演習を行う。3) 観光客を迎えて、観光地の案内やホテル等での対応にふさわしい英語を学習・訓練する。

授業の一般目標 特定の土地の観光資源を開発・宣伝し、観光客の受け入れ・案内を英語で行うことができるようになるのが、最終的な目標である。そのために、1) 英語による情報収集力の向上、2) 対象を適切に説明できる英語力の訓練、3) 観光客に「歓待の心(hospitality)」を伝える英語、好感を与える英語の修得を目指す。

授業の計画(全体) この授業は開講初年度であるため、クラスの状況や学生の要望等により、以下の計画が変更されることもある。1) 観光地の情報収集と表現法の学習、2) 観光地の魅力の(再)認識と宣伝の実習、3) 客を迎えるのにふさわしい英語の運用実習、を4・5回ずつ行う。(上記の3つの内容は、それぞれ別の教員が担当する。)

成績評価方法(総合) 発表等の授業参加状況・授業中の態度による評価(1/3)、宿題・自習課題(WBT形式で提示されることもある)での評価(1/3)、小テストやレポートでの評価(1/3)、を合わせて成績を出す。尚、この授業全体を通して4回以上の欠席をした者には単位を出すことはできない。

連絡先・オフィスアワー 宮崎 e-mail: mmiy@yamaguchi-u.ac.jp 武本 e-mail: tim@yamaguchi-u.ac.jp 鴨川 e-mail: kamogawa@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	TOEIC 400	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	山根和明				

授業の概要 経済学部は TOEIC400 点が卒業要件となっている。従って現時点で 400 点に満たない学生は全員受講することを義務づけたい。そのうち何回か受ければ 400 取れるだろうと考えるのは甘い。年が過ぎるほど使わない英語能力は落ちる一方なので、下がって来る確率の方が高い。この授業でノウハウを学んですっきりボーダーを突破しよう。すべて手作りの教材で行う。効率の良い TOEIC 指導は当然ながら、英会話の上達も目指す。また、ギターによる英語ポップスの弾き語り指導(発音矯正をする)プログラムもこの講座の特徴だ。学年の異なる学生達がゼミのように互いに親しく語り合え、競い合えるのもこのクラスの特徴である。/ 検索キーワード positive thinking 英語を大好きになる!

授業の計画(全体) 毎回、英語の歌唱、英会話演習を行なったあと、TOEIC 対策授業を行なう。第1週～第2週: TOEIC part 1,2,3,4 攻略テクニック学習 第3週～第4週: TOEIC part5,6,7 演習、解説 第5週～第6週: TOEIC part5,6,7 からの達成度テスト 第7週～第8週: 各種既出問題からの part5,6,7 の実践演習と解説 第9週～第10週: 前週まで学んだものの復習 第11週～第12週、13週: 模擬テストとしてハーフテスト実施、解答、レベルチェック 内容・項目 1 TOEIC テスト part1,2,3,4 手作りプリント+テープによる指導 2 TOEIC テスト part5,6,7 手作りプリント+テープによる指導 3 TOEIC テスト part5,6,7 手作りプリント+テープ(応用)による指導 4 英語の歌のプリント(ビートルズ初期の作品中心など配布)ギターによる発音矯正を念頭においた歌唱指導 5 初級レベルの会話のシュミレーション 6 TOEIC テストミニテスト(ハーフテスト)-1実施 7 TOEIC テストミニテスト(ハーフテスト)-2実施

成績評価方法(総合) 日常点重視。期末テスト(50%)

教科書・参考書 教科書: 手作りプリント主体/ 参考書: TOEIC TEST オールラウンド英文法, 山根和明著, 文英堂, 2002 年; 基本文法力を短期間で身につけるためには拙者「TOEIC テスト・オールラウンド英文法」(文英堂刊)を利用すると効率良く文法が学べる。

メッセージ 夢を持とう。そして夢の実現の第1歩に TOEIC テストを位置づけよう。「やる気になってやれないことなどおおよそ、この世にはない!」自分に勝つ! 毎回出席したくなる授業を目指している。学期が終わって「本当に良かった!」と言ってもらえる授業をする。

連絡先・オフィスアワー yamane@mx5.tiki.ne.jp

開設科目	TOEIC 400	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	山根和明				

授業の概要 経済学部は TOEIC400 点が卒業要件となっている。従って現時点で 400 点に満たない学生は全員受講することを義務づけたい。そのうち何回か受ければ 400 取れるだろうと考えるのは甘い。年が過ぎるほど使わない英語能力は落ちる一方なので、下がって来る確率の方が高い。この授業でノウハウを学んですっきりボーダーを突破しよう。すべて手作りの教材で行う。効率の良い TOEIC 指導は当然ながら、英会話の上達も目指す。また、ギターによる英語ポップスの弾き語り指導(発音矯正をする)プログラムもこの講座の特徴だ。学年の異なる学生達がゼミのように互いに親しく語り合え競い合えるのもこのクラスの特色である。/ 検索キーワード positive thinking 英語を大好きになる!

授業の計画(全体) 毎回、英語の歌唱、英会話演習を行なったあと、TOEIC 対策授業を行なう。第1週～第2週: TOEIC part 1,2,3,4 攻略テクニック学習 第3週～第4週: TOEIC part5,6,7 演習、解説 第5週～第6週: TOEIC part5,6,7 からの達成度テスト 第7週～第8週: 各種既出問題からの part5,6,7 の実践演習と解説 第9週～第10週: 前週まで学んだものの復習 第11週～第12週、13週: 模擬テストとしてハーフテスト実施、解答、レベルチェック 内容・項目 1 TOEIC テスト part1,2,3,4 手作りプリント+テープによる指導 2 TOEIC テスト part5,6,7 手作りプリント+テープによる指導 3 TOEIC テスト part5,6,7 手作りプリント+テープ(応用)による指導 4 英語の歌のプリント(ビートルズ初期の作品中心など配布)ギターによる発音矯正を念頭においた歌唱指導 5 初級レベルの会話のシュミレーション 6 TOEIC テストミニテスト(ハーフテスト) - 1 実施 7 TOEIC テストミニテスト(ハーフテスト) - 2 実施

成績評価方法(総合) 日常点重視。期末テスト(50%)

教科書・参考書 教科書: 手作りプリント主体/ 参考書: TOEIC TEST オールラウンド英文法, 山根和明著, 文英堂, 2002 年; 基本文法力を短期間で身につけるためには拙者「TOEIC テスト・オールラウンド英文法」(文英堂刊)を利用すると効率良く文法が学べる。

メッセージ 夢を持とう。そして夢の実現の第1歩に TOEIC テストを位置づけよう。「やる気になってやれないことなどおよそ、この世にはない!」自分に勝つ!

連絡先・オフィスアワー yamane@mx5.tiki.ne.jp

開設科目	TOEIC 5 0 0	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	山根和明				

授業の概要 TOEIC400 点以上が受講要件。原則としては 500 点未満の学生だが、受講日、時間の関係で受講できない 600～700 めざす学生の受講も可能。500 点は履歴書にかける最低ラインだ。がんばろう！すべて手作りの教材で行う。効率の良い TOEIC 指導は当然ながら、英会話の上達も目指す。また、ギターによる英語ポップスの弾き語り指導（発音矯正をする）プログラムもこの講座の特徴だ。学年の異なる学生達がゼミのように互いに親しく語り合え、競い合えるのもこのクラスの特色である。/ 検索キーワード positive thinking 英語を大好きになる！

授業の計画（全体） 毎回、英語の歌唱、英会話演習を行なったあと、TOEIC 対策授業を行なう。第 1 週～第 2 週：TOEIC part 1,2,3,4 攻略テクニック学習 第 3 週～第 4 週：TOEIC part5,6,7 演習、解説 第 5 週～第 6 週：TOEIC part5,6,7 からの達成度テスト 第 7 週～第 8 週：各種既出問題からの part5,6,7 の実践演習と解説 第 9 週～第 10 週：前週まで学んだものの復習 第 11 週～第 12 週、13 週：模擬テストとしてハーフテスト実施、解答、レベルチェック 内容・項目 1 TOEIC テスト part1,2,3,4 手作りプリント+テープによる指導 2 TOEIC テスト part5,6,7 手作りプリント+テープによる指導 3 TOEIC テスト part5,6,7 手作りプリント+テープ（応用）による指導 4 英語の歌のプリント（ビートルズ初期の作品中心など配布）ギターによる発音矯正を念頭においた歌唱指導 5 初、中級レベルの会話のシュミレーション 6 TOEIC テストミニテスト（ハーフテスト）- 1 実施 7 TOEIC テストミニテスト（ハーフテスト）- 2 実施

成績評価方法（総合） 日常点重視。期末テスト（50％）

教科書・参考書 教科書：手作りプリント主体 / 参考書：TOEIC TEST オールラウンド英文法, 山根和明著, 文英堂, 2002 年；基本文法力を短期間で身につけるためには拙者「TOEIC テスト・オールラウンド英文法」(文英堂刊)を利用すると効率良く文法が学べる。

メッセージ 夢を持とう。そして夢の実現の第 1 歩に TOEIC テストを位置づけよう。「やる気になってやれないことなどおおよそ、この世にはない！」自分に勝つ！毎回出席したくなる授業を目指している。学期が終わって「本当に良かった！」と言ってもらえる授業をする。

連絡先・オフィスアワー yamane@mx5.tiki.ne.jp

開設科目	TOEIC 5 0 0	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	山根和明				

授業の概要 TOEIC400 点以上が受講要件。原則としては 500 点未満の学生だが、受講日、時間の関係で受講できない 600～700 めざす学生の受講も可能。500 点は履歴書にかけるとの最低ラインだ。がんばろう！すべて手作りの教材で行う。効率の良い TOEIC 指導は当然ながら、英会話の上達も目指す。また、ギターによる英語ポップスの弾き語り指導（発音矯正をする）プログラムもこの講座の特徴だ。学年の異なる学生達がゼミのように互いに親しく語り合え、競い合えるのもこのクラスの特色である。/ 検索キーワード positive thinking 英語を大好きになる！

授業の計画（全体） 毎回、英語の歌唱、英会話演習を行なったあと、TOEIC 対策授業を行なう。第 1 週～第 2 週：TOEIC part 1,2,3,4 攻略テクニック学習 第 3 週～第 4 週：TOEIC part5,6,7 演習、解説 第 5 週～第 6 週：TOEIC part5,6,7 からの達成度テスト 第 7 週～第 8 週：各種既出問題からの part5,6,7 の実践演習と解説 第 9 週～第 10 週：前週まで学んだものの復習 第 11 週～第 12 週、13 週：模擬テストとしてハーフテスト実施、解答、レベルチェック 内容・項目 1 TOEIC テスト part1,2,3,4 手作りプリント+テープによる指導 2 TOEIC テスト part5,6,7 手作りプリント+テープによる指導 3 TOEIC テスト part5,6,7 手作りプリント+テープ（応用）による指導 4 英語の歌のプリント（ビートルズ初期の作品中心など配布）ギターによる発音矯正を念頭においた歌唱指導 5 初、中級レベルの会話のシュミレーション 6 TOEIC テストミニテスト（ハーフテスト）- 1 実施 7 TOEIC テストミニテスト（ハーフテスト）- 2 実施

成績評価方法（総合） 日常点重視。期末テスト（50％）

教科書・参考書 教科書：手作りプリント主体 / 参考書：TOEIC TEST オールラウンド英文法, 山根和明著, 文英堂, 2002 年；基本文法力を短期間で身につけるためには拙著「TOEIC テスト・オールラウンド英文法」（文英堂刊）を利用すると効率良く文法が学べる。

メッセージ 夢を持とう。そして夢の実現の第 1 歩に TOEIC テストを位置づけよう。「やる気になってやれないことなどおおよそ、この世にはない！」自分に勝つ！毎回出席したくなる授業を目指している。学期が終わって「本当に良かった！」と言ってもらえる授業をする。

連絡先・オフィスアワー yamane@mx5.tiki.ne.jp

開設科目	TOEIC 600	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	山根和明				

授業の概要 TOEIC500 点以上が受講要件。受講日、時間の関係で受講できない 400 ~ 500 レベルの学生の受講も可能。十分役立つこと保証。600 点は一流企業の必須要件だ。がんばろう。すべて手作りの教材で行う。効率の良い TOEIC 指導は当然ながら、英会話の上達も目指す。また、ギターによる英語ポップスの弾き語り指導（発音矯正をする）プログラムもこの講座の特徴だ。学年の異なる学生達がゼミのように互いに親しく語り合え、競い合えるのもこのクラスの特色である。/ 検索キーワード positive thinking 英語を大好きになる！

授業の計画（全体） 毎回、英語の歌唱、英会話演習を行なったあと、TOEIC 対策授業を行なう。第 1 週 ~ 第 2 週：TOEIC part 1,2,3,4 攻略テクニック学習 第 3 週 ~ 第 4 週：TOEIC part5,6,7 演習、解説 第 5 週 ~ 第 6 週：TOEIC part5,6,7 からの達成度テスト 第 7 週 ~ 第 8 週：各種既出問題からの part5,6,7 の実践演習と解説 第 9 週 ~ 第 10 週：前週まで学んだものの復習 第 11 週 ~ 第 12 週、13 週：模擬テストとしてハーフテスト実施、解答、レベルチェック 内容・項目 1 TOEIC テスト part1,2,3,4 手作りプリント + テープによる指導 2 TOEIC テスト part5,6,7 手作りプリント + テープによる指導 3 TOEIC テスト part5,6,7 手作りプリント + テープ（応用）による指導 4 英語の歌のプリント（ビートルズ初期の作品中心など配布）ギターによる発音矯正を念頭においた歌唱指導 5 初級レベルの会話のシュミレーション 6 TOEIC テストミニテスト（ハーフテスト） - 1 実施 7 TOEIC テストミニテスト（ハーフテスト） - 2 実施

成績評価方法（総合） 日常点重視。期末テスト（50 %）

教科書・参考書 教科書：手作りプリント主体 / 参考書：TOEIC TEST オールラウンド英文法, 山根和明著, 文英堂, 2002 年；基本文法力を短期間で身につけるためには拙者「TOEIC テスト・オールラウンド英文法」(文英堂刊) を利用すると効率良く文法が学べる。

メッセージ 夢を持とう。そして夢の実現の第 1 歩に TOEIC テストを位置づけよう。「やる気になってやれないことなどおおよそ、この世にはない！」自分に勝つ！毎回出席したくなる授業を目指している。学期が終わって「本当に良かった！」と言ってもらえる授業をする。

連絡先・オフィスアワー yamane@mx5.tiki.ne.jp

開設科目	TOEIC 600	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	山根和明				

授業の概要 TOEIC500 点以上が受講要件。受講日、時間の関係で受講できない 400 ~ 500 レベルの学生の受講も可能。十分役立つこと保証。600 点は一流企業の必須要件だ。がんばろう。すべて手作りの教材で行う。効率の良い TOEIC 指導は当然ながら、英会話の上達も目指す。また、ギターによる英語ポップスの弾き語り指導（発音矯正をする）プログラムもこの講座の特徴だ。学年の異なる学生達がゼミのように互いに親しく語り合え、競い合えるのもこのクラスの特色である。/ 検索キーワード positive thinking 英語を大好きになる！

授業の計画（全体） 毎回、英語の歌唱、英会話演習を行なったあと、TOEIC 対策授業を行なう。第 1 週 ~ 第 2 週：TOEIC part 1,2,3,4 攻略テクニック学習 第 3 週 ~ 第 4 週：TOEIC part5,6,7 演習、解説 第 5 週 ~ 第 6 週：TOEIC part5,6,7 からの達成度テスト 第 7 週 ~ 第 8 週：各種既出問題からの part5,6,7 の実践演習と解説 第 9 週 ~ 第 10 週：前週まで学んだものの復習 第 11 週 ~ 第 12 週、13 週：模擬テストとしてハーフテスト実施、解答、レベルチェック 内容・項目 1 TOEIC テスト part1,2,3,4 手作りプリント + テープによる指導 2 TOEIC テスト part5,6,7 手作りプリント + テープによる指導 3 TOEIC テスト part5,6,7 手作りプリント + テープ（応用）による指導 4 英語の歌のプリント（ビートルズ初期の作品中心など配布）ギターによる発音矯正を念頭においた歌唱指導 5 初級レベルの会話のシュミレーション 6 TOEIC テストミニテスト（ハーフテスト） - 1 実施 7 TOEIC テストミニテスト（ハーフテスト） - 2 実施

成績評価方法（総合） 日常点重視。期末テスト（50 %）

教科書・参考書 教科書：手作りプリント主体 / 参考書：TOEIC TEST オールラウンド英文法, 山根和明著, 文英堂, 2002 年；基本文法力を短期間で身につけるためには拙者「TOEIC テスト・オールラウンド英文法」（文英堂刊）を利用すると効率良く文法が学べる。

メッセージ 夢を持とう。そして夢の実現の第 1 歩に TOEIC テストを位置づけよう。「やる気になってやれないことなどおおよそ、この世にはない！」自分に勝つ！毎回出席したくなる授業を目指している。学期が終わって「本当に良かった！」と言ってもらえる授業をする。

連絡先・オフィスアワー yamane@mx5.tiki.ne.jp

開設科目	ビジネスドイツ語 I	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	マルク・レール				

授業の概要 この授業はドイツ語の基礎勉強ではなく、基本的な文法と語彙をすでに習得した、ドイツ語能力をさらに伸ばしたい学生のための、ドイツ語中級レベルの授業である。授業では主にマスメディア（新聞、雑誌、インターネット）を使って、ドイツ語でドイツのビジネス・ニュースを読む。

授業の一般目標 ドイツ語でビジネス・ニュースを読むことによって、専門用語の知識を増やす。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：ドイツ語のビジネス用語、ビジネス関連の文書を理解する。 思考・判断の観点：ドイツ語のビジネス関連の文書を要約できる。 関心・意欲の観点：ドイツの経済に興味を持つ。

授業の計画（全体） 1）集中講義の前に配布される資料を読んで、解説・分析する。 2）集中講義中に配布される資料を読んで、解説・分析する。

成績評価方法（総合） 1）集中講義の前に配布される資料の要約（50％）。 2）集中講義中に配布される資料の要約（50％）。

メッセージ 受講者は、集中講義の前に予習をする必要があるため、資料配布のために必ず5月末までに下記のメールアドレスに連絡すること。

連絡先・オフィスアワー maru @ yamaguchi-u.ac.jp

備考 集中授業

開設科目	韓国語 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	李文相				

授業の概要 まず、ハングルの仕組みを理解し、読み書きの練習をしながら基本文型を身につける。視聴覚機材を活用し、韓国語の読み・書き・ヒアリングの早期達成を目指す。

授業の一般目標 韓国語の固有文字であるハングルを正確に発音し、読み書きの力を養う。また、韓国人の身近な話題・風習などを取り上げ韓国人の考え方や文化について理解を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：表音文字ハングルの成立要件と音韻規則を理解すること 思考・判断の観点：韓国語と日本語の類似点及び相違点を知ること 関心・意欲の観点：韓国文化に関心がもてること 態度の観点：出席および積極的な授業参加が必要 技能・表現の観点：ハングルが書け、読みができること

授業の計画(全体) 1. ハングルを理解する 2. ハングルの読み書き反復練習 3. 映像と歌による韓国文化の理解 4. 音韻規則の理解 5. やさしい文型での作文

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業ガイダンス 内容 授業全体の進め方、参考文献等の案内
- 第 2 回 項目 ハングルの成立と概念 内容 ハングルの仕組みと基本母音(1)
- 第 3 回 項目 韓国語の発音 内容 発音練習と基本母音(2)
- 第 4 回 項目 韓国を知る 内容 映像による異文化体験、基本子音(1)
- 第 5 回 項目 韓国文化 内容 歌で学ぶ韓国語、基本子音(2)と有声音化
- 第 6 回 項目 日本語にない発音 内容 激音と濃音の発音練習
- 第 7 回 項目 複合母音 内容 名前のハングル表記、基本母音と基本子音の再確認
- 第 8 回 項目 音韻規則(1) 内容 パッチム(1)、漢数字(1)
- 第 9 回 項目 音韻規則(2) 内容 パッチム(2)、漢数字(2)
- 第 10 回 項目 助詞(1) 内容 「名詞+です/か」文型とよく用いられる助詞(1)
- 第 11 回 項目 用言の現在丁寧形 内容 動詞と形容詞の「です/ます」文型と助詞(2)
- 第 12 回 項目 助詞(2) 内容 「名詞+ではありません/か」文型と指示代名詞
- 第 13 回 項目 否定形 内容 用言の否定文と固有数字
- 第 14 回 項目 前期授業の総括 内容 質問に応じ、やさしい文型の練習をする
- 第 15 回 項目 定期試験

成績評価方法(総合) 授業時に行う小テストおよびレポート 60%、期末試験 40%

教科書・参考書 教科書：サランヘヨ！ハングル - 初級から中級へー, 李文相 共著, 白帝社, 2007年 / 参考書：『ハングル読本 基礎から読解まで - 』, 李文相(共著), 明石書店, 2004年; その他, ; 随時プリントを配布

メッセージ 連携した授業を行うので関連科目「韓国語会話 I」を合わせて受講することが望ましい。韓国語と韓国文化に触れるチャンスをつかみましょう。

開設科目	韓国語 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	李文相				

授業の概要 ・前期で習った韓国語の読み書きを再確認し、やさしい文型へと進む。 ・視聴覚機材を活用し、スピーチ・ヒアリングを養う。 ・基本文法を使い、作文の練習をする。

授業の一般目標 韓国固有の文字であるハングルを正確に発音し、読む力を養う。 韓国人の身近な話題・風習などを取り上げ、韓国人の考え方や韓国文化について理解を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：基礎文法を理解し、簡単な文章が書けること 思考・判断の観点：韓国語と日本語の類似点および相違点を理解すること 関心・意欲の観点：韓国文化を理解しようとし、ハングルでレポート・小テストを提出すること 態度の観点：出席および積極的な授業参加が必要 技能・表現の観点：ハングルが書け、正確な発音で読めること

授業の計画(全体) 1. 会話体の文型に慣れる 2. 過去形 3. 尊敬語 4. 連体形 5. 伝聞・引用

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 前期学習の確認と後期授業ガイダンス 内容 やさしい構文の輪読
- 第 2 回 項目 「～ヘヨ」体会話文(1) 内容 「～ヘヨ」体会話文と漢数字・固有数字の応用
- 第 3 回 項目 「～ヘヨ」体会話文(2) 内容 好き嫌いを尋ねる、数詞の学習
- 第 4 回 項目 過去形および変則活用 内容 基本文型を用いた短文練習
- 第 5 回 項目 「-ゲッ-」会話文 内容 意思・推量を表す会話文
- 第 6 回 項目 尊敬語(1) 内容 尊敬語の概念を理解し、尊敬語を覚える
- 第 7 回 項目 尊敬語(2) 内容 尊敬語の言い替え形を覚える
- 第 8 回 項目 短文練習 内容 やさしい文型を用いた短文練習
- 第 9 回 項目 用言の連体形(1) 内容 短文練習
- 第 10 回 項目 用言の連体形(2) 内容 短文練習
- 第 11 回 項目 用言の連体形(3) 内容 色や形などを表すことばを中心に
- 第 12 回 項目 ヒアリング 内容 映像による異文化体験と発音練習
- 第 13 回 項目 伝聞・引用形 内容 直接話法と間接話法の使い方
- 第 14 回 項目 後期授業の総括 内容 手紙・はがきを書き、質問に応じる。
- 第 15 回 項目 定期試験

成績評価方法(総合) 授業時に行う小テストおよびレポート 60%、期末試験 40%

教科書・参考書 教科書：サランヘヨ, 李文相, 白帝社, 2007年 / 参考書：『ハングル読本 基礎から読解まで - 』, 李文相(共著), 明石書店, 2004年; その他, ,

メッセージ 連携的に授業を行うので関連科目「韓国語会話 II」を合わせて受講することが望ましい。韓国語と韓国文化に触れてみましょう。

開設科目	韓国語会話 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	李 文相				

授業の概要 まず、自己紹介からはじめ、日常生活に役立つやさしい韓国語が使えるようにする。授業では現在ソウルで使われている標準語会話を学び、ビデオ等の映像を活用して韓国の日常生活や風習なども理解できるようにする。

授業の一般目標 韓国語で自己紹介ができ、日常生活に役立つやさしい韓国語会話ができるようにする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：よく使われる語彙を覚えてすぐに使えること 思考・判断の観点：日韓両国の風習や文化の違いを言葉で感ずること 関心・意欲の観点：韓国語や韓国人の考え方について興味をもつこと 態度の観点：出席・復習を怠らないこと 技能・表現の観点：自己紹介ができ、よく使われる単語で韓国語会話ができること

授業の計画(全体) 1. 自己紹介と挨拶言葉ができる 2. 韓国の文化を理解する 3. ハングルで読み書きができる 4. ネイティブの韓国人の発音とヒアリングに慣れる 5. 韓国語会話に親しむ

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業ガイダンス 内容 授業全体の進め方、参考文献の案内
- 第 2 回 項目 自己紹介 内容 自己紹介の仕方、ハンゲルの仕組みと基本母音(1)の発音
- 第 3 回 項目 自己紹介と挨拶ことば 内容 挨拶・謝礼・謝罪の仕方、基本母音(2)の発音
- 第 4 回 項目 映像による異文化体験 内容 映像で韓国文化を理解する、基本子音(1)の発音
- 第 5 回 項目 ネイティブの韓国人と話す(1) 内容 はじめて会ったときの会話(1)、基本子音(2)の発音
- 第 6 回 項目 ネイティブの韓国人と話す(2) 内容 はじめて会ったときの会話(2)、激音と濃音の発音
- 第 7 回 項目 ネイティブの韓国人と話す(3) 内容 仕事や家族について尋ね合う、複合母音の発音と名前のハングル表記
- 第 8 回 項目 歌で学ぶ韓国語 内容 歌詞の意味を知り歌を覚える、パッチム(1)
- 第 9 回 項目 誕生日を尋ねる 内容 漢数字を覚え年月日を尋ねる、音韻規則(1)
- 第 10 回 項目 食事の時の会話 内容 食事の時の会話とマナー、パッチム(2)、音韻規則(2)
- 第 11 回 項目 韓国文化の紹介 内容 映像により韓国文化を紹介、パッチムに慣れる
- 第 12 回 項目 時刻の表現 内容 固有数字を覚える、漢数字を使って時刻を言う
- 第 13 回 項目 疑問詞 内容 5W1Hの表現に慣れる、否定形の練習、ヒアリングの練習
- 第 14 回 項目 前期授業の総括 内容 ヒアリングや発音の留意点、質問に応じる
- 第 15 回 項目 定期試験

成績評価方法(総合) 授業時の小テストおよびレポート提出 60%、授業参加の積極性および発音・ヒアリング力 40%

教科書・参考書 教科書：『サランヘヨ！ハングルー初級から中級へー』, 李文相(共著), 白帝社, 2007年 / 参考書：『ハングル読本-基礎から読解まで-』, 李文相(共著), 明石書店, 2004年; その他, ; ; プリントを配布

メッセージ 連携して授業を行うので関連科目である「韓国語1」を合わせて受講することが望ましい。韓国語を話せるようになりましょう。

開設科目	韓国語会話 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	李 文相				

授業の概要 いろんな出会いを想定し、楽しい雰囲気の中で韓国語が自然にしゃべれるような授業にしたい。ビデオなどの視聴覚機材を活用し、年中行事や韓国の習慣、歌など韓国文化に慣れ親しみながら授業を進める。

授業の一般目標 韓国語で日常の簡単な会話ができるようにする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：語彙を増やし、すぐに使えること 思考・判断の観点：日韓両国の風習や文化の違いを理解できること 関心・意欲の観点：韓国語や韓国人の考え方について理解しようとする事 態度の観点：出席・復習を怠らないこと 技能・表現の観点：日常生活や旅行に役立つ韓国語会話ができること

授業の計画(全体) 1. 自己紹介・挨拶ことばに慣れる 2. 韓国の文化や日常生活に触れる 3. ハングルで読み書きができる 4. ネイティブの韓国人と話すチャンスをつくる 5. 視聴覚機器を活用し、韓国語会話に慣れ親しむ

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 前期授業の確認と後期授業ガイダンス 内容 自己紹介・挨拶言葉の実践
- 第 2 回 項目 「～ヘヨ」体会話文 内容 日常生活を話題に、数詞(1)を覚える
- 第 3 回 項目 「～ヘヨ」体会話文 内容 一日の日課を尋ね合う、数詞(2)を覚える
- 第 4 回 項目 過去形での会話 内容 夏季休暇のことを話題に、変則活用の練習
- 第 5 回 項目 ネイティブの韓国人と会話 内容 趣味や家族関係を中心に、意思・推量の「ゲッ」会話文に慣れる
- 第 6 回 項目 過去形の応用 内容 夏期休暇を話題に、「～ヘヨ」体会話文と過去形の応用
- 第 7 回 項目 尊敬語(1) 内容 尊敬語の概念の違いを認識し、実践
- 第 8 回 項目 尊敬語(2) 内容 バスや地下鉄でのお年上や目上に対する尊敬語の使い方
- 第 9 回 項目 連体形の会話(1) 内容 薬局や病院での会話
- 第 10 回 項目 連体形の会話(2) 内容 勉強やサークル活動などを話題に
- 第 11 回 項目 連体形の会話(3) 内容 映像を用いてヒアリング練習
- 第 12 回 項目 郵便局での会話 内容 「～ねばなりませんか」「～しましょうか」の会話文
- 第 13 回 項目 航空機内での表現 内容 原因・理由「～のために」、「～なので」会話文を中心に
- 第 14 回 項目 短いスピーチ 内容 授業の仕上げとして実践
- 第 15 回 項目 定期試験

成績評価方法(総合) 授業時の小テストおよびレポート提出 60%、授業参加の積極性および発音・ヒアリング力 40%

教科書・参考書 教科書：『サランヘヨ！ハングル - 初級から中級へー』, 李文相(共著), 白帝社, 2007年 / 参考書：『ハングル読本-基礎から読解まで-』, 李文相(共著), 明石書店, 2004年; その他, ; ; プリントを配布

メッセージ 連携して授業を行なうので関連科目である「韓国語 II」を合わせて受講することが望ましい。韓国語をしゃべり、韓国文化に触れてみませんか。

開設科目	ビジネス韓国語 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	桂文姫				

授業の概要 本講義では、韓国語による「ビジネス会話」(いわゆる日常会話とは一味違う内容で構成されている)を中心に進めていきます。また韓国の経済・企業経営に関する時事問題の関連記事も読みながら、韓国語ビジネスライターや文化にも触れていきます。/検索キーワード 韓国語・ビジネス・コミュニケーション

授業の一般目標 韓国語でビジネス・コミュニケーション能力を身につけること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: ビジネス会話(韓国語)が理解できる。 思考・判断の観点: 日本語と異なる表現に触れ、物事に複眼的な考察ができる。 関心・意欲の観点: ハングルを通じ韓国への関心を抱く。 態度の観点: 隣国への興味が実践行動に寄与できる(旅行・語学研修など)。 技能・表現の観点: 韓国語によるビジネス会話の表現やビジネスライターの短文が作られる。

授業の計画(全体) 授業の進行状況によっては、音楽・映像・伝統遊び等を取り入れる。(ハングル初級履修者又は韓国語学習経験者の受講が望ましい)

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 オリエンテーション(基礎語学力テスト含む) 内容 受講生のレベルに合わせて次週よりの内容を決めて行きます。

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

成績評価方法(総合) 定期試験・小テスト・出席による総合評価。

教科書・参考書 教科書: 資料配布 / 参考書: 授業中紹介

メッセージ 一段高いレベルの韓国語に挑戦できる絶好のチャンスです!

開設科目	ビジネス韓国語 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	桂文姫				

授業の概要 ビジネスハングル I のシラバスをご参照ください。

授業の一般目標 ビジネスハングル I のシラバスをご参照ください。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： ビジネスハングル I のシラバスをご参照ください。 思考・判断の観点： ビジネスハングル I のシラバスをご参照ください。 関心・意欲の観点： ビジネスハングル I のシラバスをご参照ください。 態度の観点： ビジネスハングル I のシラバスをご参照ください。 技能・表現の観点： ビジネスハングル I のシラバスをご参照ください。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 後期ガイダンス 内容 受講生のレベルに合わせて、次週以降の授業内容を説明します。

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

教科書・参考書 教科書： 資料配布 / 参考書： 授業中紹介

開設科目	中国語(口語 I)	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	田梅				

開設科目	中国語(口語 II)	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	田梅				

開設科目	中国語 (聴力 I)	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	梁 蕾				

授業の概要 コミュニケーション中国語は、共通教育で習得した中国語を基礎に、聞き取る能力、話す能力、読む能力を高め、中国語の総合的な運用能力を養成する科目である。人とコミュニケーションをするとき、相手の話したことを聞き取れないと何を返事すればいいか全く見当もつけない。この聴写 I は、その大事な聞き取り能力を高めるトレーニングを中心に授業を進める。 / 検索キーワード コミュニケーション 中国語

授業の一般目標 共通教育で習得した発音、単語、会話文などを聞き分けできることを目標とする。

授業の計画 (全体) 初回授業で詳しく説明するので、受講希望者は必ず出席すること。プリントやビデオなどを適当に使う。

成績評価方法 (総合) 定期テスト、小テスト、授業中の発表などによる総合評価。

教科書・参考書 教科書：一回目の授業ガイダンス時に指示。

メッセージ 共通教育の中国語初級 1・2・a/b を修得したものに限る。コミュニケーション中国語 3 科目の I・II は、通年履修が望ましい。

開設科目	中国語 (聴力 II)	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	梁 蕾				

授業の概要 コミュニケーション中国語は、共通教育で習得した中国語を基礎に、聞き取る能力、話す能力、読む能力を高め、中国語の総合的な運用能力を養成する科目である。前期に引き続き、より実用的な教材を使い、より高度な聞き分け能力を身につけるためのトレーニングを行う。言葉の文化的な背景についても適当説明する。

授業の一般目標 共通教育で修得した発音、単語、会話文などを聞き分けできることを目標とする。

授業の計画 (全体) 初回授業で詳しく説明するので、受講希望者は必ず出席すること。プリントやビデオなどを適当に使う。

成績評価方法 (総合) 定期テスト、小テスト、授業中の発表などによる総合評価。

教科書・参考書 教科書：初回授業で指示する。

メッセージ 共通教育の中国語初級 1・2・を修得したものに限る。コミュニケーション中国語 3 科目の I・II は通年、履修が望ましい。

開設科目	中国語 (作文)	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	田梅				

開設科目	ビジネス中国語 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	永富健史				

授業の概要 1. 中国ビジネスで想定される典型的な場面を中心に中国語会話のトレーニングを行う。2. ビジネス関連文書の読解を行う。3. 中国ビジネスマナーなどにも触れる。・受講者は共通教育中国語を履修した者を対象とする。 / 検索キーワード 中国語、ビジネス

授業の一般目標 1. 中国ビジネスの現場で役に立つ中国語コミュニケーション能力を身につける。2. 各種ビジネス文書を中国ビジネスと関連させながら理解できる。3. 中国ビジネスの習慣やマナーに対する理解を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： ビジネス中国語の構文と専門用語を理解できる。 思考・判断の観点： ビジネス中国語に特有の表現に慣れる。 関心・意欲の観点： 中国語コミュニケーションに関心を持つ。 態度の観点： 中国語トレーニングに積極的に参加する。 技能・表現の観点： 場面に適切な中国語で話せるようになる。

授業の計画(全体) 1. ビジネス中国語の会話練習を行い、実際に使える会話力を身につける。(発音訓練も含む。)受講生には会話練習に積極的に参加してもらいたい。2. ビジネスレターなどの読解によってビジネス中国語の構文に慣れ、中国ビジネスへの理解を深める。比較的短い文章をたくさん読んで、さまざまな表現に慣れるようにする。3. 日中異文化コミュニケーションの観点からも日本語との表現の違いを考えていきたい。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 授業の目標と進め方、成績評価の方法等。 授業外指示 シラバスを読んでおくこと。
- 第 2 回 項目 空港での出迎え 内容 挨拶、自己紹介など、ビジネス連絡文書の作成
- 第 3 回 項目 ホテルにチェックイン 内容 ホテルでのチェックイン、支払い方法の確認、両替など
- 第 4 回 項目 日程の打合せ 内容 日程の打合せ、日程表の作成
- 第 5 回 項目 会社を訪問する 内容 商談のアポイント、会社訪問、商談
- 第 6 回 項目 工場見学 内容 工場見学、工場の概況説明
- 第 7 回 項目 引き合いとオファー (1) 内容 商談の進め方、貿易用語
- 第 8 回 項目 引き合いとオファー (2) 内容 商談の進め方、貿易用語
- 第 9 回 項目 セールス (1) 内容 輸出商談、製品の売り込み
- 第 10 回 項目 セールス (2) 内容 輸出商談、製品の売り込み
- 第 11 回 項目 商品の買い付け 内容 買い付け交渉
- 第 12 回 項目 納期の交渉 内容 タイムリーな納期を求める
- 第 13 回 項目 輸送方式と保険 内容 輸送と保険の確認、< BR > 輸送・保険の関連用語
- 第 14 回 項目 中国ビジネスマナー 内容 中国ビジネスにおけるマナー と注意点
- 第 15 回 項目 試験 内容 前期末試験を行います。

成績評価方法(総合) 定期試験、受講者の発表、授業への参加度、出席による総合評価

教科書・参考書 教科書： ビジネス中国語トレーニング - 会話と文書 - , 石威監修、待場裕子等著, 白水社, 2006 年 ; 受講生は各自で購入すること。その他、プリントを随時配布する。 / 参考書： 中日日中貿易用語辞典, 藤本恒等著, 東方書店, 2006 年 ; 中国語新語ビジネス用語辞典, 塚本慶一編集主幹, 大修館書店, 2006 年

開設科目	ビジネス中国語 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	永富健史				

授業の概要 1. 中国ビジネスで想定される典型的な場面を中心に中国語会話のトレーニングを行う。さらに最新の中国ビジネス事情に即した場面も加える。2. ビジネス関連文書の読解を行い、同時に作成方法も学ぶ。3. 中国ビジネスに欠かせない時事中国語の講読を行う。4. ビジネス中国語の表現力向上について考えていく。・受講者は共通教育中国語を履修した者を対象とする。 / 検索キーワード 中国語、ビジネス

授業の一般目標 1. 中国ビジネスの現場で役に立つ中国語コミュニケーション能力を身につける。2. 各種ビジネス文書を中国ビジネスと関連させながら理解できる。3. 中国ビジネスの習慣やマナーに対する理解を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： ビジネス中国語の構文と専門用語を理解できる。 思考・判断の観点： ビジネス中国語に特有の表現に慣れる。 関心・意欲の観点： 中国語コミュニケーションに関心を持つ。 態度の観点： 中国語トレーニングに積極的に参加する。 技能・表現の観点： 場面に適切な中国語で話せるようになる。

授業の計画（全体） 1. ビジネス中国語の会話練習を行い、実際に使える会話力を身につける。（発音訓練も含む。）受講生には会話練習に積極的に参加してもらいたい。2. ビジネスレター、契約書、時事文などの読解によってビジネス中国語の構文に慣れ、中国ビジネスへの理解を深める。比較的短い文章をたくさん読んで、さまざまな表現に慣れるようにする。3. 日中異文化コミュニケーションの観点からも日本語との表現の違いを考えていきたい。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 支払い方式 内容 信用状決済など支払い方式をめぐる商談
- 第 2 回 項目 契約の調印 内容 様々な契約方式
- 第 3 回 項目 商品検査とクレーム 内容 クレーム処理の商談
- 第 4 回 項目 対中投資 (1) 内容 新しい形態の商談：外資導入、OEM 生産、逆見本市、M & A など
- 第 5 回 項目 対中投資 (2) 内容 新しい形態の商談：外資導入、OEM 生産、逆見本市、M & A など
- 第 6 回 項目 対中投資 (3) 内容 新しい形態の商談：外資導入、OEM 生産、逆見本市、M & A など
- 第 7 回 項目 パーティーにおけるスピーチ (1) 内容 宴会でのスピーチ、会話、マナーについて学ぶ
- 第 8 回 項目 パーティーにおけるスピーチ (2) 内容 宴会でのスピーチ、会話、マナーについて学ぶ
- 第 9 回 項目 ビジネス文書の読解と作成 (1) 内容 契約書、協議書、業務連絡など各種文書
- 第 10 回 項目 ビジネス文書の読解と作成 (2) 内容 契約書、協議書、業務連絡など各種文書
- 第 11 回 項目 時事中国語講読 (1) 内容 中国ビジネスの理解と情報収集には欠かせない時事文を読んでいく
- 第 12 回 項目 時事中国語講読 (2) 内容 中国ビジネスの理解と情報収集には欠かせない時事文を読んでいく
- 第 13 回 項目 ビジネス中国語の表現力 (1) 内容 場面ごとの表現力向上について考える
- 第 14 回 項目 ビジネス中国語の表現力 (2) 内容 場面ごとの表現力向上について考える
- 第 15 回 項目 試験 内容 後期末試験を行います

成績評価方法（総合） 定期試験、受講者の発表、授業への参加度、出席による総合評価

教科書・参考書 教科書： ビジネス中国語トレーニング - 会話と文書 -, 石威監修、待場裕子等著, 白水社, 2006 年； 受講生は各自で購入すること。その他、プリントを随時配布。 / 参考書： 中日日中貿易用語辞典, 藤本恒等著, 東方書店, 2006 年； 中国語新語ビジネス用語辞典, 塚本慶一編集主幹, 大修館書店, 2006 年

開設科目	時事中国語	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	齊藤匡史				

授業の一般目標 中国語メディアから発信される情報をつかむ基礎的な語学能力を養成するとともに、その内容から社会的文化的背景を理解し、基本的な中国情報を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：基本的な語法、語彙を理解し、メディア情報独特の表現・文型を習得する。 思考・判断の観点：問題意識をもって情報を分析する。 関心・意欲の観点：中国、日本、世界の情勢に積極的に関心を寄せる。 態度の観点：授業に積極的に参加し、与えられた課題をこなす。

授業の計画（全体） まず基本情報の理解と文例による文型表現、語法の理解を進める。さらに最新情報を比較的まとまった文章から学び、読解力、内容理解を向上させ、問題意識をもって情報を分析する態度を養成する。

成績評価方法（総合） 授業参加態度と語学力・理解力の進歩度、定期試験の成績により総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：プリントを配布する。

メッセージ 中国を取り巻く情勢は、いまや日本に大きな影響を及ぼすようになった。ぜひこの授業から中国を見る視点を培って欲しい。

連絡先・オフィスアワー 商品資料館 2 階研究室 saito@yamaguchi-u.ac.jp 時間に空きがあれば随時

開設科目	プロジェクト演習	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	陳禮俊、篠原淳、朝日幸代				

授業の概要 学生各自が、何らかのプロジェクトを企画し、それを実行し、そしてレポートにまとめ、最後に報告会で複数教員の審査をパスしたのち2単位が修得できるという、観光政策学科の学生に限定したものです。ただそうは言っても、安全性、費用負担、持続可能性そして教育的効果も考えなくてはなりませんので、観光政策学科が、事前に、できるだけ多くの演習(実習)先を指定します。現在、観光政策学科はプロジェクト演習の主たるメニューとして、マス・ツーリズム実務研修、オルタナティブ・ツーリズム研修、観光コミュニケーション基礎研修の3つのテーマを考え、皆さんにはその中から一つ、各自の関心の最も高い項目・演習先を選択してもらうことにしています。現在準備段階にあり、4月以降できるだけ早い時期に説明会を開催します。お楽しみに。

授業の一般目標 観光についての企画力を、社会との接点(実践)において培うとともに、それレポートにまとめ人前で発表できる能力、すなわちプレゼンテーション能力をつける。

メッセージ 学外での活動を伴うので、実習先に迷惑のかからぬよう、事前に提示されるルールを遵守すること、それにもまして事故などにあわないように。学外の学生の教育活動に関する保険(制度)のもとで、観光政策学科の了解を得てからプロジェクト演習を始めてください。

学部共通科目

開設科目	経済学部入門	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	油納健一				

授業の概要 「経済学部入門」は、昨年度から新たに導入された1年生全員の必修科目です。この授業は、それぞれの学科に所属する教員が各学科で学ぶこと、あるいは自らの専門領域のエッセンスをリレー形式で講義してもらいます。それを通じて、1年生の皆さんが、2年生から本格的に行うことになる専門的な学習・研究にスムーズに移行するための下準備をすることがこの講義の目的です。また経済学部には、現在、経済、経営、国際経済、経済法、観光政策の計5つの学科が設置されています。今後、2年生以降皆さんが所属することになる学科の振り分けを、1年生後期に行います。学科の選択は、経済学部において行う学業の内容を左右するものであり、とても重要です。この講義を通じて、それぞれの学科でどのようなことが学べるのかを積極的に知り、皆さんが学科を選択する際の材料にしてもらいたいと考えています。

授業の一般目標 経済学部における専門教育とはどのようなものか、そこでは、いったい何が学べるのかを具体的内容を通じて知り、考えてもらえるようになることがこの講義の目標です。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 経済学部で開講される専門科目の入門的知識を身につける。 関心・意欲の観点： 学科の選択を含めて、自分が経済学部で何を学び研究したいのかを具体的な題材を通じて考える契機を与える。

授業の計画(全体) 経済学科(3)、経営学科(4)、国際経済学科(2)、経済法学科(3)、観光政策学科(2)の順にリレー形式で講義します(カッコ内の数字は各学科の担当講義数)。各講義の内容は、初歩的、入門的なものであり、それぞれの担当者が所属学科、専門領域のエッセンスを盛り込んだバラエティに富んだものとなります。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 経済学科担当科目(1) 山口での生活と経済学 内容 普段あまり意識せず行っていることでも経済学と密接に関連している。経済学を学ぶことで何がわかるのか、新たに始まった山口での生活を経済学の視点から考える。
- 第2回 項目 経済学科担当科目(2) 山口はなぜ日本一田舎の県庁所在地なのか? 内容 経済の歴史を紐解くことで、身近な地域社会の現状を分析する。
- 第3回 項目 経済学科担当科目(3) 金融を学ぶ 内容 「金融」という言葉からなにを連想するでしょうか。「お金」、「銀行」、「株」いろんな言葉が連想されると思います。この回では、まず「金融とはなにか」ということから始めて、最終的に「経済学の目指すところはどこにあるのか」というところまで、できるだけ身近な例をあげながら説明していきたいと考えています。
- 第4回 項目 経営学科担当科目(1) ビジネスの言語としての会計の役割 内容 我々の日常生活で言語が存在しない世界を想像できないように、企業経営の現場で会計が存在しない世界を想像することは困難である。会計は、いわばビジネスの言語としての役割を果たす。損益計算書、貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書といった財務諸表からどのような情報を読み取ることができるのかを具体的に説明し、ビジネスの言語としての会計の役割を理解してもらう。
- 第5回 項目 経営学科担当科目(2) 経営情報・経営数理 内容 経営における諸問題を数理的に定式化し解決する代表的な手法について考える。
- 第6回 項目 経営学科担当科目(3) 商品をめぐる諸問題 内容 流通・マーケティング・戦略・リスクの視点から商品をめぐる諸問題を説明する。
- 第7回 項目 経営学科担当科目(4) 知識の時代の経営 内容 現代の経営は物的資産ではなく知的資産が重要になってきているといわれます。そこで19世紀後半から21世紀初頭の企業経営と時代環境との関係を企業事例を基に探り、今日の経営における知的資産の本質の意味を説明していきます。

- 第 8 回 項目 国際経済学科担当科目 (1) 国際経済学の基礎 内容 貿易はなぜ行われるのでしょうか。途上国が発展していくには何が必要なのでしょう。国際関係や国際的な経済活動に関連する疑問に自分で答えを見つけ出すための科目が、国際経済学科には用意されています。今回の講義では、国際関係や国際経済学の基礎について講義します。
- 第 9 回 項目 国際経済学科担当科目 (2) 中国経済社会入門：市場経済への移行と「世界の工場」への変身 内容 中国経済社会を勉強するための入門編です。いまや日増しに世界経済における重要性を増してきている中国経済の発展過程を考察し、中国および東アジアの将来について展望する。講義を通じて、中国経済のダイナミズムとともに、その抱えている問題についても、理解を深められるようにする。
- 第 10 回 項目 経済法学科担当科目 (1) 契約法入門 内容 最も身近な契約を中心に、できるだけ分かりやすく講義します。
- 第 11 回 項目 経済法学科担当科目 (2) 市民生活と行政法 内容 行政法は行政に関する法規群であり、市民の公的生活を支配するものである。本講義では、まず、行政法の基本概念を考察する。その上で、現実には起きている法的な問題を取り上げ、知識を応用してみる。そうすることで少しでも行政法を身近なものに感じてもらいたい。
- 第 12 回 項目 経済法学科担当科目 (3) 税金とは何か、税法とは何か、大学生が税法を学ぶ意義 内容 納税は国民の義務であり、すべての人は一生を通じて税金とかわりを持つ。そして税の知識の有無で得をしたり損をしたりすることも多い。一方、税法は複雑難解であり、大学生のほとんどは税の知識を持っていないのが現状である。講義では、税金とは何か、税法とは何か、大学生が税法を学ぶ意味について、分かりやすく紹介する。
- 第 13 回 項目 観光政策学科担当科目 (1) 観光の経済学的分析 内容 観光経済における考え方を紹介する。観光経済学的分析は観光経済の持続可能な発展のために、観光活動に見られる特有な現象や矛盾を分析し、観光資源の維持や有効利用などを含めた観光政策を検討するものである。そのために経済学、経営学、産業論、環境学、統計学などの学問が重要になることを理解することが本講義の目的である。
- 第 14 回 項目 観光政策学科担当科目 (2) 観光とコミュニケーション 内容 ある土地に住む人達と、そこを訪れる旅行者との間の交流は、観光の重要な位置を占める。異なる文化に対する知識や外国語運用力を身に付け、観光交流のためのコミュニケーション能力を高めることを目標とする観光コミュニケーションコースの授業の一例を紹介する。
- 第 15 回 項目 総括

成績評価方法 (総合) 1年生全員の必修科目であり、専門教育への橋渡しという位置づけから、成績評価については、授業の出席は必須です。遅刻者は欠席とみなします。また風邪や家庭の事情等で遅刻・欠席した者に対して、救済することはありません。また出席に加えて、学科ごとにレポート課題を出してもらいます。したがって、5つの課題が出されることとなりますが、そのうちの1つを選択し、レポートを採点して評価を行います。なお、欠席とみなされたにもかかわらず出席を認めるようにしつつこく主張したり、講義を妨害するなど、担当教員の指示に従わない学生には単位を認定しませんので、ご注意ください。

教科書・参考書 教科書：特に指定しない。 / 参考書：必要に応じて指示する。

開設科目	外国書講読	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	鍋山祥子				

授業の概要 労働とケアとの両立政策についての英語の論文を読む。授業は演習形式で進める。毎回、授業の最初に、グループごとに論文の英訳・論点についての報告をおこなう。その後、全員が論文を読んできたことを前提にクラス討議をおこない、論文についての理解を深める。/ 検索キーワード ケア・ジェンダー・ワークライフバランス

授業の一般目標 この授業では「英語の日本語訳」を目標としない。あくまでも「英語で表記されている内容の理解」を出発点として、その内容についての理解・議論ができるようになることを目標とする。

授業の計画（全体） 毎回、グループごとに英訳・論点の抽出をおこない、授業で報告してもらう。毎回の報告の後、全員が論文を読んできたことを前提にクラス討議をおこない、論文についての理解を深める。

成績評価方法（総合） 科目の性格上、授業への出席を必要条件とする。また、各自の授業報告の遂行、課題の提出、およびグループ討議への参加度合を加味して総合的に成績評価をおこなう。

教科書・参考書 教科書： Employed carers and family-friendly employment policies, Sue Yeandle etc., The Policy Press, 2002年；受講者にはコピーを配布する予定

メッセージ 何よりも、ケア・ジェンダー・社会政策など、文献のテーマについての積極的関心が履修の必要条件となる。専門論文を読解することを求めるので、難解な英語に取り組む覚悟が履修の絶対条件である。成績評価方法にもあるように、出席・報告・課題提出・グループ討議への積極的参加を求める。

連絡先・オフィスアワー C210 E-mail:nabeyama@yamaguchi-u.ac.jp 履修に関して不安なことはメールにてお問い合わせください

開設科目	外国書講読	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	上杉信敬				

授業の概要 公法学に関する文献を読む

授業の一般目標 公法学に関する文献を読みながら、その内容に関して公法の特徴を理解するとともに、社会科学に関する英語の読解力を増進することを目指す。

授業の計画(全体) 英文の書籍の輪読を行う。さらに必要があれば何かの文章について読みレポートを提出してもらう。

成績評価方法(総合) 授業中の担当部分の発表、その他、レポート、期末テスト、出席状況などを総合評価する。

教科書・参考書 教科書：開講時に指示する。

メッセージ 辞書は必ず持参すること。

開設科目	外国書講読	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	城下賢吾				

授業の概要 英語の文献を理解し、日本語訳をする。

授業の一般目標 ファイナンスの文献を読み、分担して発表し、基礎的な知識を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：基礎的な知識と英語の力をつけること 関心・意欲の観点：英語力をつけるための意欲を求める。

授業の計画（全体） 分担して英語文献の報告

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 オリエンテーション

第 2 回 項目 分担報告

第 3 回 項目 同上

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

成績評価方法（総合） 発表内容と出席

教科書・参考書 教科書：未定（ファイナンスに関する文献）

連絡先・オフィスアワー sirosita@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	外国書講読	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	マルク・レール				

授業の概要 この授業では、日本のメディアに関する専門書を一緒に読む。

授業の一般目標 マスメディア英語に強くなる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：英語のメディア用語を理解する。 思考・判断の観点：読んだ文書を要約できる。

授業の計画（全体） 毎回、専門書を読んで、まとめて、分析する。

成績評価方法（総合） 出席（欠格条件）、グループでの授業の司会（欠格条件）、レポート（100%）

メッセージ 読まれる専門書、資料などは授業中に紹介する。

連絡先・オフィスアワー maru @ yamaguchi-u.ac.jp

演習

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	藤井大司郎				

授業の概要 公共経済論に根ざす財政理論を学びつつ、わが国の財政とこれを取りまく公共部門の諸問題を学ぶゼミナールである。

授業の一般目標 財政学の基礎理論を理科し、現実の財政現象に幅広く通ずる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 公共財政が果たすべき役割、政策手段とその働き、市場の働きとその限界 技能・表現の観点： 簡易な数学的処理、グラフによる表現

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 混合経済における公共部門 内容 政府の経済的役割 政府とは何か、誰なのか
- 第 2 回 項目 混合経済における公共部門 内容 公共経済学的な考え方 経済学者間での意見の不一致
- 第 3 回 項目 市場の効率性 内容 競争市場のみえざる手 厚生経済学とパレート効率性
- 第 4 回 項目 市場の効率性 内容 経済効率性の分析
- 第 5 回 項目 市場の失敗 内容 所有権と契約の実施 市場の失敗と政府の役割
- 第 6 回 項目 市場の失敗 内容 所得再分配とメリット財 政府の役割についての二つの分析方法
- 第 7 回 項目 効率と公平 内容 効率と分配のトレードオフ 社会選択の分析
- 第 8 回 項目 効率と公平 内容 社会選択の実際 社会選択の三つのアプローチ
- 第 9 回 項目 効率と公平 内容 不平等を測る他の尺度
- 第 10 回 項目 公共財と公的に供給される私的財 内容 公共財 公的に供給される私的財
- 第 11 回 項目 公共財と公的に供給される私的財 内容 公共財のための効率性の条件 公共財としての効率
的政府
- 第 12 回 項目 公共選択 内容 資源配分の公的メカニズム 公共財水準を決定する代替的機構
- 第 13 回 項目 公共選択 内容 政治学と経済学
- 第 14 回 項目 公的生産と官僚制度 内容 自然独占：私的財の公的生産 公共部門と民間部門での効率性の
比較
- 第 15 回 項目 公的生産と官僚制度 内容 公共部門での非効率性の原因 法人化

教科書・参考書 教科書： 公共経済学 第 2 版, J. E. スティグリッツ, 東洋経済新報社, 2003 年

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	植村高久				

授業の概要 テーマ：現代日本の経済と社会 ゼミの目標は、この現代の日本の社会経済の特質を学び、多面的な関心を持てるようにすることである。1) 大学生生活に主体的に取り組んでゆける「テーマ」(何でも良い)を各自が見つけ、それに全力投入できるようにして、アクティブな大学生生活を送るよう支援する。2) 学習の面では、関心のあるテーマを自分で選び、継続して観察しつづけるようになることが重要である。/ 検索キーワード 日本経済、グローバル化、雇用不安、少子高齢化

授業の一般目標 日本経済だけでなく、現在の日本で生起している諸問題に対し、積極的に関心を持ち、問題を理解し、解決策を模索することができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：(知識・理解の水準) 日本経済新聞を読める。新書本レベルの経済書が読める。経済・社会の様々な問題について一般的な了解ができる。思考・判断の観点：経済学的な思考法、社会科学の思考法を駆使できる。関心・意欲の観点：様々な事件や問題を自ら積極的に理解・解明しようとする。一つのテーマを継続的に追跡できる。態度の観点：自力で考える習慣が身に付く。

授業の計画(全体) 1) 1年間を通して資料(新聞等)を素材にした基礎知識の習得に努める。2) 前期は「テーマ報告」(テーマ自由)を中心とする。後期は「テーマプレゼンテーション」に移行する。3) 後期は、グループ分けを行い、6冊の新書本を分担してグループで報告を行ってもらう。

成績評価方法(総合) ゼミへの参加度と報告の内容による。

教科書・参考書 教科書：別途指示する。

メッセージ 1) モットーは「能力は求めないが、努力は求める」である。最初は難しいが、そのうち面白みが分かってくる。そこまで「努力」できる人を求める。2) 自分でテーマを持って大学時代を過ごしたい人(まだテーマが見つからない人も含めて)向けである。3) 相談等には出来る限り応じるから、気軽に研究室に来て欲しい。

連絡先・オフィスアワー Phone:083-933-5593 e-mail;uemura@yamaguchi-u.ac.jp オフィス・アワーは掲示してあるが、常時来室可。

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	柏木芳美				

授業の概要 次の 2 つのテーマを準備している。共通テーマはミクロ経済学のより深い理解である。

(1) 数式処理システム Mathematica を利用したミクロ経済学 (2) 公務員試験問題を利用したミクロ経済学
 受講者はいずれかのテーマを選択して演習 I, 演習 II, 卒論と 3 年間勉強することとなる。いずれでもある程度の数学を使う。尚, これらのテーマと全く無関係なことを勉強したければ相談にのる。 / 検索キーワード ミクロ経済学, Mathematica, 公務員試験問題, 数理経済学

授業の一般目標 数式処理システム Mathematica の助けを借りてミクロ経済学を理解することまたは公務員試験の問題を通してミクロ経済学を理解すること。 また, 自分で理解し, その内容を人に話す (プレゼンテーション) の訓練も重要な目標である。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. ミクロ経済学の基本的事項を説明できる。 2. Mathematica の基本的機能を説明できる。 3. 公務員試験のミクロ経済学の問題を説明できる。 関心・意欲の観点: 1. 経済現象を数理的にとらえることができる。 2. 他人のプレゼンテーションを評価できる。 態度の観点: 1. ゼミに積極的に参加する。

授業の計画 (全体) 通常の授業とは異なり, 各人が順番でレポーターとなって話が進む。レポーターのときは, まず前回の復習をし, その日の全体的な話の概略を話し, 次に関連するミクロ経済学の基本事項及び関連する Mathematica のコマンドまたは問題を解説する。テキストにはない自分で試したもの (テキストの例を少し変えたものなど) があると非常によい。Mathematica の場合には, 全員がうまくパソコンに入力できているかよく確認すること。発表の最後にまとめを行い質問または評価を受ける。レポーターでない人は, レポーターの指示に従い作業をし, 最後に質問またはポーターの評価をする。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 顔合わせ 内容 自己紹介, 概略説明
- 第 2 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表
- 第 3 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表
- 第 4 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表
- 第 5 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表
- 第 6 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表
- 第 7 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表
- 第 8 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表
- 第 9 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表
- 第 10 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表
- 第 11 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表
- 第 12 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表
- 第 13 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表
- 第 14 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表
- 第 15 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表
- 第 16 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表
- 第 17 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表
- 第 18 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表
- 第 19 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表
- 第 20 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表
- 第 21 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表
- 第 22 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表
- 第 23 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表

第 24 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表
第 25 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表
第 26 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表
第 27 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表
第 28 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表
第 29 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表
第 30 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表

成績評価方法 (総合) 発表 60～80%，出席 20～40%，他人のプレゼンテーションに対する評価 10%。

教科書・参考書 教科書：はじめよう経済学のための Mathematica, 浅利一郎他, 日本評論社, 1997 年；
2005 年 出た DATA 問 経済学, 東京アカデミー編, 七賢出版, 2003 年；教科書はこちらで準備する。

メッセージ 遅刻欠席をしないように心懸けること。無断欠席には厳しく対処する。楽しくやりましょう。

連絡先・オフィスアワー E-mail:kashi-y@yamaguchi-u.ac.jp, 電話:933-5595, 研究室:C213。オフィスア
ワーは授業開始時点に伝える。

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	馬田哲次				

授業の概要 毎週読書レポートを提出し、およそ 1 月に 1 回の割合で発表する。

授業の一般目標 研究テーマは、個人の自由です。各自のテーマを深く追求するとともに、幅広い知識を持った T 型スペシャリストを目指します。具体的には、以下の能力を身につけることを目標とします。

1. 幅広い教養を身に付けること。
2. 問題解決能力、分析能力を高めること。
3. 企画力・創造力を高めること。
4. プレゼンテーション能力を高めること。
5. コミュニケーション能力を高めること。
6. データ処理能力、事務処理能力を高めること。
7. 判断力を高めること。

授業の計画 (全体) パワーポイントを用いて、プレゼンテーションを行う。

教科書・参考書 教科書：7つの習慣, スティーブン・R・コヴィー, キング・ベアー出版, 1996 年

連絡先・オフィスアワー umada@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	兵藤隆				

授業の概要 金融論とは、みなさんの身の回りにある「お金」について経済学の目を通じて論じていく学問です。「お金」に興味のない人はいないと思いますが、それを論じていくためには様々な知識を身に付けていく必要があります。さらに、身に付けた知識を活かすには、人前でプレゼンテーションをし、それをもとに意見交換および議論することも必要になってきます。それらをトータルで学習することがこの演習 I の目的になります。 / 検索キーワード 金融、ゼミ、演習、プレゼンテーション、ディベート

授業の一般目標 1 , 新聞がしっかり読めるようになる。新聞は、現在の社会・経済に関するあらゆる情報がつまっています。新聞は単なる TV ガイドではないということをまず理解しましょう。 2 , 人前でプレゼンテーションするための技術を身に付ける。人前で話すことだけでも大変ですが、理解してもらうのはもっと大変です。 3 . 相手の意見を聞いて、自分の意見を発する。議論のための基本です。相手の意見を理解し、自分の意見を理解してもらうことがどれだけ重要であるかを理解しましょう。

授業の計画 (全体) I 経済学の理論的フレームワークの習得 (理論) (1) マクロ経済学の基礎 (2) ミクロ経済学の基礎 (3) 金融論の基礎 II 時事トピックへの関心を高める (実際) (1) 理論と実際の融合 (2) 論理的な思考 III プレゼンテーション能力の向上 (実践) (1) 毎週の報告 (2) 議論 (ディベート) への積極的な参加 (3) ゼミナール対抗討論大会への参加

成績評価方法 (総合) 演習中のパフォーマンス、アピール、ディベート能力などを評価します。

教科書・参考書 教科書：未定 (金融論の入門書) 最初の時間に、数冊候補を上げ、その中から決定する予定

メッセージ ゼミに関する詳しい活動内容は当ゼミのホームページ (<http://thyodo.eco.to>) を参照してください。ゼミの主役は学生諸君です。しっかり学んで、自らの付加価値を高めるべく、一緒にがんばりましょう。

連絡先・オフィスアワー thyodo@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	木部和昭				

授業の概要 近代日本経済史研究 ~ 明治・大正・昭和期の日本経済の分析 ~ 本演習では、明治以降、終戦までの日本経済史について、その基礎知識や、経済史研究の理論、実証分析の手法を習得する事を旨とする。内容としては特に、各人の身近な地域や興味ある企業・産業・人物などを取り上げ、その歴史を自分たちの手で解明し分析してもらおう。主な対象としては、身近な地域の経済を歴史的に分析する事を考えているが、各人の興味関心に応じて、必ずしもこれに限定するわけではない。最終的には、資料を用いて具体的な分析を行い、教科書に出てくる経済史とは異なった新たな歴史像を自ら発見してもらいたい。大学で勉強する歴史は高校までの日本史・世界史と異なり、単に知識を暗記するだけの学問ではない。自らが歴史を解明し、分析するという点に興味を持つ学生の受講を歓迎する。 / 検索キーワード 日本経済史、日本史、近代史

授業の一般目標 (1) 明治以降、終戦までの日本経済史について、その基礎知識や、経済史研究の理論、実証分析の手法を習得する事を旨とする。(2) 身近な地域や興味ある企業・産業・人物などを取り上げ、その歴史を自分たちの手で解明し分析する能力を身につける。(3) 史資料を用いた歴史の実証が行えるようにする。

授業の計画 (全体) (1) 2 年生の前半は下記のテキストの輪読を通じて、近代日本経済史の基礎知識、論点を学習する。(2) 2 年生の後半は、「人物・企業から見た日本経済史」というテーマの下、近代日本の経済発展の担い手となった企業やそれを創設した企業家について、調査・報告を行ってもらおう。(3) 日本経済史の実証的研究に必要な不可欠なものに、資料の調査・分析がある。本演習では、上記と平行して、戦前期の資料講読を行い、調査・分析の基本的な手法を習得する。戦前の文献・法令・新聞などは、現在とは全く異なる文語・旧字体で書かれているが、慣れれば同じ日本語なのでそんなに難しくはない。なるべく多くの原史料に触れる機会を得るため、山口県文書館などの資料保存機関へ調査に出かける場合もある。(4) 夏休みには、卒業論文への前段階として、レポートを課す。これは、自分の研究課題についての模索の第一歩となる。後半には、このレポートをもとにした報告も行ってもらおう。

成績評価方法 (総合) 順番に担当してもらった報告、夏休みレポートの内容によって評価する。報告者以外は、報告内容をまとめたノート提出させるが、これも評価の対象となる。報告 45 %、授業内小レポート 15 %、夏休みレポート 30 %、授業態度 10 % 欠席が多い者は不合格となる。

教科書・参考書 教科書：『近代日本経済史要覧 (第 2 版)』、安藤良雄 編、東京大学出版会、1979 年；『概説近代日本経済史 (第 2 版)』、三和良一、東京大学出版会、2002 年 / 参考書：テキスト以外の参考文献は適宜紹介する。授業で使用する場合は、コピーを配布する。

メッセージ ・ 3 年後の卒業論文に向けて、自分なりの興味関心を養って欲しい。 ・ きちんと出席しないと単位が出ないで注意。 ・ 自分の割り当てられた報告を放棄した場合は、別に数倍の課題を出させるので、一生懸命に取り組むこと。

連絡先・オフィスアワー 経済学部 C207 研究室 内線 5566 E-mail ; kibe@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	野村淳一				

授業の概要 演習の最終目的は、各自が自分の研究テーマを決め、卒業論文を完成させることです。卒業論文は経済理論と統計学(計量経済学)を用いることを理想としています。演習 I ではブランシャールの教科書を中心にマクロ経済学を勉強します。3 年次にはマクロ経済学を応用して日本経済の問題について分析し、全国ゼミナール討論大会に参加しますので、2 年次にはその予行演習も兼ねて学内討論大会に参加します。

授業の一般目標 ・現実の社会・経済問題について、モデルを構築し、検証・考察ができるようになる。 ・実際のデータのもつ特徴・問題点を理解し、計量分析を適切に利用できるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：標準的なマクロ経済理論を理解できている。基本的な統計学の手法を修得している。 思考・判断の観点：現実の経済現象を理論的に考察し、政策や外的ショックの効果を判断できる。 関心・意欲の観点：現実の経済・社会問題に関心を持ち、その背景を統計資料に基づいて整理できる。 態度の観点：事前の準備を十分に行い、他者の発表に対しても真摯に議論できる。 技能・表現の観点：発表資料を効果的に作成し、明快な発表ができる。統計データを正しく処理し、形式的にも十分に整った報告書・論文が作成できる。

授業の計画(全体) 演習 I ではブランシャールの教科書を中心にマクロ経済学を勉強します。3 年次にはマクロ経済学を応用して日本経済の問題について分析し、全国ゼミナール討論大会に参加します。2 年生は全国大会へは参加しませんが、学内の討論大会に参加してもらいます。これには、(1) 経済学の応用された論文を理解する、(2) 論理的に議論する、(3) 次年度のための予行演習、という目的があります。2 年生では、経済理論に基づく論文作成は出来ませんので、適切な参考文献の主張を消化し、自分達で統計データを確認する作業が中心となります。卒業論文のテーマについては、こうした活動を通して自由に選んでもらいます。早く決まれば個別に指導を始めますが、基本的には卒業後の進路も踏まえて 3 年次の 10 月頃には具体的にイメージを固めて下さい。パソコンの知識は必須です。各自でパソコンを購入することを強く推奨します。卒業論文作成前に、経済数学、ミクロ経済学、マクロ経済学、統計学入門、経済統計学、計量経済学の単位を取得することを期待します。一見非常に多くを学習するようですが、これらは互いに関連しており、ステップを省略しなければ、基本的な範囲の内容については、無理なく修得することが可能です。希望者には、サブゼミとして経済数学や経済学の輪読をしています(パソコンは個別に指導します)。初歩から積み上げていきますので、気軽な気持ちで臨んで下さい。

成績評価方法(総合) 授業における態度(発表、質問等)と参加意欲により判定する(評価割合 100%)

教科書・参考書 教科書：『マクロ経済学』(上)(下), ブランシャール, 東洋経済, 1999 年

メッセージ 就職活動では、大学で何を学んだかを問われます。野村ゼミでは、討論大会への参加と卒業論文作成を通じた勉強を重視しています。したがって、費用は多少かかりますが、毎年夏期休暇中に行うゼミ合宿と 3 年次の全国大会への参加を義務づけています。これらはゼミ生同士の協力なしでは成り立ちませんので、協調性を持った学生の助けを必要としています。

連絡先・オフィスアワー nomuraj1@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワーは週 3 回、1 時間程度設ける(講義中に指示)

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	山田正雄				

授業の概要 経済分析の方法を学ぶ。

授業の一般目標 経済分析の方法を身につける。

授業の計画 (全体) 経済を分析する方法として、2 年次にはファイナンス理論を学びます。Excel を使って次のような内容を学ぶ予定です。・現在価値・正味現在価値・内部収益率・ポートフォリオによる分散投資・CAPM・MM 理論・株価の決定理論・デリバティブ・二項モデル・ブラック=ショールズ・モデル

成績評価方法 (総合) 参加姿勢、報告、出席によって評価します。

教科書・参考書 教科書： 道具としてのファイナンス, 石野雄一, 日本実業出版社, 2005 年

メッセージ Excel がインストールされたノートパソコンを用意してください。(台数に限りはありますが、学務係で借りることもできます。)

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	仲間瑞樹				

授業の概要 前期・後期ともにディスカッション能力・ディベート能力・プレゼンテーション能力を高めるための作業を行う。自身の関心事を、以下にして他者に伝えられるか？何が問題で、どうすべきか提案する力をつける。

授業の一般目標 誰が聞いても、見てもわかりやすい発表、資料作成が出来るようにすること。社会的な問題、時事的な問題に対して、経済学の論理を適用できるようにすること。また社会的な問題、時事的な問題を自分自身の問題として想像できるようにすること。

授業の到達目標 / 関心・意欲の観点：わかりやすい、相手の立場に立った発表となっている点。技能・表現の観点：わかりやすい日本語論文・資料を書けること。

授業の計画 (全体) 3 から 4 人のグループに分け、テキストを利用した発表、質疑応答、ディベートを繰り返す。資料作成、発表技術を出来るだけ高められる指導する。後期のスケジュールは、前期末に資料を配布し、説明をする。

成績評価方法 (総合) 資料作成、発表技術、ディベートの参加具合、報告内容を評価対象とする。

教科書・参考書 教科書：入手すべきテキスト、参考文献は演習所属学生に対して別途紹介する。

メッセージ 1 年後にはある程度の発表、討論参加、経済学的な知識、文章、資料作成に対する自信がついているはずです。

連絡先・オフィスアワー 何かご質問・ご意見がありましたら nakama73@yamaguchi-u.ac.jp までどうぞ。

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	濱島清史				

授業の概要 キャリア形成 (人材育成) ならびに社会政策論 (特に少子高齢化、格差問題、年金・介護問題) を中心に進めていく。またそれと関連するように、産業・企業・職能 (職業) 研究を進めていきたい。これは 2 年生から就職対策をするというよりも、キャリア形成論や産業・企業・職能 (職業) 研究は本格的にやろうとすれば数年は要し、そして就職活動においても、それ以上に社会に出てから有益だからである。学問研究と就職活動との相乗効果を狙う。 / 検索キーワード キャリア形成、社会政策論、産業・企業・職業研究、プレゼンテーション・ディスカッション・ディベート、社会貢献。

授業の一般目標 第一に、ゼミでの研究を通して充実した学生生活を送ること。即ち、何らかの困難に遭遇した時に、それを克服するストーリーを語れるようにすること。第二に、将来のキャリア・ビジョンを描けるようにすること。第三に、社会に出てから有益な知識と思考力を養うこと。以上を一般的な目標とする。より具体的には、キャリア形成ならびに社会政策論の基礎知識を習得し、自ら主体的に関心のある産業・企業・職能 (職業) に関して調べて、論理的な文章展開能力をレポートによって涵養する。さらにプレゼンテーション、ディスカッション、ディベート能力を磨いていきたい。なお、労働経済論と社会政策論を履修すること。専門性を深めるためには、ゼミだけでは不十分で、関連する講義科目によって補強しなければならないからである。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：教養を広め、専門知識を深めること。新聞やテレビ・ドキュメンタリーなども日常的にみること。思考・判断の観点：論理的思考能力を養うこと。変化に応じて、的確に判断を下せるようになること。総じて、課題・問題を発見し、原因を分析し、改善できるようにすること。関心・意欲の観点：自ら主体的に関心のある産業・企業・職能を調べ、その知識をゼミ生相互でシェアし合い、専門領域を確保しつつあらゆる産業に関心を抱いて互いに啓発し合えるようにしたい。態度の観点：人間の記憶力は曖昧である。単に聴いているのではなく、糧となると思われるところはメモを取ること。さらに、積極的に自己アピールをしてもらいたい。ゼミで活発に討論して、自己主張してもらいたい。また各自、それぞれの担当領域でリーダーシップを発揮してもらいたい。技能・表現の観点：プレゼンテーション、ディスカッション、ディベートでは、論理的展開能力、声の大きさ、身振り手振り、アイコンタクト、表情の豊かさなどに磨きをかけてもらいたい。その他の観点：特に今年から労働者の権利意識を涵養するような方向性を打ち出したい。景気も回復してきており、単に就職するだけでなく、労働者としての権利も主張していけるような人材を育ててきたからである。また社会貢献や人道的観点も養いたい。そうでないと、個人的な狭い利害関係でしか、考えられないような人間になってしまうからである。将来、社会に出てから、大きく活躍するためにも、社会に貢献するという大望が必要である。具体的には、第三世界の貧困問題などに関するボランティア活動などへの参画である。(勿論、強制はしない。)

授業の計画 (全体) 前期からゼミナール大会にかけては、社会政策論 (特に少子高齢化あるいは格差問題) に関してテキストを輪読形式で進めていく。また今年から特にディスカッション、ディベート、プレゼンを重視し、レッスンしていきたい。秋のゼミナール大会は一つの山場なので必ず出席してもらおう。後期は各自の関心のあるキャリア形成に関して研究を進めていきたい。その成果をレポートとして、春休み明け、夏休み明けにそれぞれ提出してもらおう。

成績評価方法 (総合) 主にレポートとレジュメ・発表による。プレゼン、討論能力も期待するが、成績評価よりも各自の努力に委ねるべきだろう。講義形式とゼミとでは自ずと異なる。無断欠席や発表やレポート提出を怠った場合は、落第もありうる。

教科書・参考書 教科書：日本の官僚 j 人事システム, 稲継裕昭, 東洋経済新報社, 1996 年; 大卒ホワイトカラーの人材開発, 小池和男編著, 東洋経済新報社, 1991 年 / 参考書：マテリアル人事労務管理, 佐藤博樹他, 有斐閣, 2000 年; 日本企業 理論と現実, 上井喜彦・野村正實, ミネルヴァ書房, 2001 年

メッセージ 何はともあれ、明るく楽しくやっていきましょう。

連絡先・オフィスアワー tel : 083 - 933 - 5521。Eメール・アドレス : hamakiyo @ yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	古賀大介				

授業の概要 世界・社会経済を様々な歴史的観点から勉強していきます。この演習では、例えば、お茶の歴史、学校の歴史、お金の歴史、ファッションの歴史など、私たちにとって身近なトピックスを取り上げ、その歴史を学ぶことを通じて、世の中をより深い次元から把握する眼、本質を見る眼を養っていききたいと思います。

授業の一般目標 1 . 発表に必要なスキルを身につける 2 . 経済史の基礎知識をマスターする 3 . 歴史を通じて、世の中をより深い次元から把握する眼、本質を見る眼を養う

授業の計画 (全体) 前期は、世界経済の発展の歴史について学びます。後期は、「概要」にあげた個別テーマについて学びます。

成績評価方法 (総合) 出席・発表の総合評価。特段の理由がない限り、遅刻・欠席は認めない。

教科書・参考書 教科書：あなたが歴史と出会うとき、堺憲一、名古屋大学出版会、1989 年

メッセージ 一緒に楽しく勉強していきましょう。

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	中田範夫				

授業の概要 中田と米谷の二人で授業を運営していきます。財務会計分野と管理会計分野の演習です。企業会計は財務会計分野と管理会計分野に区分できます。前者は商法や商法計算規則に基づいた処理をすることによって財務諸表を作成します。損益計算書、貸借対照表、およびキャッシュフロー計算書を財務諸表と言います。これに対して、管理会計は経営管理者が各種の意思決定と業績評価のために利用するための情報作成を任務とします。企業の業務計画に基づいて予算を編成したり、新規の設備投資を海外に行うなどの意思決定ならびに各セグメントや個人の会社への貢献を評価し報酬に反映させたりします。管理会計分野は主に中田が指導します。次に財務会計分野について説明します。会計は経験の蒸留であるといわれるように、現在の会計制度は実務的な慣習を基盤に作られています。しかし、会計学や簿記の授業では会計制度の背景まで深く掘り下げることができないため「どうしてこういう制度になったのだろう」とか「なぜ複数の会計処理が認められているのだろう」という疑問が生じます。こうした疑問をゼミのメンバーと議論しながら、解決していきます。財務会計分野は主に米谷が指導します。

授業の一般目標 管理会計、原価計算についての知識を習得することを目標とする。これらの技法の多くは欧米で開発されたものであるから、原書に遡及して研究することが重要である。したがって、英文文献による勉強も行う(以上、中田)。自分が理解できていないところは何処なのかを発見し、それに対して論理的に答えを導く思考力を養います(以上、米谷)。

授業の計画(全体) 授業はテキストを決めて、学生に順番に報告してもらい。報告する学生がレジュメを準備することは当然であるが、それ以外の学生も事前に報告者に対して質問を提出することを義務とする(以上、中田)。疑問点を出してもらい、それをグループ単位で解決してもらいます(以上、米谷)。

成績評価方法(総合) 授業への出席、報告、各種ゼミ行事への参加度などを総合的に見て判断する(以上、中田)。出席、報告、授業への貢献から総合的に評価する(以上、米谷)。

教科書・参考書 教科書：後日決める。

連絡先・オフィスアワー 研究室：電話番号 9 3 3 - 5 5 5 6 オフィスアワー：後日指示する。

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	古川澄明				

授業の概要 ゼミ 2 年生：前期、中小企業診断士資格取得勉強に取り組む。後期、有資格者を含めて、同資格知識をベースにして、企業調査・研究を開始する。目標は、4 年生卒業論文研究として企業のケーススタディをまとめることである。研究分野としては、酒造業界と、フグ・ビジネス業界を取り上げる。研究内容・方法 (1) フグ・ビジネスの調査 3 年生の先輩が下関唐戸魚市場 (株) や、萩、徳山の養殖業者のヒアリング調査に取り組んでいますが、そうした調査活動に取り組んでみたい方は、次のようなテーマ設定はいかがでしょうか： (a) 中国沿海地域のふぐ養殖業の実態調査 (今、中国産フグが下関養殖フグ取扱高の 3 割) (b) フグ漁従事者の激減と業界の国際的構造変化 - 輸入フグの増大化傾向、(c) フグ・ビジネスの国際化とアジア - 香港、上海のフグ料理店、(d) 養殖フグの急増と産地間競争 - 相場リーダーとしての下関の挑戦、(e) 韓国でのフグ・ビジネスの実態 - フグを食べているのか？ (f) 食生活の変化とフグ・ビジネス - 養殖魚で育った世代の味覚が示すものは、何か。(2) 山口の酒蔵の調査、3 年生の先輩が県内の酒蔵メーカーの個別企業調査を行っていますが、まだまだ、残っています。日本人と酒と社会生活の変化について関心があり、調査活動に取り組んでみた方は、例えば、次のようなテーマ設定はどうでしょうか： (a) 山口県内の酒蔵メーカーを訪ねる (現在、五橋、男山、和可娘の 3 社を調査中) (b) 山口の「杜氏」を訪ねて、歴史を聞くゼミ運営方法： 3 年生までは、チームで調査研究。4 年生で卒業論文を作成。論文は自費製本し、「1 冊の本 (作品)」にする。自主的に、私的に会社を訪問することを厭わない人はよい成果を生み出せるでしょう。調査研究の成果は、報告集にまとめます。 / 検索キーワード 自分に投資し、自分の能力を開発し、自分を育てよう。

授業の一般目標 (1) 卒業論文作成に向けて、調査研究のテーマ設定、問題の分析の仕方、プレゼンテーションでの説得力などを身に付ける。(2) 企業調査を通じて、社会人としての自覚をもって、経営の現場やビジネスの動態を捉える独自の分析視角を開発する。(3) 大学卒業後に企業人、あるいは公務員として活躍することを意識して、ゼミ活動に取り組む。最終的目標：企業社会や公務員社会に入った役立つ能力を身につけること、すなわち何ら何の課題を分析し、取りまとめてプレゼンテーションできる能力、報告書をまとめる能力、自分の知識・認識のレベルと限界を知り、そのような実力を高めるべきかを認識する能力、PC を自在に取り扱える能力、流行な人間関係を構築する能力、指揮統率の能力などを養うことにあります。積極的に自分を育てましょう。自分の器を大きくしましょう。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：企業やそのマネジメントについて、ケーススタディを実施するための経営学の基礎知識を身に付ける。ビジネスモデルの独自の設計を目標とする。その基礎知識習得として、中小企業診断士資格受験にチャレンジする。 思考・判断の観点：独自のテーマ設定を行うので、テーマと研究方法の独創性を重視する。したがって、オリジナリティを問われる。深い思考力や、テーマや研究方法の妥当性を身に付けるために、幅広く知識を身に付けることが望ましい。 関心・意欲の観点：ゼミでは、研究の独創性を重視するので、自分で関心のある、意欲的に取り組めるテーマを設定し、独自の研究成果を出すことが求められる。 態度の観点：研究は当初、チームで行い、やがて個人研究へシフトすることになる。チームでも、個人でも、積極的に、意欲的に取り組むことが重要である。課題を自分で見つける楽しさがあるが、独自の課題を見つけるまでの困難もあり、それが自分を自分の力で育てることになる。ゼミでは、自分を自分で育てる、という観点を重視する。礼儀と節度を守り、指揮統率能力を身につけることを課題とする。礼節を重んじ、ゼミ生としての品位と相互尊敬には、立場や性別に関係なく、お互いに厳格でありたいものです。 技能・表現の観点：PC の利用に習熟すること。ワープロ、表計算、プレゼンテーションのためのパワーポイントの利用は、普通のこととする。ビジネスモデルの開発のために、各種のプロクラムを利用することを勧める。インターネットの活用、メールを利用した添付ファイル情報の交換などは、日常的に行うので、4 年生までには、習熟することになる。また情報収集・整理能力、情報を一つの方向で報告書にまとめる能力を養う。 その他の観点：ゼミの原則は、楽しいこと。ゼミ全員が楽しく学べることである。ゼミは、メンバー全員で作るものという考えを持つこと。各メンバーは、研究でも勉強面でも、ゼミに楽しさを提供する努力を求められる。積極的にサービスを提供することで、自分もサービスを受けるというのが、ゼミの原則である。

授業の計画（全体） 大きくは、前期と後期にわけて、2年生は研究のための基礎勉強を行う。とくにケーススタディを行いながら、実践的に経営学の知識を学ぶ。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 経営学基礎学習
- 第 2 回 項目 経営学基礎学習
- 第 3 回 項目 経営学基礎学習
- 第 4 回 項目 経営学基礎学習
- 第 5 回 項目 経営学基礎学習
- 第 6 回 項目 経営学基礎学習
- 第 7 回 項目 経営学基礎学習
- 第 8 回 項目 経営学基礎学習
- 第 9 回 項目 経営学基礎学習
- 第 10 回 項目 経営学基礎学習
- 第 11 回 項目 経営学基礎学習
- 第 12 回 項目 経営学基礎学習
- 第 13 回 項目 経営学基礎学習
- 第 14 回 項目 経営学基礎学習
- 第 15 回 項目 経営学基礎学習
- 第 16 回 項目 企業事例研究
- 第 17 回 項目 企業事例研究
- 第 18 回 項目 企業事例研究
- 第 19 回 項目 企業事例研究
- 第 20 回 項目 企業事例研究
- 第 21 回 項目 企業事例研究
- 第 22 回 項目 企業事例研究
- 第 23 回 項目 企業事例研究
- 第 24 回 項目 企業事例研究
- 第 25 回 項目 企業事例研究
- 第 26 回 項目 企業事例研究
- 第 27 回 項目 企業事例研究
- 第 28 回 項目 企業事例研究
- 第 29 回 項目 企業事例研究
- 第 30 回 項目 企業事例研究

成績評価方法（総合） 総合的に評価する。全員が最高評価を得られるように指導を行うので、結果として、最高評価となるように、参加者の努力に期待する。

教科書・参考書 教科書： 必要に応じて、あらゆる経営学書を利用する。 / 参考書： 必要に応じて、あらゆる経営学書を利用する。

メッセージ 古川ゼミは、人材育成の場と位置づけている。企画・立案能力，文書能力，報告書をまとめる能力，プレゼンテーション能力，コンピュータ活用能力などを養うことを目標として，2年生の段階から自分たちで自主的に共同研究テーマと取り組む。それらの能力は，大学卒業後に民間企業や公務員に就職すれば当然にも求められる能力である。企業研究では，これまでに習得した，あるいは習得しつつある経営学や会計学の知識を投入することになり，必要ならば自主的に経営学の知識を学ぶことが重要である。3年間を費やして，独創的な卒論をまとめ，ハードカバー書に製本し，大学4年間の総決算とする。またゼミ独自のアルバムを編集しているので，楽しいゼミを全員参加で作らしましょう。

連絡先・オフィスアワー 事前アポにて、常に、面会可能。日常的に、メールで相互連絡を行うので、メールアドレスを変更したら、必ず、連絡してください。

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	長谷川光圀				

授業の概要 演習 I の受講対象者は、2 年生で、経営学の基礎知識が不足している。

そこで、「経営学をやさしく学ぶ」のテキストを活用して、各自の分担報告と意見交換を義務付けたい。また、その意義は、体系的思考を養うことにある。 / 検索キーワード 経営学の基礎理論、体系的理解、個別事例を参照、最近のトピックスに注目

授業の一般目標 専門知識の習得と、プレゼンテーションの能力を高める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：経営学の基礎知識を習得し、経営思考を身に付ける。 関心・意欲の観点：マスメディアの経営問題に、関心を示し、思考と判断をするようにする。 態度の観点：演習では、積極的に意見をだし、議論になれる。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 企業経営とは何か
- 第 2 回 項目 経営理論史の方法
- 第 3 回 項目 経営組織
- 第 4 回 項目 経営戦略
- 第 5 回 項目 国際経営
- 第 6 回 項目 人事管理
- 第 7 回 項目 マーケティング
- 第 8 回 項目 財務管理
- 第 9 回 項目 情報管理
- 第 10 回 項目 経営計画
- 第 11 回 項目 財務報告
- 第 12 回 項目 規費監査
- 第 13 回 項目 リスク管理
- 第 14 回 項目 企業の社会的責任
- 第 15 回 項目 企業ガバナンス

教科書・参考書 教科書：経営学をやさしく学ぶ, 山大経済学部経営学科編, 中央経済社, 2005 年 ; 経営学をやさしく学ぶ, 山大経営学科編, 中央経済社, 2005 年 / 参考書：その都度、紹介する。,,

メッセージ 出席は、100 % であること、報告は、周到にすることである。

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	城下賢吾				

授業の概要 ファイナンスならびに証券分析に関する基礎知識の習得

授業の一般目標 専門知識の習得、企業分析ならびにゼミナール間のコミュニケーションをはかる

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 専門知識の習得 関心・意欲の観点： 講義への積極的参加 技能・表現の観点： レポートの作成ならびにプレゼンテーション

成績評価方法 (総合) 発表、ゼミへの積極的参加,

教科書・参考書 教科書： 入門証券論, 榊原, 有斐閣, 2005 年 ; その他テキストは未定

連絡先・オフィスアワー sirosita@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	石田成則				

授業の概要 21 世紀の新時代に入り、わが国経済社会は大きな転換期を迎えている。長期にわたる不況と高齢社会への突入により、雇用不安や老後生活への不安感も醸成されている。こうした現況を打破するための構造改革そして財政再建のなかで、国家財政による社会保障は縮小または見直しの機運にある。また、企業経営においても、国際競争力の強化のために、財務のスリム化そして人員の削減が断行されており、退職給付による老後保障の役割は縮小傾向にある。そこで、自助努力による資金形成のための、保険、年金そして投資商品などについて幅広く勉強する。

授業の一般目標 保険・社会保険の基本的仕組みと構造、そして役割を理解する。 1) 生活上のリスクとその管理の具体的手法を学ぶ。 2) 生活保障に果たす公私の役割分担を考える。 3) 保険商品や各種の社会保険制度を知って、それを旨く活用する。 4) 保険によるマクロ的機能、労働生産性効果と効率的資本形成を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 保険・社会保険の仕組みの理解 **思考・判断の観点：** リスクの計量的・確率的な把握 **関心・意欲の観点：** 現実社会の保険現象に対する関心を高める

授業の計画 (全体) 教科書の輪読

成績評価方法 (総合) 授業態度と授業内プレゼン

メッセージ 欠席する際には、必ず事前にその旨を連絡すること。

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	有村貞則				

授業の概要 この演習では、企業経営の実態を把握する上で有益な経営分析、とくに財務分析手法を学習し、それをもとに代表的な日本企業や欧米のグローバル企業の経営状態を比較検討します。

授業の一般目標 1. 財務諸表データを用いた経営分析手法の習得。 2. これらの手法を用いて実際の企業の業績を分析。 3. 分析結果、およびその他の情報をもとに企業間の優劣を判断。

授業の計画 (全体) 指定テキストの各章ごとに進める。

成績評価方法 (総合) 出席点と毎回の授業で行う復習小テスト。

教科書・参考書 教科書：経営分析入門, 森田松太郎, 日本経済新聞社, 2002 年

連絡先・オフィスアワー arimuras@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	山下訓				

授業の概要 職業会計人コースの税務専攻 2 年生を対象とした演習です。自ら疑問点を探し、自ら解決していく方法を学びます。

授業の一般目標 職業会計人コースの実習により、多くのことを学ぶこととなりますが、多くの疑問を積み残したまま、実習は進行していきます。この演習形式の授業では、何が疑問点かを探し、その背景にどのような考えがあるのかを探し、調べて発表していきます。分からない所が何処であるかを発見すれば、実は半分以上問題は解決しています。ものを問うときに、既に答え方が決まっているからです。是非、自ら問題を設定し、解決し、発表する訓練をしましょう。

成績評価方法 (総合) 出席と発表によって評価する。

メッセージ 経済学部生としての当然求められる行動を求めます。

連絡先・オフィスアワー yamasita@yamaguchi-u.ac.jp tomotake@yamaguchi-u.ac.jp 内線 5 5 1 8、5 5 3 2

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	柳田卓爾				

授業の概要 前期は、まず初めに、沼上幹『わかりやすいマーケティング戦略』をテキストとして、マーケティング戦略に関する基礎理論を学びます。理論と事例をバランスよく、取り上げる予定です。テキストの章構成は、次の通りです。序章 インTRODクシヨN 第1章 マーケティング・ミックス ヨード卵「光」のケース、ルイ・ヴィトンのケース 第2章 ターゲット市場の選定 富士写真フィルム「チェキ」のケース 第3章 製品ライフサイクル カップヌードルのケース 第4章 市場地位別のマーケティング戦略 ドライ戦争 第5章 業界の構造分析 第6章 全社戦略 第7章 事業とドメインの定義 終章 戦略的思考に向かって引き続き、マルコム・グラッドウェル著、高橋啓訳『なぜあの商品は急に売れ出したのか 口コミ感染の法則』をテキストとして、ヒット商品の背後に働いているメカニズムを題材にしなが、議論を深めていく予定です。以上の勉強は、次の3点に注意しながら行います。(1) レジユメの書き方 文章を通じて、著者の考えや言いたいこと、自分の考えや言いたいことを相手に伝えることを学びます。(2) 報告(プレゼンテーション)および議論 口頭での対話を通じて、相手の考えや言いたいこと(文章、対話の両方を通じて)を正しく理解しようとするというスタンスを学びます。更に、自分の考えや言いたいことを相手に伝えることを学びます。(3) 報告書作成 ゼミでの議論を通じて、学んだことと学べなかったこと(残された課題)とを明確にすることを学びます。報告担当者は、事前にレジユメを準備して(1)、ゼミで報告(プレゼンテーション)をします(2)。報告の次の週に、ゼミでの議論のまとめとして報告書を提出し(3)、復習を行います。後期は、実際に商品をひとつ選んで、調査・研究を行います。調査・研究の方法についても、学んでいきます。柏木博『20世紀をつくった日用品ゼム・クリップからプレハブまで』は、紙コップ、ラーメン、ファーストフード、大八車、ユニットバス、紙袋、ロボット、シャープペンシル、ブランコ、カラー映画、パソコン等々の日用品約90点の生い立ちや歴史を、一つにつき2~3ページにまとめた文献です。参考にして下さい。

授業の一般目標 経営学科のゼミ生として必要な基本的ツールを理解する。

成績評価方法(総合) 前期に関しては、担当箇所のレジユメ、報告(プレゼンテーション)、報告書、等による。後期に関しては、レジユメ、報告(プレゼンテーション)、レポート、等による。また、出席は、欠格条件である。

教科書・参考書 教科書:『わかりやすいマーケティング戦略』, 沼上幹, 有斐閣アルマ, 2000年;『なぜあの商品は急に売れ出したのか 口コミ感染の法則』, マルコム・グラッドウェル著、高橋啓訳, 飛鳥新社, 2001年

メッセージ この演習Iは、2年生を対象としています。募集人数は12名です。積極的にゼミ活動を盛り上げていてくれる人を希望します。

連絡先・オフィスアワー 研究室 C220

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	藤田健				

授業の概要 マーケティング研究は製品・広告・価格・流通など多くの分野にわたって行われている。こうした幅広い分野の研究を進めるためには、経営学とマーケティングに関する知識を幅広く体系的に学習し、そのうえで研究対象にアプローチする方法を会得する必要がある。そのため、演習 I では、(1) 経営学とマーケティングの基礎知識を修得したうえで、(2) マーケティング・リサーチのプロジェクト演習をおこない、知識の応用力を高める。 / 検索キーワード マーケティング, 流通, 戦略的マーケティング, マーケティング・リサーチ

授業の一般目標 1. 経営学, マーケティングの基礎知識を体系的に修得し、活用できるようになる。 2. ケース・スタディを通して実践的なマーケティングの知識を身につける。 3. マーケティング・リサーチを実施し、マーケティング戦略を立案できるようになる。

授業の計画 (全体) 前期 <第 1 週> ガイダンス <第 2 週> 経営学の基礎知識 (1)
<第 3 週> 経営学の基礎知識 (2) <第 4 週> 経営学の基礎知識 (3) <第 5 週> 経営学の基礎知識 (4)
<第 6 週> 経営学のまとめ <第 7 週> マーケティングの基礎知識, 市場をつくり出す企業活動 <第 8 週> 価値形成のマネジメント, 価値実現のマネジメント <第 9 週> マーケティング組織のデザイン, マーケティング資源の配分 <第 10 週> 事業の定義, 消費者行動の理解 <第 11 週> 競争構造の理解, 取引関係の理解 <第 12 週> プロセスとしての競争 <第 13 週> 産業のライフサイクル <第 14 週> マーケティングのまとめ <第 15 週> 予備日 後期 <第 1 週> ガイダンス
<第 2 週~第 15 週> マーケティング・リサーチ実習

成績評価方法 (総合) 前期は、発表時のレジュメ、プレゼンテーション、レポート、各回のディスカッションへの参加度および最終レポートで評価する (50%)。後期は、マーケティング・リサーチの経過レポート、グループ活動への貢献度、最終レポートで評価する (50%)。

教科書・参考書 教科書: ゼミナール マーケティング入門, 石井淳蔵・嶋口充輝・栗木契・余田拓郎, 日本経済新聞社, 2004 年; マーケティング・クリエイティブ (第 1 巻), 石井淳蔵・大西潔編著, 碩学会 (中央経済社), 2005 年; 1 からの経営学, 加護野忠男・吉村典久編著, 碩学会 (中央経済社), 2006 年 / 参考書: MBA マーケティングリサーチ入門, 高田 博和, 上田 隆穂, 内田 学, 奥瀬 喜之, 東洋経済新報社, 2003 年; マーケティング・リサーチ, デーヴィッド・A・アーカー/ジョージ・S・デー著, 白桃書房, 1981 年; マーケティング・リサーチの資料は適宜配付する。より深く勉強したい人は、参考書を読むこと。

メッセージ ゼミには必ず出席すること。無断欠席は厳禁である。

連絡先・オフィスアワー A 棟 3 階 306 研究室

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	渋谷綾子				

授業の概要 経営に関わる意思決定のうち、数量的な問題について考えていきます。そのとき、単に計算手順を覚えるのではなく、その計算方法が問題のどの面を本質的にとらえているか、それをどのように解釈しているかを考えていきます。最初に、ネットワークを数式で表現する方法を例として説明します。まず、この手法（実は線形計画法という広く用いられている一般的な手法です）で、どのような経営問題が解けるかを一緒に考えていきましょう。

授業の一般目標 問題を発見し問題構造を理解したうえで、数式化することができる。問題解決用に装備されているパーソナル・コンピュータの一般的なソフトウェアを利用することができる。計算結果の意味するところを正しく理解できる。経営改善の余地があるかないか、あるとすれば、どこをどうすればよいか、を考えることができる。自分の考察の成果をプレゼンテーションできる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 問題を定義することができる。問題を数式で表現することができる。問題をコンピュータ上に展開して解を得ることができる。得られた解の検討から経営の改善点を見つけることができる。経営の改善を実現するための方策と、それが実現した場合の利益についてシミュレーションなどを実行して見通しを立てることができる。 **思考・判断の観点：** おなじような現象でも問題の定義の方法によって違った解が導出されます。一つの解を得たあと、問題を別の面から見直すことによって違った結果を得ることができます。どのような問題に、どのようにアプローチするのが最善か、を、判断できるようになりましょう。 **関心・意欲の観点：** 経営に関する問題の “数量的側面” に関心をもっていること。数字や数式に、ある程度の自信があれば十分です。考える時間とともに、パーソナル・コンピュータの操作など、手を動かすことも多い授業です。元気さが必要です。 **態度の観点：** 礼儀正しい態度を望みます。 **技能・表現の観点：** 適宜、パーソナル・コンピュータを用いたプレゼンテーションを行ってもらいます。自分の考察を発表する、ということは、他人に知らせるという効果の他に、自分自身がより深く理解する、とか、考えが整理されるといった効果もあります。むしろ後者の効果の方が大きいでしょう。プレゼンテーションの良否は、経験量が大きく関係しています。積極的に発表の機会を利用しましょう。 **その他の観点：** 一緒に学ぶ他の学生と存分に交流してください。

授業の計画 (全体) 最初は教員主導で学びますが、徐々に学生主導に切り替えていきます。文献を読んだり、インターネットで検索したりして、問題を発見し、解法を学び、コンピュータ上で実証データを集め、発表する。という流れをつくっていきたいと思っています。文献を読む以外は、計算・データ入手、発表準備などパーソナル・コンピュータを使用することが多いです。

成績評価方法 (総合) 授業で考えたことの成果発表であるプレゼンテーションが評価されます。また、授業中の積極性、洞察力、勤勉さ、協調性、なども評価されます。プレゼンテーションの頻度、時間の長短、などは、個々が携わっている問題解決の進捗状況によって決定されますが、自らプレゼンテーションの実施を申し出てよいです。また、チームを組んで学んで、発表してもよいです。

教科書・参考書 教科書： 授業時間内で適宜紹介します。 / 参考書： 授業時間内で適宜紹介します。

メッセージ 文献を読む、考える、手を使う（計算する、図を描く、グラフにする、など）発表する、そして、他の学生の意見をきく、討論する、と、全面的な能力を使います。授業の進捗状況によって取り扱う題材が変化するので、欠席すると流れについていけなくなります。パーソナル・コンピュータを使うことがのがのぞましい。

連絡先・オフィスアワー shibuya@yamaguchi-u.ac.jp C棟2階に研究室があります。在室中なら、いつでも入ってきてかまいません。

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	内田 恭彦				

授業の概要 経営のグローバル化の必要性が叫ばれています。しかし日本の景気回復と共に日本型経営の良さも世界で再認識されはじめています。ところがこの日本型経営における人と組織のマネジメントが企業経営に對しいかなる機能を有しているのか明らかになっていないことが多々あります。例えば、なぜ非合理的といわれる終身雇用を頑なに守っているトヨタやキヤノンに世界的な競争力があるのか？なぜスペシャリスト制度があまり発達していない日本企業に技術力が蓄積されているのか？などです。このような疑問の生じるところには必ずそのことを説明できるメカニズムが存在しているはずで、そこで私達の実際の目と耳、そして知識と洞察力を最大限活用し、まだ解明されていないこのような日本企業の人と組織のマネジメントの制度的叡智を少しでも明らかにしていくことを本演習の目的とします。多くの本を読み、議論し、そして実際に企業の現場を調査し、何度も検討を重ねて私たちオリジナルの考えを創出していきます。

授業の一般目標 ゼミにおいては日本企業の経営問題に関して、文献を通じ知識を広め、議論し、自ら考え、現場に実際に赴いて調べ、自分の考えを纏め上げていくことができるようになることを最大の目標としています。その上で、一人ひとりがリーダーシップを発揮し、全員で楽しくかつ生産的なゼミ活動ができるよう働きかけていけるようになることも重要な目標としています。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 経営における人と組織の問題についての知識を習得する 思考・判断の観点： 今日の企業における人と組織の問題に対し、自らの考えを持ち、きちんと述べられるようになる 関心・意欲の観点： 今日の企業経営および社会と企業の関係について広く関心を広げ、自分なりの意見を持つことができるようになる ゼミ運営に関し、主体的にリーダーシップを発揮できるようになる 態度の観点： 他の人の考えや意見ではなく、自ら調べ、確認し、考え、自分の意見や考えを持つと努力する 技能・表現の観点： 聞く人の立場にたったプレゼンテーションができる

授業の計画 (全体) 2 年次の前期は経営学および人的資源管理に関する基礎的知識の習得のため、本を輪読します。またグループ分けし、研究テーマの模索を行います。後期はまず、研究方法論を学習し、実証研究論文なども読みます。その上でグループ毎に設定したテーマの実証調査を行っていきます。従って 2 年次の後期・後半は調査の中間報告と全員でのディスカッションとなります。研究成果は報告集としてまとめます。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 経営学の基礎 1 内容 輪読とディスカッション 授業外指示 『はじめて経営学を学ぶ』 1、2 章を読んでくる
- 第 2 回 項目 経営学の基礎 1 内容 輪読とディスカッション 授業外指示 学ぶ』 3,4,5 章を読んでくる
- 第 3 回 項目 経営学の基礎 1 内容 輪読とディスカッション 授業外指示 『はじめて経営学を学ぶ』 6,7,8 章を読んでくる
- 第 4 回 項目 経営学の基礎 1 内容 輪読とディスカッション 授業外指示 『はじめて経営学を学ぶ』 9,10,11 章を読んでくる
- 第 5 回 項目 経営学の基礎 1 内容 輪読とディスカッション 授業外指示 『はじめて経営学を学ぶ』 12,13,14 章を読んでくる
- 第 6 回 項目 経営学の基礎 1 内容 輪読とディスカッション 授業外指示 『はじめて経営学を学ぶ』 15,16,17 章を読んでくる
- 第 7 回 項目 日本型経営について考える 1 内容 輪読とディスカッション 授業外指示 『日本型資本主義と市場主義の衝突』 1,2 章を読んでくる
- 第 8 回 項目 日本型経営について考える 2 内容 輪読とディスカッション 授業外指示 『日本型資本主義と市場主義の衝突』 3,4 章を読んでくる

- 第 9 回 項目 日本型経営について考える 3 内容 輪読とディスカッション 授業外指示 『日本型資本主義と市場主義の衝突』5,6,7 章を読んでくる
- 第 10 回 項目 日本型経営について考える 4 内容 輪読とディスカッション 授業外指示 『日本型資本主義と市場主義の衝突』8,9,10,11 章を読んでくる
- 第 11 回 項目 日本型経営について考える 5 内容 輪読とディスカッション 授業外指示 『雇用の未来』序章,1,2 章を読んでくる
- 第 12 回 項目 日本型経営について考える 6 内容 輪読とディスカッション 授業外指示 『雇用の未来』3,4 章を読んでくる
- 第 13 回 項目 日本型経営について考える 7 内容 輪読とディスカッション 授業外指示 『雇用の未来』5,6,7 章を読んでくる
- 第 14 回 項目 日本型経営について考える 8 内容 輪読とディスカッション 授業外指示 『企業変革の人材マネジメント』人材ポートフォリオマネジメントの章他(後ほど指示します)を読んでくる
- 第 15 回 項目 日本型経営について考える 9 内容 輪読とディスカッション 授業外指示 事前に指定する論文 2 本を事前に読んでくる
- 第 16 回 項目 企業研究 1 内容 中間報告と検討
- 第 17 回 項目 企業研究 2 内容 中間報告と検討
- 第 18 回 項目 企業研究 3 内容 中間報告と検討
- 第 19 回 項目 企業研究 4 内容 中間報告と検討
- 第 20 回 項目 企業研究 5 内容 中間報告と検討
- 第 21 回 項目 企業研究 6 内容 中間報告と検討
- 第 22 回 項目 企業研究 7 内容 中間報告と検討
- 第 23 回 項目 企業研究 8 内容 中間報告と検討
- 第 24 回 項目 企業研究 9 内容 中間報告と検討
- 第 25 回 項目 企業研究 10 内容 中間報告と検討
- 第 26 回 項目 企業研究 11 内容 中間報告と検討
- 第 27 回 項目 企業研究 12 内容 中間報告と検討
- 第 28 回 項目 企業研究 13 内容 中間報告と検討
- 第 29 回 項目 企業研究 14 内容 中間報告と検討
- 第 30 回 項目 企業研究 15 内容 報告

成績評価方法 (総合) ゼミでの報告、討論、参加度合いなどを総合的に評価します。

教科書・参考書 教科書： はじめて経営学を学ぶ, 田尾雅夫, ナカニシヤ出版, 2005 年; 企業変革の人材マネジメント (仮題), 若林直樹・松山一紀, ナカニシヤ出版, 2007 年; 日本型資本主義と市場主義の衝突, ロナルド・ドーア, 東洋経済新報社, 2001 年; 雇用の未来, ピーター・キャベリ, 日本経済新聞社, 2001 年; その他適宜指示します

メッセージ 積極的なゼミ活動への参加が求められます。単に本などから知識を得るだけでなく、現場に行き様々なデータを集め、深く洞察し、本質を見抜くことが強く求められます。

連絡先・オフィスアワー y.uchida@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	藤田智丈				

授業の概要 職業会計人コースの税務専攻 2 年生を対象とした演習です。自ら疑問点を探し、自ら解決していく方法を学びます。

授業の計画 (全体) 職業会計人コースの実習により、多くのことを学ぶこととなりますが、多くの疑問を積み残したまま、実習は進行していきます。この演習形式の授業では、何が疑問点かを探し、その背景にどのような考えがあるのかを探し、調べて発表していきます。分からない所が何処であるかを発見すれば、実は半分以上問題は解決しています。ものを問うときに、既に答え方が決まっているからです。是非、自ら問題を設定し、解決し、発表する訓練をしましょう。

成績評価方法 (総合) 出席と発表によって評価する。

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	米谷健司				

授業の概要 中田と米谷の二人で授業を運営していきます。財務会計分野と管理会計分野の演習です。企業会計は財務会計分野と管理会計分野に区分できます。前者は商法や商法計算規則に基づいた処理をすることによって財務諸表を作成します。損益計算書、貸借対照表、およびキャッシュフロー計算書を財務諸表と言います。これに対して、管理会計は経営管理者が各種の意思決定と業績評価のために利用するための情報作成を任務とします。企業の業務計画に基づいて予算を編成したり、新規の設備投資を海外に行うなどの意思決定ならびに各セグメントや個人の会社への貢献を評価し報酬に反映させたりします。管理会計分野は主に中田が指導します。次に財務会計分野について説明します。会計は経験の蒸留であるといわれるように、現在の会計制度は実務的な慣習を基盤に作られています。しかし、会計学や簿記の授業では会計制度の背景まで深く掘り下げることができないため「どうしてこういう制度になったのだろう」とか「なぜ複数の会計処理が認められているのだろう」という疑問が生じます。こうした疑問をゼミのメンバーと議論しながら、解決していきます。財務会計分野は主に米谷が指導します。

授業の一般目標 管理会計、原価計算についての知識を習得することを目標とする。これらの技法の多くは欧米で開発されたものであるから、原書に遡及して研究することが重要である。したがって、英文文献による勉強も行う(以上、中田)。自分が理解できていないところは何処なのかを発見し、それに対して論理的に答えを導く思考力を養います(以上、米谷)。

授業の計画(全体) 授業はテキストを決めて、学生に順番に報告してもらおう。報告する学生がレジメを準備することは当然であるが、それ以外の学生も事前に報告者に対して質問を提出することを義務とする(以上、中田)。疑問点を出してもらい、それをグループ単位で解決してもらいます(以上、米谷)。

成績評価方法(総合) 授業への出席、報告、各種ゼミ行事への参加度などを総合的に見て判断する(以上、中田)。出席、報告、授業への貢献から総合的に評価する(以上、米谷)。

教科書・参考書 参考書：後日決める。

連絡先・オフィスアワー 研究室：電話番号 9 3 3 - 5 5 5 6 オフィスアワー：後日指示する。

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	澤 喜司郎				

授業の概要 国際関係論をテーマに研究をします。 国際関係を政治的あるいは経済的アプローチによって研究します。 国際関係の領域は広く、例えば外交や国際連合、戦争・紛争や安全保障、経済摩擦、海洋政策、国際観光など、現在の国際情勢のすべてが研究テーマになります。

授業の一般目標 国際関係に関する基礎知識の習得と、日本の外交政策の現状について理解します。

授業の計画 (全体) 国際関係に関する理論研究や実証研究などを行います。 前期には下記の書物を輪読し、日本の外交に関する基礎知識の習得と、国際情勢について学びます。後期には、各自の興味のあるテーマを一つ選び、それについての文献調査や資料収集を行い、その成果を報告します。 また、国際関係というテーマは非常に多くの領域を含みますので、グループ研究として数人が共同で同一テーマに取り組み、役割分担を行って研究することも可能です。

成績評価方法 (総合) 成績評価は、出席 (30 点)、報告 (70 点) によって行います。

教科書・参考書 教科書： 外務省編『外交青書』平成 18 年版, 外務省, 独立行政法人国立印刷局

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	河野眞治				

授業の概要 多国籍企業に関する理論、行動、受入国とホーム・カントリーへの影響等を勉強する。基本文献を読むとともに、個人による研究テーマを決め、文献を探し、調査し、レポートにまとめ、発表する一を重視する。また可能なら、国内外の企業訪問調査を実施する。 / 検索キーワード 多国籍企業

授業の一般目標 直接投資に関する基礎理論を理解する。日本企業の多国籍化について、学生自身が調査し、実際の多国籍企業について学ぶ。

授業の計画 (全体) 学生のレポート発表を中心に行う。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス 内容 ゼミの運営方法について説明
- 第 2 回 項目 学生レポート発表 内容 発表と討論
- 第 3 回 項目 学生レポート発表 内容 発表と討論
- 第 4 回 項目 学生レポート発表 内容 発表と討論
- 第 5 回 項目 学生レポート発表 内容 発表と討論
- 第 6 回 項目 学生レポート発表 内容 発表と討論
- 第 7 回 項目 学生レポート発表 内容 発表と討論
- 第 8 回 項目 学生レポート発表 内容 発表と討論
- 第 9 回 項目 学生レポート発表 内容 発表と討論
- 第 10 回 項目 学生レポート発表 内容 発表と討論
- 第 11 回 項目 学生レポート発表 内容 発表と討論
- 第 12 回 項目 学生レポート発表 内容 発表と討論
- 第 13 回 項目 学生レポート発表 内容 発表と討論
- 第 14 回 項目 学生レポート発表 内容 発表と討論
- 第 15 回 項目 学生レポート発表 内容 発表と討論

成績評価方法 (総合) レポートと討論で評価する。

教科書・参考書 教科書：なし / 参考書：なし

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	陳建平				

授業の概要 中国経済について学ぶ。

授業の一般目標 中国経済に関する基礎的知識の学習を通じて、計画経済から市場経済へ、伝統社会から近代社会へと移行する中国の現状に対する理解を深める。

授業の計画 (全体) 前半は開発経済学の理論を勉強し、後半は中国および中国経済に関する基本的知識を習得する。基本的にいくつかのグループに分けて、毎回一つのグループがテキストの内容を報告し、他のグループと討論する形態をとる。報告の内容をめぐって、ゼミ内でディベートを行うこともある。また、各人が分担して新聞や雑誌などに出ている中国関連の記事のスクラップを作成し、ゼミの共同資料を作成する。各自、中国に関連して、関心ある分野を最低 1 つ見つけて、資料を蓄積し、紹介を行う。

成績評価方法 (総合) 出席状況と発表。討論などを総合して評価する。

教科書・参考書 教科書：中国経済入門 [第 2 版] 世界の工場から世界の市場へ, 南亮進・牧野文夫, 日本評論社, 2005 年

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	尹春志				

授業の概要 新聞やテレビなどで報道されているように、近年、日本と東アジアのあいだでは、緊密な経済関係を構築しようとする動きと、対立を生み出す可能性をもつ政治的な動きが交錯しています。この演習では、こうした状況をどのように理解すればよいのか、普段、見聞きすることは果たして正しいのだろうか、といった疑問に参加者とともに考えることを目的とするものです。具体的には、日本と東アジアの経済統合の実態、両者のあいだで検討されている経済連携協定（あるいは自由貿易協定）、多国籍企業の活動、移民といった経済問題に加えて北東アジアの政治的摩擦といったことをテーマにする予定です。こうした問題について興味をもち学問的に考えたいと思う人を募集します。

授業の一般目標 東アジアをめぐる政治・経済について知識と分析の視角をみにつける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：東アジアの政治・経済に関する基礎知識を身につける 思考・判断の観点：固定観念の批判的に再考する視点を養う 技能・表現の観点：レジュメ作成、プレゼンテーションの技法を身につける

授業の計画（全体） 毎回報告者を指名し、テキストの輪読と討論というオーソドックスな演習スタイルを基本とします。通常の演習で取り扱うテーマのなかで、論争性の高いものを取り上げ、グループ学習にもとづいたディベートを適宜行います。また、演習受講者の自主参加を原則に、他大学のゼミとのディベート大会も開催したいと考えています。

成績評価方法（総合） 出席と討論への参加、課題に対する取り組みを評価の基準とする

教科書・参考書 教科書：追って指示します / 参考書：適宜指示します

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	豊嘉哲				

授業の概要 食料および農業を中心テーマとして、先進国と途上国の関係について学習する。

授業の一般目標 食料および農業という観点から、経済や貿易について自分の意見を述べるようになること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：食料および農業に関連する経済や貿易がどのように行われているかを理解すること。 思考・判断の観点：食料および農業という観点から、経済や貿易について自分の意見を述べるようになること。 関心・意欲の観点：積極的に演習に参加し、自分の意見を発表すること。

授業の計画 (全体) 教科書の輪読と、グループでの研究発表。毎週、教科書に沿って、輪読と研究発表を進めていく。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 教科書を輪読。

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

成績評価方法 (総合) 出席が 50 % , 授業中の発表が 50 %。

教科書・参考書 教科書：村田武『コーヒーとフェアトレード』、筑波書房、2005 年。

メッセージ 積極的に自分の意見を述べる学生を歓迎します。

連絡先・オフィスアワー yyutaka@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	平中 貫一				

授業の概要 民法学の基礎として主に民法総則を学ぶ。 / 検索キーワード 民法

授業の一般目標 民法学の基礎の修得

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	上杉信敬				

授業の概要 社会科学、法、行政法などの諸問題についてみんなで考えて深めていく事を目的とする。どのような内容、領域にするか、どのようなテキスト、参考書を使うかなどについては最初に協議して決める。また進めるペース、スケジュールについても同様である。

授業の一般目標 社会と法、公行政と法などについて関心を持ちさらにそれらについて学び深めていく、そして可能ならば自分の進路においても関連を持てるように留意できるようにすること。

授業の計画 (全体) 学習する分野や領域を特定し、半期ずつ位に区切ってテーマを設定し、テキストや文献を中心に学習する。その分野や領域、テーマについてははじめに討議して決める。

成績評価方法 (総合) 演習時の報告、討議、出席状況、レポートなどにより総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：開講時に議論して決める。 / 参考書：開講時に議論して決める。

メッセージ 積極的な参加を期待する。

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	立山紘毅				

授業の概要 憲法を通じて社会現象を分析し、法的な思考とともに社会全体を鳥瞰する視野を養うことを目的とする。素材としては、近時の裁判例や学説の動向といった問題をきっかけとする場合もあれば、直近の事件や話題から議論を展開する場合もある。国の最高法規というだけあって、間口も広ければ奥行きも深い演習としたい。

授業の一般目標 上記の概要を、共同作業や講義以上に密な討論を通じて達成する。

授業の計画 (全体) 参加者全員の討議によって決定する。

成績評価方法 (総合) 出席および報告を通じて評価する。

教科書・参考書 教科書：特に定めないが、講義で使用する芦部信喜『憲法』(岩波書店)を指定する。/
参考書：特に定めないが、近時「法科大学院向け」と称して発行されている教科書は、最高裁判決の解釈に終わるものがほとんどで水準が低いため、使用しない。むしろ、従来から出版されている体系書や研究書を指定することが多い。しいて一冊あげれば、浦部法穂『憲法学教室』(日本評論社)をあげておく。なお、小六法または模範六法は必携である(コンパクト六法クラスのものでは不十分)。

メッセージ ゼミ専用のメーリングリストを作るので、携帯以外のメール・アドレス(大学から一つずつ発行されているはず)を準備しておくこと。

連絡先・オフィスアワー tateyama@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	安里全勝				

授業の概要 刑法総論、各論の重要問題を考察していく。判例を考察しながら、刑法理論が具体的事案の解決にどのように適用されているかを見ていく。

授業の一般目標 刑法がどういう法律であるかを理解して貰う。その為に、刑法総論と各論の重要問題を考察していく。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 刑法がどういう法律であることを理解してもらおう。 思考・判断の観点： 法的思考の考察ということから、判例を考察し、刑法理論が具体的事案にどのように適用されているかを見ていく。

授業の計画 (全体) 前期は刑法総論、後期は各論の重要問題を考察していく。

成績評価方法 (総合) レポートと出席状況を総合して成績の評価を行う。

教科書・参考書 教科書： 刑法総論講義案, 安里全勝, 成文堂, 2005 年 ; 演習ノート刑法総論, 斉藤誠二編, 法学書院, 2005 年 ; 演習ノート刑法各論, 岡野光男編, 法学書院, 2003 年

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	澤田 正				

授業の概要 少人数のゼミの長所を生かして、法人税法、所得税法、国税通則法等の基本的な知識の確実な習得を目指します。

授業の一般目標 税法の体系を理解し、応用力をつけるための前提となる税法の基礎知識、基本的な枠組みの習得が目的です。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 税法の基本的な枠組みと用語を理解している。 **思考・判断の観点：** 税や税法的な思考を理解し、その観点からの意見が言える。 **関心・意欲の観点：** 経済活動に関心を持ち、税とのかかわりを理解できる。 **態度の観点：** 人の話を相手の立場に立って聞ける。積極的に発言し、質問できる。 **技能・表現の観点：** 論理的で説得力のある意見が言える。文章を推敲でき、わかりやすい文章表現ができる。

授業の計画 (全体) 税金についての理解からはじめます。税務大学の講本 (税務大学の HP からダウンロードできる) を利用し、前期は法人税法、後期は所得税法の基本的な理解を目指します。できるだけ、判例や具体的事例の紹介、ディスカッションを取り入れたいと考えています。これにより、演習 II で、判例やケーススタディに広く、深く取り組める基礎力を養成します。

成績評価方法 (総合) ゼミへの参加状況、発言、理解度、期末レポート等を総合的に評価します。

教科書・参考書 教科書：必要に応じプリント資料を配布

メッセージ 難しそうな税法も、自分の身の周りのことにたとえたり、当てはめたりして考えてみると、分かりやすくなります。できるだけ簡単なモデルで自分で考えてみることで、そのような学習方法に慣れることは、すべての学習に通じる大事なことです。

連絡先・オフィスアワー (TEL) 083-933-5580 (メール) sawadat@yamaguchi-u.ac.jp (オフィスアワー) 月曜日 10 時 30 分 ~ 12 時、水曜日 10 時 30 分 ~ 12 時、

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	渡邊幹雄				

授業の概要 現代リベラリズムの再検討 / 検索キーワード 政治、権力、自由、平等、平和、参加、自治など。

授業の一般目標 リベラリズムについての総合的な理解。

授業の計画 (全体) 主要なテキストを輪読しつつ、報告者にハンドアウトを作成してもらって議論する。

成績評価方法 (総合) 授業への積極的な参加、プレゼンテーション、課題の達成度を考慮して、総合的に評価する。

連絡先・オフィスアワー 研究室：経済学部3階、オフィスアワー：授業終了後

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	油納健一				

授業の概要 * 最高裁判決を素材に“民法実務”を学習する。

授業の一般目標 (1) 民法の基礎知識と、法的に考える能力を身につける。(2) 民法学習を通して、問題発見能力・問題分析能力・私見創造能力・プレゼンテーション能力・ディベート能力など、社会人として必要な能力を身につける。以上の(1)・(2)で説明した能力は、法科大学院(司法試験)・司法書士試験・公務員試験受験を志す者はもちろんのこと、民間企業を志す者にとっても必要不可欠な能力であることはいうまでもない。

授業の計画(全体) ゼミで民法の基礎理論のみを学習しても、現実社会ではあまり役に立たないであろう。そこで、当ゼミでは実務重視の視点から民法を学習しようと思う。ただし、全く理論を無視する訳ではない。基礎理論(基礎)を理解することができて初めて、現実問題(応用)に対応することが可能となるからである。具体的には、つぎのような方法でゼミを進める。(1) まず、実際に問題となった事件(最高裁で扱われた事件)を教員が選んだ後、ゼミ生は二人一組となって、当該判決の事実と判決内容を報告する。(2) つぎに、その事件で争点となっている問題点を把握し、この問題を解決するために必要な民法典の条文や従来判例・学説について報告する。(3) 最後に、当該事件の事実関係を正確に理解し分析をくわえた上で、当該事件をいかに法的に解決しうるかを、当該判決やその判例評釈を検討しながら報告する。以上の(1)・(2)・(3)の中では、ゼミ生間での議論を要求する。もし全く発言しない者には、レポートなどを課す場合がある。また、教官からの質問もある。

成績評価方法(総合) 出欠や遅刻早退の有無・報告内容・発言内容・関心態度などを総合的に判断して、評価する。3回以上無断で欠席した者には、単位を認定しない。また、学習意欲のない者・他のゼミ生に迷惑をかける者・教官の指示に従わない者にも、単位を認定しない。

教科書・参考書 教科書：適宜指示する。

メッセージ 以上で説明した内容をこのゼミで学習するためには、「十分な努力」が必要である。それゆえ、あまり勉強する意欲のない者は、当ゼミに入らないことをお勧めする。意欲のある者のみ歓迎したい。

連絡先・オフィスアワー 何かありましたら、ご連絡下さい。メールアドレス yuno@yamaguchi-u.ac.jp
ホームページアドレス <http://web.cc.yamaguchi-u.ac.jp/yuno/>

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	中村 美紀子				

授業の概要 本演習では、会社法テキストの講読を行います。あらかじめ割り当てられた分担箇所について、報告者の報告にもとづき質疑応答を行います。/ 検索キーワード 会社法, 株式会社

授業の一般目標 会社法の基本的事項を理解し、会社法について自らのテーマをもつことを主眼としつつ、レジュメ作成、プレゼンテーションの能力を養うことも目指します。

授業の計画 (全体) 演習開始時に履修者と相談して決めたいと思います。

成績評価方法 (総合) (1) 割り当て箇所の報告をどのように工夫して行ったか, (2) レジュメの作成についての工夫および提出期限の遵守, (3) 討論への参加の度合い, 上記各 3 点について自主性 (各 15 % × 3) と発展性の観点 (各 15 % × 3) から評価し, そこにゼミへの貢献度・指示遵守度 (10 %) を加味します。

教科書・参考書 教科書: テキストブック会社法, 末永敏和 [編著], 中央経済社, 2006 年 / 参考書: 会社法判例百選, 江頭憲治郎他 [編], 有斐閣, 2006 年; 必携: 2007 年版六法

メッセージ 欠席が避けられない場合は, 直接・事前の連絡を厳格なルールとします。遅刻は 3 回で 1 回欠席とみなし, 出席 70 % 以上が単位認定要件です。

連絡先・オフィスアワー 研究室 C 棟 209, オフィスアワー火曜日 10:20 11:50。

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	吉川 信將				

授業の概要 新会社法に対して自信が持てるように一年かけて基本書を通読します。

授業の一般目標 新会社法の全体構造及び基本的知識を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 会社法の全体構造及び基本的知識を理解する。 思考・判断の観点： 事例に即して考える思考法を身につける。 関心・意欲の観点： 前もって教科書に目を通し、関連する事例についてもリサーチする姿勢を身につける。

授業の計画 (全体) 一年を通して会社法の基本書を通読します。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス
- 第 2 回 項目 会社法総則
- 第 3 回 項目 持分会社
- 第 4 回 項目 株式会社の意義・特質、株式会社の設立 (1)
- 第 5 回 項目 株式会社の設立 (2)
- 第 6 回 項目 株式 (1)
- 第 7 回 項目 株式 (2)
- 第 8 回 項目 株式 (3)
- 第 9 回 項目 新株発行
- 第 10 回 項目 新株予約権
- 第 11 回 項目 株主総会 (1)
- 第 12 回 項目 株主総会 (2)
- 第 13 回 項目 株主総会 (3)
- 第 14 回 項目 役員総説
- 第 15 回 項目 取締役・取締役会・代表取締役
- 第 16 回 項目 会計参与・監査役・監査役会
- 第 17 回 項目 会計監査人、委員会設置会社
- 第 18 回 項目 役員の責任
- 第 19 回 項目 会計帳簿
- 第 20 回 項目 資本金、剰余金
- 第 21 回 項目 定款
- 第 22 回 項目 事業譲渡等
- 第 23 回 項目 会社の清算・解散
- 第 24 回 項目 社債 (1)
- 第 25 回 項目 社債 (2)
- 第 26 回 項目 組織変更、合併
- 第 27 回 項目 会社分割
- 第 28 回 項目 株式交換・株式移転
- 第 29 回 項目 予備日
- 第 30 回 項目 予備日

成績評価方法 (総合) 演習へ臨む姿勢 (事前の予習状況) 演習時における報告・発表、発言状況及び演習への出席状況によって総合的に判断します。

教科書・参考書 教科書： 開講時に指示するか、開講時までに掲示により連絡します。 / 参考書： 参考書は適宜伝えます。必要と思われる資料は演習時に適宜配布します。

メッセージ 現在の大学の通常の授業では、一通り基本書に目を通すことは時間的に難しい。それが、当該科目を履修したにもかかわらず自信がもてないであるとか、隣接科目の理解を妨げている根本原因ではないだろうか。この演習では時間をかけてその作業をやり遂げたいと考えている。新会社法をものにしたという意欲のある学生だけ参加していただきたい。

連絡先・オフィスアワー C棟224研究室(新年度のオフィスアワーは開講時に案内します)

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	土生 英里				

授業の概要 経済活動にかかわる法の役割と、市場経済のグローバル化がもたらす法の諸問題を研究する。

授業の一般目標 経済活動と国際社会と法との関係を把握し、日々の経済活動が法とどのようにかかわっており、国際社会の中で直面する課題とそれを解決する法の構造と考え方の理解を深めることを目標とします。また、WTO(世界貿易機関)における多角的貿易協定および自由貿易協定(FTA)が国内法に及ぼす影響についても概観します。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 企業のグローバル化と国境を越えた取引にかかわる法的な制約を理解する 思考・判断の観点: 実際のケースを通して、企業の国際的活動に法がどのように作用するかを認識する 技能・表現の観点: 一般的な経済法の専門用語を理解する

授業の計画(全体) 各週 項目(第1週) ガイダンス(第2週) 基本書購読(第3週) 基本書購読(第4週) 基本書購読(第5週) 基本書購読(第6週) 基本書購読(第7週) 基本書購読(第8週) 基本書購読(第9週) 基本書購読(第10週) 基本書購読(第11週) 基本書購読(第12週) 基本書購読(第13週) 基本書購読(第14週) 基本書購読(第15週) 中間レポート(第16週) 演習(第17週) 演習(第18週) 演習(第19週) 演習(第20週) 演習(第21週) 演習(第22週) 演習(第23週) 演習(第24週) 演習(第25週) 演習(第26週) 演習(第27週) 演習(第28週) 演習(第29週) 演習(第30週) 補講・レポート指導

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス 内容 企業行動と国際活動
- 第 2 回 項目 基本書購読 内容 市場の開放
- 第 3 回 項目 基本書購読 内容 内国企業と外国企業
- 第 4 回 項目 基本書購読 内容 外国企業の対日進出
- 第 5 回 項目 基本書購読 内容 海外進出の諸形態
- 第 6 回 項目 基本書購読 内容 輸出貿易
- 第 7 回 項目 基本書購読 内容 輸入貿易
- 第 8 回 項目 基本書購読 内容 海外生産拠点
- 第 9 回 項目 基本書購読 内容 サービス産業の国際展開
- 第 10 回 項目 基本書購読 内容 知的所有権
- 第 11 回 項目 基本書購読 内容 企業活動と資金調達
- 第 12 回 項目 基本書購読 内容 企業と国際取引
- 第 13 回 項目 基本書購読 内容 国際的な資本提携
- 第 14 回 項目 基本書購読 内容 国際課税と租税条約
- 第 15 回 項目 中間レポート 内容 国際的な企業紛争
- 第 16 回 項目 演習 内容 テーマ別課題検討
- 第 17 回 項目 演習 内容 テーマ別課題検討
- 第 18 回 項目 演習 内容 テーマ別課題検討
- 第 19 回 項目 演習 内容 テーマ別課題検討
- 第 20 回 項目 演習 内容 テーマ別課題検討
- 第 21 回 項目 演習 内容 テーマ別課題検討
- 第 22 回 項目 演習 内容 テーマ別課題検討
- 第 23 回 項目 演習 内容 テーマ別課題検討
- 第 24 回 項目 演習 内容 テーマ別課題検討
- 第 25 回 項目 演習 内容 テーマ別課題検討

- 第 26 回 項目 演習 内容 テーマ別課題検討
第 27 回 項目 演習 内容 テーマ別課題検討
第 28 回 項目 演習 内容 テーマ別課題検討
第 29 回 項目 演習 内容 テーマ別課題検討
第 30 回 項目 補講・レポート指導

成績評価方法 (総合) 講義への発言・参加および課題報告

教科書・参考書 教科書：「企業法と国際社会」, 龍田 節, 有斐閣アルマ, 1999 年; 参考書：参考資料等を適宜配布 / 参考書：「世界貿易機関を設立するマラケシュ協定-WTO」, 外務省経済局監修, 日本国際問題研究所, 1997 年

メッセージ 講義時間内において積極的な発言を重視します。将来の就職の場において、法がどのように経済活動を律しているかを意識しながら思考し、発言をしてください。

連絡先・オフィスアワー 研究室:経済学部 A 棟 4F (A410) e-mail:e.habu@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：平日随時

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	宮崎充保				

授業の概要 観光は明確な領域を指定できない場合がある。それだけにさまざまな領域に関心を持つ必要がある。「何を、どのように考え、どのように表現するか」の練習をします。それには、読書が一番です。週に 1 冊、何のテーマの本でも構わないので、読んで、そのことについてプレゼンテーションを行う。 / 検索キーワード 読書、議論、幅広い教養

授業の一般目標 ・自分に関心のあることを見出す。 ・それをどのように展開・発展させるかを考える。 ・以上のことを筋道を立てて言語表現できるようになる。 ・以上のことを他人が行う場合、それに関心を持つ。 ・関心の観点から議論をする 問題意識の共有や一緒に解決しようという態度を身に付ける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 広い教養としての理解力と知識欲から何を読んで何を理解したか、それを何かの場合に応用できるか。 思考・判断の観点： 問題意識の涵養。 関心・意欲の観点： 読む本を探して読む。 態度の観点： 本を読む習慣を形成する。 技能・表現の観点： 読んだ本について語る・まとめる。

授業の計画 (全体) ひたすら読書をして、その読書をもとに演習では話題を盛り上げる。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 導入
- 第 2 回 項目 プレゼンテーションと議論
- 第 3 回 項目 以下、同上
- 第 4 回
- 第 5 回
- 第 6 回
- 第 7 回
- 第 8 回
- 第 9 回
- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

成績評価方法 (総合) 読書の証、プレゼンテーション、出席

メッセージ 読んで読んで読みまくる

連絡先・オフィスアワー メール : mmiy@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	マルク・レール				

授業の概要 この演習のテーマは「観光とメディア」である。受講生は、メディアの理論、メディア市場の複雑な仕組みなどを分析し、観光とメディアの関係について調査する。 / 検索キーワード マスメディア、新聞、放送、インターネット、メディア・リテラシー

授業の一般目標 外国と日本のマスメディアを比較・分析することによって、特に観光とメディアの関係を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: メディアの特徴を理解する。 **思考・判断の観点:** メディアの有効な利用について判断する。 **関心・意欲の観点:** メディアをもっと積極的に利用する。

授業の計画 (全体) この演習での主な講義項目は、広告ビジネスの視野を含めた「メディア理論」と「メディア市場の分析」である。受講生はグループワークでいろんなメディア現象を調査しながら、卒業論文に向かって、これから深めたい研究分野を見つけて、その基礎知識を取得する。授業では主に、グループワークで調査した結果を発表し、議論する。

成績評価方法 (総合) 出席 (欠格条件) グループ発表 (50%) とレポート (50%)

メッセージ 授業でマスメディアの国際比較 (主に英語圏) を行うので、高いレベルの英語理解力 (読み取り能力と聞き取り能力) が求められる。メディアやメディア市場の仕組みに関心を持って、英語または第二外国語のドイツ語をいかしたい学生を大歓迎する。

連絡先・オフィスアワー maru @ yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	河村誠治				

授業の概要 世界とりわけわが国を含む東アジアにおける、地域経済や各種産業の動向などを視野に入れた、単なる遊び（需要者サイドの本能的ニーズやウォンツ）の領域を超えたところの、観光経済研究。

授業の一般目標 目標 1：今後各自が積極的に取り組める「テーマ」を見つける。目標 2：自立（自分で考え行動）的に、多くを読み、多くを書き、簡明に話す。

授業の計画（全体） (1) 受講者の全体的状況を見、最終的に決定。(2) 可能ならば、前期は自由なテーマ報告、後期はプレゼンテーション。

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	篠原淳				

授業の概要 本演習では、企業会計分野について学ぶ。会計フレームワーク、財務諸表の構造を理解し、会計がなぜ必要とされるかについて検討していく。 / 検索キーワード 企業会計、会計原則、会計基準

授業の一般目標 企業会計に関する全般的な知識の習得と会計情報と利害関係者の意思決定支援機能に焦点をあてて各課題を検討していく。

授業の計画 (全体) テキストにあわせて進めていく。

成績評価方法 (総合) 授業への出席、報告、ゼミ行事への参加等を総合的に評価する

教科書・参考書 教科書：後日決定する。 / 参考書：必要があればその都度指示。

メッセージ 積極的に参加してください。

連絡先・オフィスアワー a.shino@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	陳禮俊				

授業の概要 今日では、人類の生産力（対自然支配力）はかつてなく巨大な水準に到達している。そのため、自然環境の状態は、自然生態系によって決まるといよりは、人間活動のあり方如何によって大きく規定されるという歴史的段階に突入している。それゆえ、人間活動の設計を一步誤るならば、人間活動の基盤そのものを崩壊させてしまうような環境破壊を招く危険性もかつてなく飛躍的に高まっているといわなければならない。こうした現代の環境破壊をめぐる現実とその危険性の一層の高まりは、実は現代の経済学に対する大きな挑戦でもある。ここに新しい学問としての「環境経済学」が誕生せざるを得ない強い現実的要請がある。

授業の一般目標 本演習は、環境経済学の分野において、それに関わる文献を輪読し、ゼミ参加者における理解、分析能力を高め、行うべき政策に関して自ら評価できるような水準まで、必要な知識を身に付けることを目標にしている。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：環境問題の現状、影響及びその原因を理解する。 思考・判断の観点：環境問題を解決するための方策を考える。 関心・意欲の観点：環境問題への関心、理解及び発言内容を考察する。 態度の観点：積極的に出席し討議する。 技能・表現の観点：経済学知識を応用する。 その他の観点：他分野の知識との関連を探る。

授業の計画（全体） 経済学は環境問題の解決に役に立つのか。環境問題とは何か。環境問題はなぜ発生するか。値段のない環境には価値がないのか。環境の価値をどのようにとらえるべきか。環境の変化に対し、消費者はどのように行動するか。環境を保全するためにはどうしたらよいのか。これまでどのような環境政策が実施され、現在どのような政策が検討されているのか。政策手段を評価する基準は何か。また、地球規模の環境問題とは何か。その特徴は。地球環境保全の取り組みは、どこまで進んでいるか。いかなる仕組みをつくるべきか。これらの問題について、以下の視点から考察する。（1）環境、自然資源と経済（2）経済主体間関係としての環境問題（3）公共財としての環境（4）環境価値の計測手法（5）公害裁判 - 賠償責任の経済学（6）日本の環境政策（7）環境政策の評価基準（8）環境課徴金、環境税及び排出許可証取引（9）地球規模の環境問題（10）地球環境保全の取り組み

成績評価方法（総合） 成績評価は基本的に、出席（40%）、課題レポート（30%）と報告（30%）で行う。

教科書・参考書 教科書：環境経済学、植田和弘、岩波書店、1996年；アジア環境白書、日本環境会議「アジア環境白書編集委員会」、東洋経済新報社、2000年；アジア環境白書、日本環境会議「アジア環境白書編集委員会」、東洋経済新報社、2000年 / 参考書：演習の進捗状況を考慮しその都度指示する。

メッセージ 本ゼミでは、物事を批判的に見る視角、学生の主体性・自主性を重要視する。演習では、事前の予習と活発な討論を期待する。また、教員と学生の関係はもとより、学生同士の結びつきや刺激のしあいを大切に考えている。

連絡先・オフィスアワー 研究室:経済学部 A302室 電話:083-933-5526 E-mail:lichun@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	武本ティモシー				

授業の概要 文化心理はある文化の中での考え方を調べる。文化が心理に対して及ぼす影響の大きさは、次第に理解されつつある。「能力主義」、「オンリーワン教育」、「自己主張」、「ホラー映画」、これらの現象はどれも文化心理に影響されていることが最近実証されてきた。文化心理学・異文化コミュニケーションという分野を紹介しながら、文化の心理と観光の関係を考察する。最終的にはゼミ生には、卒論として学生を相手にした調査・実験を行ってもらおう。 / 検索キーワード 文化心理学・英語能力・パソコン技術・自己主張能力

授業の一般目標 1) 日本文化心理の特徴、を文化心理学的な観点から考え、調査・実験によって実証的に調べること。 2) 自己表現と発表の能力向上 3) 英語とインターネットの技能を身に付けること

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. 文化心理学の概要を理解すること。 2. 怖いもの・面白いもの・嫌いなものの文化依存性についての理論を説明できること。 思考・判断の観点: 実証的研究の方法を取得すること。 関心・意欲の観点: 文化心理学に関心を示すようになること。 態度の観点: 自己開示・自己表現・自他の批判・討論への抵抗を取り除き、日本語及び英語で英語でより積極的に言語的コミュニケーションの心を育つこと。 技能・表現の観点: 発表・議論・自己表現・英語コミュニケーションとしてインターネットによるコミュニケーションのスキルを高める。

授業の計画 (全体) 学生が (最初は) 教科書 (後は) 研究について発表し議論することです。ご要望があれば英語でも話し合います。

成績評価方法 (総合) 最終的には面白い卒論を書いてもらうとよいですが、そのためにはある程度研究について読まなければなりません。そのために、発表の資料 (普通は本の一章) を読んできていただきたいです。読んだかどうか大きなポイントになります。

教科書・参考書 参考書: 社会心理学: アジア的視点から (放送大学教材; 58672-1-9811) 三訂版, 山口勸 編著, 放送大学教育振興会, 1998 年; 木を見る西洋人 森を見る東洋人, ニスベット, R. E., ダイヤモンド社, 2004 年

メッセージ 発表・議論・研究・調査ができるように頑張りましょう。

連絡先・オフィスアワー メール tim@yamaguchi-u.ac.jp, 研究室: 経済 4 階経済学部玄関上 ゼミホームページ <http://timtak.com>

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	朝日幸代				

授業の概要 本授業の目的は、観光および地域経済に関する知識を増やすことによって、現在直面する多様な問題を解決するために必要な考え方・そのための能力を養うことである。そのために、観光および地域経済に関する現状と地域経済政策の基礎となる理論を講義するとともに、観光および経済に対する数量分析を行える能力を養うためのコンピュータ実習を行う。各地で行われているイベントの経済波及効果の分析や観光および経済における環境問題についても逐次取り扱う。また、学生が興味を持つテーマにあわせて、レポート作成やプレゼンテーション技術のサポートを行う他、学生が観光を研究するために必要な体験をしていただける場の提供を検討し、進めていく予定である。

授業の一般目標 ・現実の観光、社会や経済問題について理解をし、それについての情報および関連するデータを収集することができる。 ・授業で取り扱うデータや様々な統計データの特徴や問題点を理解し、経済分析に適切に利用することができる。 ・観光や経済に関するレポートを作成する中で、レポートのテーマに合わせた統計データと分析ができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： ・観光および社会や経済の問題について、経済学的な観点で理解することができる。 ・授業で取り扱った統計および計量経済学的手法を理解し、レポート作成時に活用することができる。 思考・判断の観点： ・現実の観光や社会、経済の問題について、経済学的な観点から理解したことを、それがどのような意味をもっているのかを思考し、判断できる。 関心・意欲の観点： ・観光および社会や経済の問題について、高い関心を持ち、それについて自ら情報収集する。 ・自ら情報収集をしたり、授業で取り扱った内容を用いて、レポート作成に取り組むことができる。 ・ゼミのメンバーの考え方や意見に関心をもつとともに、自らの考え方や意見も積極的に述べるができる。 態度の観点： ・学ぶことに積極的かつ真摯に向うことができること。 ・ゼミのメンバーの考え方等も尊重する中で、自分の考えや意見を述べるができる。 技能・表現の観点： ・レポートや輪読のレジメ作成において、適切な情報およびデータを用いながら分かりやすく作成することができる。 ・レポートや輪読のレジメの発表において、聞き手の立場に立って分かりやすくプレゼンテーションをすることができる

授業の計画 (全体) 1. 観光、地域経済に関する文献の輪読 (観光経済入門をはじめ、その他の観光経済および地域経済の文献を読み、その内容について報告、さらにディスカッションを行う。) 2. 計量経済手法を学ぶための実習授業 (エクセルや計量経済分析用アプリケーションを用いた計量経済分析および産業連関分析を学ぶために、コンピュータ講義室で実習する。自らがデータ分析を経験し、分析結果としてとりまとめる。) 3. 学生が関心のあるテーマに対するレポート報告 (文献の輪読および実習で学んだことを利用し、学生はレポートを作成し、講義中に発表する。レポート作成に必要な文献、コンピュータ操作に対するアドバイスをするとともに、パワーポイントを利用したプレゼンテーション方法も講義中に提供する。) 4. 観光地域への訪問研修 (教員と学生が観光地域への訪問を行うことを相談した上で、最終的に本研修の有無を決めるが、可能であれば、集客に成功している観光地域や学生が興味を持っている観光地への訪問研修を行う予定である。)

成績評価方法 (総合) レジメやレポートの作成内容やそれぞれのプレゼンテーションへの取組み、実習講義やゼミで行う観光研修をはじめとする観光を学ぶための活動への積極的かつ意欲的な参加について評価する。

教科書・参考書 教科書：観光経済学入門, ジェームズ・マック, 日本評論社, 2005 年; 産業連関分析入門, 宮沢健一, 日本経済新聞社, 2002 年; 入手すべきその他のテキストは演習所属学生に対して別途紹介する。 / 参考書：産業連関分析入門, 藤川清史, 日本評論社, 2005 年; Excel による産業連関分析入門, 井出眞弘, 産業能率大学出版部, 2004 年; 実践計量経済学入門, 山澤成康, 日本評論社, 2005 年; その他の参考文献は演習所属学生に対して別途紹介する。

メッセージ 経済学科、観光政策学科における経済に関する数多くの授業を積極的に履修して下さい。特に関連科目の履修は演習1で学ぶ内容をより充実することにつながるため、ぜひ履修をお願いしたいと思います。また、演習Iは毎週授業に参加することによって学べる内容も多いため必ず出席をして下さい。このゼミは、学生の皆さんが主役です。学生同士が協力しながら、学ぶことで刺激し合える仲間のゼミになれば、ゼミを担当する者として大変うれしく思います。

連絡先・オフィスアワー asahi@yamaguchi-u.ac.jp

演習

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	塚田広人				

授業の概要 卒業論文の作成 / 検索キーワード 効率性、公正性、慈恵性 福祉国家

授業の一般目標 卒業論文の作成

メッセージ 楽しく、しっかり、学びましょう

連絡先・オフィスアワー 933 - 5558 ht@yamaguchi-u.ac.jp A 棟 424 号室 水曜日 1 時半 - 3 時 (在室時はいつでも可)

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	植村高久				

授業の概要 I. テーマ 現代日本経済の歴史的考察 1.1980 年から 2006 年までの日本経済の現状を経済、産業、消費生活の面から分担して研究し、実状を把握することに努める。2. 各自が興味を持つ個別テーマを決めて、意識的に研究を進めていくことを中心にする。/ 検索キーワード 現代日本経済論、グローバル化、少子高齢化、雇用不安

授業の一般目標 現在の日本経済の状況について、概略説明できる。日本経済の問題点とその原因について、説明できる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本経済の現状とさまざまな問題・解決法を簡潔に述べるができる。思考・判断の観点：様々な社会的選択肢の結果と意味を理解し、自己責任で選択肢を選ぶことができる。関心・意欲の観点：日本経済の特定の焦点的課題や特徴のうち 1 つまたは複数について、様々な主張や論点を積極的に理解しようとする。態度の観点：様々な問題を自力で理解し、自分の言葉で説明しようとする積極性を身につけること。

授業の計画 (全体) 1. 日経新聞を継続的に購読し、その中から継続的に 1 テーマを追跡して報告する「日経新聞を読む」を 1 年間行う。2. 前期は大きなテーマを扱うグループ学習を行い、輪番で報告してもらう。3. 後期は就職準備期にあたるので、進路等に関して各人の考えを述べてもらう「3 分間スピーチ」を行い、意見を交換する。

教科書・参考書 教科書：授業内で指示する。

メッセージ テーマを持って大学生活を送ることが、中心的な課題です。それに向けて、精一杯頑張ること。

連絡先・オフィスアワー Phone:083-933-5593 e-mail:uemura@yamaguchi-u.ac.jp 随時来室可です。

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	柏木芳美				

授業の概要 演習 I に引き続き, 数式処理システム Mathematica を使いミクロ経済学, マクロ経済学を理解し, LaTeX を用いて各学期のまとめを作成する。

授業の一般目標 数式処理システム Mathematica の助けを借りて経済現象を理解すること。また, 自分で理解し, その内容を人に話す (プレゼンテーション) の訓練も重要な目標である。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. ミクロ経済学, マクロ経済学の基本的事項を説明できる。2. Mathematica の基本的機能を説明できる。 関心・意欲の観点: 1. 経済現象を数理的にとらえることができる。2. 他人のプレゼンテーションを評価できる。 態度の観点: 1. ゼミに積極的に参加する。

授業の計画 (全体) 通常の授業とは異なり, 各人が順番でレポーターとなって話が進む。レポーターのときは, まず前回の復習をし, 全体的な話の概略を説明し, 次にテキストの個々の内容の説明をしながら全員でパソコンへの入力を行なう。テキストにはない自分で試したもの (テキストの例を少し変えたものなど) があると非常によい。全員がうまく入力できているかよく確認すること。発表の最後にまとめを行い質問または評価を受ける。レポーターでない人は, レポーターの指示に従い作業をし, 最後に質問またはレポーターの評価をする。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表
- 第 2 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表
- 第 3 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表
- 第 4 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表
- 第 5 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表
- 第 6 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表
- 第 7 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表
- 第 8 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表
- 第 9 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表
- 第 10 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表
- 第 11 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表
- 第 12 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表
- 第 13 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表
- 第 14 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表
- 第 15 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表
- 第 16 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表
- 第 17 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表
- 第 18 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表
- 第 19 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表
- 第 20 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表
- 第 21 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表
- 第 22 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表
- 第 23 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表
- 第 24 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表
- 第 25 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表
- 第 26 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表
- 第 27 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表
- 第 28 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表

第 29 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表

第 30 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表

成績評価方法 (総合) 発表 60～80 % , 出席 20～40 % , 他人のプレゼンテーションに対する評価 10 %。

教科書・参考書 教科書 : はじめよう経済学のための Mathematica, 浅利一郎他, 日本評論社, 1997 年

メッセージ 遅刻欠席をしないように。これは特に気をつけること。

連絡先・オフィスアワー E-mail:kashi-y@yamaguchi-u.ac.jp , 電話:933-5595 , 研究室:C213。オフィスアワーは授業開始時点に伝える。

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	兵藤隆				

授業の概要 演習 II では、演習 I で身に付けた基礎的なプレゼンテーションの技術とディベートの技術をさらに発展させ、実践的な技術を身に付けることを目標とします。そのために、プロジェクトの企画・運営にも取り組んでもらおうと考えていますので、積極的にチャレンジしてください。 / 検索キーワード 金融、ゼミ、演習、プレゼンテーション、ディベート

授業の一般目標 1 . 新聞を読んで今後の経済動向が語れるようになる。 2 . 就職活動がスムーズに行えるよう、職業 (プロ) 意識を高めていく。 3 . ビジネスおよび組織運営について実践的な技術を身に付ける。

授業の計画 (全体) I 経済学の理論的フレームワークの習得 (理論) (1) 国際金融論 (2) 金融制度論 (3) 金融政策論 II 時事トピックへの関心を高める (実際) (1) 理論と実際の融合 (2) 論理的な思考 III プレゼンテーション能力の向上 (実践) (1) 毎週の報告 (2) 議論 (ディベート) への積極的な参加 (3) ゼミナール対抗討論大会への参加

教科書・参考書 教科書: 未定 (金融論の入門書) 最初の時間に、数冊候補を上げ、その中から決定する予定

メッセージ ゼミに関する詳しい活動内容は当ゼミのホームページ (<http://thyodo.eco.to>) を参照にしてください。学生生活において最も「伸び」が期待できるのがこの時期です。一緒にがんばりましょう。

連絡先・オフィスアワー thyodo@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	寺地伸二				

授業の概要 経済や社会の問題について、関心を持ち、自分なりの意見が言えるようになる、

授業の一般目標 1 , 経済や社会のさまざまな問題に対して興味をもってもらうと同時に、問題点の整理の仕方、発表の仕方なども学習していきます。 2 , グループ学習を通じて、自分なりの、ものの見方・考え方を身につけてもらいたいと思っています。

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	木部和昭				

授業の概要 演習 I に引き続き、近代日本経済史を学ぶ。具体的には「企業・人物から見た日本経済史」、「地域経済の歴史」を中心に扱う。また、史料の講読および分析も並行して進める。こうした取り組みの中から、次年度の卒業論文作成に向けて、自分なりの課題を見出していく。/ 検索キーワード 日本経済史、日本史、近代史

授業の一般目標 (1) 明治以降、終戦までの日本経済史について、その基礎知識や、経済史研究の理論、実証分析の手法を習得する事を目指す。(2) 身近な地域や興味ある企業・産業・人物などを取り上げ、その歴史を自分たちの手で解明し分析する能力を身につける。(3) 史資料を用いた歴史の実証が行えるようにする。(4) 卒業論文に向けた自分なりの課題を見出す。

授業の計画 (全体) (1) 前期は、昨年度に引き続き「企業・人物から見た日本経済史」の報告を中心に進める。また、歴史史料・統計などを用いたデータ処理の実習を行う。(2) 『防長新聞』や山口県関係の近代行政文書を中心に、史料講読を行う。(3) 今年も夏休みには課題を出す。テーマは「地域経済の歴史」で、各自の身近な地域を取り上げ、その経済・産業などの歴史を掘り起こしてもらおう。(4) 後期は、「地域経済の歴史」に関する各自のレポート報告を中心に進める。(5) 4 年生に向けて自分の取り組むべき課題を模索する。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 「企業・人物から見た日本経済史」の報告 (前期)
- 第 2 回 項目 『工場通覧』によるデータベースの作成と分析 (前期)
- 第 3 回 項目 『防長新聞』や山口県関係の近代行政文書を中心とした史料講読 (前期)
- 第 4 回 項目 夏休みの課題: レポート「地域経済の歴史」(夏期休業中)
- 第 5 回 項目 「地域経済の歴史」に関するレポート報告 (後期)
- 第 6 回 項目 卒業論文テーマの絞り込み (後期)
- 第 7 回
- 第 8 回
- 第 9 回
- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

成績評価方法 (総合) 順番に担当してもらった報告、夏休みレポートの内容によって評価する。報告者以外は、報告内容をまとめたノートを提出させるが、これも評価の対象となる。報告 45 %、授業内小レポート 15 %、夏休みレポート 30 %、授業態度 10 % 欠席が多い者は不合格となる。

教科書・参考書 教科書: 演習 I で使用したテキストを今後も使用する。それ以外は適宜プリントで配布する。/ 参考書: テキスト以外の参考文献は適宜紹介する。授業で使用する場合は、コピーを配布する。

メッセージ ・3 年の終わりには、就職活動等が忙しくなる。その前に、卒業論文に向けて、自分なりの興味関心を養って欲しい。・きちんと出席しないと単位が出ないで注意。・自分の割り当てられた報告を放棄した場合は、別に数倍の課題を出させるので、一生懸命に取り組むこと。

連絡先・オフィスアワー 経済学部 C207 研究室 内線 5566 E-mail ; kibe@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	野村淳一				

授業の概要 演習の最終目的は、各自が自分の研究テーマを決め、卒業論文を完成させることです。卒業論文は経済理論と統計学(計量経済学)を用いることを必要とします。演習 II では、引き続きブランチャールの教科書を中心にマクロ経済学を勉強します。並行して、卒表論文のテーマを選んだ人については、(1) 先行研究のサーベイ、(2) 関連データの収集、(3) 分析手法(理論、統計、ソフトウェア)の修得、を行い、適宜進行状況について報告をしてもらいます。また、全国ゼミナール対抗討論大会へ参加するために、日本経済や経済統計に関する論文を作成し、論文作成に必要な知識を包括的に修得します。討論大会では、自分の主張をいかに効果的に発表するかを考えます。上記のような作業を通して、3 年次終了までに卒業論文に必要な準備を全て終えます。

授業の一般目標 ・現実の社会・経済問題について、モデルを構築し、検証・考察ができるようになる。 ・実際のデータのもつ特徴・問題点を理解し、計量分析を適切に利用できるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 標準的なマクロ経済理論を理解できている。基本的な統計学の手法を修得している。自分のテーマに関する先行研究、統計データ、分析手法を理解できている。 **思考・判断の観点:** 現実の経済現象を理論的に考察し、政策や外的ショックの効果を判断できる。 **関心・意欲の観点:** 現実の経済・社会問題に関心を持ち、その背景を統計資料に基づいて整理できる。 **態度の観点:** 事前の準備を十分に行い、他者の発表に対しても真摯に議論できる。 **技能・表現の観点:** 発表資料を効果的に作成し、明快な発表ができる。統計データを正しく処理し、形式的にも十分に整った報告書・論文が作成できる。

授業の計画(全体) 演習 II では、引き続きブランチャールの教科書を中心にマクロ経済学を勉強する。教科書の下巻からは、より複雑で包括的なモデルが展開されており、経済学の思考方法修得のための良い訓練となると考えられる。また、こうしたモデルを用いることによって、現実の経済問題への理解がより深まり、その解決策について考察することが可能となる。演習 II では、知識として得られた経済モデルを現実の経済問題へ適用し、その解決策について議論を深める。その際、出来るだけ現実の経済データに基づいた客観的で定量的な分析を心がける。また、演習 I の終わりに選んだテーマについて、(1) 先行研究のサーベイ、(2) 関連データの収集、(3) 分析手法(理論、統計、ソフトウェア)の修得、を行い、適宜進行状況について報告をしてもらい、3 年次終了までに卒業論文に必要な準備を全て終える。

成績評価方法(総合) 授業における態度(発表、質問等)と参加意欲により判定する(評価割合 100%)

教科書・参考書 教科書: 『マクロ経済学』(上)(下), ブランチャール, 東洋経済, 1999 年

メッセージ 数学を用いた厳密な論理構成は慣れないうちはかえって分かり難いという印象を持つと思いますが、前提条件や仮定を明示し、分析の限界を明らかにしながら論理を展開するという技能は、あらゆる分野で有効なものだと思います。自分の関心のあるテーマの先行研究を参考に、まずは慣れることから始めましょう。

連絡先・オフィスアワー nomuraj1@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワーは週 3 回、1 時間程度設ける(講義中に指示)

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	山田正雄				

授業の概要 経済分析の方法を学ぶ。

授業の一般目標 経済分析の方法を身につける。

授業の計画 (全体) 経済を分析する方法として、3 年次にはマクロ経済学を学ぶ予定です。ゼミ生の報告と討論により、マクロ経済学の理解を深めていきます。

成績評価方法 (総合) 参加姿勢、報告、出席によって評価します。

教科書・参考書 教科書：ゼミ生と相談の上、決定します。

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	濱島清史				

授業の概要 キャリア形成 (人材育成) ならびに社会政策論 (特に格差問題や少子高齢化問題) を中心に進めていく。またそれと関連するように、産業・企業・職能 (職業) 研究を進めていきたい。これは3年生から就職対策をするというよりも、キャリア形成論や産業・企業・職能 (職業) 研究は本格的にやろうとすれば数年は要し、そして就職活動においても、それ以上に社会に出てから有益だからである。学問研究と就職活動との相乗効果を狙う。なお、労働経済論と社会政策論を履修すること。専門性を深めるためには、ゼミだけでは不十分で、関連する講義科目によって補強しなければならないからである。 / 検索キーワード キャリア形成、人材育成、社会政策論、労働経済論、格差、少子高齢化、介護。

授業の一般目標 第一に、ゼミでの研究を通して充実した学生生活を送ること。即ち、何らかの困難に遭遇した時に、それを克服するストーリーを語れるようにすること。第二に、将来のキャリア・ビジョンを描けるようにすること。第三に、社会に出てから有益な知識と思考力を養うこと。以上を一般的な目標とする。より具体的には、キャリア形成ならびに社会政策論の基礎知識を習得し、自ら主体的に関心のある産業・企業・職能 (職業) に関して調べて、論理的な文章展開能力をレポートによって涵養し、さらにプレゼンテーション、ディスカッション、ディベート能力を磨いていきたい。このゼミ生はゼミの時間に結構発言するので、今年はそれよりレポート作成能力等を鍛えられたい。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：基礎的な知識をまだもっと身につけなければならないが、今年はさらに関連文献を読破していき、専門知識を培ってほしい。思考・判断の観点：レポートによる論理的思考能力をさらに向上させ、とりわけプレゼンテーション、ディベート、ディスカッションによるより実践的なコミュニケーション能力の醸成を重視したい。関心・意欲の観点：自ら主体的に関心のある産業・企業・職能を調べ、その知識をゼミ生相互でシェアし合い、専門領域を確保しつつあらゆる産業に関心を抱いて互いに啓発し合えるようにしたい。ある程度できてきているが、さらに飛躍的に発展していかなければならない。態度の観点：人間の記憶力は曖昧である。単に聴いているのではなく、糧となると思われるところはメモを取ること。さらに、積極的に自己アピールをしてほしい。ゼミで活発に討論して、自己主張してほしい。また各自、それぞれの担当領域でリーダーシップを発揮してほしい。技能・表現の観点：プレゼンテーション、ディスカッション、ディベートでは、論理的展開能力、声の大きさ、身振り手振り、アイコンタクト、表情の豊かさなどに磨きをかけてほしい。その他の観点：特に今年から労働者の権利意識を涵養するような方向性を打ち出したい。景気も回復してきており、単に就職するだけでなく、労働者としての権利も主張していけるような人材を育ててきたからである。また社会貢献や人道的観点も養いたい。そうでないと、個人的な狭い利害関係でしか、考えられないような人間になってしまうからである。将来、社会に出てから、大きく活躍するためにも、社会に貢献するという大望が必要である。具体的には、第三世界の貧困問題などに関するボランティア活動などへの参画である。(勿論、強制はしない。)

授業の計画 (全体) 昨年、前期は清家潔篤の『労働経済』の文献を用い、後期は玄田有史の『働く過剰』を用いて輪読形式で授業を進めていく一方、新聞の時事問題を毎回やり、全員が毎回何らかの形で発表してきた。実に大学生らしい議論を重ねてこれたと評価する。秋季のゼミナール大会では、ニートとフリーター・女性労働・過労死等のテーマで論文を作成し、議論を行ってきた。今年はその成果を踏まえて、まず前期は各自の関心のある産業・企業・職能 (職業) に関して研究を進めていき、さらに社会政策関連のテキストを輪読していきたい。秋のゼミナール大会全国大会を前半のヤマとし、それ以降は各自の関心に沿って論文集に編集することを目標としたい。

成績評価方法 (総合) 主にレポートとレジュメ・発表による。プレゼン、討論能力も期待するが、成績評価よりも各自の努力に委ねるべきだろう。

教科書・参考書 参考書：適宜指示する。

メッセージ 現場第一主義 さらに活発に議論を交え、活気とガッツのあるゼミにしていこう。

連絡先・オフィスアワー : 083 - 933 - 5521。Eメール・アドレス : hamakiyo @ yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 II	区分	講義	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	鍋山祥子				

授業の概要 私たちが日頃考えていることや興味を持っていること、逆に納得がいかないことって、実は立派な「学問」につながっていたりする。せっかく大学生をやっているんだから、自分と学問とのつながりについて、じっくり考える機会があってもいいんじゃない？ 私がもっとも重視するのは、この「内発的な問題意識」です。 演習 II の進め方は、4 年次までの長期計画のもとに組み立てられています。まず 2 年次 (演習 I) には、できるだけ多くの社会問題の存在にふれ、何故それが社会問題として取り上げられているのか、という背景についての理解を深めます (社会学的思考の習得)。3 年次 (演習 II) には、KJ 法を活用してゼミ員全体による「問題意識の地図」を描いた後、個々人の問題意識を文献・資料研究によって各自が追求し、ゼミでの報告・議論をおこないます。そして、4 年次には「自分なりの卒論」をまとめ上げます。こうしてできた卒論は大学時代、あるいは今までの人生の集大成になることでしょう。

本ゼミに求められる姿勢は、ゼミ内で「自分をさらけ出す勇気」と「自分がゼミを創っていくという当事者意識」です。最後に、参考までに私の研究領域をキーワードで述べると、高齢社会・社会政策・ケア論・地域福祉・労働と家族的責任との両立 (ワークライフバランス)・ジェンダー・福祉国家論・NPO・アイデンティティなどです。

授業の一般目標 1. 「学問」と「自分の生活」との結びつきを意識化すること。(社会学的思考の習得) 2. レジューメ作成・文献資料検索・レポート作成・議論の方法を習得すること。(学習技術の習得) 3. 日常生活のなかにある「自分なりのこだわり」を明確化すること。(研究テーマの探求)

授業の計画 (全体) 演習 I で習得した知識のうえに、自分なりの研究テーマの抽出をおこないます。方法はまず、ゼミ全体での KJ 法による、学問的興味地図を作成します。この際、自分の内発的疑問をより明確にするために、ゼミ全体での討論を重ねます。完成した地図を元に、教員が提示した文献を各自が読むことにより、次のステップである個人による KJ 法の準備を進めます。

成績評価方法 (総合) 1. 授業内討論への参画度合 (出席は欠格条件) 2. グループ課題の遂行 3. レポート評価を総合的に判断します。

メッセージ 私からは研究テーマを与えませんので、自分で追求したいテーマを探するという困難に挑む積極的態度が不可欠です。活発で率直な意見交換ができるような、楽しい雰囲気のできたいと思っています。

連絡先・オフィスアワー E-mail: nabeyama@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー: 火・水曜日 10:00-11:00

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	古賀大介				

授業の概要 1. 歴史的事情を踏まえつつ、いわゆる新興国の経済発展を分析する 2. 主要産業 (金融・製造・サービス) の歴史的研究を行う

授業の一般目標 歴史的視点から、経済的事象を深く考えることのできる人間を育てる

授業の計画 (全体) 前期は、これから発展するであろう国を数カ国取り上げ、その国の歴史 (経済史) を検証するとともに、あわせて、世界的視野から対象国の今後を具体的に予測する。後期は、主要産業セクターの歴史と今後の動向を予測する。前期・後期ともグループ (班) に分かれ、毎回報告してもらう。

メッセージ しっかりついてきてください。

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	橋本寛				

授業の概要 演習 I に引き続き、意思決定の基礎理論や問題解決法について考察を行う。

授業の一般目標 意思決定に関する基本的概念や基礎知識を学ぶ。

授業の計画 (全体) 意思決定の基礎的事項について以下のテキストを読みながら検討を行っていく。

成績評価方法 (総合) 出席、報告、レポートによる。

教科書・参考書 教科書： わかりやすい意思決定論入門, 木下栄蔵, 近代科学社, 1996 年

連絡先・オフィスアワー 経済学部 A227、オフィスアワーを設ける予定

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	古川澄明				

授業の概要 研究内容・方法 (1) フグ・ビジネスの調査 現在、ゼミ2年、3年生の先輩が下関唐戸魚市場(株)や、萩、徳山の養殖業者のヒアリング調査に取り組んでいますが、そうした調査活動に取り組んでみたい方 (a) 中国沿海地域のふぐ養殖業の実態調査(今、中国産フグが下関養殖フグ取扱高の3割) (b) フグ漁従事者の激減と業界の国際的構造変化 - 輸入フグの増大化傾向 (c) フグ・ビジネスの国際化とアジア - 香港、上海のフグ料理店 (d) 養殖フグの急増と産地間競争 - 相場リーダーとしての下関の挑戦 (e) 韓国でのフグ・ビジネスの実態 - フグを食べているのか? (f) 食生活の変化とフグ・ビジネス - 養殖魚で育った世代の味覚が示すものは、何か (2) 山口の酒蔵の調査 現在、ゼミ2年、3年生の先輩が県内の酒蔵メーカーの個別企業調査を行っていますが、まだまだ、残っています。日本人と酒と社会生活の変化について関心があり、調査活動に取り組んでみたい方。 (a) 山口県内の酒蔵メーカーを訪ねる(現在、五橋、男山、和可娘の3社を調査中) (b) 山口の「杜氏」を訪ねて、歴史を聞く ゼミ運営方法: 3年生までは、チームで調査研究。4年生で卒業論文を作成。論文は自費製本し、「1冊の本(作品)」にする。自主的に、私的に会社を訪問すること(fieldwork)を厭わない人。調査研究の成果は、報告集にまとめる。/ 検索キーワード 自分に投資し、自分の能力を開発し、自分を育てよう。

授業の一般目標 演習テーマ: 経済のグローバル化とローカル・ビジネスの挑戦 演習の目標: ローカルビジネスの調査研究と取り組むことで、調査研究に必要な経済学や経営学の知識を自主的に積極的に学び、また同時に、そうした知識を調査研究に応用する。そうした調査研究活動を通じて、実践的に、経営学の知識を身に付けることにある。(1) 卒業論文作成に向けて、調査研究のテーマ設定、問題の分析の仕方、プレゼンテーションでの説得力などを身に付ける。(2) 企業調査を通じて、社会人としての自覚をもって、経営の現場やビジネスの動態を捉える独自の分析視角を開発する。(3) 大学卒業後に企業人、あるいは公務員として活躍することを意識して、ゼミ活動に取り組む。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 企業やそのマネジメントについて、ケーススタディを実施するための経営学の基礎知識を身に付ける。ビジネスモデルの独自の設計を目標とする。思考・判断の観点: 独自のテーマ設定を行うので、テーマと研究方法の独創性を重視する。したがって、オリジナリティを問われる。深い思考力や、テーマや研究方法の妥当性を身に付けるために、幅広く知識を身に付けることが望ましい。関心・意欲の観点: ゼミでは、研究の独創性を重視するので、自分で関心のある、意欲的に取り組めるテーマを設定し、独自の研究成果を出すことが求められる。態度の観点: 研究は当初、チームで行い、やがて個人研究へシフトすることになる。チームでも、個人でも、積極的に、意欲的に取り組むことが重要である。課題を自分で見つける楽しさがあるが、独自の課題を見つけるまでの困難もあり、それが自分を自分の力で育てることになる。ゼミでは、自分を自分で育てる、という観点を重視する。技能・表現の観点: PCの利用に習熟すること。ワープロ、表計算、プレゼンテーションのためのパワーポイントの利用は、普通のこととする。ビジネスモデルの開発のために、各種のプログラムを利用することを勧める。その他の観点: ゼミの原則は、楽しいこと。ゼミ全員が楽しく学べることである。ゼミは、メンバー全員で作るものという考えを持つこと。各メンバーは、研究でも勉強面でも、ゼミに楽しさを提供する努力を求められる。積極的にサービスを提供することで、自分もサービスを受けるといのが、ゼミの原則である。

授業の計画(全体) 前期: 上記テーマに関する業界について、広く基礎知識を得る。同時に、業界を捉える経営学の基礎知識を学ぶ。後期: 現実のビジネスの世界に足を運び、インタビューを実施し、業界の方々から実際の経営の実状を学び、それを経営学の知識習得にフィードバックさせる。積極的に経営学的知識を身に付けるために、報告書を作成する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 企業事例研究
- 第2回 項目 企業事例研究

- 第 3 回 項目 企業事例研究
- 第 4 回 項目 企業事例研究
- 第 5 回 項目 企業事例研究
- 第 6 回 項目 企業事例研究
- 第 7 回 項目 企業事例研究
- 第 8 回 項目 企業事例研究
- 第 9 回 項目 企業事例研究
- 第 10 回 項目 企業事例研究
- 第 11 回 項目 企業事例研究
- 第 12 回 項目 企業事例研究
- 第 13 回 項目 企業事例研究
- 第 14 回 項目 企業事例研究
- 第 15 回 項目 企業事例研究
- 第 16 回 項目 企業事例研究
- 第 17 回 項目 企業事例研究
- 第 18 回 項目 企業事例研究
- 第 19 回 項目 企業事例研究
- 第 20 回 項目 企業事例研究
- 第 21 回 項目 企業事例研究
- 第 22 回 項目 企業事例研究
- 第 23 回 項目 企業事例研究
- 第 24 回 項目 企業事例研究
- 第 25 回 項目 企業事例研究
- 第 26 回 項目 企業事例研究
- 第 27 回 項目 企業事例研究
- 第 28 回 項目 企業事例研究
- 第 29 回 項目 企業事例研究
- 第 30 回 項目 企業事例研究

教科書・参考書 教科書：必要に応じて、あらゆる経営学図書を利用する。 / 参考書：必要に応じて、あらゆる経営学図書を利用する。

メッセージ ゼミ活動を通じて、積極性、協調性、組織統率能力、報告書作成能力、自己管理能力、プレゼンテーション能力を養おう。

連絡先・オフィスアワー 事前アポにて、常に面会可能。常に、メールで相互連絡を行う。

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	長谷川光圀				

授業の概要 演習 II の受講対象者、3 年生で、経営学の基礎知識を理解している。そこで、個別問題について、発展的に学習し、各自の分担報告と意見交換を重視し、個別問題についての深い理解を目指したい。

授業の目標

演習 II は、専門教育の中間レベルと上級レベルの学習を目標にしている。 / 検索キーワード 最近の個別経営問題について、関心を持つこと

授業の一般目標 演習 II の前期は、国際経営の理論を取上げる。演習 II の後期では、社内分社制、ナレッジ管理、組織ネットワークを取り上げる。

基本資料を用意し、各自に報告を義務付け、意見交換を求める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：個別問題について、基本的理解と論点をプレゼンテーションできる。 思考・判断の観点：個別問題について、アイデアを提案できる。 態度の観点：演習 II は、全出席を前提とし、意見を表明できる。

授業の計画 (全体) 経営学の個別問題を取上げ、問題の正当な理解の仕方と議論の展開を身に付けるように、指導する。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 国際経営の展開 内容 バーノン基礎理論の理解
- 第 2 回 項目 国際経営の問題 内容 バーノン基礎理論の理解
- 第 3 回 項目 国際経営の展開 内容 ダニング基礎理論の理解
- 第 4 回 項目 国際経営の問題 内容 ダニング基礎理論の理解
- 第 5 回 項目 国際経営の展開 内容 ポーター基礎理論の理解
- 第 6 回 項目 国際経営の展開 内容 ポーター基礎理論の理解
- 第 7 回 項目 国際経営の展開 内容 ポーター基礎理論の理解
- 第 8 回 項目 国際経営の問題 内容 ポーター基礎理論の理解
- 第 9 回 項目 日本の国際経営の展開 内容 生産活動について
- 第 10 回 項目 日本の国際経営の展開 内容 人事活動について
- 第 11 回 項目 日本の国際経営の問題 内容 販売活動について
- 第 12 回 項目 日本の国内経営の展開 内容 社内分社制について
- 第 13 回 項目 日本の国内経営の展開 内容 社内分社制について
- 第 14 回 項目 日本の国内経営の展開 内容 ナレッジ管理について
- 第 15 回 項目 日本の国内経営の問題 内容 ナレッジ管理について

成績評価方法 (総合) 演習 II は、個別問題についての、知識・理解、思考・判断、態度の 3 点を重視し、評価をする。

教科書・参考書 教科書：企業の競争優位 (高価なので非購入) , , / 参考書：その都度、紹介する。 , ,
メッセージ 出席は、100 パーセントであること。

連絡先・オフィスアワー 電話 5542、研究室長谷川、オフィスアワー水曜日

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	城下賢吾				

授業の概要 財務管理理論の基礎知識習得を目指す。

授業の一般目標 財務管理の基礎知識の習得および互いに協力してグループ学習できるようにすること

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 専門基礎知識の習得 思考・判断の観点： 基礎知識の実践的応用
関心・意欲の観点： ゼミへの積極的関与 態度の観点： ゼミへの積極的関与

授業の計画 (全体) 基礎的な教科書の輪読とグループ学習

成績評価方法 (総合) ゼミへの積極的な取り組み

教科書・参考書 教科書： 未定

連絡先・オフィスアワー sirosita@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	石田成則				

授業の概要 演習 1 に同じ

授業の一般目標 演習 1 に同じ

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 演習 1 に同じ 思考・判断の観点： 演習 1 に同じ 関心・意欲の
 観点： 演習 1 に同じ

授業の計画 (全体) 演習 1 に同じ

成績評価方法 (総合) 演習 1 に同じ

メッセージ 欠席する際には、必ず事前にその旨を連絡すること。

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	成富敬				

授業の概要 演習 I に引き続き, 各自が興味を持つテーマについて, 基礎的な知識を習得するとともに, 関連する文献の紹介や研究内容の発表をおこなってまいります.

授業の一般目標 各自が興味を持つテーマについて聞き手にわかるように説明できる. 他の人の話を理解し, 適切な質問ができる.

成績評価方法 (総合) 発表 (70%) と出席 (30%) で評価する.

メッセージ いろいろなことを知っている“頭のいい人”よりは, 粘り強く考えられる“頭の強い人”を目指し, じっくり考えてください.

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	4 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	武居奈緒子				

授業の概要 昨年度に引き続き、マーケティングの重要な文献、アップデートな文献を輪読する。さらに本年度は、ケース研究にも着手する。ケース研究を通じて、主体の意思決定、革新性がどのように企業の競争力の源泉になるのかについて、皆でディスカッションしたい。

授業の一般目標 1．企業が市場で直面する問題について分析する能力を養う。 2．長期トレンドを視野に入れて、現象を分析する能力を養う。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 マーケティング革新 (1)
- 第 2 回 項目 マーケティング革新 (2)
- 第 3 回 項目 マーケティング革新 (3)
- 第 4 回 項目 マーケティング革新 (4)
- 第 5 回 項目 マーケティング革新 (5)
- 第 6 回 項目 マーケティング革新 (6)
- 第 7 回 項目 マーケティング管理 (1)
- 第 8 回 項目 マーケティング管理 (2)
- 第 9 回 項目 マーケティング管理 (3)
- 第 10 回 項目 マーケティング管理 (4)
- 第 11 回 項目 マーケティング管理 (5)
- 第 12 回 項目 マーケティング管理 (6)
- 第 13 回 項目 百貨店の仕入革新 (1)
- 第 14 回 項目 百貨店の仕入革新 (2)
- 第 15 回 項目 流通革新の展望

教科書・参考書 教科書： その都度指示する。,,

開設科目	会計学演習 II (税務)	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	山下訓				

授業の概要 職業会計人コースの税務専攻 3 年生を対象とした演習です。自ら疑問点を探し、自ら解決していく方法を学びます。

授業の一般目標 職業会計人コースの実習により、多くのことを学びますが、多くの疑問が積み残されたまま、実習は進行していきます。そこで、この演習形式の授業を、何が疑問点かを探し、調べて解決していく良い機会と捉えてください。分からない所が何処かを発見すれば、実は半分以上問題は解決しています。ものを問うときに、既に答え方が決まっているからです。是非、自ら問題を設定する訓練をしましょう。

成績評価方法 (総合) 出席と発表によって評価する。

連絡先・オフィスアワー yamasita@yamaguchi-u.ac.jp 5518 参加者と相談して設定する。

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	藤田健				

授業の概要 マーケティング・流通研究のための方法論や各論の知識を学んだうえで、卒業論文の作成に向けた研究を開始する。前期は研究方法論や論文の書き方を学び、個人研究のテーマを決定する。後期は、個人研究で設定したテーマを研究し、輪番で研究成果を報告する。

授業の一般目標 1. マーケティング・流通分野の研究手法と各論を理解する。 2. 個人研究のテーマを設定し、意欲的に研究する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 研究関心領域の既存研究と研究方法を理解する。 関心・意欲の観点： 1. 積極的に研究を行い、その成果を報告する。 2. 積極的にディスカッションに参加する。

授業の計画 (全体) 前期は、研究方法、各論の文献サーベイ、論文の書き方などを学ぶ。その上で、個人研究のテーマを設定する。後期は、個人研究を行い、輪番で研究成果を報告する。

成績評価方法 (総合) 研究報告 (30%)、ディスカッションへの参加 (30%)、最終レポート (40%)

教科書・参考書 教科書：『知的複眼思考法』、荻谷剛彦、講談社 文庫、2002年；ゼミナール マーケティング入門、石井淳蔵・嶋口充輝・栗木契・余田拓郎、日本経済新聞社、2004年

開設科目	会計学演習 II (会計)	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	米谷健司				

授業の概要 この授業は、職業会計人コースの会計専攻 3 年生を対象とするものです。職業会計人としての専門知識を学ぶと共にコミュニケーション能力を高めることに重点をおいています。授業に対して受身になるのではなく、積極的に参加する姿勢が必要とされます。

授業の一般目標 自分の持っている知識と能力を駆使して、より説得力のある説明ができるようになることプレゼンテーション能力を高めること。

成績評価方法 (総合) 評価は、出席 50 %、発表 50 % とします。

教科書・参考書 教科書：後日お知らせします。

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	澤 喜司郎				

授業の概要 文献調査等を精力的に行い、データの収集と分析に基づいて、その成果を報告する。

授業の一般目標 データの分析能力を高め、同時に成果の報告に際してはパワーポイント等を使用して、プレゼンテーション能力の向上を図る。

授業の計画 (全体) 各自が設定したテーマについての研究成果の報告と討議を行う。

成績評価方法 (総合) 成績評価は、出席 (30 点) 報告 (70 点) によって行います。

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	河野眞治				

授業の概要 多国籍企業の理論と現実について学ぶ。 / 検索キーワード 多国籍企業

授業の一般目標 最近の直接投資の新しい理論について学び、日本企業の海外子会社について調査する。

授業の計画 (全体) 学生のレポート発表を中心に行う。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス 内容 ゼミの運営方法について説明する。
- 第 2 回 項目 学生レポート発表 内容 発表と討論
- 第 3 回 項目 学生レポート発表 内容 発表と討論
- 第 4 回 項目 学生レポート発表 内容 発表と討論
- 第 5 回 項目 学生レポート発表 内容 発表と討論
- 第 6 回 項目 学生レポート発表 内容 発表と討論
- 第 7 回 項目 学生レポート発表 内容 発表と討論
- 第 8 回 項目 学生レポート発表 内容 発表と討論
- 第 9 回 項目 学生レポート発表 内容 発表と討論
- 第 10 回 項目 学生レポート発表 内容 発表と討論
- 第 11 回 項目 学生レポート発表 内容 発表と討論
- 第 12 回 項目 学生レポート発表 内容 発表と討論
- 第 13 回 項目 学生レポート発表 内容 発表と討論
- 第 14 回 項目 学生レポート発表 内容 発表と討論
- 第 15 回 項目 学生レポート発表 内容 発表と討論

成績評価方法 (総合) レポートと討論内容で評価する。

教科書・参考書 教科書：なし / 参考書：なし

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	田淵太一				

授業の概要 2 年次で身につけたディベート (討論) 能力・読書能力・調査能力をもとに, さらなる専門的知識・能力の養成を行います。

授業の一般目標 専門的知識の習得とならんで, ディベート (討論) と読書能力・調査能力の養成に集中します。

授業の計画 (全体) 5 月いっぱいをめどに教科書を読了し, 以後は 3 名ずつのグループに分かれて調査を行います。このゼミでは, グループで調査したり考えたりした内容を報告してもらい, それにもとづいて討論を行うことに主眼を置きます。1 2 月には他大学との討論会を予定しています。

成績評価方法 (総合) 報告・討論等, ゼミナールにおける日常的な活動により評価します。授業への参加度 50 % , 受講者の発表 50 % 。

教科書・参考書 教科書 : 姿なき占領, 本山美彦著, ビジネス社, 2007 年

メッセージ 3 年生は, ゼミ活動の中心学年です。悔いの残らないように完全燃焼しましょう!

連絡先・オフィスアワー オフィスアワーは前期開始後発表します。

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	今津武				

授業の概要 開発途上国の貧困問題が、21 世紀の国際社会に及ぼす影響は計り知れないと考えられ、2000 年の国連サミットにおいて採択された「ミレニアム宣言」では、世界を挙げてこの開発途上国の課題に取り組むことが確認された。しかし、経済発展の進むアジアにおいても国内格差の解消にはほど遠く、サブサハラ・アフリカ諸国の経済はむしろ後退の気配さえ見せている。こうした世界において、開発途上国の課題が世界経済の枠組みとどのように関連しているのか、そうした課題克服の手段はあるのかといったことを議論してゆく。 / 検索キーワード 国際協力、MDGs、貧困、経済発展

授業の一般目標 開発途上国の課題が歴史的、国際政治的にどのように生まれ、今も残されているのかについて考え、世界各国の開発協力目標とされている「ミレニアム開発目標 (MDGs)」の現状と、それぞれの課題に対する先進諸国の支援を分析把握した上で、今後の方向性を議論する。なお、先進諸国の支援をODA (政府開発援助) の枠組みだけでなく、貿易、対外投資といった視点からも検証、理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 開発途上国の貧困を初めとする課題を、ODA の視点のみならず世界経済の枠組みの中で理解し、説明できる。 思考・判断の観点： 日本の開発途上国支援 (ODA 以外の資金の流れも含め) の現状を理解した上で、開発途上国の課題への日本の関わり方に関する自らの意見を発表できる。 関心・意欲の観点： 開発途上国の課題に対し日常的に関心を有し、自らの進路との関わりに関心を持つ。 態度の観点： クラスでの討議に積極的に参加し、自らの知識と意識の深化につとめる。 技能・表現の観点： コンピュータ等を活用し、自らの意見を解りやすく発表できる。

授業の計画 (全体) 「ミレニアム開発目標」の各課題についての目標達成状況等を、インターネットを通して確認し、そうした状況と教科書として使用する世界銀行発行「貧しい人たちの声： 私たちの声が聞こえますか？」に見られる貧困者の生の声との比較を、受講学生がとりまとめて順次授業で発表する。発表をもとに開発途上国の貧困の姿をミクロレベルを含めて議論する。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス 内容 本講座の目標と実施方法・スケジュール説明。教科書についての説明。
- 第 2 回 項目 開発途上国の課題 (1) 内容 国連「ミレニアム開発目標 (MDGs) 報告」の紹介
- 第 3 回 項目 開発途上国の課題 (2) 内容 国連「ミレニアム開発目標報告」の紹介
- 第 4 回 項目 「MDGs」の意義について 内容 学生が考えた意義を発表・議論
- 第 5 回 項目 アジアの発展 内容 アジアの発展の歴史と現状を説明
- 第 6 回 項目 アフリカの発展 内容 アフリカの発展の歴史と現状を説明
- 第 7 回 項目 アジアとアフリカの発展の違い (1) 内容 前 2 回の授業内容をまとめ、学生が発表
- 第 8 回 項目 アジアとアフリカの発展の違い (2) 内容 前 2 回の授業内容をまとめ、学生が発表
- 第 9 回 項目 発展の促進・阻害要因 (1) 内容 発展の意味とそれを促す要因、阻害する要因につき説明
- 第 10 回 項目 発展の促進・阻害要因 (2) 内容 発展の意味とそれを促す要因、阻害する要因につき説明
- 第 11 回 項目 開発と政府開発援助 (ODA) 内容 ODA の歴史と構造を説明
- 第 12 回 項目 開発と民間セクター 内容 民間投資や貿易と開発途上国の発展について説明
- 第 13 回 項目 先進国の開発支援 (1) 内容 先進国の開発支援について、学生間で議論
- 第 14 回 項目 先進国の開発支援 (2) 内容 先進国の開発支援について、学生間で議論
- 第 15 回 項目 貧困の概念整理 内容 貧困についての概念整理につき説明
- 第 16 回 項目 貧困削減 内容 MDGs の目標達成度について学生が発表・議論
- 第 17 回 項目 飢餓・栄養不良 内容 MDGs の目標達成度について学生が発表・議論
- 第 18 回 項目 教育の課題 内容 MDGs の目標達成度について学生が発表・議論
- 第 19 回 項目 男女間格差 内容 MDGs の目標達成度について学生が発表・議論
- 第 20 回 項目 乳幼児死亡率 内容 MDGs の目標達成度について学生が発表・議論
- 第 21 回 項目 妊産婦の健康 内容 MDGs の目標達成度について学生が発表・議論

- 第 22 回 項目 まとめ 内容 学生の意見・議論についてコメントを行う
- 第 23 回 項目 HIV/AIDS、感染症 内容 MDGs の目標達成度について学生が発表・議論
- 第 24 回 項目 水の確保と衛生 内容 MDGs の目標達成度について学生が発表・議論
- 第 25 回 項目 環境・エネルギー 内容 MDGs の目標達成度について学生が発表・議論
- 第 26 回 項目 人口、都市のスラム化 内容 MDGs の目標達成度について学生が発表・議論
- 第 27 回 項目 援助のあり方 内容 MDGs の目標達成度について学生が発表・議論
- 第 28 回 項目 まとめ 内容 学生の意見・議論についてコメントを行う
- 第 29 回 項目 2015 年を目指して(1) 内容 学生が世界の平和的発展に向けての提言を行い、議論する
- 第 30 回 項目 2015 年を目指して(2) 内容 学生が世界の平和的発展に向けての提言を行い、議論する

成績評価方法(総合) (1)「ミレニアム開発目標」の各課題について、現在の状況をとりまとめ発表する。(2)前項のマクロレベルでの状況と、「貧しい人たちの声：私たちの声が聞こえますか？」に見られる貧困者のミクロレベルでの実状を比較し、そこに見られる乖離の原因について自らの考えをとりまとめ発表する。(3)前2項の発表を踏まえた議論に積極的に参加する。(4)出席が所定の回数に満たない場合は、単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：貧しい人々の声 私たちの声が聞こえますか？, ディーパ・ナラヤン著(“Voice of the Poor” 翻訳グループ訳), 世界銀行, 2000年; ミレニアム開発目標報告 2006, , 国際連盟, 2006年; 教科書(1)は教官より各自に貸与します。教科書(2)は Web より入手。/ 参考書：国際協力用語集(第3版), , 国際開発ジャーナル社, 2004年; 開発援助の経済学(第3版), 西垣昭・下村恭民・辻一人, 有斐閣, 2003年; エコノミスト南の貧困と闘う, ウイリアム・イースタリー, 東洋経済新報社, 2004年; 貧困の終焉 2025年までに世界を変える, ジェフリー・サックス, 早川書房, 2006年; フォーチャー・ポジティブ 開発援助の大転換, マイケル・エドワーズ, 日本評論社, 2006年; 此法次機辦→焚履璽海琉店 一生産者をしに追いやるグローバル経済(泪=粥憂獸 忘酪兵辦 2005年)世界の貧困-1日1ドルで暮らす人びと(泪弑次次戦乎) 青土社(2006年)

メッセージ 世界人口の約80%は開発途上国に住んでいます。こうした国々ではまだ多くの貧しい人々が、経済的に貧しいばかりでなく、人権、自由、疾病、飢餓といった、現代日本では想像できない困難に直面しています。こうした貧しい国々とも日本は時として相互依存関係にあります。そうしたことも含めて、世界の現状を議論してみませんか。

連絡先・オフィスアワー E-mail: imazu@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：経済学部C棟2階(C-218) オフィスアワー：木曜日 午後1時30分～4時30分

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	陳建平				

授業の概要 中国の社会主義市場経済をめぐる諸問題およびグローバル化時代の中国経済の課題について勉強する。

授業の一般目標 中国経済の到達点、世界経済におけるプレゼンスおよび将来の課題などについて、一定の識見を有する。

成績評価方法 (総合) 出席状況と発表、討論などを総合して評価する。

教科書・参考書 教科書：東アジア国際分業と中国, 木村福成・丸屋豊二郎・石川幸一, ジェトロ, 2002 年 ; 日中関係の経済分析 空洞化論・中国脅威論の誤解, 伊藤元重, 東洋経済新報社, 2003 年

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	尹春志				

授業の概要 開発、発展にかかわる理論的な検討を行う。

授業の一般目標 2 年次に学んだ基礎知識をより理論的に昇華することを目指す

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：最新の開発・発展をめぐる理論と実践について学ぶ。 思考・判断の観点：与えられた事実に対して自らの知識を用いて判断する力を養う 技能・表現の観点：レジュメ作成、プレゼンテーションの技法を学ぶ

授業の計画 (全体) テキストを輪読し、討論することを中心に演習を行うが、適宜、個別課題を提示し、研究発表を行う。

成績評価方法 (総合) 出席、討論の態度、課題に対する取り組みで評価する。

教科書・参考書 教科書：追って指示する

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	豊嘉哲				

授業の概要 参加者全員が協力して、1本の論文を書き上げる。論文のテーマは、4~5月に、演習参加者の希望を聞いて決める。

授業の一般目標 参加者全員が協力して、1本の論文を書き上げる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：自分が扱うテーマについての基礎知識を身につける。 思考・判断の観点：自分が扱うテーマについての基礎知識を身につけた上で、それに対して自分の意見を述べる。

授業の計画 (全体) 前期は基礎知識を身につけるための輪読が中心。後期には、実際に文章を書き、それを授業で発表する。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 論文テーマの設定 内容 論文テーマの設定

第 2 回 項目 文献収集と輪読 内容 文献収集と輪読

第 3 回 項目 同上

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

第 16 回 項目 論文の執筆 内容 論文の執筆

第 17 回 項目 同上

第 18 回

第 19 回

第 20 回

第 21 回

第 22 回

第 23 回

第 24 回

第 25 回

第 26 回

第 27 回

第 28 回

第 29 回

第 30 回

成績評価方法 (総合) 授業への参加 (出席と発表) によって評価する。

メッセージ 積極的に授業に参加して、発言してください。

連絡先・オフィスアワー yyutaka@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	李 海峰				

授業の概要 「世界の工場」から「世界の市場」へと変化している中国経済について、社会経済理論と実証を通して、検討する。 / 検索キーワード 中国経済、アジア社会経済、国際経済

授業の一般目標 中国経済、経営についての研究分析を通して、中国の市場環境にどう適応していくのか、日本経済の今後の課題、企業の経営戦略を考え、自分の論点を発表してもらう。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 中国社会と経済発展
- 第 2 回 項目 開発政策と開発戦略
- 第 3 回 項目 中国経済の統計分析
- 第 4 回 項目 所得格差と貧困問題
- 第 5 回 項目 開発と環境問題
- 第 6 回 項目 市場経済と消費社会の変動
- 第 7 回 項目 広告と消費者行動
- 第 8 回 項目 実態調査に基づく分析
- 第 9 回 項目 アンケート調査の基本
- 第 10 回 項目 アンケートのデータと集計
- 第 11 回 項目 グラフ表現と比率解析
- 第 12 回 項目 回帰分析
- 第 13 回 項目 数量化理論
- 第 14 回 項目 実習
- 第 15 回 項目 まとめ

教科書・参考書 教科書：中国経済発展論, 中兼和津次, 有斐閣, 1999 年； アンケートの調査、集計、解析, 内田治, 東京図書, 2003 年； 中国の大衆消費社会, 李 海峰, ミネルヴァ書房, 2004 年 / 参考書：初法からの多変量統計, 三土修平, 日本評論社, 2000 年； 社会調査, 森岡清志, 日本評論社, 2000 年； 例解調査論, 佐井志道, 大学教育出版社, 2001 年； 社会経済学入門, 角田修一, 大月書店, 2003 年

メッセージ 一寸光陰一寸金、寸金難買寸光陰、

連絡先・オフィスアワー 研究室

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	柳澤旭				

授業の概要 社会保障法と労働法の関連を研究する。

授業の一般目標 社会保障法と労働法は共に社会法として共通するものはなにか具体的問題領域ごとに研究する。

教科書・参考書 教科書：エッセンシャル労働法第4版, 菊池・清正編, 有斐閣, 2003年；ジュリスト労働判例百選7版, , 有斐閣, 2003年

メッセージ ゼミの場はしゃべることなので沈黙は欠席していると同様に扱います。

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	立山紘毅				

授業の概要 演習 I での課題を引き継ぎ、憲法学の理論的な課題や、現実の憲法現象について多角的に検討します。その際、できるだけ演習参加者の興味や関心に引きつけて開講したいので、一見したところ、関係なさそうな課題であってもいいですから、参加を希望する人は毎日のニュースで報じられる出来事などを参考に、検討したい課題を準備しておいてください。

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	安里全勝				

授業の概要 刑法総論、各論の重要事項を考察していく。判例を考察しながら、刑法理論が具体的事案の解決にどのように適用されているかを見ていく。

授業の一般目標 刑法がどのような法律であるかを理解して貰う。その為に、刑法総論と各論の重要問題を考察していく。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 刑法がどのような法律であるかを理解してもらおう。 思考・判断の観点： 法的思考の考察ということから、判例を考察し、刑法理論が具体的事案にどのように適用されているかを見ていく。

授業の計画 (全体) 前期は刑法総論、後期は各論の重要問題を考察していく。

成績評価方法 (総合) レポートと出席状況を総合して成績の評価を行う。

教科書・参考書 教科書： 刑法総論講義案, 安里全勝, 成文堂, 2005 年 ; 演習ノート刑法総論, 斉藤誠二編, 法学書院, 2005 年 ; 演習ノート刑法各論, 岡野光男編, 法学書院, 2003 年

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	澤田正				

授業の概要 少人数のゼミの長所を生かして、税法の判例、文献、論文などの学習を通じて、税法を取り巻くテーマについて理解を深め、応用力を身につける。

授業の一般目標 税法の基本的な枠組みを理解するとともに、税法的な思考方法に慣れ、自分の意見を構築し、税務の紛争解決にも通じる応用力の習得を目指す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：税法の枠組み、税法的な思考を理解している 思考・判断の観点：税法的な思考の枠組みのもとで、自分の意見を構築できる 関心・意欲の観点：社会経済における税法のテーマについて、関心が持てる 態度の観点：積極的に学ぶという意欲をもつことができる 技能・表現の観点：論理的で説得的な意見が言える。分かりやすく簡潔な文章表現ができる。

授業の計画 (全体) 受講生の理解度を見ながら、判例、文献、論文、ケーススタディなどを用いて双方向のクラス運営を行う。

成績評価方法 (総合) ゼミへの出席状況、受講態度、問題意識、期末レポートなどにより総合的に評価します。

教科書・参考書 教科書：必要に応じてプリント配布

メッセージ 税法の学習が面白くなるかどうかは、自分の考え方と態度次第です。せっかくの大切な時間を有効に使いましょう。

連絡先・オフィスアワー (TEL) 083-933-5580 (メール) sawadat@yamaguchi-u.ac.jp (オフィスアワー) 月曜日 10 時 30 分 ~ 12 時、水曜日 10 時 30 分 ~ 12 時、

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	渡邊幹雄				

授業の概要 現代リベラリズムの再検討 / 検索キーワード 政治、権力、自由、平等、平和、参加、自治など。

授業の一般目標 リベラリズムについての総合的な理解。

授業の計画 (全体) 主要なテキストを輪読しつつ、報告者にハンドアウトを作成してもらって議論する。

成績評価方法 (総合) 授業への積極的な参加、プレゼンテーション、課題の達成度を考慮して、総合的に評価する。

連絡先・オフィスアワー 研究室：経済学部3階、オフィスアワー：授業終了後

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	三間地光宏				

授業の概要 前期はテキストを中心に担保物権法を学習する。後期は民法全体について判例演習を行う。

授業の一般目標 民法の基礎知識を習得する。判例を分析・検討する能力を身につける。

授業の計画 (全体) 前期はテキストを中心に担保物権法を学習する。後期は判例演習を行う。

成績評価方法 (総合) 平常点による。

教科書・参考書 教科書：適宜指示する。 / 参考書：適宜指示する。

連絡先・オフィスアワー オフィスアワーは未定。

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	石 龍潭				

授業の概要 この授業では、主に具体的問題(判例)の検討を通して、行政法の重要な制度の理解を深めるとともに、問題の解決を自分で考え、それを表現する能力を養う。したがって、これまで履修した講義などによる知識を習得・理解していることと、授業への主体的な参加が要求される。

授業の一般目標 行政法における重要な制度の理解を深めることを授業の一般目標とする。

授業の計画(全体) 具体的には、行政関係の判例を取り上げて、判例研究を行う。取り上げる判例は、参加者が教官と相談の上、決定する(特に勉強してみたい領域、トピックがあれば、それを優先する)。報告には次の内容を含めるものとする。(1) 事実の概要 (2) 判決の要旨 (3) 簡単な評釈(学説、私見など)

成績評価方法(総合) 出席、報告、勉強の意欲等による。

教科書・参考書 教科書：授業の進め方や使用教材などの詳細は初回に説明するが、いずれにせよ、ただ聴くのではなく、レジュメ作成という作業を負担する(受講人数にもよるが、1人1回程度を目標としている)。しかし、負担は、自分の力を伸ばす絶好の機会でもある。

メッセージ 一緒に頑張りましょう。

連絡先・オフィスアワー 質問等のある学生は、気軽に私の研究室にきてください。(研究室：経済学部 A 棟 408 号室)

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	一ノ澤直人				

授業の概要 会社法を含めた商法の現代的な諸問題を研究する。

授業の一般目標 商法の現代的な諸問題を通して法的な思考方法を身につけることを目的とする。

授業の計画(全体) 演習の目標を達成するため、判例を素材にして討論研究を進めていきたい。演習の進め方としては、対話形式で基礎的な事項を確認していき、法的な思考が身に付いた段階で判例を素材に報告、討論を進めていく。自らの問題意識に基づいて、自主的にテーマを選択し、報告、討論をすることで、自分で積極的に法的問題を議論できるようにしていきたい。報告、討論を踏まえ、自ら積極的に法的に問題を探求できるようにするため、ゼミ論をまとめる機会をつくりたい。なお、ゼミ生の状況により、演習の進度等を調整する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス
- 第 2 回 項目 報告準備について
- 第 3 回 項目 演習
- 第 4 回 項目 演習
- 第 5 回 項目 演習
- 第 6 回 項目 演習
- 第 7 回 項目 演習
- 第 8 回 項目 演習
- 第 9 回 項目 演習
- 第 10 回 項目 演習
- 第 11 回 項目 演習
- 第 12 回 項目 演習
- 第 13 回 項目 演習
- 第 14 回 項目 演習
- 第 15 回 項目 演習
- 第 16 回 項目 演習
- 第 17 回 項目 演習
- 第 18 回 項目 演習
- 第 19 回 項目 演習
- 第 20 回 項目 演習
- 第 21 回 項目 演習
- 第 22 回 項目 演習
- 第 23 回 項目 演習
- 第 24 回 項目 演習
- 第 25 回 項目 演習
- 第 26 回 項目 演習
- 第 27 回 項目 演習
- 第 28 回 項目 演習
- 第 29 回 項目 演習
- 第 30 回 項目 演習

成績評価方法(総合) 本演習の目標である商法や会社法への基礎的な体系的理解、問題への論理的探求への基礎が身に付いているかどうかを基準として評価する。授業への参加、報告、討論及びレポートによる総合的評価とする。

教科書・参考書 教科書：六法必携、開講時に連絡する / 参考書：他の参考書等は適宜演習において連絡する。

メッセージ 自分で問題意識をもって、会社法を通じて法的な思考を身につけたいという人であること 商法・会社法に興味があり、自主的かつ積極的に研究し、討論に参加できること 他のゼミ生と協力しあって、ゼミの活動が行えること

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	齊藤匡史				

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	篠原淳				

授業の概要 本演習では、企業会計分野を中心に経営学について学ぶ。会計フレームワーク、財務諸表の構造を理解し、会計がなぜ必要とされるかについて検討していく。学生の関心あるテーマについては積極的に取り入れていく。 / 検索キーワード 企業会計、会計原則、会計基準

授業の一般目標 企業会計に関する全般的な知識の習得と会計情報と利害関係者の意思決定支援機能に焦点をあてて各課題を検討していく。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 企業会計に関する基礎知識が把握する。 その他経営の基礎知識を把握する 思考・判断の観点： 取り上げられるテーマについての論点を的確に捕らえているか、議論の展開に矛盾がなく表現できているか。 関心・意欲の観点： 取り上げるテーマに積極的に理解しようと努力しているか。 態度の観点： 提供されているテーマについて積極的に関与できているか。 技能・表現の観点： 報告・レポート等の各自の表現能力が身についているか。 その他の観点： ゼミの運営・進行に寄与できているか。

授業の計画 (全体) テキストにあわせて進めていく。

成績評価方法 (総合) 授業への出席、報告、ゼミ行事への参加等を総合的に評価する

教科書・参考書 教科書： 後日指示する / 参考書： 必要があればその都度指示。

メッセージ 積極的に参加してください。

連絡先・オフィスアワー a.shino@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	鴨川啓信				

授業の概要 文化事象を批評的に捉えるための演習を行う。

授業の一般目標 批評精神を身に付ける。

連絡先・オフィスアワー e-mail: kamogawa@yamaguchi-u.ac.jp 研究室: 経済 A207

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	陳 禮俊				

授業の概要 今日では、人類の生産力（対自然支配力）はかつてなく巨大な水準に到達している。そのため、自然環境の状態は、自然生態系によって決まるといよりは、人間活動のあり方如何によって大きく規定されるという歴史的段階に突入している。それゆえ、人間活動の設計を一步誤るならば、人間活動の基盤そのものを崩壊させてしまうような環境破壊を招く危険性もかつてなく飛躍的に高まっているといわなければならない。こうした現代の環境破壊をめぐる現実とその危険性の一層の高まりは、実は現代の経済学に対する大きな挑戦でもある。ここに新しい学問としての「環境経済学」が誕生せざるを得ない強い現実的要請がある。

授業の一般目標 演習 I で習得した知識を土台に、より高度な環境経済学に関わる文献を輪読し討議する能力を高める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：環境問題の現状、影響及びその原因を理解する。 思考・判断の観点：環境問題を解決するための方策を考える。 関心・意欲の観点：環境問題への関心、理解及び発言内容を考察する。 態度の観点：積極的に出席し討議する。 技能・表現の観点：経済学知識を応用する。 その他の観点：他分野の知識との関連を探る。

授業の計画（全体）ゼミ受講者を主体に、関心を持つ議題を討議した上、文献・書籍を選択し授業計画を立てる。

成績評価方法（総合）成績評価は基本的に、出席（40%）、課題レポート（30%）と報告（30%）で行う。

メッセージ 本ゼミでは、物事を批判的に見る視角、学生の主体性・自主性を重要視する。演習では、事前の予習と活発な討論を期待する。また、教員と学生の関係はもとより、学生同士の結びつきや刺激のしあいを大切に考えている。

連絡先・オフィスアワー 研究室:経済学部 A302室 電話:083-933-5526 E-mail:lichun@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	武本 ティモシー				

授業の概要 文化心理学の研究をさらに深く検討し先行研究を発表してもらえながら、卒論に向かってゼミ生自身の研究プロジェクトを発足してもらうことにする。各人のテーマは、法・経済・観光などのなかから、他社会における現実問題に関わる関心のあるテーマを発見し 1)文化心理の影響を考察 2)調査・実験などの実証的研究を含む 卒論テーマを探索し話し合い、年末までに決定しましょう。 / 検索キーワード 文化・心理・研究・実証

授業の一般目標 文化心理学が提供している問題意識を養って、各自の関心テーマを見つけて卒論に向かったの下準備をし始めること 就職活動情報や就職活動技能についての情報を交換し、キャリアプランニングに取り込む 英語コミュニケーション技能を高める

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：文化心理学の先行研究について知ること 思考・判断の観点：実証的研究の方法論の応用仕方を習得する 態度の観点：自己呈示・自己主調への恐れを克服しようとする姿勢 技能・表現の観点：ペアのみならずゼミ全員に対して発言できるようになること

授業の計画 (全体) ゼミ I で行った先行発表に加え、各自の研究発表も取り入れる。

成績評価方法 (総合) 参加 33% 先行研究発表 33% 独自研究発表 33%

メッセージ 休み中でもいつでも連絡してください。希望がありましたらお伝えください。

連絡先・オフィスアワー timothy@nihonbunka.com

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	朝日幸代				

授業の概要 本授業の目的は、観光および地域経済に関する情報、データを用いて、現在直面する多様な問題や受講生が考える課題に対して、分析を行い、レポート作成までの一環した方法を学ぶことである。これによって、問題を解決のために必要な考え方・そのための能力を養うことが重要になる。そのために、演習 I で学んだ観光や地域経済に関する現状やデータ入手方法を用いて、観光および経済に対する数量分析を行える能力を養うためのコンピュータ実習を行う。各地で行われているイベントの経済波及効果の分析や観光および経済における環境問題についても逐次取り扱う。学生が興味を持つテーマにあわせて、レポート作成やプレゼンテーション技術のサポートを行う他、学生が観光を研究するために必要な体験をしていただける場の提供を検討し、進めていく予定である。

授業の一般目標 ・現実の観光、社会や経済問題について理解をし、それについての情報および関連するデータを収集することができる。 ・授業で取り扱うデータや様々な統計データの特徴や問題点を理解し、経済分析に適切に利用することができる。 ・観光や経済に関するレポートを作成する中で、レポートのテーマに合わせた統計データと分析ができる。 ・取りまとめた分析やレポートを人にわかりやすく、正確に伝えることができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： ・観光および社会や経済の問題について、経済学的な観点で理解することができる。 ・授業で取り扱った統計および計量経済学的手法を理解し、レポート作成時に活用することができる。 **思考・判断の観点：** ・現実の観光や社会、経済の問題について、経済学的な観点から理解したことを、それがどのような意味をもっているのかを思考し、判断できる。 **関心・意欲の観点：** ・観光および社会や経済の問題について、高い関心を持ち、それについて自ら情報収集する。 ・自ら情報収集をしたり、授業で取り扱った内容を用いて、レポート作成に取り組むことができる。 ・ゼミのメンバーの考え方や意見に関心をもつとともに、自らの考え方や意見も積極的に述べるができる。 **態度の観点：** ・学ぶことに積極的かつ真摯に向うことができること。 ・ゼミのメンバーの考え方等も尊重する中で、自分の考えや意見を述べるができる。 ・観光として重要なホスピタリティの精神をもって、なにごとにも対応できる。 **技能・表現の観点：** ・レポートや輪読のレジメ作成において、適切な情報およびデータを用いながら分かりやすく作成することができる。 ・レポートや輪読のレジメの発表において、聞き手の立場に立って分かりやすくプレゼンテーションをすることができる

授業の計画 (全体) 演習 II でも、以下の 4 点をゼミ活動の中で行っていく予定であるが、特に、3. 学生が関心のあるテーマに関する分析とレポート作成を中心に行う。これは、卒業論文にもつながる内容であり、演習 III の準備段階のものである。個別指導を積極的に行い、各人の能力に合わせた指導、将来の進路も視野に入れた指導を行っていく、取り組みの一つである。 1. 観光、地域経済に関する文献の輪読 (観光経済入門をはじめ、その他の観光経済および地域経済の文献を読み、その内容について報告、さらにディスカッションを行う。) 2. 計量経済手法を学ぶための実習授業 (エクセルや計量経済分析用アプリケーションを用いた計量経済分析および産業連関分析を学ぶために、コンピュータ講義室で実習する。自らがデータ分析を経験し、分析結果としてとりまとめる。) 3. 学生が関心のあるテーマに対するレポート報告 (文献の輪読および実習で学んだことを利用し、学生はレポートを作成し、講義中に発表する。レポート作成に必要な文献、コンピューター操作に対するアドバイスをするとともに、パワーポイントを利用したプレゼンテーション方法も講義中に提供する。) 4. 観光地域への訪問研修 (教員と学生が観光地域への訪問を行うことを相談した上で、最終的に本研修の有無を決めるが、可能であれば、集客に成功している観光地域や学生が興味を持っている観光地への訪問研修を行う予定である。)

成績評価方法 (総合) レジメやレポートの作成内容やそれぞれのプレゼンテーションへの取り組み、実習講義やゼミで行う観光研修をはじめとする観光を学ぶための活動への積極的かつ意欲的な参加について評価する。

教科書・参考書 教科書：産業連関分析入門, 宮沢健一, 日本経済新聞社, 2002年；入手すべきその他のテキストは演習所属学生に対して別途紹介する。 / 参考書：Excelによる産業連関分析入門, 井出眞弘, 産業能率大学出版部, 2004年；実践計量経済学入門, 山澤成康, 日本評論社, 2005年；産業連関分析入門, 藤川清史, 日本評論社, 2005年；参考書備考：その他の参考文献は演習所属学生に対して別途紹介する。

メッセージ 経済学科、観光政策学科における経済に関する数多くの授業を積極的に履修して下さい。特に関連科目の履修は演習1で学ぶ内容をより充実することにつながるため、ぜひ履修をお願いしたいと思います。また、演習Iは毎週授業に参加することによって学べる内容も多いため必ず出席をして下さい。このゼミは、学生の皆さんが主役です。学生同士が協力しながら、学ぶことで刺激し合える仲間のゼミになれば、ゼミを担当する者として大変うれしく思います

連絡先・オフィスアワー asahi@yamaguchi-u.ac.jp

卒業論文演習

開設科目	卒業論文演習	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	藤井大司郎				

授業の概要 演習 II に引き続き、前期一杯には「公共経済学第二版」を終える。後期に入ると、卒論作成作業の積み重ねで、全員が1月に作成を完了できるよう、毎回、交代で発表及び相互討論を行う。前期の最初までに卒論テーマを各自決定しておくこと。前期中は、自身で作業を進めておくこと。時々、自習進行状況なども報告いただく。

授業の一般目標 経済学部生にふさわしい論文を作成する能力を身につけ、方法を会得することを目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：最重要。 思考・判断の観点：重要。 関心・意欲の観点：重要。 態度の観点：普通。 技能・表現の観点：普通。

授業の計画(全体) 「公共経済学」は総論部分の後半である租税論、地方財政論、財政政策論に入る。ミクロ経済学、マクロ経済学の応用という面が非常にはっきりと現れてくるころなので、これまでの学部専門の基礎が身についているか、よく自己検証してほしい。 卒論はとにかく書き進める作業を怠らぬように指導を進める。人によっては、これが最初で最後の本格的論文作成となる。学部教育最大の醍醐味を味わって欲しい。

成績評価方法(総合) 毎回の出席状況、担当報告の回数と内容、討論における意見表明などの貢献度を総合評価する。

教科書・参考書 教科書：公共経済学 第二版, J. E. スティグリッツ, 東洋経済新報社, 2003年

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	塚田広人				

授業の概要 各自、卒業論文の研究をする。2年生の終わりに設定したテーマに沿って行う。3年生時に行った成果を発展させる。/ 検索キーワード 効率性、公正性、慈恵性(友愛性)

授業の一般目標 大学入学までと、それ以降現在まで身につけた多様な知識を使いこなし、自分の設定した問題をできるだけ深く考察する。

成績評価方法(総合) 出席点、レポートの内容・水準、の二つで評価します。(無断欠席は厳禁。)

メッセージ がんばりましょう。

連絡先・オフィスアワー E-mail ht@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 083-933-5558, 研究室 A424, オフィスアワー 水: 1時半-3時。ほかの時間でも在室時はいつでも可。

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	植村高久				

授業の概要 相互に問題意識を交換しながら、卒業論文を作成するためのテーマ設定を行い、次に必要な文献の継続的講読を指導する。最後に、卒論の取りまとめ方についての指導を行い、以後は個別指導を通じて、各自の卒業論文の完成度を高める努力を促す。、問題意識の焦点化と

授業の一般目標 明確なテーマを持ち、首尾一貫して、必要な参考文献や関連領域の調査・検討を含む卒業論文を完成させること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：各テーマに必要な不可欠な内容や文献をフォローしていること。
 思考・判断の観点：論文として全体が首尾一貫した主張をもつこと。 関心・意欲の観点：各テーマについて、深い関心と積極的な自発的学習によって書かれていること。 技能・表現の観点：文章作法を守っていることと卒業論文としての体裁及び読みやすさに配慮した表現となっていること。

授業の計画(全体) 7月までは適宜、問題関心に従った報告を行って貰い、テーマの確定に努める。夏休み中に基本的な文献や資料を渉猟しておくことは宿題である。10～11月は、草稿段階の論文を輪読検討する。12月は基本的に個別指導に努める。

成績評価方法(総合) 卒業論文としての作品の完成度のみを評価基準とする。

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	馬田哲次				

授業の概要 各自の卒業論文のテーマに沿って卒論の指導をする。

授業の一般目標 1. 問題設定とそれに対する答えを明確にすること。 2. 設定した問題についての調査を行い、その内容を整理すること。 3. 論理構造をきちんとしたピラミッド構造にすること。 4. 導入部を状況、複雑化、問題、答えの構造にすること。

授業の計画(全体) 原則として、一ヶ月に一度卒論のテーマに沿って発表を行う。4月から5月にかけて問題を設定し、10月までに、先行研究の調査等を行う。11月から12月にかけて、ピラミッド構造をつくり、1月の提出日までに仕上げる。

成績評価方法(総合) 卒論指導の出席、発表と出来上がった卒業論文等を総合的に判断する。

連絡先・オフィスアワー umada@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	兵藤隆				

授業の概要 卒業論文の作成 / 検索キーワード 卒業論文

授業の一般目標 大学四年間の集大成としてふさわしい卒業論文を仕上げることを目標とします。

授業の計画(全体) I. テーマの設定 (1) テーマ設定の動機 (2) テーマをとりまく背景 (3) 予想される論文の帰結の設定 II. 論文構造の設定 (1) 論文の起承転結を考える (2) 論文の軸となる部分を考える III. 論文の作成 (1) 資料収集の方法 (2) 論文執筆のためのルール確認 (3) 軸がぶれていないかどうかをチェック IV. 論文の提出 (1) 訂そのチェック (2) 校正作業 (3) 締め切りを守る

成績評価方法(総合) 論文と呼ぶにふさわしい内容かどうかを厳しくチェックします。

メッセージ 詳しくはゼミのホームページ (<http://thyodo.eco.to>) を参照してください。山口大学経済学部を卒業したと胸を張って主張できるような論文に仕上げてもらいたいと考えています。笑顔で卒業できるように一緒にがんばりましょう。

連絡先・オフィスアワー thyodo@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	寺地伸二				

授業の概要 卒業論文の作成を目指す

授業の一般目標 卒業論文の作成を目指す

授業の計画(全体) 卒業論文作成のための指導を行う。

成績評価方法(総合) 授業態度・授業への参加度(30%)、受講者の発表(30%)、出席(40%)

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	木部和昭				

授業の概要 近代日本経済史に関わる卒業論文作成のための指導を行う。最終的には各人の設定した課題にしたがって卒業論文をまとめる。

授業の一般目標 1, 卒業論文作成のための課題を設定する(論文題目の決定)。2, 課題に関して史資料を収集・分析する。3, 自ら立てたテーマに従って卒業論文を完成させる。

授業の計画(全体) (1)「地域経済の歴史」に関する研究論文、史料の講読を行う。(2) 各自の卒業論文に関する構想報告を行い、論文題目・テーマ等を決定する。(3) 各自の卒業論文の課題に関連した論文・史料等を講読する。(4) 各人の設定した課題に基づいて、卒業論文作成に向けた個別指導を行う。(5) 卒業論文提出後、口頭試問を行う。

成績評価方法(総合) 卒業論文の内容および口頭試問(80%)、受講者による報告(15%)、授業への取組(5%)で成績を評価する。出席の悪い学生は、卒業論文指導を受講していない訳であるから、提出しても卒業論文を受理しない。

教科書・参考書 教科書：特に指定しない。必要な場合は論文等を印刷して配布する。/ 参考書：各人の卒業論文のテーマにより、参考文献は多岐にわたる。これに関しては指導の過程で個別に紹介する。

メッセージ ・就職試験等で忙しくなると思われるため、早めに卒業論文に取り組んで欲しい。 ・欠席が多いと卒業論文を受理しない(=卒業できない)ので注意すること。 ・卒業論文はレポートではない。不十分な卒業論文については書き直しを要求したり、不合格とする。 ・就職試験等で休む場合は、事前連絡を忘れないこと。

連絡先・オフィスアワー 経済学部 C207 研究室 内線 5566 E-mail ; kibe@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	野村淳一				

授業の概要 演習の最終目的は、各自が自分の研究テーマを決め、卒業論文を完成させることです。卒業論文は経済理論と統計学(計量経済学)を用いることを必要とします。卒業論文演習では、演習IIの終わりに選んだテーマについて、(1)先行研究のサーベイ、(2)関連データの収集、(3)分析手法(理論、統計、ソフトウェア)の修得、を更に深め、適宜進行状況について報告をしてもらいます。論文作成が中心になるので、執筆中に出た疑問については随時質問に来ること。

授業の一般目標 ・現実の社会・経済問題について、モデルを構築し、検証・考察ができるようになる。 ・実際のデータのもつ特徴・問題点を理解し、計量分析を適切に利用できるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：標準的なマクロ経済理論を理解できている。基本的な統計学の手法を修得している。自分のテーマに関する先行研究、統計データ、分析手法を理解できている。思考・判断の観点：現実の経済現象を理論的に考察し、政策や外的ショックの効果を判断できる。関心・意欲の観点：現実の経済・社会問題に関心を持ち、その背景を統計資料に基づいて整理できる。態度の観点：事前の準備を十分にいき、他者の発表に対しても真摯に議論できる。技能・表現の観点：発表資料を効果的に作成し、明快な発表ができる。統計データを正しく処理し、形式的にも十分に整った報告書・論文が作成できる。

授業の計画(全体) 卒業論文演習では、演習IIの終わりに選んだテーマについて、(1)先行研究のサーベイ、(2)関連データの収集、(3)分析手法(理論、統計、ソフトウェア)の修得、を更に深め、適宜進行状況について報告をしてもらいます。夏休み中に合宿を行い、卒業論文の中間発表をしてもらいますので、不十分な点を自覚し、最終的な論文のイメージを固めましょう。12月までに論文を一通り仕上げ、提出前に必ず一度私のチェックを受けて下さい。必要な訂正・補足などを加え、卒業論文は完成となります。卒業論文提出後、3月前後に卒業論文報告会を行いますので、卒業論文で得られた結論、自分の主張について、効果的な発表が出来るように準備して下さい。

成績評価方法(総合) 授業における態度(発表、質問等)と参加意欲により判定する(評価割合100%)

教科書・参考書 教科書：卒業論文に関連する文献。

メッセージ 演習IIでは、論文を共同作業として書いているので自分が十分に理解していなくても論文は完成しますが、卒業論文では全てを自分で書かなくてはなりません。完成後の全体のイメージを持ち、必要な準備を行って下さい。疑問点が出た場合は、遠慮なく研究室に来ること。卒業論文は大学生生活の集大成ですので、自分の持っている能力を最大限に活かし、納得のできる論文を作成して下さい。

連絡先・オフィスアワー nomuraj1@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワーは週3回、1時間程度設ける(講義中に指示)。

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	仲間瑞樹				

授業の概要 卒論として扱いたいテーマに沿った発表をしてもらう。また各自のテーマ、発表内容について、ゼミ生からの質疑応答を受けつけ、各自の卒論にコメントを活かしてゆく。 / 検索キーワード 卒論作成、文章作成

授業の一般目標 自分が作成した！おれの、わたしの卒論と言えるような卒論を仕上げること。 他のゼミ生が読んでも理解してもらえるような卒論を作成すること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 今まで経済学部で履修した各科目の知識を卒論に反映していること。 思考・判断の観点： 他人の受け売りではない、自分の考えを卒論に反映していること。 技能・表現の観点： わかりやすい文章表現であること。

授業の計画(全体) 毎回、卒論発表者を割り当て、今、自分が何をしているのか発表すること。 また自分が卒論作成で悩んでいること、どうしたらよいかわからないことを含めて話をしてもらう。それら発表をうけて、教員や他のゼミ生が自由にコメントをする。じっくり発表してもらいたいので、ゼミ1回あたり2から3名の発表者を予定している。

成績評価方法(総合) 卒論発表、資料作成、卒論そのものから評価する。

教科書・参考書 教科書： 各自の卒論テーマに沿った参考文献を紹介する。

メッセージ 皆さんにとって最後の仕上げの年です。いい年にしましょう。なお就職活動で忙しく、ゼミに参加できない場合、必ずメールで連絡を下さい。

連絡先・オフィスアワー 何かありましたら nakama73@yamaguchi-u.ac.jp までどうぞ。

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	濱島清史				

授業の概要 3年次までに提出したレポートならびにパワーポイントを用いたプレゼンでやった内容に基づいて、さらに各自の関心分野に基づいて、卒論を仕上げていく。卒論の基本も、これまでのレポートと同様に、各自の関心のある産業・企業・職能あるいは社会政策等について、はじめに(導入) 3節ほどの構成 おわりに(結語)と論理展開すること。/ 検索キーワード 卒論、自己実現、卒業、就職

授業の一般目標 卒論に関して、十分なレベルの論文をものにする。卒論に関する到達目標は以下のとおりである。まず、先行研究のサーベイとして参考文献を最低50本くらいは読破していけるようになること。次に、テーマに関連する統計データから数値を入力して、数十枚のグラフを作成し、ファクト・ファインディングを行なえること。そういった文献や統計などの情報収集能力を高めること。そして、論文は自分の意見に沿って様々な論者の見解を引用していくように進めていくこと。その際、注釈を用いること。それから、ここは特に丹念に調べた、時間を費やして資料を作成したという‘売り’を作れるようにすること。最後に、主張は何なのか、一言で述べられることが望ましい。できれば、オリジナリティも求めたい。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：教養を広め、専門知識を深めること。新聞やテレビ・ドキュメンタリーなども日常的にみる。思考・判断の観点：論理的思考能力を養うこと。変化に応じて、的確に判断を下せるようになること。総じて、課題・問題を発見し、原因を分析し、改善できるようにすること。関心・意欲の観点：主体的に自己の専門を深めながら、あらゆる分野に関心を持つこと。態度の観点：主体性、自己啓発、生涯学習。生涯学習は単に一般教養でなく、自分の仕事、専門に関連することを中軸に据えること。技能・表現の観点：プレゼンテーション、ディスカッション、ディベートでは、論理的展開能力、声の大きさ、身振り手振り、アイコンタクト、表情の豊かさなどに磨きをかけてもらいたい。その他の観点：リーダーシップも発揮すること。社会的貢献を志してもらいたい。

授業の計画(全体) 卒論の指導を適宜行なっていく。基本的に、就職活動がなければ、週に一回はゼミに集って、情報交換や団欒をしてもらいたい。一般に、学生の知識や思考能力は、1年生から4年生に掛けて段階的に向上していく。4年生という重要な時期に、就職活動と卒論だけに傾注し、輪読形式の演習を行なわないのは損失ともいえる。是非、輪読形式の演習もやっていきたい。

成績評価方法(総合) 主に卒論による。卒論の発表会も評価に入りうる。

メッセージ 自己実現：なりたい自分になれるように。みんな卒業・就職できますように。満足のいく卒論が書けますように。

連絡先・オフィスアワー : 083 - 933 - 5521。Eメール・アドレス : hamakiyo@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	鍋山祥子				

授業の概要 各自の卒業論文の作成をおこなう。個別指導に加え、ゼミ員相互の報告と意見交換を踏まえながら、完成度の高い卒業論文の作成を指導していく。

授業の一般目標 ゼミ員相互の論文報告をおこないながら、互いの論文に関与しつつ、みずからの論文の完成度を高めていく。

成績評価方法(総合) 自分の卒業論文執筆への取り組み度合いを評価する、また同時に、他のゼミ員の卒業論文報告への関与度合いも重視する。

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	橋本寛				

授業の概要 演習 I および演習 II における集団的意思決定の基礎についての考察をもとにして卒業論文の作成に着手する。

授業の一般目標 卒業研究を行うとともに卒業論文の完成をめざす。

授業の計画(全体) 演習 II のときのテキストの残りを読むとともに、卒業論文作成のための準備をして順次作成作業を進める。

成績評価方法(総合) 卒業論文、出席などによる。

教科書・参考書 教科書：意思決定支援とグループウェア, 宇井, 共立出版

連絡先・オフィスアワー 経済学部 A227、オフィスアワーを設ける予定

開設科目	卒業論文演習	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	中田範夫				

授業の概要 各自の卒業論文の作成を指導する。学生個々人が選択した卒業論文のテーマに従って報告してもらい、それに対して、内容や文献についてのコメントを行う。

授業の一般目標 卒業論文を作成することによって、自分が選択した領域における知識を深めることが目標である。また、論文を制作する過程で、参考文献や引用文献の示し方、自分の意見と他人の意見の示し方を身につけることも目標の一つである。

授業の計画(全体) 1回の授業で3 - 4人の学生に卒業論文のたたき台を報告してもらい、それに対して議論・コメントする。

成績評価方法(総合) 授業への出席、報告および参加度合いについて評価する。

教科書・参考書 教科書：テキストは使用しない。

メッセージ 授業への出席を重視するので「出席」ができる学生。

連絡先・オフィスアワー 研究室：内線5556

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	古川澄明				

授業の概要 2年、3年の間に研究してきたテーマを卒業論文にまとめる。論文は、テーマ、内容及び方法の独創性を問われる。科学的に説得力のある、ユニークなビジネス・モデルの提案は、高く評価される。/ 検索キーワード 自分に投資し、自分の能力を開発し、自分を育てよう。

授業の一般目標 オリジナリティのある卒業論文をしあげること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 企業やそのマネジメントについて、ケーススタディを実施するための経営学の基礎知識を身に付ける。ビジネスモデルの独自の設計を目標とする。 思考・判断の観点： 独自のテーマ設定を行うので、テーマと研究方法の独創性を重視する。したがって、オリジナリティを問われる。深い思考力や、テーマや研究方法の妥当性を身に付けるために、幅広く知識を身に付けることが望ましい。 関心・意欲の観点： ゼミでは、研究の独創性を重視するので、自分で関心のある、意欲的に取り組めるテーマを設定し、独自の研究成果を出すことが求められる。 態度の観点： 研究は当初、チームで行い、やがて個人研究へシフトすることになる。チームでも、個人でも、積極的に、意欲的に取り組むことが重要である。課題を自分で見つける楽しさがあるが、独自の課題を見つけるまでの困難もあり、それが自分を自分の力で育てることになる。ゼミでは、自分を自分で育てる、という観点を重視する。 技能・表現の観点： PCの利用に習熟すること。ワープロ、表計算、プレゼンテーションのためのパワーポイントの利用は、普通のこととする。ビジネスモデルの開発のために、各種のプログラムを利用することを勧める。 その他の観点： ゼミの原則は、楽しいこと。ゼミ全員が楽しく学べることである。ゼミは、メンバー全員で作るものという考えを持つこと。各メンバーは、研究でも勉強面でも、ゼミに楽しさを提供する努力を求められる。積極的にサービスを提供することで、自分もサービスを受けるとというのが、ゼミの原則である。

授業の計画(全体) 論文の発表を中心にして、論文作成方法、内容、方法などを指導する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 企業事例研究
- 第 2 回
- 第 3 回
- 第 4 回
- 第 5 回
- 第 6 回
- 第 7 回
- 第 8 回
- 第 9 回
- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回
- 第 16 回
- 第 17 回
- 第 18 回
- 第 19 回
- 第 20 回
- 第 21 回

- 第 22 回
- 第 23 回
- 第 24 回
- 第 25 回
- 第 26 回
- 第 27 回
- 第 28 回
- 第 29 回
- 第 30 回

成績評価方法 (総合) 全体的に評価する。とくに積極性、プレゼンテーションの善し悪し、独創性を重視する。

教科書・参考書 教科書：必要に応じて、あらゆる経営学図書を利用する。 / 参考書：必要に応じて、あらゆる経営学図書を利用する。

メッセージ ゼミ活動を通じて、積極性、協調性、組織統率能力、報告書作成能力、自己管理能力、プレゼンテーション能力を養おう。

連絡先・オフィスアワー 事前アポにて、常に面会可能。メールを相互連絡で常に使うので、メールアドレスを変更したら、連絡してください。

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	成富敬				

授業の概要 卒業論文の作成を目標に、テーマの絞り込みと研究内容についての発表をおこなう。

授業の一般目標 卒業論文の作成。

成績評価方法(総合) 出席状況、発表状況および成果物などをもとに、評価します。

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	有村貞則				

授業の概要 卒業論文の完成に向けて各自が各自の卒論を章ごとに発表し、ディスカッションを行う。

授業の一般目標 1. 卒業論文テーマと構成を考える。 2. 卒論の書き方、表記方法などについて学習する。 3. プレゼンと質疑応答に慣れる。

授業の計画(全体) 卒業論文作成のための指導と発表

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 卒業論文テーマの発表
- 第 2 回 項目 卒業論文テーマの発表
- 第 3 回 項目 個人発表
- 第 4 回 項目 個人発表
- 第 5 回 項目 個人発表
- 第 6 回 項目 個人発表
- 第 7 回 項目 個人発表
- 第 8 回 項目 個人発表
- 第 9 回 項目 個人発表
- 第 10 回 項目 個人発表
- 第 11 回 項目 個人発表
- 第 12 回 項目 個人発表
- 第 13 回 項目 個人発表
- 第 14 回 項目 個人発表
- 第 15 回 項目 個人発表
- 第 16 回 項目 個人発表
- 第 17 回 項目 個人発表
- 第 18 回 項目 個人発表
- 第 19 回 項目 個人発表
- 第 20 回 項目 個人発表
- 第 21 回 項目 個人発表
- 第 22 回 項目 個人発表
- 第 23 回 項目 個人発表
- 第 24 回 項目 個人発表
- 第 25 回 項目 個人発表
- 第 26 回 項目 個人発表
- 第 27 回 項目 個人発表
- 第 28 回 項目 個人発表
- 第 29 回 項目 個人発表
- 第 30 回 項目 個人発表

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	山下訓				

授業の概要 卒業論文の作成を指導する。(会計専攻)

授業の一般目標 卒業論文を完成させる。

メッセージ 就職活動が忙しい学生諸君もいるでしょうが、休む場合には事前にメールを送ること。勉学と就職活動をきちんと両立させること。

連絡先・オフィスアワー yamasita@yamaguchi-u.ac.jp 5518

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	山下訓				

授業の概要 会計学演習 II に続いて、卒業論文を作成する。(税務専攻)

授業の一般目標 会計学演習 II で設定した課題をこなしながら、卒業論文作成の訓練を行う。

成績評価方法 (総合) 出席と発表によって評価する。

メッセージ 就職活動で忙しい時期もあるでしょうが、就職活動で休む場合にはメールを事前に送ること。メリハリをつけて、勉強と両立して下さい。

連絡先・オフィスアワー yamasita@yamaguchi-u.ac.jp 5518 参加者と相談して設定する。

開設科目	卒業論文演習	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	柳田卓爾				

授業の概要 卒業論文指導を行う。

授業の一般目標 卒業論文を完成させる。

授業の計画(全体) 卒業論文の指導を行う。

成績評価方法(総合) 卒業論文、プレゼンテーションによる。

メッセージ 卒業論文は、3年間のゼミ活動の集大成です。がんばりましょう。

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	澤喜司郎				

授業の概要 卒業論文の完成を目指して研究報告を行う。

授業の一般目標 卒業論文を完成する。

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	横田伸子				

授業の概要 卒業論文作成のための研究発表と指導

授業の一般目標 卒業論文の作成

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1．卒業論文の作成に必要な文献・資料を探ることができる。 2．卒業論文作成に必要な文献・資料を読んで理解することができる。 思考・判断の観点： 1．卒業論文のテーマに沿った実証分析をすることができる。 関心・意欲の観点： 1．卒業論文作成のために必要な文献・資料を主体的に・自主的に探そうという意欲がある。 態度の観点： 1．卒業論文指導に毎回欠かさず出席する。 2．卒業論文作成のための討論に積極的に参加する。 技能・表現の観点： 1．卒業論文を正確な日本語で、論理的に叙述できる。

授業の計画(全体) 1．前期中に卒業論文の第一回構成を提出し、概要報告を行う。 2．秋合宿で卒業論文の第二回報告を行う。 3．12月中旬までに卒業論文の初稿提出。 4．1月に完成 提出。 5．2月末までに最終修正を行い、様式を整え卒業論文集として製本。

成績評価方法(総合) 1．主に卒業論文の内容によって評価を行う。 2．年間を通じて5回以上欠席した場合には単位を与えない。

メッセージ 4年間の勉強の成果を、余すところなく卒業論文に結実させてほしい。

連絡先・オフィスアワー ゼミナールの学生についてはとくにオフィスアワーを設けません。電話やメールなどで在否を確かめてから訪ねてください。内線) 5 5 5 9、E-mail) ynobuko@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	田淵太一				

授業の概要 卒業論文を完成させるまでの、テーマ設定、資料調査、執筆、修正の各段階を個別に指導する。

授業の一般目標 4年間の大学生活の集大成である卒業論文を完成させること。

授業の計画(全体) 各人の進路決定状況に合わせて個別に指導する。

成績評価方法(総合) 卒業論文で評価する。

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	李海峰				

授業の概要 ・1年間をかけて卒業論文を作成する。 ・卒業論文の作成基本方法から論文の構成、まとめ方について指導する。 テーマ選定、参考文献資料の収集、論文の仮説、データの収集、分析、結論、今後の課題/検索キーワード 卒業論文の作成、

授業の一般目標 研究課題、参考文献資料の収集、論文の仮説、データの収集、分析、結論、今後の課題などについて指導し、優秀な卒論を書かせることを目標にしている。

教科書・参考書 参考書：参考書リストは配布します

メッセージ おもしろい知的な道を探求しましょう！

連絡先・オフィスアワー 研究室

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	尹春志				

授業の概要 各自のテーマに則して卒業論文の作成上の作法を学び、卒業論文を完成させる。

授業の一般目標 卒業論文を完成させる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：各自のテーマについて基礎的な知識をみにつける 思考・判断の
 観点：各自のテーマにそくして自分の考え方を視角を養う 関心・意欲の観点：社会・政治・経済事象
 のなかから関心もてるテーマを探す 技能・表現の観点：卒業論文も学术论文である以上、それに必
 要な作法を学ぶ

授業の計画(全体) 毎回各自の卒業論文のテーマに則した報告を行い。全体で検討しつつ、最終的には
 卒業論を完成させる。

成績評価方法(総合) 基準に見合う卒業論文の作成

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	豊嘉哲				

授業の概要 卒業論文を執筆する。テーマは、教員と学生の話し合いの上、4月中に決定する。

授業の一般目標 卒業論文を作成する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 選択したテーマを論じるにあたって、基礎的知識を備えている。
 思考・判断の観点： 基礎的知識を身につけた上で、自分の見解を述べることができる。

授業の計画(全体) 4月中に論文のテーマを設定し、年内に卒業論文を書き上げる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 テーマの設定

第 2 回 項目 テーマ決定後、資料収集、論文執筆。

第 3 回 項目 同上。以下同じ。

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

成績評価方法(総合) 卒業論文の内容により評価する。

連絡先・オフィスアワー yyutaka@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	卒業論文演習	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	平中貫一				

授業の概要 卒業論文の完成を目標に発表等の指導を行う。

授業の一般目標 卒業論文の完成。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：民法に関する専門的知識の修得。

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	柳澤旭				

授業の概要 各自、論文テーマを決め、文献を収集し進捗状況を順に毎週報告する。

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	上杉信敬				

授業の概要 行政法に関する諸問題。すでに2年間行政法に関して学習してきた。その上に立って、その中から各自自分の興味を引くテーマを絞り込んでそれに関して深め卒論としてまとていく。さらにそれと平行して、各自が興味を持つ問題領域に関してさらに学習を深めていく。どのようなものに関して行うかは協議して決める。

授業の一般目標 4年間の学習を総括するつもりで、行政と法に関して、あるテーマに関して卒論にまとめ上げる。さらに他に人のテーマやその他行政法に関して一定の理解をもつ。ゼミ生間の交流も行う。

成績評価方法 (総合) 年度末の提出論文の評価が大部分である。その他演習時の発表や出席状況。

教科書・参考書 教科書：ゼミの開始の際に相談して決める。 / 参考書：ゼミの開始の時に協議する。

連絡先・オフィスアワー C203 研究室(内線5588)

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	澤田 正				

授業の概要 卒業論文の作成を各自のプロジェクトととらえ、各自が計画-実行-チェックというプロセスを自らマネジメントするとともに、チームとしてのゼミメンバーによる協働を適宜取り入れることで、期限内にゆとりを持って質の高い論文が作成されるというゴールの達成を目指す。

授業の一般目標 大学生活のひとつの締めくくりとして、卒業論文のテーマを見つけ、論文の構想を練り、資料を集め、執筆スケジュールを考え、文章化し、期日までに卒業論文に仕上げる一連の過程を学生が自らセルフマネジメントして目標達成すること。それによりマネジメントのセンスと能力を身につけること

メッセージ 自ら進んで、早め早めに対応することがすべてに通じる大事なことです。

連絡先・オフィスアワー (TEL)083-933-5580 (メール)sawadat@yamaguchi-u.ac.jp (オフィスアワー) 月曜日 10時30分~12時、水曜日 10時30分~12時、

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	三間地光宏				

授業の概要 卒業論文を作成する

授業の一般目標 卒業論文を作成する

授業の到達目標 / その他の観点： 法学士の称号を与えられるに相応しい卒業論文をまとめること。

授業の計画(全体) 前期にテーマを選定し、後期は途中経過の報告を行う。

成績評価方法(総合) 提出された卒業論文により評価する。

開設科目	卒業論文演習	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	中村美紀子				

授業の概要 本演習では、前期において演習Ⅱに引き続き会社法判例を扱います。あらかじめ割り当てられた判例について、報告者の報告にもとづいて討論を行います。後期からは、ゼミ生各々の卒業論文作成に入ります。/検索キーワード 会社法・企業法・企業組織法

授業の一般目標 会社法について自らのテーマをもったゼミ生が卒業論文を作成します。

授業の計画(全体) 演習開始時にゼミ生と相談して決めたいと思います。

成績評価方法(総合) (1) 割り当て箇所の記事をどのように工夫して行ったか、(2) レジユメの作成についての工夫および提出期限の遵守、(3) 討論への参加の度合い、について自主性(各15%×3)と発展性の観点(各15%×3)から評価し、そこにゼミへの貢献度(10%)を加味します。遅刻は3回で1回欠席とみなし、出席70%以上が単位認定要件です。

教科書・参考書 教科書: テキストブック会社法, 末永敏和[編著], 中央経済社, 2006年 / 参考書: 会社法判例百選, 江頭憲治郎他[編], 有斐閣, 2006年

メッセージ 2007年六法必携です。欠席が避けられない場合は、直接・事前の連絡を厳格なルールとします。

連絡先・オフィスアワー 研究室C棟209、オフィスアワー火曜日10:20-11:50。

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	石 龍潭				

授業の概要 講義や演習などで学んできた知識の集大成として、卒業論文を作成する。

授業の一般目標 論文の書き方を学び、卒業論文を正しく作成してもらうことを一般目標とする。

授業の計画(全体) 論文の書き方の概要を学び、各自が関心を持ったテーマを卒業論文として完成させるまでの過程・注意事項などを説明しつつ、詳細については、適宜受講生と相談しながら指導する。

成績評価方法(総合) 具体的には、次の点から評価を行いたい。(1) 法律関係の基本的知識が身についているか。(2) 関心を持ったテーマに意欲的に取り組んでいるか。(3) 授業に積極的に参加しているか。(4) 自己の知識、主張を適切に表現できるか。

メッセージ より良い卒論できるように、一緒に頑張りましょう。

連絡先・オフィスアワー 質問等のある学生は、気軽に私の研究室にきてください。(研究室:経済学部 A 棟 408 号室)

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	柳井健一				

授業の概要 卒業論文を執筆する。

授業の一般目標 卒業論文に求められる水準を達成する。

成績評価方法(総合) 出席状況および卒業論文の内容に基づいて評価する。

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	マルク・レール				

授業の概要 卒業論文執筆のための指導である。

授業の一般目標 1. 卒論執筆のための研究計画を立てる。 2. 研究発表と卒論執筆。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 自分の卒論テーマに必要な知識を取得する。 2. 論文の構造を理解する。 思考・判断の観点： 論文構成や内容について判断する。 関心・意欲の観点： 幅広く自分の研究テーマに関して調べる意欲を持つ。

授業の計画(全体) 毎回、卒論執筆者による発表とディスカッション、そして執筆指導を行う。

連絡先・オフィスアワー maru@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	卒業論文演習	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	陳禮俊				

授業の概要 今日では、人類の生産力(対自然支配力)はかつてなく巨大な水準に到達している。そのため、自然環境の状態は、自然生態系によって決まるといよりは、人間活動のあり方如何によって大きく規定されるという歴史的段階に突入している。それゆえ、人間活動の設計を一步誤るならば、人間活動の基盤そのものを崩壊させてしまうような環境破壊を招く危険性もかつてなく飛躍的に高まっているといわなければならない。こうした現代の環境破壊をめぐる現実とその危険性の一層の高まりは、実は現代の経済学に対する大きな挑戦でもある。ここに新しい学問としての「環境経済学」が誕生せざるを得ない強い現実的要請がある。

授業の一般目標 演習Ⅰ・演習Ⅱで習得した知識を土台に、より高度な環境経済学に関わる文献を輪読・討議しながら、独創的な研究論文を執筆する能力を高める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：環境問題の現状、影響及びその原因を理解する。 思考・判断の観点：環境問題を解決するための方策を考える。 関心・意欲の観点：環境問題への関心、理解及び発言内容を考察する。 態度の観点：積極的に出席し討議する。 技能・表現の観点：経済学知識を応用する。 その他の観点：他分野の知識との関連を探る。

授業の計画(全体) ゼミ受講者を主体に、関心を持つ議題を討議した上、文献・書籍を選択し執筆計画を立てる。

メッセージ 本ゼミでは、物事を批判的に見る視角、学生の主体性・自主性を重要視する。演習では、事前の予習と活発な討論を期待する。また、教員と学生の関係はもとより、学生同士の結びつきや刺激のしあいを大切に考えている。

連絡先・オフィスアワー 研究室:経済学部 A302室 電話:083-933-5526 E-mail:lichun@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	松浦良行				

授業の概要 データ分析に基づく、企業の競争力分析を実施し、卒業論文とする。

授業の一般目標 論理の一貫性を持ち、説得力のある文章を記述する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 必要十分なデータを自分で入手できる。 思考・判断の観点： 論理的な整合性ある文章を記述できる。 関心・意欲の観点： 一年間計画的に作業を継続できるだけの仮説を構築し、それに基づく実施可能なアクションプランを策定できる。 態度の観点： 論文の完成まで着実に努力できる。

成績評価方法 (総合) 上記を総合的に判断して評価する。

連絡先・オフィスアワー matu@yamaguchi-u.ac.jp

教職に関する科目等

開設科目	教職概論	区分	講義	学年	その他
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	滝沢 潤				

授業の概要 教員免許状の取得を希望する者に対して、教師をとりまく状況、教職の意義、魅力、教員の役割、職務内容、組織としての学校、教職観の変遷等について講義する。/ 検索キーワード 教師、教育職員、学校教育、教員免許状

授業の一般目標 (1) 教師をとりまく状況、教職の意義、魅力について理解し、教員の役割、職務内容等についての基礎的な知識を習得する。(2) 自己の教師としての適性を考えさせるとともに、教職への意欲や一体感の形成を促す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：教師をとりまく状況、教職の意義、魅力について理解する。教員の役割、職務内容を説明できる。思考・判断の観点：教師をとりまく状況、教職の役割等について検討することができる。関心・意欲の観点：教職について関心をもち、その意義と役割を主体的に考えることができる。様々な観点から自己の教師としての適正を考えることができる。態度の観点：教師を巡る諸問題について、論理的、協調的な議論ができる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション 内容 授業の目的・概要の説明、教師とは誰か？ 授業外指示 シラバスを読んでおくこと。
- 第 2 回 項目 教師－生徒関係
- 第 3 回 項目 教科等の指導
- 第 4 回 項目 子どもの学ぶ意欲を伸ばす
- 第 5 回 項目 学級経営と教師
- 第 6 回 項目 生徒指導
- 第 7 回 項目 家庭・地域社会と学校
- 第 8 回 項目 教師の問題行動とメンタルヘルス
- 第 9 回 項目 学校の管理・運営と教師(1)
- 第 10 回 項目 学校の管理・運営と教師(2)
- 第 11 回 項目 教員の身分と服務(1)
- 第 12 回 項目 教員の身分と服務(2)
- 第 13 回 項目 教師の資質向上
- 第 14 回 項目 学校像の再構築
- 第 15 回 項目 期末試験

成績評価方法(総合) (1) 授業の中で小テストを行う。(2) 期末試験の論述問題をあらかじめ提示し、解答案を作成させる。(3) 最終回に期末試験を行う。

教科書・参考書 参考書：適宜指示する。

開設科目	教育原論	区分	講義	学年	その他
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	某				
<p>授業の概要 未定</p> <p>授業の一般目標 未定</p>					

開設科目	教育心理学	区分	講義	学年	その他
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	田 権一				

授業の概要 教育心理学の父と呼ばれているヘルバルトは「教育の目標は倫理学で、方法は心理学で体系づけられる」としている。受講者が、将来、教育現場で教育実践効率化のために活かせるような、心理学の実証的知見や具体例を挙げて説明する。授業外レポートとして、当日指名された受講者は、その時間のテーマについて、ノートを完成させ、考察した内容（ノートレポート）を提出することになる。 / 検索キーワード 教育, 心理学, 発達, 家庭教育, 学習, 人格, 学級経営, 教育評価

授業の一般目標 (1) 受講者が、教職を目指す者として教育心理学的問題への関心や理解を深めることを目指す。(2) 身近な問題として理解するだけでなく、専門の立場から具体的に考えることや対応を志向する契機となることを目指す。教育や心理学関連の分野での文書表現の契機となることを目指す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：1. 教育心理学各領域の基礎知識を説明できる。 思考・判断の観点：1. 生徒の立場を把握し、教師の立場から適切な判断できる。 関心・意欲の観点：1. 問題意識を高めることができる。 態度の観点：1. 日常生活の中で主体的に考えることができる。 技能・表現の観点：1. 身近な問題を文書表現できる。

授業の計画（全体）教育と心理学、教育心理学研究法、被教育者としての生徒の発達、家庭教育、認知と学習、人格と防衛機制、学級経営とリーダーシップ、教育評価の種類と方法、について、順に、各テーマを1～3回に分けて、説明する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 教育と心理学 < BR > 教育心理学の定義 授業外指示 ノートレポートの書き方
- 第 2 回 項目 心理学研究法
- 第 3 回 項目 被教育者について 内容 発達段階 ほか
- 第 4 回 項目 家庭教育 内容 親子関係 ほか
- 第 5 回 項目 学習 内容 学習の原理
- 第 6 回 項目 学習 内容 VTR (学習の原理)
- 第 7 回 項目 学習 内容 授業理論
- 第 8 回 項目 人格 内容 生徒指導と人格理論
- 第 9 回 項目 人格 内容 適応と防衛機制
- 第 10 回 項目 人格 内容 VTR (スクールカウンセラー)
- 第 11 回 項目 学級経営 内容 集団の理解
- 第 12 回 項目 学級経営 内容 リーダーシップ
- 第 13 回 項目 教育評価 内容 評価の意味と種類
- 第 14 回 項目 教育評価 内容 指導要録
- 第 15 回 項目 討論

成績評価方法（総合）(1) 所定以上の出席状況（欠格条件）、(2) レポート課題（電子メールによる提出も可）、(3) 授業最後に実施するテスト結果。 これらを資料として評価する。

教科書・参考書 教科書：心理学から見た教育の世界、藤土圭三（監修）、北大路書房、1994年 / 参考書：心理学辞典、中島義明ほか、有斐閣、1999年；適宜、補助資料を配布する。

連絡先・オフィスアワー E-mail: tasaki@frontier-u.jp

備考 集中授業

開設科目	教育法規	区分	講義	学年	その他
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	吉田 香奈				

授業の概要 教育法規を初めて学ぶ学生を対象に、日本の教育制度を規定する法令・規則について解説する。生涯学習の概念について概説した後、学校教育の制度、教育を受ける権利の保障、教育課程の編成、児童生徒の在学管理と懲戒、教育職員の職務、教育行政、社会教育に関する法規について説明する。 / 検索キーワード 教育法規、生涯学習、教育制度、学校教育

授業の一般目標 教育に関する基本的な法規を理解し、教育の諸問題について法的な観点から説明できる

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：教育に関する基本的な法規を理解する 思考・判断の観点：教育の諸問題について法的な観点から説明できる

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イン트로ダクション 内容 シラバス、教科書第 1 章
- 第 2 回 項目 学校教育と法規 内容 教科書第 2 章
- 第 3 回 項目 学校教育と法規 内容 教科書第 2 章
- 第 4 回 項目 教育を受ける権利の保障と法体系（1） 内容 教科書第 3 章
- 第 5 回 項目 教育を受ける権利の保障と法体系（2） 内容 教科書第 3 章
- 第 6 回 項目 教育課程の編成と法規（1） 内容 教科書第 4 章
- 第 7 回 項目 教育課程の編成と法規（2） 内容 教科書第 4 章
- 第 8 回 項目 児童・生徒の在学管理と懲戒に関する法規（1） 内容 教科書第 5 章
- 第 9 回 項目 児童・生徒の在学管理と懲戒に関する法規（2） 内容 教科書第 5 章
- 第 10 回 項目 教育職員の職務と法規（1） 内容 教科書第 6 章
- 第 11 回 項目 教育職員の職務と法規（2） 内容 教科書第 6 章
- 第 12 回 項目 教育行政の推進と法規（1） 内容 教科書第 7 章
- 第 13 回 項目 教育行政の推進と法規（2） 内容 教科書第 7 章
- 第 14 回 項目 社会教育の推進と法規 内容 教科書第 8 章
- 第 15 回 項目 期末試験

成績評価方法（総合） 最終回に期末試験を行う。

教科書・参考書 教科書：生涯学習時代の教育と法規，田代直人編，ミネルヴァ書房，2003 年 / 参考書：適宜指示する。

メッセージ 教科書を必ず購入すること。

連絡先・オフィスアワー 大学教育センター吉田（共通教育棟 3 階） Email: ykana@yamaguchi-u.ac.jp、
オフィスアワー：火曜日 14:00-16:00

開設科目	教育方法学(教育課程,情報機器及び教材を含む。)	区分	講義	学年	その他
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	岸光城				

授業の概要 高等学校・中学校における「各教科」、「総合的な学習の時間」の授業実践を視野にいれて、その教育作用の全体構造を概観しつつ、授業における教育方法を具体的に説明する。 / 検索キーワード 教育方法, 授業, 教育課程

授業の一般目標 (1) 学校における「授業」の意義・役割を理解する。 (2) 授業における指導方法の基本を具体例を通して学ぶ。 (3) 現代教育方法理論を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 各指導方法がイメージできる。 思考・判断の観点: 本授業内容を自己の過去の授業体験と結びつけて考えることができる。 関心・意欲の観点: 学校の授業に対する問題意識と興味関心を高めることができる。 態度の観点: 将来の授業実践を意識して大学生生活・学習への取り組み姿勢を高めることができる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目「教育」とはな < BR > にか 内容 林竹二「授業巡 < BR > 礼」の視聴
- 第 2 回 項目 学校教育作用の < BR > 構造 内容「教授」と「教 < BR > 育」のバランス < BR > と協同
- 第 3 回 項目 高等学校教育課 < BR > 程の基本
- 第 4 回 項目 授業設計の方法 内容「学習指導案」 < BR > の基本と実例
- 第 5 回 項目 授業形態と指導 < BR > 方法 I 内容 一斉授業
- 第 6 回 項目 授業形態と指導 < BR > 方法 II 内容 小集団指導
- 第 7 回 項目 授業形態と指導 < BR > 方法 III 内容 個別指導
- 第 8 回 項目 授業形態と指導 < BR > 方法 IV 内容 録画授業の視聴
- 第 9 回 項目「総合的な学習 < BR > の時間」の意 < BR > 義、実践事例
- 第 10 回 項目 教育機器の活用
- 第 11 回 項目 現代教育方法理 < BR > 論 I 内容 デューイの問題 < BR > 解決思考論
- 第 12 回 項目 現代教育方法理 < BR > 論 II 内容 デューイの教育 < BR > 方法論
- 第 13 回 項目 現代教育方法理 < BR > 論 III 内容 ブルーナーの教 < BR > 育方法論
- 第 14 回 項目 現代教育方法理 < BR > 論 IV 内容 ブルーナーの教 < BR > 育課程論、学習 < BR > 意欲論
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法(総合) 1. 毎回の出欠確認 2. 授業内レポート(数回) 3. 録画授業感想文 4. 最終定期試験

教科書・参考書 教科書: なし / 参考書: 随時紹介する

メッセージ 少なくとも受講中は、間もなく高等学校(中学校)の教師として授業するのだという姿勢で、聞き考えて欲しい。

連絡先・オフィスアワー Tel. 090-1189-8047 (携帯)

開設科目	中等公民教育論 I	区分	講義	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	外山英昭				

授業の概要 憲法改正問題を取りあげ、9 . 1 1 以降の公民教育・平和教育の課題を、生徒の世界認識、平和認識と関わらせて探る。 / 検索キーワード 平和教育 国際平和 日本の役割 憲法 9 条 自衛隊

授業の一般目標 1 . 9 . 1 1 以降の公民教育・平和教育の課題について意見を持ち、討論することができる。 2 . 独自の立場から、憲法改正問題を取り上げ、日本および世界の平和に関する社会科・公民教育の課題を提案できる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 憲法前文・9 条を中心に憲法改正問題を取り上げ、日本および世界の平和について、テーマを選び教材研究をすることができる。 思考・判断の観点： 憲法改正問題について独自の意見をまとめ、討論することができる。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 憲法改正問題をどう捉えるか 1
- 第 3 回 項目 憲法改正問題をどう捉えるか 2
- 第 4 回 項目 憲法改正に対する生徒の意識
- 第 5 回 項目 教材研究レポート課題の設定
- 第 6 回 項目 平和教育実践の課題 県立高校教諭
- 第 7 回 項目 平和教育実践の課題 県立高校教諭
- 第 8 回 項目 自衛隊の役割をどう考えるか 1
- 第 9 回 項目 自衛隊の役割をどう考えるか 2
- 第 10 回 項目 教材研究レポートの発表と検討 1
- 第 11 回 項目 教材研究レポートの発表と検討 2
- 第 12 回 項目 教材研究レポートの発表と検討 3
- 第 13 回 項目 中・高生の意識実態と平和教育の課題
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回

成績評価方法 (総合) 授業態度や授業への参加度 = 20 ~ 40 % 受講者の発表 (プレゼンテーション) や授業内での制作作業 (作品) = 40 ~ 60 %

教科書・参考書 教科書： なし 適宜プリント配布する。 / 参考書： 当面なし

連絡先・オフィスアワー 外山英昭： E-mail htoyama@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 933-5323, 研究室 社会科教育, オフィスアワー 木 5 6

開設科目	商業科教育法	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	小川 勤				

授業の概要 「商業科教育法」では、「商業」はどのような分野を対象とし、またそれはどのような内容を含むのかを学ぶ。さらに教科「商業」の各分野について、我が国の社会性や歴史性をも考慮するとともに、高等学校における教科「商業」教育の専門性の意味するところを踏まえながら、その内容とあわせて教師に求められる指導のあり方を学習する。また、後半には現在の商業教育の中で求められている「起業家精神の育成」に関して、経営史あるいは企業史の視点からどのように起業家精神を育成していくのかいくつかの企業のケーススタディを用いて検証していく。/検索キーワード 学習指導要領、教科、科目、学科、教科「商業」、教科「商業」の各分野及び専門性 ビジネス教育 起業家精神

授業の一般目標 1. 平成 11 年 3 月告示の「高等学校学習指導要領」は、教科「商業」の目標について、前年 7 月の教育課程審議会によって示された「経済の国際化やサービス化の進展に対応する観点から、ビジネス教育の視点を明確にする」とした「商業の改善の基本方針」を踏まえ、「商業教育のねらいを、継続教育を視野に置いた専門性の基礎・基本の教育に重点を移す」とした大幅な改定を見た。そこで、生涯学習の視点を踏まえた「将来のスペシャリストとして必要な専門性の基礎・基本」の理解とあわせて教職の使命と特殊性について考えてみる。2. 学校教育改善の動きの中で、その目指すところを的確に把握し、教育の現場にも幅広く対応できるよう配慮しながら、教科教育のあり方についての認識を深め、あわせて人格の向上への意欲を涵養する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：1. 適切な判断を導く上で必要な基礎・基本の知識を身に付けている。思考・判断の観点：1. 異なる社会や時代の与件のもとでの適切な推論ができる。2. 商業教育のイノベーションのために新たな教育方法を創造できる。関心・意欲の観点：1. 新たな未経験・未知の分野の学習に対し積極的な取り組みの姿勢がある。2. 起業家精神の育成の立場からいくつかの企業のケーススタディに積極的に取り組んでいく姿勢を持っている。態度の観点：1. 不十分な分野を自覚し、姿勢を変えようとする柔軟性を持つ。技能・表現の観点：1. 課題のまとめに際して、適切・有効な図表などの作成・挿入ができる。

授業の計画(全体) 主として、1. 学校教育と教科 2. 教科「商業」の目標の変遷に見る内容の捉え方に対する視点やその表現方法の変化と、商業科目の変遷及びその背景 3. 現行教科「商業」の目標の改善点と留意点 4. 教科教育と教育法 5. 学習指導計画と教育実践及び評価 6. 学習指導案の作成 7. 教員の使命と教職の特殊性・専門性 8. 起業家精神の養成と商業教育などの内容を取り上げて授業を進める。この他に宿題・授業外レポートとして「ビジネス基礎」、「簿記」、「情報処理」などの学習指導案を作成や、「起業家精神」を養成するための教授方法についてレポート等を作成し、提出する。なお、指導案の作成に際して教科書の内容などについての理解に不安がある場合には申し出てください。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 1. 学校教育と教科 内容 (1) 教育の目的と学校教育 (2) 高等学校の目的・目標と各教科の目標 (3) 教科「商業」の目標とビジネス教育
- 第 2 回 項目 同上 内容 (4) 教科「商業」の組織 (5) 教科「商業」の各科目の目標と内容
- 第 3 回 項目 2. 教科「商業」の目標の変遷に見る内容の捉え方に対する視点やその表現方法の変化と、商業科目の変遷及びその背景 内容 (1) 戦後の復興期 (昭和 20 年代) (2) 自立期 (昭和 30 年代)
- 第 4 回 項目 同上 内容 (3) 高度成長期 (昭和 40 年代) (4) 転換期 (昭和 50 ~ 平成元年代)
- 第 5 回 項目 同上 内容 (5) 変革期 (平成 10 年代)
- 第 6 回 項目 3. 現行教科「商業」の目標の改善点と留意点 内容 (1) ビジネス教育の視点 (2) 全般的改善点と留意点
- 第 7 回 項目 4. 教科教育と教育法 内容 (1) 教科教育と教育法 (2) 学習指導方法論 1
- 第 8 回 項目 同上 内容 (2) 学習指導方法論 2 (3) 「知」の教育の中で人間性重視の学習指導

- 第 9 回 項目 5. 学習指導計画と教育実践及び評価 内容 (1) 学習指導計画の意義と種類 (2) 学習内容と指導目標の設定並びに評価の観点と留意事項
- 第 10 回 項目 6. 学習指導案の作成 内容 (1) 「ビジネス基礎」の内容についてのガイダンスと学習指導案の作成 授業外指示 学習指導案の作成 (「ビジネス基礎」)
- 第 11 回 項目 同上 内容 (2) 「簿記」の内容についてのガイダンスと学習指導案の作成 授業外指示 学習指導案の作成 (「簿記」)
- 第 12 回 項目 同上 内容 (3) 「情報処理」の内容についてのガイダンスと学習指導案の作成 授業外指示 学習指導案の作成 (「情報処理」)
- 第 13 回 項目 7. 教員の使命と教職の特殊性・専門性 内容 (1) 教員の使命 (2) 教職の特殊性・専門性
- 第 14 回 項目 8. 商業教育の中での起業家精神養成 内容 (1) 起業家精神の養成 (2) ケーススタディ
- 第 15 回 項目 期末テスト

成績評価方法 (総合) 定期試験 (学期末試験) (60%)、提出物 (宿題・授業外レポート) (30%)、授業への出席率 (10%) で評価する。

教科書・参考書 教科書：特定の教科書は使用しないが、講義への手引きを配布する。 / 参考書：高等学校学習指導要領, 文部省, 大蔵省印刷局, 1999 年; 同解説総則編, 文部省, 東山書房, 1999 年; 同解説商業編, 文部省, 実教出版, 2000 年; 文部省検定教科書「ビジネス基礎」, 片岡寛他, 実教出版, 2002 年; 同上「高校簿記」、同上「最新情報処理 21」, 新井清光他、中沢興起他, 実教出版, 2002 年; プリント類は授業の中で必要に応じて随時配布する。他に、参考書としては、吉野 弘一著『商業科教育法』2002 年、実教出版

メッセージ 教職を志す者として、行動に責任を持ち、学問に対する誠実な取り組みの姿勢を示して欲しい。最近商業教育で求められている「起業家精神」の育成方法についても授業で取り組みます。

開設科目	特別活動	区分	講義	学年	その他
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	杉山直子				

授業の概要 本授業では、学校教育で教科外活動に位置する特別活動について、その意義と実践のあり方について考察する。意義を考える中で、教育・子どもに関する現代的問題、子どもの発達と教育の関係について理解を深め、教育の機能・構造について、学ぶ。そして、その中の訓育について理解を深め、学校教育における特別活動の目標・内容・方法を考察する。 / 検索キーワード 訓育, 教科外活動, 学校行事, 生徒会活動, 学級活動

授業の一般目標 (1) 人間の発達における教育の必要性、目的、方法を理解する。 (2) 教育の機能と領域について理解する。 (3) 学校教育における特別活動の意義、方法を理解し、望ましい指導のあり方について考察する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 教育、その機能、目的、方法と特別活動について説明できる。

思考・判断の観点： 1. 自己の教育体験を客観化できる。 2. 理論をもとに思考・判断できる。 関心・意欲の観点： 1. 講義をもとに教育に関心を持ち、問題意識を持つことができる。 態度の観点： 1. 講義に集中し思考する態度がとれる。 2. 集団活動に参加できる。 技能・表現の観点： 1. 集団活動で、他者と自分、集団と自分を意識し行動できる。

授業の計画(全体) 第1章 人間の発達と教育 1、人間の発達と教育の関係 2、教育の構造 3、学校教育における陶冶と訓育 第2章 学校教育における「特別活動」の意義 1、学校教育における「特別活動」の変遷 2、現学習指導要領における「特別活動」 第3章 「特別活動」の指導のあり方 1、個の受容と教育的要求 2、望ましい集団のあり方 3、子どもの自己活動を引き起こす指導のあり方

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに 内容 本授業の概要と注意事項
- 第 2 回 項目 人間の発達と教育(1) 内容 人間の発達と教育の関係ーヒトと人間ー 授業外指示 これまでの教育に関する授業を思い起こす。
- 第 3 回 項目 人間の発達と教育(2) 内容 人間とは 授業外指示 人間らしさ、人間の独自性について、様々な領域で考えてみる。
- 第 4 回 項目 人間の発達と教育(3) 内容 環境と子どもたちの発達の問題 授業外指示 現在の子どもたちの環境を知る。
- 第 5 回 項目 「話し合い」活動 内容 現代の子どもたちについて気づくことを話し合う。 授業外指示 意見を出すための情報収集
- 第 6 回 項目 教育の構造 < BR > (1) 内容 教育に関する歴史的把握と構造 授業外指示 陶冶と訓育について、具体的にイメージする。
- 第 7 回 項目 教育の構造 < BR > (2) 内容 陶冶と訓育
- 第 8 回 項目 学校教育の構造 内容 教科と教科外活動 授業外指示 学習指導要領に目を通す。
- 第 9 回 項目 学校教育における特別活動の意義(1) 内容 特別活動の歴史的変遷
- 第 10 回 項目 学校教育における特別活動の意義(2) 内容 現学習指導要領における教育課程の基準 授業外指示 「生きる力」について考えてみる。
- 第 11 回 項目 学校教育における特別活動の意義(3) 内容 現学習指導要領における特別活動の目標・内容 授業外指示 自己の特別活動としての教育体験を思い起こす。
- 第 12 回 項目 特別活動の指導のあり方(1) 内容 個の受容と教育的要求
- 第 13 回 項目 特別活動の指導のあり方(2) 内容 方法原理である望ましい集団の組織方法 授業外指示 集団遊び、討議などについて思い起こす。
- 第 14 回 項目 特別活動の指導のあり方(3) 内容 子どもの自己活動を引き起こす指導のあり方
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法 (総合) (1) 授業の中で、授業内レポートを数回行う。(2) 最後に試験を実施する 以上を下記の観点・割合で評価する。なお、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：中学校学習指導要領, 文部科学省, ; 高等学校学習指導要領, 文部科学省, ; 上記の書物は、主に第2章で使用。第1章・第3章はプリントを配布。 / 参考書：プリントを資料として使用する。その他参考文献は、授業中に指示。

メッセージ 子どもに関する情報に関心を持って欲しい。

開設科目	教育相談・進路指導	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	田邊敏明				

授業の概要 現在の学校は、不登校、いじめ、校内暴力など、さまざまな問題に直面している。その学校に生きる子どもたちに教師やスクールカウンセラーがいかに寄り添えば、彼らの心が育っていくかについて提言し、さらに障害児を含めた子どもたちの望ましい進路選択のあり方をさぐっていく。／検索キーワード 子どもに対する「支え」と「引き上げ」

授業の一般目標 学校にうまく適応できなかったり、進路選択に迷っている子どもたちに対し、教師としてあるいはスクールカウンセラーとして、どのようにサポートしていけばよいらうか。学生自身の指針が描けるような講義にしたい。さらにそれぞれの子どもは、もっている問題も、置かれている状況も違うので、個々のケースに対応しうような教育相談のセンスを養いたい。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：子どものもつ問題には、いろいろな見方ができることを学ぶ。特に個性の伸張と社会の成員としての資質の向上という相矛盾する課題を、いかに克服していくかが鍵となる。そのためには、子どもを「支え」かつ「引き上げる」のせめぎ合いの葛藤の中で、解決策を、教師自らが苦しみながら生みしていくことが大切である。さらに基本的な心理療法の知識についても修得したい。 思考・判断の観点：個々のケースにおいて、どのようなサポートの仕方があるかが判断できるような力を養いたい。 関心・意欲の観点：評論家的に子どもを評価するのではなく、個々のケースに沿った見方ができるようになりたい。 態度の観点：今までの見方をあえて変えてみるような勇気を求めたい。

授業の計画（全体）子どもの個性の伸張と、社会の成員としての資格をいかに融合させていくかが、結局子どもの成長を促していく。それをサポートする教師にはどのような姿勢が求められるか、また支援していくかを詳しく解説していく。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 教育相談と進路指導ガイダンス
- 第 2 回 項目 現代の子どもたちの特徴 - 問題となっていること -
- 第 3 回 項目 適応障害の診断と基準
- 第 4 回 項目 教育相談における「支え」と「引き上げ」およびそのせめぎ合い -
- 第 5 回 項目 スクールカウンセリングの実際 - 小学校編 -
- 第 6 回 項目 スクールカウンセリングの実際 - 中学校編 -
- 第 7 回 項目 現代の子どもにおける「キレる」ということ
- 第 8 回 項目 スクールカウンセリングの実際 - 高等学校編 -
- 第 9 回 項目 子育てにおける「抱える」ということ
- 第 10 回 項目 学校における相談事例 1 - 不登校 -
- 第 11 回 項目 学校における相談事例 2 - 非行 -
- 第 12 回 項目 学校における相談事例 3 - 軽度発達障害 -
- 第 13 回 項目 教育相談における心理検査
- 第 14 回 項目 教育相談における心理療法 - ブリーフセラピーや認知行動療法を中心に -
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合）基本的には期末試験を重視するが、授業の途中で行う小テストや課題提出および出席も加えて総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：自作のテキストを配布します。（一冊 500 円） / 参考書：教室で生かすカウンセリングマインド - 教師の立場でできるカウンセリングとは、桑原知子、日本評論社、1999 年；生徒指導の知と心、山下一夫、日本評論社、1999 年

メッセージ 授業内容を理解しているかをチェックする小テスト、レポート課題を数回実施します。期末試験と同様に準備を怠らないこと。

連絡先・オフィスアワー E-mail ttanabe@yamaguchi-u.ac.jp, 研究室 372, オフィスアワー 火曜日 18:00 ~ 19:00

開設科目	総合演習	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	柳澤旭他 5 名				

開設科目	教育実習(高)	区分	実験・実習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	その他
担当教官	経済学部担当教員				

授業の概要 高等学校教諭免許(公民)に必要な教育実習を、高等学校において行う。

授業の一般目標 1. 教育の理論と実践との一体化をはかる。 2. 教育活動全般にわたる認識を深める。
3. 生徒に対する理解を深める。 4. 教育技術を修得する。

授業の計画(全体) 出身校等、高等学校において実地授業を行う。実習校の先生による講義、実習生の授業についての検討会等を通して、高等教育に対する理解を深めていく。

成績評価方法(総合) 教育実習中の学習指導、学級指導、勤務態度等を総合して実習校から出された成績に基づいて評価を行う。

備考 集中授業

開設科目	事前・事後指導	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	1単位	開設期	その他
担当教官	古堤 一三				

授業の概要 実習校に出向き学校教育を実際に体験する教育実習に備えるために本学の各学部の合同で実施する事前指導の後を受けて、特に教科「商業」免許状取得希望者を対象に日を改めて実施する事前、事後の指導です。 / 検索キーワード 教育職員免許法, 教育職員免許法施行規則, 事前指導, 事後指導

授業の一般目標 教育実習は、教職志望者が実際の現場に出向いて、教員の職務の一部を実際に担当することを通じて教育活動を体験することですが、この実習を通して下に示すようなねらいを把握し、認識するとともに、教員の使命及び教職の特殊性・専門性に対する自覚を深め、「教師自身が彼らと共に善さを求めて成長する存在でなくてはならない」ことに目を開かせ、意欲的且つ真摯な気持ちで実習に取り組む姿勢を涵養する。 1. 教育理論を実証的に研究し、その深化をはかる。 2. 教員として必要な知識や技術、技能の習得とあわせて具体的な指導方法を習得し、指導力を身につけていく中で、実習生自身が生徒と共に成長する存在であることを認識する。 3. 教育の社会的役割を認識し、公教育に従事する者としての姿勢や態度、心がまえを身につけさせる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 教育実習の意義を理解し、実習生自身が行動の主体者であることを自覚する。 2. 専門的な用語について、具体的に、平易な言葉で、正確な説明ができる。 思考・判断の観点： 1. 公教育に従事する者としての自覚の上に適切な判断や行動ができる。 2. 専門教科に関連して、変化する経済社会の目指す方向を把握し、その動きへの対処のあり方や問題点などについて考える力がある。 関心・意欲の観点： 1. 新たな未経験・未知の分野に対する積極的な取り組みの姿勢がある。 2. 変化する世界の動きに強い関心があり、グローバルな目でものごとを見ようとする姿勢がある。 態度の観点： 1. 研究心を持ち、生徒と共に成長を目指そうとする意欲的で前向きな真摯な姿勢・態度がある。 2. 現状に満足せず、判断のもととなる知識の幅を広げていこうとする姿勢・態度がある。 技能・表現の観点： 1. 口頭或いは文章などで自己の考えやその考え方を述べる上で必要、適切な語彙力がある。 1. 教材を分かりやすく、系統立てて提示することができる。 その他の観点： 1. 長期的な立場に立ってものごとを考える場合に必要とされる、その歴史性、社会性に配慮しての、与件についても十分な考察力がある。

授業の計画(全体) 公教育に従事する者としての責任を自覚し、絶えざる努力の中で実践力を身につけることにより、実習生自身が生徒と共に成長する存在であることを自覚できるよう、意欲的で真摯に取り組む姿勢や態度の涵養に資することをねらいとして、 1. 事前指導では主として、(1) 教育実習の意義 (2) 教員の使命と教職の特殊性・専門性 (3) 教育実習における留意事項 (4) 学習指導案の作成 (5) 教育実習における評価の観点 などを取り上げる。 2. 事後指導では主として、実習生全員による (1) 教育実習の態様 (2) 反省点及び学び考えたこと (3) 将来に向けての抱負 などについての体験発表を行う。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 1. 事前指導 内容 (1) 教育実習の意義 (2) 教員の使命と教職の特殊性・専門性 (3) 教育実習における留意事項 (4) 学習指導案の作成 (5) 教育実習における評価の観点 授業外指示 実習校との打ち合わせ、諸連絡、実習関係提出物の指示 授業記録 実習終了後、所定日までに学務係へ提出
- 第 2 回 項目 2. 事後指導 内容 教育実習生による体験発表 (1) 教育実習に対する取り組みの姿勢や態度 (2) 反省点及び考えたこと (3) 将来に向けての抱負 (4) その他
- 第 3 回
- 第 4 回
- 第 5 回
- 第 6 回
- 第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

成績評価方法 (総合) 事前・事後指導についてのレポート、実習校における教育実習の評価などを中心に
おくが、他に、実習に関する諸提出物等をも参考にして総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書： 特定のテキストは使用しないが、講義への手引きを配布する。 / 参考書： 特
定のテキストは使用しないが、講義への手引きを配布する。他に、プリント類は、必要に応じて適宜配
布する。参考書については、一般的なものをいくつか掲げる。『教育学入門』上下, 村井実, 講談社学術文
庫, 1976 年、 『教育実習ハンドブック』, 教育技術研究会編, ぎょうせい 1993 年、 『教育実習の研究』改訂
版, 教員養成研究会編著, 学芸図書, 2001 年、 『教育実習を考える』, 岩本・浪本編著, 北樹出版, 2003 年。他
に、日本商業教育学会 岡田・清水・黒葛原・中澤・古市 『教職必修最新商業科教育法』, 実教出版, 2005
年、 『高等学校学習指導要領』, 平成 11 年、 『同解説商業編』, 平成 12 年

メッセージ 教職を志す者として、行動に責任を持ち、実習に対する意欲的で真摯な態度の中にも学問に
対する誠実な取り組みの姿勢を示してほしい。

備考 集中授業

開設科目	教育実習	区分	実験・実習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	その他
担当教官					

授業の概要 高等学校教諭免許(商業)に必要な教育実習を、高等学校において行う。

授業の一般目標 1. 教育の理論と実践との一体化をはかる。 2. 教育活動全般にわたる認識を深める。
3. 生徒に対する理解を深める。 4. 教育技術を修得する。

授業の計画(全体) 出身校等、高等学校において実地授業を行う。実習校の先生による講義、実習生の授業についての検討会等を通して、高等教育に対する理解を深めていく。

成績評価方法(総合) 教育実習中の学習指導、学級指導、勤務態度等を総合して実習校から出された成績に基づいて評価を行う。

備考 集中授業

開設科目	商業教育論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	古堤一三				

授業の概要 我が国における近代的商業教育は、我が国が近代国家の一員としてたつことを決意した 明治 期に導入され、その拡充・発展をみたものです。それはまた、経済発展の原動力となった科学的思考方 法とともに「知」の教育を推進するために体系化され組織された学校 制度とも大きな関わりを持ってい ます。ここでは、先ず、我が国の歴史的・社会的背景を 考慮の上に我が国の商業教育についてみていき ます。次に、産業の発展著しい現代社会で は、人のビジネスに関わる活動範囲の拡大とあわせて、その 専門性への要求が高まる中で「知」の学習だけでは十分でないところが沢山あります。知とあわせて情・ 意の教養が、また行動力と決断力が強く求められることがあった我が国の近代以前の教育を概観する中 に、商業教育における人格の陶冶の問題を考えていきます。 / 検索キーワード 学制、教育令、商業学校 通則、小学校令、中学校令、帝国大学令、高等学校令、実業学校令、専門学校令、教育基本法、学校教 育法、学習指導要領、基礎教育、専門教育

授業の一般目標 我が国の教育の特質を、各時代が求めた人間像の中に概観するとともに、我が国に商業 教育が出現し、それが置かれてきた位置とあわせて、その背景を認識し把握するとともに、その内容・ 視点・方策などの中に新しい商業教育の方向を探る。とりわけ明治期以降 の我が国の近代学校制度の確 立過程の中で、世界及び我が国の政治経済社会の変容と大き く関わりあいながら発展し、位置づけられ てきた我が国の教育制度の特色と、この間に生じたひずみを取り除く上での新しい視点や方策について、 また、専門性を発揮する上での 基盤を形作っている人格の陶冶の問題について考えます。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 適切な判断に導く上で必要な基礎・基本の知識を身につけてい る。 思考・判断の観点： 1. 異なる社会や時代の与件のもとでの適切な推論ができる。 関心・意欲の 観点： 1. 教育と職業生活との関わりに強い関心を抱き、現状での克服策に取り組む。 態度の観点： 1. 不十分な分野を自覚し、姿勢を変えようとする柔軟性を持つ。 技能・表現の観点： 1. 口頭あるいは文 章などで自己の考え方を述べる上で必要、適切な語彙力がある。 その他の観点： 1. 長期的な立場に 立つてものごとを考える場合に必要とされる、その歴史性、社会性に 配慮しての、与件についても十 分な考察力がある。

授業の計画(全体) 主として、1. 教育の社会性、歴史性と商業教育 2. 近代以前の我が国の教育 3. 近代の我が国の教育と商業教育 4. 近代学校制度の完成と普通教育、専門教育 5. 我が国産業の発展・ 拡大の中での商業教育論 6. 現代の我が国の教育と商業教育(1) 7. 現代の我が国の教育と商業教育 (2) 8. 商業教育と倫理 9. 商業教育の目指すところ などの内容を取り上げて授業を進めるが、機 械的な暗記ではなく、より長期的な視野に立った、広く高い立場からの思索の上に結論に導いていく態 度を身につけるよう頭の切り替えを望みます。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 1. 教育の社会性、歴 史性と商業教育
- 第 2 回 項目 2. 近代以前の我が国 の教育 内容 (1) 上世の教育 (公家の教育 (2) 中世の教育 (武家の 教育)
- 第 3 回 項目 同上 内容 (3) 近世の教育 (町家の教育)
- 第 4 回 項目 3. 近代の我が国の教 育と商業教育 内容 (1) 国民教育思想の下での教育制度の構想
- 第 5 回 項目 同上 内容 (2) 文部省の設置と「学制」の頒布
- 第 6 回 項目 同上 内容 (3) 「学制」頒布後の我が国の教育(「商業学校通則」の制定に至る間の法制と 商業教育)
- 第 7 回 項目 同上 内容 同上
- 第 8 回 項目 同上 内容 (4) 「商業学校通則」の制定と商業教育機関の整備、拡充
- 第 9 回 項目 4. 近代学校制度の完 成と普通教育、専 門教育 内容 (1) 「小学校令」と初等教育 (2) 「中 学校令」と中等教育、高等教育 (3) 「帝国大学令」、「高等学校令」と高等教育

- 第 10 回 項目 同上 内容 (4)「実業学校令」と中等商業教育 (5)「専門学校令」と高等商業教育
- 第 11 回 項目 5. 我が国産業の発展・拡大の中での 商業教育論 内容 (中等教育における個別的・具体的実務性を中心とする教育内容と高等教育・最高教育における抽象的(観念的)論理性を中心とする教育内容との間の乖離の問題)
- 第 12 回 項目 6. 現代の我が国の教育と商業教育 (1) 内容 戦後の教育改革と商業教育: (1) 高等学校における商業教育 (2) 大学における商業教育
- 第 13 回 項目 7. 現代の我が国の教育と商業教育 (2) 内容 高度成長期以後の商業教育: (1) 経済の拡大の中での専門性の深化 (2) 情報化、国際化、サービス化の進展と内容の拡充 (3) ビジネスの発展に伴う経済社会の変容と商業教育 (ア. 商業教育における具体的実務性と抽象的論理性の乖離から融合へ イ. 生涯学習社会の到来と新しい専門性)
- 第 14 回 項目 8. 商業教育と倫理 9. 商業教育の目指すところ 内容 (1) 産業社会と人間 (2) 自由主義社会と「社会的価値ないし目標」との関わりの中での商業教育 (1) 生涯学習社会の中での専門性の深化と人格の陶冶
- 第 15 回 項目 期末テスト

成績評価方法 (総合) 1. 学期末試験を中心に評価する。授業への参加度は出席率を加味して、一定の基準により約 3%以内での加減調整を行う。

教科書・参考書 教科書: 特定のテキストは使用しないが、講義への手引きを配布する。他に、プリント類は必要に応じて随時配布する。/ 参考書: 一般的なものとしては、河合・雲英・岡田・山田編著『新商業教育論』(第 7 版)1997 年 多賀出版、石井・大橋・岡田・沢田編著『現代商業教育論』1991 年 税務経理協会、日本商業教育学会 岡田・清水・黒葛原・中澤・古市『教職必修 最新商業科教育法』2005 年 実教出版、文部省『高等学校学習指導要領』(各年度)、『同解説商業編』(各年度)

メッセージ 教職を志す者として、行動に責任を持ち、学問に対する誠実な取り組みの姿勢を示して欲しい。履修については、2 年次以降にするのが望ましい。

開設科目	職業指導	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	永田萬享				

授業の概要 「労働」あるいは「職業」について意識化させていく活動をともなう職業指導の発展と、技術・職業教育の充実、整備の問題は密接不可分に結びついている重要な課題である。これまでの職業指導は、職業適性検査や個性の発見とかもっぱら心理学的な側面からのみ行われてきたきらいがあるが、それだけでは不十分と思われる。経済社会の発展・成長について職業生活はどうなるのか、技術革新の進展に伴って労働は、どのようにへんびうするのか、さらに職業や雇用はどのようになるのか等々、社会経済的側面も合わせて認識する必要がある。そのことを通し / 検索キーワード 学校から職業への移行、職業教育、生涯教育

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 教育と貧困
- 第 2 回 項目 文部省の進路指導調査
- 第 3 回 項目 経済政策と進路指導
- 第 4 回 項目 職業指導運動の始まり
- 第 5 回 項目 日本の職業指導運動の体質
- 第 6 回 項目 労働時間
- 第 7 回 項目 賃金
- 第 8 回 項目 企業社会における能力主義管理
- 第 9 回 項目 職業高校
- 第 10 回 項目 各種・専修学校
- 第 11 回 項目 公共職業訓練
- 第 12 回 項目 企業内教育と熟練形成
- 第 13 回 項目 デマケーション
- 第 14 回 項目 職業教育と生涯学習
- 第 15 回 項目 まとめと試験

メッセージ 講義では、ビデオなど視聴覚教材を多用したいと考えているが、受講生は各種ルポタージュを読んでおくことが望ましい。教師側からの一方的な講義にならないように、受講生の主体的参加を希望している。

備考 集中授業